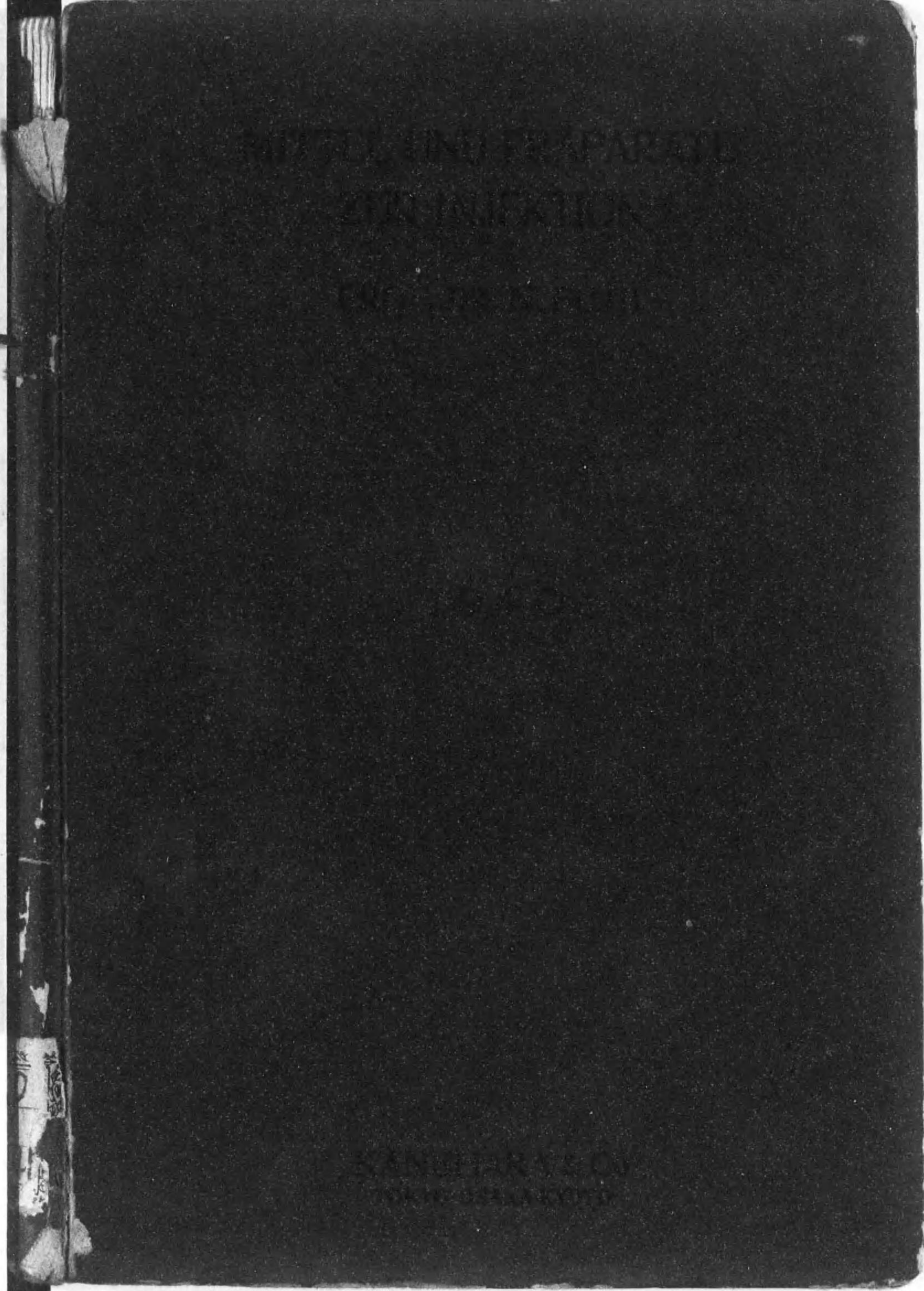


始



MITTEL UND PRÄPARATE
ZUR INJEKTION

PROF. DR. N. FUJII

1940

KANEHARA & Co.
TOKYO · OSAKA · KYOTO



薬局方第五版ニヨル薬品極量表 (I)

Maximaldosen der Arzneimittel

Japanischen Arzneibuch V (für Erwachsene)
 本品内服1回及1日ノ極量。㊦ハ毒薬。醫師其極量ヲ
 時ハ処方箋中薬品分量ノ下ニ注意標!ヲ附スベシ。

品名	1回極量(瓦g) pro dosi	1日極量(瓦g) pro die
Acetanilidum (Antifebrinum) アセトアニリド(アンチフェブリン)	0.3	1.0
㊦Acidum arsenicosum 亞砒酸	0.005	0.015
Aethylmorphinum hydrochloricum 鹽酸エチルモルヒネ	0.03	0.10
Agaricinum アガリチン	0.1	
Alcaloidum Opii hydrochloricum 阿片アルカロイド鹽酸鹽	0.03	0.10
Aminopyrinum アミノピリン (Dimethylaminoantipyrinum) (ヂメチルアミノアンチピリン)	0.3	1.0
Amylium nitrosum 亞硝酸アミル	0.2	0.5
Antipyrinum アンチピリン (Phenyl-dimethylpyrazolonum) (フェニルヂメチルピラツオロン)	1.0	3.0
Antipyrinum salicylicum サリチル酸アンチピリン	1.0	3.0
㊦Apomorphinum hydrochloricum 鹽酸アポモルヒネ	0.02	
Aqua Armeniacae 杏仁水	2.0	6.0
Argentum nitricum 硝酸銀	0.03	0.10
㊦Atropinum sulfuricum 硫酸アトロピン	0.001	0.003
Barbitalum バルビタール (Acidum diaethylbarbituricum) (ヂエチルバルビツール酸)	0.5	1.0
Barbitalum solubile 溶性バルビタール (Natrium diaethylbarbituricum) (ヂエチルバルビツール酸ソーダ)	0.5	1.0
Bulbus Scillae 海葱	0.2	1.0
Camphora monobromata ブロムカンフル	0.3	1.0
Cantharis カンタリス	0.03	0.10
Carboneum tetrachloratum 四鹽化炭素	4.0 (2.5 cc)	—
Cerium oxalicum 蓆酸セリウム	0.3	1.0
Chloralum hydratum 抱水クロラール	2.0	6.0

薬品名	1回極量(瓦g) pro dosi	1日極量(瓦g) pro die
Cocainum hydrochloricum 鹽酸コカイン	0.05	0.15
Codeinum phosphoricum 磷酸コデイン	0.1	0.3
Creosotum クレオソート	0.5	1.5
Cuprum sulfuricum 硫酸銅	1.0	—
㊦Diacetylmorphinum hydrochloricum 鹽酸ジアセチルモルヒネ	0.005	0.015
Diuretinum デウレチン (Theobromino-natrium salicylicum) (サリチル酸テオブロミンソーダ)	1.0	3.0
㊦Emetinum hydrochloricum 鹽酸エメチン	0.05 (皮下注射)	—
Ephedrinum hydrochloricum 鹽酸エフェドリン	0.05	0.15
㊦Eserinum salicylicum サリチル酸エゼリン	0.001	0.003
㊦Eserinum sulfuricum 硫酸エゼリン	0.001	0.003
Extractum Cannabis indicae 印度大麻エキス	0.05	0.15
Extractum Filicis 綿馬エキス	—	10.0
Extractum Hyoscyami ヒヨスエキス	0.1	0.3
Extractum Opii 阿片エキス	0.1	0.3
Extractum Scopoliae ロートエキス	0.05	0.15
Extractum Secalis cornuti aquosum 麥角エキス	0.3	1.0
Extractum Secalis cornuti fluidum 麥角流動エキス	1.0	5.0
Extractum Strychni ホミカエキス	0.05	0.10
Folium Digitalis ザギタリス葉	0.2	1.0
Folium Hyoscyami ヒヨス葉	0.3	1.0
Folium Scopoliae ロート葉	0.15	0.50
Folium Stramonii マンダラ葉	0.2	0.6
Glandula Thyreoidea siccata 乾燥甲状腺	0.3	0.6
Guajacolum グアヤコール	0.3	1.0
㊦Homatropinum hydrobromicum ブロム水素酸ホマトロピン	0.001	0.003
㊦Hydrargyrum bichloratum 昇汞	0.02	0.06

對症注射藥便覽

醫學博士 藤井 尙久 著



增訂第三版

2600
— 1940 —



株式會社 金原商店

50

4414

第三版 序

第二版(1938年版)が缺本トナツテ新版ヲ懇懇サレタガ、當時恩師雲莊入澤先生ノ薨去ニ遇ヒ其ノ機ヲ得ズ、遂ニ諸彦ニ失禮ヲ致シマシタ。憶ヒ起セバ本書初版上梓ノ際獨逸語ニテ書題ヲ Mittel und Präparate zu den Injektionen トシ「注射」ヲ諸種注射ノ意テ複數ニシテ書キ下シタ、何時ゾヤ入澤先生ノ御目ニ留マリ之ヲ單數 zur Injektion ト改メタ方ガ良カロウトノ御忠言デ早速ト訂正シタ。成程單數ハ數ヨリモ意味ノ廣ク且ツ強イコトモ納得サレタ。其恩師モ今ハ逝カレテ幽明既ニ境ヲ異ニサレテ居ル。其當時何ヤカヤラデ違モ得ズ改訂ノ責ヲ果サナカツタガ、今版ニ於テハ近年ノ出來事デアル「スルフォンアミド」製劑ヲ中核トシタル「化學療法劑」ヲ増補トシテ新版ヲ世ニ送ルコトニシマシタ、何卒著者ノ意ヲ諒トサレタイ。

昭和 14 年, 皇紀 2599, 西曆 1939 年 9 月

著者 識ス

第二版 序

本書第一版ハ意外ニモ世ノ大歡迎ヲ受ケ豫定數ハ既ニ早ク賣盡サレ缺本ノ已ムナキニ至ツタ。茲ニ著者ハ急ギ煩務ノ邊ヲ偷ミ全般ニ亙ル改訂・増補ヲ敢行シテ改裝世ニ送ルコトト致シマシタ。

本版ニ於テハ「興奮劑」(蘇生藥・回生藥),「自律神經疾患治療劑」,「發熱療法劑」等ノ新ナル項目ヲ増加シ,前版ニ脱漏セル又新ニ市販ニ出デタル注射藥及同製劑ヲ採録シタ。

本書使用ニ際シテハ又「重要適應一覽」ノ利用ヲ希望シマス。本項ニ於テハ系統別ニヨル各疾患ニ對シ注射藥使用ヲ主トシタル**治療指示**ノ列記ヲ私カニ試ミテ見マシタ。是モ完全ナルモノトハ云ヒ難イガ初學者ノ爲メ或ハ煩忙ナル臨牀實地家ノ爲メニ多少ノ參考トナリ得ルト考ヘタ次第デアリマス。

最近世ニ行ハレテ居ル「注射藥」ノ狀勢ヲ一覽スルニ次ノ諸點ニ多少ノ動キヲ認メマス。

i 樟腦(「カンフル」)ノ強心・呼吸中樞興奮性ノ有效成分ニ關シテハ「カンフル」ノ一定酸化產物ナルハ確認サレルガ,夫ハ一元的ノ物質ナルヤ否ヤハ未ダ完全ニハ決定シナイヤウデアアル。

ii 「ヂギタリス」*Digitalis purpurea* 葉ノ含有スル強心有效成分(結晶性配糖體)ハ數種アリテ其各々ガ多少ノ差違アルモ共ニ同律ノ作用ヲ示ス爲メ近來ハ「ヂギタリス」葉全有效成分ヲ治療ニ資セントスル傾向ガ濃厚トナツテ居ル,又斯ウ云ツタ考ハ「ヂギタリス」ノ一異種 *Digitalis lanata* ノ比較研究ニ負フ處ガ多イコトモ忘レルコトガ出來ナイ。

iii 漢藥蟾酥(支那產蟾皮膚分泌液)ヨリ「ヂギタリス」葉類似ノ強心作用ヲ現ハス製劑ガ得ラレタ。

iv 向細菌性ノ色素(「アクリヂン」・「アゾ」色素)劑ガ殺菌消炎劑トシテ類似品ガ數多ク市販ニ出タ。

v 胃・十二指腸潰瘍治療劑トシテノ「ヒスチヂン」ノ聲價ハ稍下火ノヤウデアアル。

vi 傳研ヨリ「ヂフテリア」牛血清ガ甲種,乙種(1ccノ免疫單位200ト100)ガ發賣サレタ。

vii 「ヴィタミン」C(左旋性「アスコルビン」酸)・「ヴィタミン」B₁劑ガ多

2 第二版序

數市販ニ出タ。

viii 性「ホルモン」(臓器製劑, 尿ヨリノ抽出劑共ニ)ハ尙引續キ市販ニ出テ居ル。

ix 新シキ臓器劑トシテ解毒ヲ目的トスル「グルタチオン」劑, 小腸粘膜炎劑(抗「ヒスタミン」性), 結核ニ對スル特殊免疫ヲ目指ス脾製劑, 病竈結締織化ヲ目的トスル肝臓製劑等ガ現レタ。

昭和12年10月。護國ノ爲メニ尊キ犠牲トナラレタル忠靈ノ安ラカニ眠リ給ハンコトヲ祈リツツ

著者識ス

第一版序

現今ノ醫療界ヲ觀ル時ハ、「注射ナクシテハ醫療ハ成立シナイ」ト云ハレル位「注射」ガ日常緊要事トナツテ居ル。是ハ醫學ノ進歩ニツレ新藥ガ案出サレ、其藥效ヲ最モ效果的ニ現ハサシメントスル動向ニ據ル處モアルガ、一方、目下ノ社會制度ニヨル醫療行爲ノ必要的因子ニヨルコトモ見逃ガスコトガ出來ナイコトト思ハレル。兎モ角モ此注射流行ノ波ニ乘リテ日ニ日ニ市販ニ送り出サレル注射新藥ノ數ハ又實ニ數ヘキレナイ。茲ニ於テカ必然一定順序ニ——或ハ藥理學ニ準據シテ、又實地上便利ナルヤウニ——列記シタル備忘録ノ存在ガ必要トナツテ來ル、金原氏兄弟ガ年來之ニ思ヲナシ吉村忠一君ニ囑シテ材料ノ蒐集ヲナシ遂ヘテ余ニ之ヲ提示サレ、出版ヲ計ラレタ。余ハ其趣旨ニハ大イニ賛意ヲ表シタガ、其内容・配列等ニ關シテ自分ノ意見ヲ開陳シタ處、是非改メテ小生ニ編輯・纂著ヲ依頼スルトノ懇願デアル。余ハ又茲ニ公私煩忙ノ身モ忘レ之ヲ諒トシテ引受ケ、比較的短時日ノ間ニ余暇ヲ偷ミツツ拮据・精進シテ之ニ大添削ヲ施シ辛ウジテ其責ヲフサイダヤウナワケデアル。此種ノ著述・編輯ハ非常ニ繁雜・難澁ニシテ無味乾燥ノモノタルコトハ誰モガ想像サレル處デアルガ、今出來上リシモノヲ見ルト最初ノ意圖ト差違スル所モアリ不備ノ點モ多々思ヒ當ルガ、之デモ煩忙ナル臨牀家諸彦ノ實地用ニ、余暇ナキ學生諸君ノ學習ニ若干ノ便益ヲ與ヘ得レバ、幸甚シト思ツテ居ル。

本書收載スル所ノ注射藥及注射製劑ニ就キテ、或ハ意外ノ優秀劑ガ漏洩シテ居ルカモ知レナイ、其等ハ何レ機會ヲ得テ着々内容ヲ整備シテ行き度イ積リデアル。

唯々爾後ハ學問ノ進歩ト並行シ年々歳々其内容ヲ更新シテ讀者ノ同伴者トシテ幾何カノ役ニ立タシタイト念願シテ居ル次第デアル。江湖ノ御示教ト御叱正ヲ乞フテヤマナイ。

昭和11年10月

著者識ス

凡 例

i 薬劑, 疾患名等ハ日常一般ニ用ヒラレテ居ル「ラテン」名(時ニハ「ドイツ」名其他)ノ「アルファベット」順ニ從ヒ, 第五改正日本藥局方ニ準據スルヤウ努力シタ。

ii 度量衡モ第五改正藥局方ニ準ジタ。即チ

センチメートル	cm
ミクロン	μ
リットル(立)	l
グラム(瓦)	g
ミリメートル	mm
立方センチメートル(珪)	cc
キログラム	kg

ノ如クシタ。

iii 「ホルモン」劑, 「ヴィタミン」劑ノ如キハ, 國際聯盟部規約ニ準據シタ。

iv 注射劑ノ「アンブレ」ヲ又管ノ字ニテ示シ, 其内容 1cc ノモノハ在來使用スルプラワツツ氏注射器 1 筒ノ意ニテ記載シタ箇所ガ多イ。

v 採録シタル藥劑乃至製劑ノ中, 自科ニテ其藥效ヲ經驗シタルモノモアルガ, 全リ經驗ナキモノモ相當ニ多イ。是等ハ諸家ノ經驗報告ニ準據シ, 又場合ニヨリテハ發賣元ノ指示書ニ據ツタモノモアル。何レ是等ハ公平ナル一般批評ヲ基本トシテ記述スベキモノデ, 時ト共ニ改正サルベキモノデアコトハ充分心得ヘテ居ル, 漸次一般ノ要求ニ應ジタイト念ジテ居ル。本版ニ於テハ後者偏重ノ謗ノ免ガレナイコトモ亦自覺シテ居ル。

vi Aqua destillata 蒸溜水ヲ時ニ溜水ト簡記シタ。

vii 藥品ノ市販名ハ常ニ必ズ其命名法(「ラテン」語)ガ正確トハ限ラナイ, 時ニハ文法不適ノモノモアル。中ニハ獨乙語, 英語等ヨリ, 又日本語ヨリ轉化シタルモノ等雜多デア。是等ハ共ニ市販名トシテ讀ミ流スベキデアルト考ヘル。

viii 注射ハ時ニハ非常ニ危険ナルモノデアカラ, 使用ニ當リテハヨク藥劑ニ貼布サレタル其指示説明書 beiliegende Gebrauchsanweisung, Instructions (in detail) for use enclosed ヲ熟讀シ置クコトガ必要デア。

ix 文中→ハ……参照或ハ……ニ準ズノ略標トシタ。

x ㊦ハ局方藥或ハ之ヲ主劑トシタルモノヲ指示シタ。

目 次

總 論

1. 注射ノ種別 1
2. 注射ノ適應 2
3. 注射料トシテ必要ナル條件 . 2
4. 注射ニ關スル注意 附注射ノ危険 3
5. 注射ノ技術的事項 4
6. 注入 6
7. 新藥注射劑ノ分類ニ就テ . . 7
8. 新ニ局方藥トシテ收載サレタルモノニ準ズル新藥ノ名稱一部(注射藥) 7

各 論 9

1. 興奮劑(蘇生藥或ハ回生藥)(虚脱治療劑一循環及呼吸刺戟劑) 9
 1. 「ロベリン」 10
 2. 「ピリヂン」誘導體 11
 3. 「カンフル」誘導體 11
 4. 「ストリキニーネ」 11
 5. 「カフェイン」製劑 12
 6. 血管緊張劑 12
 - a. 血管運動神經中樞ニ作用スルモノ 12
 - b. 末梢血管壁ニ作用シテ其緊張ヲ亢ムルモノ 12
 7. 血液補充料 12
 8. 「ヴィタミン」B₁ 劑 12
2. 強心血管緊張劑及利尿劑 . 12
 - A. 心臓・血管緊張劑 14
 1. 「カンフル」製劑 14
 2. 「カンフル」類似劑 15
 3. 「カフェイン」製劑 16
 4. 「デギタリス」製劑 16
 5. 「ストロファンツス」製劑 . . 19
 6. 爾他ノ強心劑 19

7. 葡萄糖(轉化糖)ヲ主成分トスル製劑 21
8. 心臓刺戟素(心筋・骨格筋)製劑 22
9. 「エピレナミン」製劑 23
10. 「エフェドリン」製劑 23
11. 腦下垂體後葉製劑 24
12. 「ストリキニーネ」製劑 24
13. 人工血清, 血清補充劑 24
14. 血液補充料(輸血代用) 25
- B. 利尿劑, 水腫療劑 25
 1. 腎性利尿劑 25
 2. 組織性(腎外性)利尿劑 26
3. 血壓降下劑(血管擴張劑) . 27
4. 發汗劑 29
5. 制汗劑 29
6. 血液凝固阻止劑 29
7. 止血劑 30
 1. 「エピレナミン」劑, 腦下垂體後葉 30
 2. 局方鹽化「コタルニン」劑 . . 31
 3. 菱角劑(同有效成分合成品) . . 31
 4. 血清・血液・肺・脾・骨髓等ノ臟器製劑 32
 5. 「カルシウム」劑 33
 6. 食鹽劑 33
 7. 「ゼラチン」劑 34
 8. 併合及其他ノ止血劑 34
8. 呼吸困難治療劑(喘息治療劑) 35
9. 百日咳治療劑 37
10. 解熱劑 38(肺炎, 流感, 「マラリア」治療劑)
 1. 「ヒノリン」誘導體, 「キニーネ」屬 39
 2. 「カルボール」誘導體, 「サリチル」屬 41
 3. 「ピラツォロン」誘導體, 「アンチピリン」屬 42
 4. 特種解熱劑 43
11. 鎮痛劑(麻醉劑) 43

1. 阿片「アルカロイド」劑 43
 2. 「バルビタール」劑 47
 3. 併合其他ノ鎮靜劑 49

12. 神經痛・「ロイマチス」療劑 . 50
 1. 「ヒノリン」誘導體 50
 2. 「サリチル」製劑 50
 3. 「ピラツォロン」誘導體 51
 4. 「カンフル」製劑 51
 5. 「キノフェン」劑 51
 6. 併合其他ノ神經痛劑 52
 7. 植物性製劑 53
 8. 蟻・蜂毒・筋肉「エキス」其他臟器劑 54
 9. 一般賦活劑 55
 10. 局所適用劑 55

13. 鎮痙劑及鎮靜劑 55
 1. 阿片「アルカロイド」劑 55
 2. 「マグネシア」鹽劑 56
 3. 「フェノバルビタール」劑 57
 4. 「プロム」劑 58
 5. 併合其他ノ鎮痙・鎮靜劑 60

14. 流行性腦炎，錐體道外系ニ作用スル藥劑 60

15. 局所麻醉劑 61

16. 消炎劑 64
 1. 「カルシウム」劑ヲ主成分トスルモノ 64
 2. 「サリチル」酸「カルシウム」ニ葡萄糖・「ヨード」・「プロム」等ヲ伍シタルモノ 65
 3. 「グルコン」酸「カルシウム」ヲ主成分トスルモノ 67
 4. 「プロム」劑 68
 5. 諸種藥劑ノ併合 68
 6. 植物性製劑 70

17. 殺菌消毒劑（治淋劑ヲ含ム） 70
 1. 「ヘキサメチレンテトラミン」（「ウトロピン」）劑 70
 2. 「アクリヂン」劑 73
 3. 「コロイド」銀劑 75
 4. 「アゾ」色素其他ノ殺菌消毒劑 . 76

18. 胃（十二指腸）潰瘍治療劑 . 77

19. 催吐劑 78

20. 制吐劑 78

21. 解毒劑 79
 1. 「アチドージス」治療劑 79
 2. 次亜硫酸「ソーダ」製劑 80
 3. 諸種ノ解毒劑 80

22. 自律神經疾患治療劑 . . . 82

23. 變調劑（刺戟療法劑） . . . 84

24. 發熱療法劑 87
 1. 硫黃劑 87
 2. 「ワクチン」劑 88
 3. 蛋白質製劑 88

25. 食慾催進劑 88

26. 止瀉劑 89

27. 腸蠕動催進劑（驅風劑） . 89

28. 利膽劑及膽道蠕動催進劑 . 90
 A. 利膽劑 90
 B. 膽道蠕動催進劑 90

29. 驅蟲劑 91
 1. 蛔蟲病治療劑 91
 2. 「アメーバ」赤痢治療劑 92
 3. 「デストマ」病治療劑 92

30. 「ビタミン」劑 93
 1. 「ビタミン」A製劑 93
 2. 「ビタミン」D製劑 94
 3. 「ビタミン」A及D製劑 94
 4. 「ビタミン」B製劑 94
 5. 「ビタミン」C製劑 96
 6. 「ビタミン」Bニ他ノ藥劑ヲ伍シタルモノ 97

31. 「ホルモン」及臟器製劑 . . 97
 1. 甲状腺製劑 98
 2. 副腎髓質製劑 99
 3. 副腎皮質製劑 99
 4. 上皮小體製劑 99
 5. 膀胱製劑 99
 6. 腦下垂體製劑 100
 a. 腦下垂體前葉製劑 100
 b. 腦下垂體後葉製劑 101
 7. 胸腺製劑 101

8. 肺臟製劑 102
 9. 心臟筋肉・横紋筋製劑 . . . 102
 10. 血管壁製劑 102
 11. 脾臟製劑 103
 12. 肝臟・膽汁製劑 103
 13. 胃壁・消化液製劑 105
 14. 腎臟製劑 105
 15. 脊髓製劑 105
 16. 併合臟器製劑 105

32. 陣痛催進劑 107
 1. 腦下垂體後葉製劑 . . . 107
 2. 「キニーネ」劑 108

33. 性的興奮劑（強精劑） . . . 108

34. 性「ホルモン」 108
 A. 男性「ホルモン」 108
 1. 藥丸實質及間質製劑及尿抽出男性「ホルモン」，合成品 . . 109
 2. 攝護腺製劑 111
 B. 女性「ホルモン」 111
 1. 卵巢實質製劑 111
 2. 卵巢濾胞「ホルモン」 . . . 112
 3. 卵巢黃體「ホルモン」 . . . 113
 4. 尿性女性「ホルモン」 . . . 114

35. 血清（治療血清，抗毒性血清） 115
 血清病ノ豫防及ビ治療法 . . 115
 1. 即時反應 117
 2. 促進反應 117
 蛋白質療法 119

36. 「ワクチン」 123

34. 「アナトキシシン」附「アンチウイルス」 131

38. 驅微劑 133
 A. 砒素化合物（所謂「サルブルサン」製劑） . . . 133
 1. 局方「アルゼノベンゾール」 . 133
 2. 局方「アルゼノベンゾールナトリウム」，局方「ネオアルゼノベンゾール」，局方強「ネオアルゼノベンゾールナト

リウム」 134

B. 水銀劑 138

C. 蒼鉛劑 140

D. 「ヨード」劑 141

39. 結核劑 142
 1. 金製劑 142
 2. 「リポイド」ヲ含ムモノ . . 143
 3. 其他ノ結核劑 144
 4. 結核ニ對シ屢々併用サルル製劑 145

40. 強壯劑 146
 1. 「ヨード」劑 146
 2. 砒素劑ヲ主トスルモノ . . . 147
 3. 「カコヂル」酸製劑 148
 4. 「ストリキニーネ」ヲ含有スルモノ 148
 5. 燐ヲ含有スル製劑 148
 6. 其他ノ強壯劑 149

41. 治癩劑 149

42. 造影用注射劑 150

43. 機能検査劑及生化學劑 . . 152

44. 外科的疾患用注射劑 . . . 153
 A. 痔疾劑 153
 B. 瘰癧治療劑 153
 C. 發毛劑 154
 D. 癬痕軟解劑 154
 E. 横痃治療劑 154

重要適應一覽 156
 1. 急性傳染病 156
 2. 呼吸器系疾患 159
 3. 循環器系疾患 162
 4. 消化器系疾患 164
 5. 泌尿器系疾患 169
 6. 血液疾患 171
 7. 神經系疾患 172

4 目次

8. 運動器系疾患 175	11. 一般症狀及其他ノ重要 症候 178
9. 新陳代謝疾患及物質缺乏 症 176	12. 性病(梅毒, 淋疾, 軟性下 疳, 第四性病)ノ療法 . . 181
10. 中毒 177	

總論

注射ハ治療 therapeutisch ノ目的 =, 又診斷 diagnostisch ノ目的 = 行ハレルノ技術 Technik デアル。

1. 注射 Injektion, *injection* ノ種別

注射トハ, 藥劑(廣義ニ於ケル)ヲ非經口的 *paraenteral* = 溶液トシテ所謂注射器ヲ以テ穿刺シテ體內ニ注入スル場合ヲ指シ, 比較的所用スル溶液ノ少量ノ場合ヲ注射ト稱シ, 所用スル液量ノ大量ナル場合ヲ注入 *Infusion, infusion* ト云ヒ習ハシテ居ル。

注射ハ次ノ5ニ大別サレテ居ル。

- 1) 皮下注射 *subkutane Injektion, subcutaneous injection*
- 2) 筋肉内注射 *intramuskuläre Injektion, intramuscular injection*
- 3) 靜脈内注射 *intravenöse Injektion, intravenous injection*
- 4) 心臟内注射 *intrakardiale Injektion, intracardiac injection*
- 5) 脊椎内注射 *endolumbale Injektion, endolumbar injection* (所謂脊椎注射 *Spinalinjektion*)

其他, 皮内注射 *intrakutane Injektion* (「ツベルクリン」ノ皮内注射ハマントウ氏反應 *Mantoux's Reaktion* ヲ見ル爲メニ診斷用ニ使用サレル), 肋膜腔内注射 *Pleurainjektion*, 腹腔内注射 *Bauchinjektion* (是等ハ多クノ場合穿刺 *Punktion* ノ適應アル時ニ利尿劑——例ヘバ「ノヴァズロール」, 「サリルガン」ノ如キ, 殺菌劑, 色素劑等ヲ注射スル場合ヲ指ス), 後頭下注射 *Suboccipitalinjektion* (小腦延髓槽 *Cisterna cerebello-medullaris* = 注射スル法テ, 造影劑, 治療血清等ガ注入サレル), 神經鞘内注射 *Injektion in den Nerv* (屢々神經痛ニ局所麻醉劑ガ當核神經鞘中ニ穿刺注射サレル), 硬腦膜外注射 *epidurale Injektion* (屢々薦骨部ニ行ハレル, カテラン氏注射 *Sakralinjektion, Cathelin*), 關節腔内注射等ガアル。(重要疾患適應ノ條下, 夜尿症, 神經痛等參照)

2. 注射ノ適應 Indikation

1) 効果ノ迅速ヲ期スル場合。經口的ニ投與サレタ藥劑ハ消化液ノ作用ヲ受ケツツ、胃ヨリ腸ニ至リテ初メテ吸收サレ、門脈 Vena portae, Pfortader ヲ通り解毒器官 entgiftendes Organ ト云ハレル肝臟ヲ經過シ、其處テ一部カ變質サレテ後、大空靜脈ヨリ右心ニ入り、ヤガテ大循環ニヨリ全身ニ分配サレ、各器官ニ對シテ各々特有ノ藥理作用ヲ及ボシテ所謂效果ヲ發揮スルモノデアアル。

注射ニ於テハ斯カル迂迴、變質ヲ受ケズ、藥劑ハ其レ自體トシテ、毛細血管（皮下、筋肉内）、靜脈ニ入レラレ、右心ヨリ、ヤガテ左心室ヲ經テ大循環ニ送ラレルカラ、從ツテ藥效ハ迅速ニ現ハレル。爲メニ救急ノ目的ニ適スルモノデアアル。

2) 最も急ヲ要スル場合ハ、右心室ニ又左心室ニ**心臟内注射**が行ハレル。動脈内注射ハ極ク稀レノ場合ヲ除イテハ行ハレナイ。一定動脈内注射ハ其灌漑域ニノミ強烈ニ限局性ニ作用スルノミデ、特殊器官ニ作用・奏效ヲ希望スル藥劑ノ適應ニ反スル。

3) 一定藥劑（廣義ニ於ケル）ヲ一定局所ニ作用セシメン爲メニハ、其局所ニ直接注射、注入スル。流行性腦脊髄膜炎、破傷風、「ヂフテリア」等ニ於テ病竈カ中樞神經系ニアルモノニ於テハ脊椎内注射 endolumbale Injektion ヲナス（腰椎穿刺ヲ豫メ行ヒテ後之ヲ行フコトが多い）。

一定神經ノ神經痛 Neuralgie ニハ當該神經鞘ヲ穿刺シテ神經幹中ニ麻酔劑ヲ注入スル（神經内注射）。

3. 注射料トシテ必要ナル條件

1) 非經口的ニ注射トシテ用フル爲メニハ**可溶性 löslich, soluble ナルヲ要ス**。最も屢々水溶性 wasserlöslich, water soluble ノモノガ用ヒラレル。水ニ難溶ナルモノニハ又他ノ溶媒 Lösungsmittel ガ用ヒラレル、例ヘバ水ニ難溶ナル樟腦 Campfer ハ、「オレーフ」油、「エーテル」等ニ可溶ナレバ、是等ガ溶媒トサレル。又一定溶質ヲ溶解シタル特別ノ水溶液ヲ使用スルコトガアル（時ニハ其製法ニ關シテハ非公開、特許ヲ得テ居ルモノモアル）。難溶ノ一定物質モ其複鹽ガ可溶ナル時ハ注射ニ用ヒラル（「カフェイン」 Coffeinum ハ難溶ナルガ、安息香酸「ソーダ・カフェイン」（ア

ンナカ) Coffeinum-Natrium benzoicum ハ可溶テ「カフェイン」ノ藥理作用ヲ發揮スルガ如キハ之レデアアル）。

2) 溶液タル注射料ノ反應ハ一般ニ弱「アルカリ」性ガ用ヒラレル。夫レハ注射シテ局所ノ刺戟症狀ガ少ナイカラデアアル。或ハ中性ノモノガ用ヒラレル。酸性ノモノハ局所ヲ刺戟スル。酸性物質ノ大量血中送致ハ又血中豫備「アルカリ」ノ減少ヲ來ス惧ガアル。

皮下及筋肉内注射ニ於テハ PH ハ 7—8 マデノモノガ疼痛ガ少ナイ。

或ル特殊ノ藥劑デハ、斯カル溶媒中ニテハ分解、變質スルモノガアル。此場合ハ酸性トナシテ局所麻酔劑ヲ伍スルコトモアル。又溶液中ノ溶質ノ加水分解・酸化ヲ防止スル爲メニ諸種ノ**保護劑**（「グリセリン」、「アルコール」、糖質、類蛋白質、石炭酸-0.5%、「クロレトシ」等）ガ加ヘラレルコトガアル。又溶液ニ於ケル溶質ノ容易ニ酸化變質スルモノニアリテハ、酸化ヲ防止スル爲メニ屢々容器（或ハ「アンブレ」）内ノ酸素ヲ除去シ、炭酸「ガス」ヲ置換シテ置クコトガアル。

3) 皮下及筋肉内注射ニハ、ナル可ク血清ト滲透壓ヲ等シクスル**等張性 isotonisch**ノ溶液ガ用ヒラレル。是ハ局所刺戟ヲナカラシメル爲メノモノデアアル。高張 hypertonisch, hoch konzentriert ノモノ、低張 hypotonisch ノモノハ組織ノ奪水、膨化等ヲ來シテ組織内ノ知覺末梢裝置ヲ刺戟スルカラデアアル。

4) 皮下注射ハ皮下ノ**毛細血管**ヨリ藥劑ヲ吸收セシムルモノデアアル。筋肉内注射モ亦筋肉内ノ疎大ナル毛細血管ヨリ吸收セシメントスルモノデアアル。

5) 靜脈内注射ニハ又屢々等張溶液ノ他ニ**高張溶液**ノ注射が行ハレル。靜脈内ヘ高張溶液ノ注射ハ血液ニ混ジテ循環スル中ニ血管外ノ組織ヨリ奪水シテ（血液中ノ滲透壓ヲ組織ノ夫ト同一ナラシメントシテ）所謂**滲透療法 Osmotherapie**ノ意ニ適ス。或ハ組織液ト共ニ「トロンボキナーゼ」 Thrombokinase ガ血管内ニ浸入シ、又「イオン」ノ移動ヲ促ガシ所謂細胞原形質賦活 Protoplasmaaktivierung 刺戟療法 Reiztherapie, 變調療法 Umstimmungstherapie ノ意ニモ副フモノデアアル。

4. 注射ニ關スル注意 附注射ノ危險

1) **注射ハ一般ニ危險ナモノデアアル**。注射サレタ藥劑ハ何等ノ變化ヲ受

ケルコトナシニ、即ち性的、量的ニ何等ノ變化ナシニ藥品其自體ガ直チニ
 血行ニヨリ全身ヲ循環スルモノデアアル。從ツテ**注射藥ノ種類及其用量ニハ
 充分ノ注意ガ必要デアアル。**

2) 劇・毒藥ニ對シテハ1回量 pro dosi, 1日量 pro die ノ極量 Dosis
 maximalis ガ規定サレテアルガ、夫ハ内服ニ關シテデアアル。注射用量ニ關
 シテノ極量ノ規定ガ未ダ實施サレテ居ナイ、經口的ニ與ヘラレル用量ト比
 較シテ**少量デアアルベキ筈デアアル。**

3) 一般ニ強烈ナル作用ヲ有スルモノ、麻醉劑 Narcotica (殊ニ阿片
 「アルカロイド」)、局所麻醉劑 Anästhetica ノ如キモノハ**靜脈内ニ注射ス
 ルヲ禁ズベキモノデアアル。**

4) 局所刺戟ノ比較的強ク疼痛、浸潤、硬結等ヲ發スルモノ、又皮下注
 射ヨリ其吸收ノ速カナルヲ欲スル時ハ**筋肉内注射**ガ行ハレル。

筋肉内ノ毛細血管ハ皮下ニ於ケルヨリ大デ、其ノ血管網モ密デアアル、從
 ツテ其吸收力ガ大デアアル、反之知覺神經ノ分布ハ皮下ニ比シテ疎デアアル。
 靜脈内注射ハ皮膚穿刺ニヨル知覺神經刺戟ノミテ疼痛ヲ訴ヘシメルコト
 ガ尠ナイ。皮下注射ニ於テ疼痛甚シキモノニハ又**局所麻醉劑 Lokalanä-
 sthetica** ヲ混合スルコトガアル。

5) 注射ニ當リテハ、ヨク當該注射液、「アンブレ」ヲ豫メ檢シテ而ル
 後實施スベキデアアル。「アンブレ」ノ形ト其硝子色が類似スルタメ、強心劑
 ノ靜脈内注射ノ適應ニ 麻醉劑ヲ注射スルガ如キコトハアツテハナラヌ。
 「アンブレ」ノ藥名貼紙 Etikett ノ剝離セルモノデ品質ノ不明ナルモノハ
 之ヲ廢シテ使用ヲ禁ズル。

6) 時日ヲ經過シテ陳腐トナリタル注射藥、殊ニ潤濁セルモノハ使用ヲ
 禁ズ、藥劑ガ加水分解・酸化ヲナシ、又硝子ヨリ浸出スル「アルカリ」其
 他ニヨリ藥品ノ變質シタルモノガアルカラ注意ヲ要ス。靜脈内注入ニ際シ
 テ特ニ留意シ、新鮮ナルモノヲ選ブヲ可トスル。

5. 注射ノ技術的事項

1) **注射劑ハ充分殺菌**サレタルモノテナクテハナラヌ。煮沸滅菌ニ堪
 エザルモノハ、ヨリ低キ温度ニテ少時間數回ニ亙リテ加温滅菌スル(例ヘ
 バ 60°C ニテ1—2時間加熱ヲ1日1回宛3日間續行スルガ如キ分劃殺菌
 fraktionierte Sterilisation)。

一定藥劑ヲ溶液トシタルモノヲ反復滅菌スルコトハ注意ヲ要スル。溶液
 ノ Ph ガ化學變化ト共ニ移動スル、葡萄糖ヲ含ムモノハ酸度ヲ増シ、重炭
 酸「ソーダ」ヲ含ムモノハ、 $2\text{NaHCO}_3 \rightleftharpoons \text{Na}_2\text{CO}_3 + \text{CO}_2 + \text{H}_2\text{O}$ ノ化學
 變化ニヨリ CO_2 ヲ放出シ Ph ヲ減少セシメルカラ密閉器内ノ一定 CO_2
 張力ノ下デ、又容器ノ空間ヲ小トシテ滅菌スル必要ガアル。又加熱ニヨリ
 テ變質スル物質ハ又時ニ**全く無菌的 aseptisch** ニ處置シテ溶液ヲ作りテ
 救急ノ目的ニ使用スルコトガアル、器具・蒸溜水ハ殺菌シタルモノヲ用ヒ、
 無菌ナル重碳酸「ソーダ」ヲ出來ルダケ細菌、汚物ノ入ラザルヤウ注意シ
 テ溶解シテ所謂無菌性ノ重碳酸「ソーダ」液ヲ作ルガ如キ場合ハ之レデア
 アル。勿論閉鎖セル腔内ニ一定張力ノ炭酸「ガス」ヲ置イテノ重碳酸「ソ
 ーダ」液ノ加熱滅菌ハ目的ニ達スルモノデアアルガ、實施ニ困難ヲ感ズルコ
 トガアル。

2) 注射ニ用フル**器具ノ消毒** 淨水煮沸、3%「ソーダ」水ニテ煮沸消毒
 スルカ、5%石炭酸 Phenol 水、50—70%「アルコール」等ニテ洗浸シテ
 消毒スル。然シ是等消毒液ガ混ズル時ハ有機性化合物タル藥劑ヲ潤濁セシ
 ムルコトガアル、斯カル場合ハ一定化學的結合ヲナシテ爲メニ藥效ヲ減退
 スル惧ガアルカラ、更ニ滅菌シタル蒸溜水ニテヨク洗ツテ後、注射藥ヲ注
 射器ニ吸入スルヤウニスル。臟器製劑、「ホルモン」劑等ニ於テ特ニ注意ヲ
 要ス。

3) **注射部位ノ消毒** 注射スベキ局所皮膚ヲ酒精綿、「エーテル・アルコ
 ール」ニテ清拭シ、又沃度「チンキ」、「マーキュロクロム」等ノ消毒液ニテ
 ヨク消毒シ置クヲ要ス。注射器具及注射部位ノ消毒、殺菌不完全ナル時ニ
 ハ穿刺部ニ膿瘍ヲ作り、夫ガ爲ニ思ハヌ苦痛ト危險ヲ伴フコトガアル。

注射ヲ了ヘタル時ハ、皮膚穿刺部ヲ無菌的ニ滅菌「ガーゼ」等ニテ少時
 壓迫スルカ、又、清潔ナル絆創膏ヲ貼付シテ汚染セラレザルヤウ注意ヲ要
 ス。

4) **皮下注射** 身體諸所ニ行ハレルガ、最モ屢々上膊上外側方、胸部、
 肩胛骨間部、大腿内側等ニ行ハレル。注射ノ局所刺戟ニヨリテ反應性炎症
 ヲ起シ、疼痛、浸潤、硬結ヲ來シタル時ハ温濕布、巻法ヲ行ヒ吸收ヲ促ガ
 ス、又豫メ之ヲ行ヒテ防グコトモアル。

麻醉劑、局所麻醉劑ノ如キ血行内ニ直接注入サレルコトヲ禁ズルモノノ
 皮下注射ニ於テハ皮下ニ注射針ヲ穿刺シテ後注射器「ピストン」ヲ引イテ

見テ血液ノ吸引ナク、血管内ニ穿刺シ居ラザルヲ確メルコトが必要デア
ル。稀釋サレザル「エピレナミン」劑ニ於テモ同様デア
ル。

5) **筋肉内注射** 皮下注射ニテハ局所刺戟が強クテ疼痛ヲ發スルモノ
或ハ吸收迅速ヲ期スル時ニ用ヒラレル。屢々**臀筋中** glutial, **上腿四頭筋**
筋ノ中ニ注射サレル。筋肉内注射ハ又餘リ注射液量ノ大ナラザルヲ要ス、
筋肉内壓排ニヨル器械的刺戟ハ疼痛ヲ來スカラデア
ル、時ニ局所麻醉劑
(鹽酸「プロカイン」其他)ノ少量ヲ用時混和シテ注射ヲナス。

6) **靜脈内注射** 最も屢々**肘窩靜脈**ニ注射サレルガ、前膊靜脈、手甲靜
脈、下腿靜脈、足背靜脈等ニモ行ハレル。比較的少量(0.5 cc 以下)ノ溶
液量ヲ救急ニ靜脈内ニ注射スルニハ、豫メ其一定量ヲ生理食鹽水或ハ血清
(同代用劑、血液)等ニテ稀釋シテ用フ。用量ヲ精確ニシテ其效果ヲ確實
ニ期待セシメル利點ガアル。

7) **心臟内注射** 救急ノ目的ニ心臟・血管劑ガ右心室ニ又左心室ニ注射
サレル。

6. 注 入 Infusion

生理食鹽水、「リンゲル」液、「ロック」液、5%(等調)葡萄糖液等ノ如キ血
液(血清)代用劑 Blutersatzmittel ヲ大量(500—1,000—2,000 cc)一度
ニ體內ニ非經口的ニ入レルガ如キ場合ヲ云フ。

壓力ヲ加ヘテ注入スル特別裝置、又高位「イルリガトール」法 hohe
Irrigation ヲ施行スル。

1) **皮下注入** subkutane Infusion, *subcutaneous infusion*

2) **靜脈内注入** intravenöse Infusion, *intravenous infusion*
ノ二ツニ大別サレル。

注入液ハ體温ニ等シカラシメテ、一定壓ヲ加ヘテ注入スル。體內毒物洗
滌 Körperwaschung, 体内毒物稀釋, 血液補充(血管充實不全)ヲ主ナル
適應トシ榮養供給, 鹽類(「イオン」)供給, 細胞賦活ノ意ヲ副トスル。

靜脈内注入ニハ心臟衰弱ノ兆アル時ハ心臟・血管劑 Cardio-angiotonica
ヲ同時ニ又注入液ニ混ジテ用ヒル。溶媒タル蒸溜水ハ新鮮・純粹ナルヲ要
ス。時ニハ再三蒸溜ヲナシテ用フルコトガアル。不純ナル時ハ高熱, 惡寒・
戰慄, 痙攣等ヲ發スルコトガアル。

7. 新藥注射劑ノ分類ニ就テ

1) 日ニ日ニ市販ニ送り出サレル新藥ノ數ハ實ニ夥イモノテ應接ニ遑
ガナイ状態デア
ル。確實ナル理論ト, 信賴スルニ足ル臨牀經驗ニ發足シタ
ル根據ノアル秀逸品モアルガ, 全幅的ノ信用ヲ搏シ得ナイヤウナ製劑モナ
イテハナイ。「適者生存」ノ原理ニ委カセルノダト云ヘバ夫レ迄デア
ルガ,
是等新藥ノ治療界出現ニ何等カノ統制ガ欲シイモノデア
ル。生物界ノ「優
者生殘」ハ治療界ニ於テハ「舊藥ハ蓋シ良藥ナリ」ノ句ニヨリテ表現サレ
ル。然シ此課程ハ「時ノ審判」ニヨリテ決定サレルモノデア
ル。其間ハ所
謂**試驗期**デア
リ, 發賣元ノ**宣傳期間**デア
ル。

2) 新藥注射劑ハ, 一定藥劑ノ單味ナルモノ或ハ單簡ナル併合ニヨリナ
ルモノガ尠ナイ。多クノモノハ**複雑ナル併用ニヨリテ用途ヲ廣汎ニシテ居
ル**。從ツテ之レヲ藥理的ニ分類スルコトガ困難トナリ, 羅列スル時ニハ重
複ノ嫌ガアル, 依ツテ對症別ニ藥劑ヲ列舉スルニ當リテハ, 各條下ニ於テ
大體ノ藥理的概念ヲ豫メ掲ゲテ之レガ應用ニ便ナラシメタ。

8. 新ニ局方藥トシテ收載サレタルモノ ニ準ズル新藥ノ名稱一部(注射藥)

阿片アルカロイド鹽酸鹽 Alkaloid-
um Opii hydrochloricum
「ナルコボン」Narcopon (ラヂウ
ム), 「カモボン」Kamopon (日本新
藥), 「パントボン」Pantopon (Ro-
che), 「パンオピン」Panopin (三共・
鹽野・田邊), 「オポボン」Opopon
(東洋製藥)

アルゼノベルゾール Arsenoben-
zolum
「サルバルサン」Salvarsan (Bayer)
「サビオール」Saviol (日本新藥),
「アルサミノール」Arsaminol (三
共), 「アーセミン」Arsemin (第一),
「エーラミゾール」Ehramisol (萬
有), 「アルゼノピロン」Arseno-

Billon (佛, プーラン商會)

アルゼノベンゾールナトリウム

Arzeno-benzol-Natrium
「サルバルサンナトリウム」Sal-
varsan-natrium (Bayer), 「サビオ
ールナトリウム」Saviolnatrium
(日本新藥), 「ネオネオアーセミン」
Neo-Neo-Arsemin (第一)「グリミ
トール」Glymitol (浪速)

溶性バルビタール Barbitalum sol-
ubile 「ベロナールナトリウム」
Veronalnatrium (Bayer) 「メヂナ
ール」Medinal (田邊元)

鹽化コタルニン Cotalninium
chloratum

「スチプトチン」Stypticin (Bayer)
 「アナプトチン」Anaptin (ラヂウム)
 「オイスタプトチン」Eustaptin (鹽野義)
 「ブルスチン」Blustin (大日本)
 「フェトール」Fetol (小島)
 「スチプトチン」Stypticin (Merck)
 「パラネフリン」Paranephrin (Merck)
 「シムメナリン」Symmenalin (丸石) → 止血劑

鹽酸エフェドリン Ephedrinum hydrochloricum

「エフェドリン」Ephedrin (大日本製藥・三共・マルイシ・マルコ・萬有・Merck)

鹽酸エピレナミン液 Liquor Epirnamini hydrochlorici

第五改正日本藥局方ニ據レバ、本劑ハ副腎ヨリ或ハ合成法ニ由テ製シタル左旋性鹽酸「オルトチオキシフェニルエタノールメチールアミン」 $[(HO)_2C_6H_3CH(OH) \cdot CH_2NHCC_4 \cdot HCl]$ 1.2g ヲ生理食鹽水 1,000 cc ニ溶解シ少量ノ安全劑ヲ添加シタルモノナリト規定サレテ居ル。之ニ準據シタル製品ハ多數市販ニアル。「エピネフリン」Epinephrin (Ciba) (化學的合成品)、「ズプラレニン」Suprarenin (Bayer) (合成品)、「ボスミン」Bosmin (第一製藥) (合成品)、「ジಂತナリン」Syntenalin (黒田) (合成品)、「アドネフリン」

Adnephrin (萬有) (合成品)「アドナルヂン」Adnaldin (田邊)、「オポレニン」Oporenin (武田)、「アドレナリン」Adrenalin (三共)

鹽酸ロベリン Lobelinum hydrochloricum

「ロベリン」Lobelin (Ingelheim)
 「アトムラチン」Atmulatin (大日本製藥)

ネオアルゼノベンゾール Neo-Arseno-benzolum

「ネオサルバルサン」Neo-Salvarsan (Bayer)、「ノブアルゼノピロン」Novarsaseno Billon (佛、クラン)、「ネオアルサミノール」Neo-Arsaminol (三共)、「ネオエーラミゾール」Neo-Ehramisol (萬有)、「ネオタンバルサン」Neo-Tanvarsan (第一)、「ネオヒソリン」Neo-Hisorin (漢速)、「ネオサビオール」Neo-Saviol (日本製藥)、「ヒマーセン」Himasen (黒田)

強ネオアルゼノベンゾールナトリウム Neo-Arsenobenzolum fortius

純「ネオタンバルサン」(第一)

溶性フェノバルビタール Pheno-barbitalum solubile

「ルミナルナトリウム」Luminal-natrium (Bayer)
 「メザール」Medinal (Schering)



Analeptica, herzstärkende und atmungerregende Mittel
 (蘇生藥或ハ回生藥 Excitantia oder Stimulantia)

(虚脱治療劑—循環及ビ呼吸刺激劑)

生體ノ貴要機能が急激ニ悪化シテ(虚脱、中毒)生命ノ脅カサレル危険ノアル場合ニ救急ニ血液循環、呼吸等ヲ鼓舞・整調シテ危期ヲ脱セシメル藥劑 Belebende ヲ總稱シテ興奮劑ト云フ。從ツテ又蘇生藥、回生藥トモ稱サレ、其作用ハ急速ニシテ其效果モ即時的ノモノガ貴バレル。

虚脱 Kollaps, collapse, défaillance subite 附外傷性「ショック」Shock

體內性及ビ體外性毒素・毒物ノ中毒、急激ナル失血、外傷等ニヨル反射 Shock ニテ循環、呼吸等ノ生命貴重ノ中樞ガ侵カサレ其機能障礙ヲ來スト共ニ急激ニ生體生活現象ノ失調・衰微・廢絶ヲ示シ生命ノ危険ヲ招來スルコトガアル。コノ嫌ハシキ虚脱 Kollaps, Zusammenfallen, Zusammeninken ナル状態ハ出來ルコトナラバ、迅速ニ之ニ對處、適當ナル工作ニヨリ危険ナル状態ヨリ解除スベキモノデ、速效ヲ有スル諸種藥劑ノ注射療法ノ如キハ此際ニ於テ最モ其效果ヲ發揮シ得ルモノデアル。

虚脱ハ一面急激ナル體內循環血液量ノ減少ニヨル生體ノ機能失調ト見ラレル。

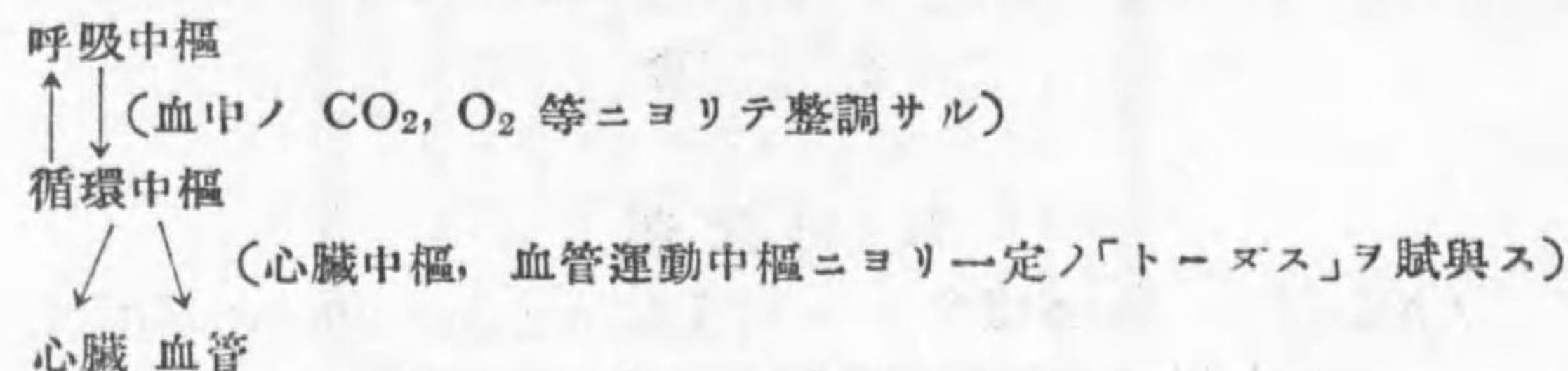
虚脱ヲ招來スル諸種ノ場合

- 1 失血ニヨル(充實不全 Aplesmonie)
- 2 体内血液溜滞 Blutdepots (殊ニ腹部内臟—肝臟解脈閉塞 Lebervenensperre)
- a 心筋ノ作業能低下 Asystolie
 - i 急性心臟衰弱(麻痺) akute Herzschwache, -lähmung
 - 細菌「トキシ」(急性傳染病)、體內性(分解産物)毒物—「ヒスタミン」(腹膜炎、火傷等)、體外性毒物、麻酔劑、催眠劑ノ大量作用、外傷性反射等
 - ii 慢性心臟衰弱—慢性器質的心臟疾患ニ因シモノニシテ多クノ場合徐々ニ發來ス
- b 末梢血管ノ運動麻痺(血管壁ノ弛緩ニヨル擴大—充實不全) Vasomotorenlahmung
 - i 血管神經中樞麻痺
 - 細菌「トキシ」, 體內性及體外性中毒、反射等
 - ii 血管壁ノ弛緩
 - (原發スルツトハ稀有ニシテ多クノ場合結果トシテ發ル)

治療方針

- 輸血、血液・血清補充料ノ注入等ニヨリ血液補充ス。
- 興奮劑(強心・呼吸中樞興奮劑)、CO₂ノ吸入、清血等ニヨリ身體循環整調ヲ行フ。
- 1 原病ニ對シテ特殊治療劑(血清、特效藥等)、消炎劑、變調劑(細胞賦活ニヨリ抗毒機轉ヲ大ニス)
- 2 對症救急—興奮劑、強心・利尿劑、血管緊張劑、體內毒素洗滌(血清代用劑ノ注入ト共ニ循環ヲ整調セシム)
- 強心劑
 - 1 原病ニ對シテ—iニ準ズ。
 - 2 對症救急—血管神經中樞ヲ興奮セシム藥劑、強心劑等ヨリ iiニ準ズ。
- 直接血管整調平筋ニ作用スル藥劑(血管緊張劑)

生命貴重ノ呼吸中樞ト循環中樞ハ又密接ナル關聯ニアルモノデア。從ツテ虚脱ヲ治療スルニ當リテモ亦之ニ對スル充分ナル注意ガ必要デア。



虚脱ノ前驅症狀

疲勞感, 惡心, 頭痛, 眩暈, 眼華閃發, 生缺伸, 蒼白, 冷汗

虚脱ノ主要症候

心搏促進 (脈搏小, 頻, 軟), 體溫降下, 冷汗。一般狀態ノ急激ナル惡化。心筋ヲ興奮セシメテ心作ヲ鼓舞シ, 又心臟中樞, 血管運動神經中樞, 呼吸中樞ニ働キテ生活機能ノ失調ヲ恢復シ, 生活現象ノ整調・保持ヲナス一群ノ藥劑ヲ興奮劑 Analeptica (sing. -um) ト云ヒ, 廣義ノ強心劑, 呼吸中樞興奮劑, 廣義ノ血管劑等ガ之ニ屬スルモノデア。

1. 「ロベリン」 Lobelin

Lobelia inflata 草ヨリノ「アルカロイド」 $C_{23}H_{29}NO_2$ ニシテ其鹽酸鹽ガ用ヒラレ, 呼吸中樞ヲ興奮セシメ呼吸ヲ大ニシ, 頻數ヲ減シ之ヲ整調ス。

【適應】 中毒(燈用ガス・酸化炭素・阿片劑・睡眠劑等)・手術後虚脱・傳染病經過中ノ虚脱(肺炎・氣管支肺炎・サフテリア・猩紅熱等) 腰椎麻醉前ノ血壓下降豫防・初生兒假死狀態・呼吸障礙ヲ伴フ諸症・吃逆・ランドリー氏麻痺・ウィルソン氏病・大出血・「ショック」・溺死・縊死・外科手術中・鐵山或ハ「スポーツ」中ノ突發症。

Atmulatin 「アトムラチン」(大日本製藥)

【成分】 邦産 Lobelia inflata ヨリ抽出セル邦製「ロベリン」。

【用量】 皮下, 筋肉内, 靜脈内ニ反復注射。小兒ハ1回0.3% 1cc, 大人ハ1回 1.0% 1cc

Lobelin 「ロベリン」(Ingelheim-友田)
【成分】 北米産 Lobelia inflata ノ「アルカロイド」鹽酸鹽。

【用量】 大人1回1%, 1cc 入(ロベリン 0.01 ヲ含ム) ヲ皮下。初生兒, 早産兒, 乳兒ニハ 0.3% 1cc 入ヲ1回ニ筋肉内注射。注射間隔ハ 10—15 分トス。靜脈内注射ハ 1 筒 0.003 g ヲ徐々ニ行フ。後ニ皮下注射ヲナス。

Icoral 「イコラール」(Bayer)

【成分】 m-oxy-N-aethyl-diaethyl-amino-aethyl-aminobenzol (鹽基A) ト m-oxyphenylpropenolamid (鹽基B) トノ鹽酸鹽溶液。1 筒中 A:B=4:1 ノ割

合ニ含有サル, 0.5% 水溶液。

【作用】 鹽基Aハ「ロベリン」ニ類似ノ作用ヲ有シ, 鹽基Bハ循環系ニ作用シ, 藥物的ニハ「エフェドリン」ニ酷似ス。

【用量】 1) 筋肉内ハ 1 管 (1cc) ヲ必要ニ應ジ反復使用。2) 皮下注射ハ 1 (1cc) 管。靜脈内ニハ 0.3—0.5 cc ヲ徐々ニ注射シ, 時ニハ水ニテ稀釋ス。

【注意】 心臟ノ代償機亡失ノ患者ニハ本劑ノ使用ヲ禁ズ。即チ本劑ハ「デギタリス」, 「ストロファンチン」等ノ代用藥タリ得ズ。

2. 「ピリヂン」誘導體 Pyridin-derivate

Pyridin- β -carbonsäurediäthylamid ナル成分ヲ有スル Coramin 等ハ中樞性ニ作用シテ強心・呼吸強盛ヲナス。

【適應】 循環障礙・呼吸困難・中毒・初生兒假死。

Coramin 「コラミン」(Ciba)

【用量】 1 回 1—2 cc 宛皮下, 筋肉内或ハ靜脈内。必要ニ應ジ 2—3 時間内ニ反復注射。中毒救急ノ目的ニハ 5.5 cc 入。靜脈内或ハ筋肉内。

Kiosin 「キオシン」(田邊)

→Coramin

Nicorumin 「ニコルミン」(吉萬)

→Coramin

Nicotyrain 「ニコチラミン」(藤澤)

【成分】 1 cc 中ニ Pyridin- β -carbonsäure-diäthylamid 0.15

p-Oxyphenyläthylamin-chlorhydrat 0.01

ヲ含ム。
【用量】 1 cc 宛 1 日數回靜脈内, 或ハ皮下。

Vitacardin 「ビタカルヂン」(フタバ林)

→Coramin

3. 「カンフル」誘導體 Kampfer-derivate

「カンフル」(樟腦) ノ一定酸化物ハ有效ナル強心劑デア。コノモノハ同時ニ血管運動神經中樞・呼吸中樞ニモ働キ之ヲ興奮セシムルモノデア。

Riken-Camphenal 理研「カンフェナール」(藤澤, 田邊)

【成分】 10(或ハ β) Apocampfer-1-aldehyd ノ 1% 水溶液。

【用量】 靜脈内 1—5 cc, 皮下 1—5 cc。

Vitacampher 「ビタカンファー」(武田)

【成分】 本劑ハ「パイ・オキシカンファー」 π -Oxocampfer ト「パラ・オキシカンファー」p-Oxocampfer ヲ其成分トナスガ, 有效分子ハ「パイ」化合物ニシテ「パラ」化合物ノ共存ニヨリ作用ガ強盛・持續スト。

【用量】 1 回 1—2 cc 靜脈内或ハ皮下, 1 日數回。

4. 「ストリキニーネ」 Strychnin

血管運動神經中樞ヲ興奮セシムルノミナラズ, 呼吸中樞, 迷走神經

中樞ニモ作用スル有要ナル抗虚脱劑デアル。

Neo-Vitaminol 「ネオビタミンロール」 → 「ビタミン」劑

【成分】 「ビタミン」Bニ硝酸「キトリキニーネ」ヲ含ム。

Strychninum nitricum ⑤硝酸「ストリキニーネ」

【成分】 0.1% 溶液トシテ用フ。數種市販サル。

【用量】 1回 0.5—1 cc。硝酸「ストリキニーネ」極量ハ 1回 0.005, 1日 0.015。

5. 「カフェイン」製劑 Kaffeinpräparate

有力ナル強心劑デアルト同時ニ血管神經中樞ヲ興奮セシメ末梢血管ノ緊張ヲ充メル。→強心劑—「カフェイン」製劑。

6. 血管緊張劑 Angiotonica

a) 血管運動神經中樞ニ作用スルモノ。該中樞ヲ興奮セシメルモノテ、「カンフル」誘導體、「ストリキニーネ」、「カフェイン」製劑等

i 「カンフル」誘導體 → 14 頁

ii 「ストリキニーネ」 → 24 頁

iii 「カフェイン」製劑 → 16 頁

b) 末梢血管壁ニ作用シテ其緊張ヲ充ムルモノ

i 「エピレナミン」製劑

鹽化「アドリナリン」ノ如キ副腎髓質「ホルモン」及同人工合成品 → 23 頁

ii 「エフェドリン」製劑

麻黃有效成分ニシテ、作用ハ「エピレナミン」ニ類シ、其作用持續ガ永イ。→ 23 頁

iii 腦下垂體後葉製劑

血管平滑筋自體ニ働キ之ヲ收縮セシムルモノ → 及 24 頁

7. 血液補充料 Blutersatzmittel

→人工血清・血液補充料(輸血代用) 24 頁

8. 「ビタミン」B₁劑

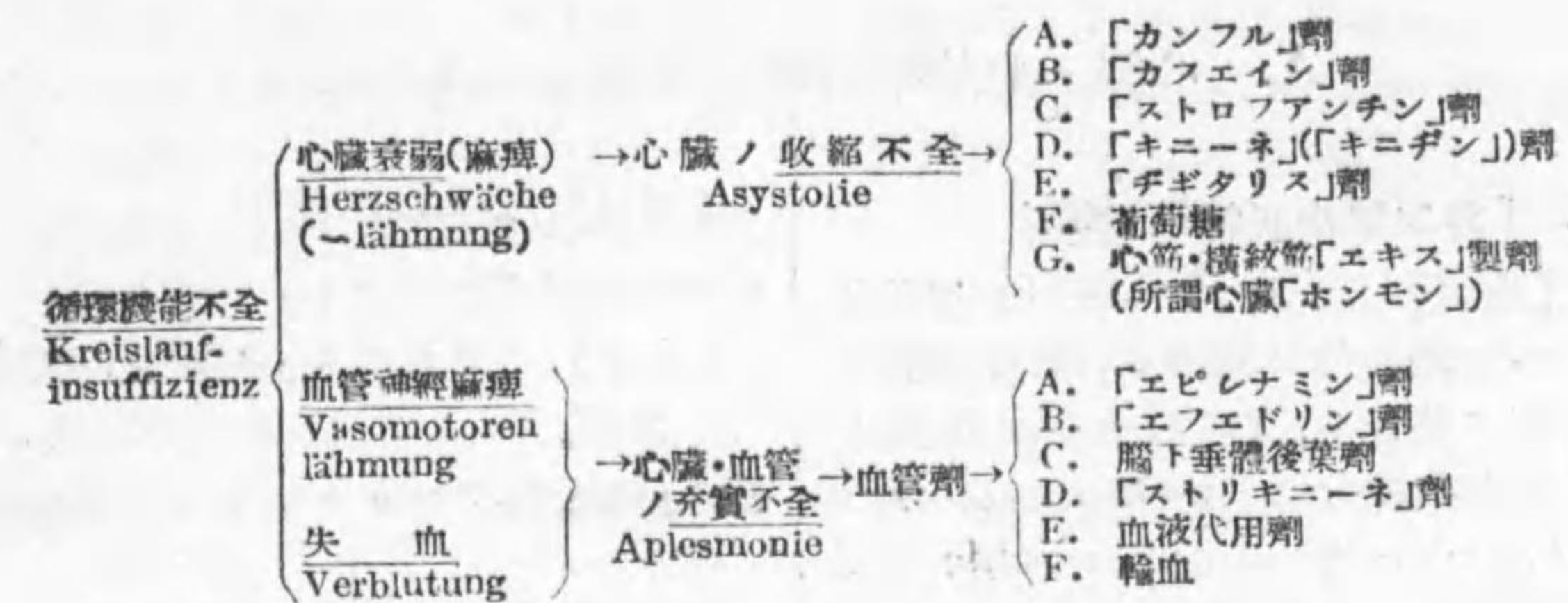
特ニ所謂脚氣衝心ニ於ケル急性循環機能不全 akute Kreislaufinsuffizienz ニハ大量注射ヲ行フ。→「ビタミン」劑。

2. 強心血管緊張劑及ビ利尿劑

Cardio-angiotonica und Diuretica

強心劑 Cardiacia, Herzmittel 心臟ヲ刺戟シテ心臟働作ヲ鼓舞スルモノ

血管緊張劑 Angiotonica, Gefässmittel 血管運動神經中樞ニ又血管壁平滑筋ニ作用シテ血管ノ「トーマス」ヲ充メルモノ



利尿劑 Diuretica 体内水分滯溜(浮腫)ヲ除クヲ主ナル目的トシ、又体内洗滌(毒素・毒物排出)ノ意ニモ用ヒラレル。

1. 血液循環ヲ整調シ、腎動脈ノ擴大ヲ來シテ利尿ヲ招來セシムルモノ—心臟・血管劑ノ一部。

2. 腎臟ニ作用シテ(主トシテ腎動脈ノ擴張)利尿ヲ現ハスモノ—腎性利尿劑—ソノ大部ハ前記1ニ一致スル。

3. 組織ニ作用シテ組織淋巴代謝ヲ整調シ、組織内滯溜分ヲ血管内ニ浸入セシメ、水血症 Hydrämie ヲ起シテ被動的 passiv =腎臟ヨリ過剰水分ヲ排泄シテ利尿ヲ計ルモノ。鹽類利尿劑ハ之ニ屬スルガ多ク經口のニ投與サレル。

水銀劑ハ又組織ニモ働クカラ組織性利尿劑ノ中ニ數ヘラル。

「ホルモン」殊ニ甲状腺劑ガ又組織ニ働イテ利尿ヲ來ス。

4. 滲透療法 Osmotherapie

濃厚ナル葡萄糖液等ノ高張液 hypertonische Lösung ノ静脈内注射ハ又組織滯溜液ヲ血管ニ誘致シテ水血症ヲ起シ利尿ヲ來ス、ソノ他葡萄糖ハ刺戟・榮養・解毒等ノ作用モ兼キテ持ツテ居ル。

5. 水分

急激ニ比較的多量ノ水分ヲ注入シテ所謂水突療法 Wasserstoss ノ目的ニ副ハシメ、体内水代謝ニ刺戟ヲ與ヘテ之ヲ整調スルコトガアル。

—血清(血液)代用劑 Serum(-Blut)ersatzmittel ノ注入 Infusion

A. 心臟・血管緊張劑 Cardio-angiotonica

1. 「カンフル」(樟腦)製劑

【作用】「カンフル」ノ一定酸化物ハ心臟動作ヲ強盛シ、血管運動中樞ヲ興奮シ、又呼吸中樞ヲ整調ス。其有效成分ニハπ-Oxocampher, I⁰ (或ハβ)-Apocampher-1-aldehydガ擧ゲラレテ居ル。

「カンフル」自體ニハ強心作用ナク、寧ロ麻痺的ニ作用ス。古來吾人ノ經驗シ來リタル「カンフル・オレーフ」油ノ皮下注射ノ效果ハ皮下ニ注射サレテ皮下組織ニ於テ一定酸化ノ課程ヲ經タルモノガ吸收サレテ強心作用ヲ現ハシタモノデアル。「カンフル」ハ又輕キ解熱・鎮痛作用ヲ有ス。

【適應】心臟衰弱・虚脱・呼吸困難(肺炎・尿毒症・肺水腫)初生兒假死・吃逆ノ他、祛痰・盜汗・神經痛・肩凝等

Calonasin 「カロナジン」(三田-鹽野製)

【成分】0.5%ノ「カンフル」ヲ生理食鹽水中ニ溶解ス。

【用量】1回1—10 ccヲ皮下。

Camafeton 「カマフェトン」(鳥居)

【成分】精製樟腦ヲ0.5%ノ割ニ生理的酸化ト同等ノ状態トシ、生理食鹽水中ニ溶解ス。

【用量】1—2 cc 皮下。

Camphor 「カムナホール」

“Limit”(減速)

【成分】0.1%, 0.2%, 0.5%ノ「カンフル」食鹽水溶液。

【用量】2—5 cc 皮下。

Carnodol 「カルノドール」(船井)

【成分】「カンフル」ノ10%, 20%溶液。

Gataphorin 「ガタフォリン」(日新醫學)

【成分】0.5%, 10%「カンフル」水溶液。

Gadamin 「ガダミン」(武田)

【成分】樟腦2—10%水溶液。

【用量】1回1 ccヲ皮下、筋肉内。必要ニ應ジ反復使用。

【注意】「カムラチン」Camuratin (丸石)、「カマコール」Kamacol (田邊)等モ之ニ準ズ。

Kampfer-Lodinon 「カンフル・ロヂノン」(武田)

【成分】5%「ロヂノン」(葡萄糖液)ニ「カンフル」ヲ配ス。

1管容量	天然「カンフル」
50.0 cc	0.05 g
100.0 cc	0.1 g
300.0 cc	0.15 g
500.0 cc	0.15 g

【用量】成人1回300—500 ccヲ皮下。小兒、肺結核ニハ50—100 ccトス。

Kampfer-Lösung 水溶「カンフル」(大日本製藥)

【成分】精製「カンフル」ノ生理食鹽水溶液(0.5%)。

【用量】1回2—5 cc或ハ10 ccヲ皮下又ハ筋肉内。

Kampferolivenöl 「カンフルオレーフ」油

【成分】「カンフル」ヲ10—20%ノ割ニ「オレーフ」油ニ溶解ス。數社製品アリ。

【用量】1/2—4時間毎ニ1.0—2.0 cc 宛皮下。

Neo-Campher 「ネオカンファー」(Moris) (櫻製藥)

【成分】「カンフル」ノ生理食鹽水溶液。

Oleum camphoratum 「カンフォール」油 (白井松)

【成分】10—20% 「カンフルオレーフ」油溶液。

Riken-Camphenal 理研「カンフェナル」(田邊、藤澤)

【成分】10(od. β) Apocampher-1-aldehyd (「カンフル」ノ有效成分)ノ1%水溶液。

【用量】1回1管(1—2 cc)皮下、筋肉内、靜脈内。

Vitacampher 「ビタカンファー」(武田)

【成分】有效成分ハTrans-π-Oxocampher, 「ビタカンファー」ハ「パイ・オキソカンファー」ト「パラオキソカンファー」ヲ其成分トスルガ、「パラ」化合物ノ共存ニヨリ「パイ」化合物ノ作用ヲ持續強盛セシムト。

【用量】1) 1回1—2 ccヲ皮下又靜脈内。

2) 假死初生兒ニハ0.5—1.0 ccヲ胸部皮下。

2. 「カンフル」類似劑

「ビリヂン」誘導體→興奮劑 11頁

Coramin 「コラミン」(Ciba)

【成分】2-Pyridin-β-Carbonylre-diaethylamid. 25%水溶液。

【作用】強心、呼吸強盛。「カンフル」ト「ロベリン」作用ヲ併有ス。以下ハ同成分劑

Cornidin 「コルニヂン」(鹽野製)

Kiosin 「キオシン」(田邊)

Nicorumin 「ニコルミン」(吉萬)

Nicotyramin 「ニコチラミン」(藤澤)

Reformin 「レホルミン」(大日本製藥)

Vitacardin 「ビタカルヂン」(フタバ林)

Aktcor 「アクトコール」(ラヂウム)

【成分】「チラミン」2%, 「チラミンメチルエーテル」1%ヨリナル。

【作用】強心、呼吸中樞興奮、毛細血管支擴大。

【適應】呼吸及循環障礙・呼吸困難・肺炎・虚脱・狭心症・喘息・初生兒假死・中毒・吃逆。

【用量】0.7—1.0 ccヲ皮下。1日數回用ヒ得。初生兒假死ニハ0.5 cc 小兒ニハ0.3—0.5 cc

Cardiazol 「カルヂアゾール」(Knoll-三共)

【成分】「ペンタメチレンテトラゾール」Pentamethylentrazol

1 cc 中 0.1 gヲ含ム。

【適應】肺炎・虚脱・其他心臟衰弱。

【用量】毎2—3時間1 ccヲ皮下又靜脈内。

Hexeton 「ヘキセトン」(Bayer)

【成分】Methyl-isopropyl-

cyclohexenon ラ「サリチル」酸「ソーダ」水溶液中ニ溶解ス。

【適應】 心臟機能不全・喘息・呼吸困難・肺炎。

【用量】 1) 筋肉内注射:— 10% 溶液 1.5—2.0 cc 褐「アンブレ」入。

2) 靜脈内注射:— 1% 溶液ヲ用フ。青「アンブレ」入。

【注意】 筋肉内用ヲ靜脈内用ニ用ヒズ。皮下注射ハ避クベシ。刺戟作用アリ。

3. 「カフェイン」製劑

【作用】 心筋ヲ興奮セシメ、心冠狀動脈・腎動脈ヲ擴張セシメル。然シ末梢血管ハ「トーマス」ヲ充メル。腦皮質ヲ興奮セシメル作用ヲ有スルヲメ、時ニ睡眠ヲ障得スルコトガアル。

【適應】 循環機能不全・心臟衰弱・喘息・小兒ノ中毒性腦症・浮腫。

Coffeinum-Natrium benzoicum

⑤安息香酸「ソーダ」カフェイン

【成分】 10—20% 溶液トス。數社ヨリ市販サル。

【用量】 1回 1cc, 1日 2—3cc

Enspamol 「エンスパモール」(三共)

【成分】 1筒 (1cc) 中ニ硫酸「アトロピン」0.0002, 安息香酸「ソーダ」カフェイン」0.03 ヲ含ム。

【作用】 鎮痙, 強心。

【適應】 小兒ノ中毒性腦症(急性大腸炎・痙攣)重症自家中毒症・喘息・聲門痙攣。

【用量】 1) 4—6年迄ハ 1回0.7—1.0 cc ヲ症狀ニヨリ 1日3—4回

皮下。

2) 7—10年ニハ 1日 4.0 cc ヲ適宜増減ス。

Herurol 「ヘルウロール」(日新醫藥)

【成分】 「サリチル」酸「カルシウム・カフェイン」ノ複合鹽ニ「テオフィルリン」有機酸鹽ヲ配ス。

【適應】 心臟衰弱・腎盂炎・尿管症・乏尿・浮腫。

【用量】 毎日又隔日ニ 1回 10 cc ヲ靜脈内。

Systonin 「ジストニン」(船井)

【成分】 1cc 0.2ノ「アンナカ」複鹽ヲ含ム。

【用量】 10—20% 溶液 1cc ヲ皮下。

4. 「デジタリス」製劑

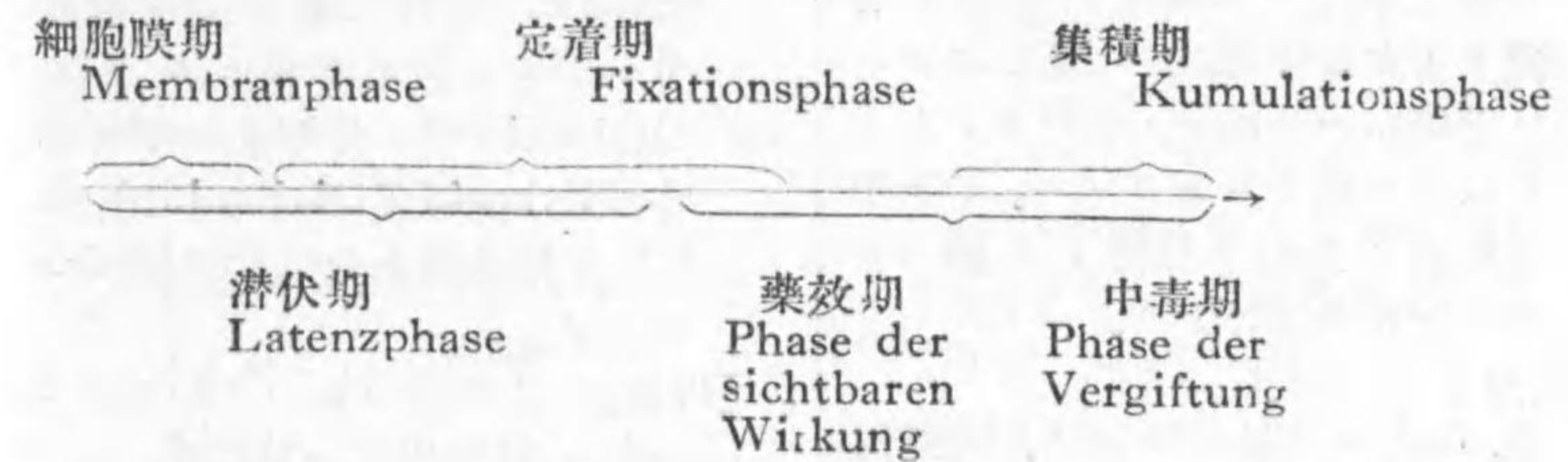
【「デジタリス」藥ノ有效成分】

「デジタリス」草 Digitalis purpurea ノ葉ノ有效成分トシテ抽出サレタル結晶性配糖體 Glykosid ハ單一ナルモノデナク, Digitoxin, Gitoxin, Gitalin 等ガ指摘サレテ居ル, 又多少ノ差違アルモ是等ハ凡テ心臟有效物質デアルト認メラレタ爲メ, 近來「デ」葉全成分ヲ利用セントスル傾向ガ濃厚トナツテ來タ。葉ヲ其儘粉末・丸劑・浸劑トシテ使用スレバ生藥特有ノ「デ」全作用ガ期待サルベキ筈ナレドモ, 是等ハ葉中ニ存スル分解酵素ニヨリ分解・變質シ其作用ヲ漸次輕減スル缺點ガアル。又一定線作ニヨリテ得タル一定有效物質ハ其秤量ノ正確, 純粹物ノ安定等ノ利點アリテ力價ヲ一定ニスルコトガ出來ルガ, 葉全體作用ヲ期待スルコトガ出來ナイ, 既

知有效物質ノ適當ナル配合ニヨリモ一部其目的ヲ達シ得ルモ, 未知ノ有效物質モアルコトナレバ之亦全作用ノ期待ガ出來ナイ。近來「デ」葉ノ異種 Digitalis lanata ノ比較研究等ニヨリ指喉サレテ「デ」葉ノ有效物質ノ闡明度ヲ加ヘルト共ニ葉中各種ノ有效「グリコシード」ヲ質的ニ又量的ニモ甚シク均衡ヲ失セズシテ抽出シ是ヲ利用セント努力サレテ居ル。

【作用】 「デ」ノ作用ハ急促ニハ現ハレナイ。體內ニ入りタル有效物質ガ心筋ニ附着 anhaften シ(膜期 Membranphase), 一定増積 anreichern シテ(定着期 Fixationsphase) 初メテ其ノ特殊作用ヲ發揮スルモノデアアルカラ, 靜脈内注射ニヨリテ與ヘラレタル時ニテモ作用ヲ示ス迄ニハ相當ノ時(10

時間)ヲ要スルモノデアアル。「デ」有效物質ハ體內輸入ニヨリ附着・増積スルモ一方又洗出 auswaschen サレテ體外ニ排出サレル(尿中)ガ, 有效物質ノ連續輸入ニヨリテハ増積が大トナリ遂ニ蓄積Kumulation ヲ起シ, 毒性ヲ發スルニ至ル。故ニ「デ」使用ニ當リテハ其用量ニ注意シテ毒性ヲ現ハサザル程度ニ止メナクテハナラヌ。然シ「デ」有效物質モ心筋ニ附着・増積スルモ一定濃度ニ達セザレバ其作用ヲ現ハサナイ。故ニ「デ」療法ニ當リテハ其初期ニ於ケル用量ヲ過リ少量ニ過ギサルヤウ, 又作用發現後ニハ徒ラニ附着・増積ヲ大ニシテ蓄積ニヨル毒性ヲ増大セシメザルヤウ充分ノ注意ヲ要ス。



故ニ「デジタリス」ハ救急ノ目的ニ即效ヲ期待スルモノデナク, 心筋ヲ鼓舞シテ現存スル循環機能不能ヲ排除スルカ或ハ循環機能不全ヲ豫防スル意ニ於テ使用サルベキモノデアアル。心筋ノ之ニ對スル反應能ノナキ場合ニハ速カニ廢止スベキ毒物 Digitalisgifte, Muskel-Nervengift デアル。疾患心筋ガ「デジタリス」ニ反應

スル時ハ,
i 心臟收縮 Systole ヲ強クシ, 從ツテ開張 Diastole モ大トナリ脈搏ガ充實シ, 脈幅が大トナル。
ii 心筋ニ作用スル一方迷走神經ニ作用シテ之ヲ興奮セシメル, 爲メニ心臟内刺戟傳達 Reizleitung ガ困難トナリ, 脈搏緩除ヲ來ス。從ツテ心臟「ブロック」

ニハ「ヂギタリス」ハ禁忌デア
ル。

病的ノ心臓收縮刺戟ノ亂生ニヨ
ル恒久性不整脈 Arhythmia per
petua 及ビ異常收縮刺戟ノ發生ニ
ヨル期外收縮性不整脈 extrasys
tolische Arhythmie ニハ「ヂギ
タリス」ハ必要ノモノデア
ル。

【大量「ヂギタリス」療法】grosse
Digitaliskur

比較的大量ノ「ヂ」ヲ最初ヨリ與
ヘテ藥效ヲ認メ病的現象ノ緩解・
消失ト共ニ癱藥スルモノデア
ル。

【少量「ヂギタリス」療法】kleine
Digitaliskur

少量ノ「ヂ」ヲ比較の長時ニ亙リ
テ與ヘル場合(慢性「ヂ」療法
chronische Digitalisbehand
lung)デ、慢性心臓疾患例ヘバ瓣
膜障ニ於テ代償機ガ保タレ居
ルモ外來因子ニヨリテ失調ノ脅
威アルガ如キ場合ニ適用スルモ
ノデ時ニハ1回ノ「クール」ガ1
月以上ニ亙ルコトガアル。勿論中
毒現象ノ發現ヲ注意シテ續行ス
ルコトが必要デア
ル。

【禁忌】

1. 「ヂ」ニ過敏ナルモノ、又逆反
應ヲ呈スルモノ(「ヂ」ニヨリテ脈
搏ガ却ツテ頻小・不整ヲ示スガ如
キ場合——心筋衰弱ノ甚シキ場
合)

2. 動脈硬化。「エンボリー」ノ發
來ニ注意ヲ要ス。

3. アダムス・ストークス氏症候
群 Adams-Stokes' Symptomenko
mplex ニハ「ヂ」ハ刺戟傳達ヲ
難澁ナラシメ其ノ症候群ヲ増盛

スル。刺戟傳達障ニヨル心臓
「ブロック」ニ於テモ同様禁忌デア
ル。

【注意】「カルシウム」ハ「ヂギタ
リス」ノ作用ヲ強盛スト云ハル。

Digalen 「ヂガレーン」(Roche)

【成分】「ヂギタリス」葉中ノ有
效成分。
1cc ハ「ヂギタリス」葉 0.1 ニ
相當ス。

Digifolin 「ヂギフオリン」(Ciba)

【成分】1筒(1cc)ハ標準「ヂギ
タリス」葉 0.1g ニ相當ス。

Digiherton 「ヂギヘルトン」(船井
一田邊)

【成分】1cc ハ「ヂギタリス」葉
0.1g ニ相當ス。

Digilanid 「ヂギラニド」(Sandoz)

【成分及性状】Digitalis lanata,
Erhardt 新鮮生藥ノ全有效成
分ニシテ、分解酵素ニヨリテ
Digitoxin 等ニ分解サレザル基
本 Glykosid (Digilanid A, B,
C) ヲ結晶體トシテ分離抽出セ
シモノ。

【用量】注射液 1cc (0.2mg) 1
—4cc 靜脈内或ハ筋肉内。

Digipuratum 「ヂギプラーツム」
(Knoll)

【成分】「ヂギタリス」葉有效成
分、1cc ハ葉 0.1 ニ相當ス。

Digitamin 「ヂギタミン」(鹽野義)

【成分】「ヂギタリス」葉ノ總有
効「グリコシード」。1回 0.5—
1.0cc ヲ皮下。

Pangital 「パンギタール」(三共)

【成分】「ヂギタリス」葉中ノ總
有効成分。1cc ハフオツケ單位
5—6 ノ「ヂギタリス」葉約 0.1g
ニ相當ス。

【用量】1回 0.5—1.0cc 1日 2—
3回。

5. 「ストロファンツス」製劑 Stro
phantus-präparate

「ストロファンツス」有效成分トシ
テ Strophantin ガ擧ゲラレテ居
ル。

【作用】「ヂギタリス」ト同ジク、
心搏數ヲ減シ、心臓收縮ヲ強メル。
數種ノ製品ガアル。

Strophalen 「ストロファーレン」
(Tosse) (ラヂウム)

【成分】「ストロファンチン」ノ
減菌溶液。

【用量】1cc (1/4—1/2mg) ヲ1日
1回靜脈内。

Strophantin 「ストロファンチン」
(Böhringer)

【用量】Strophalen ト同ジ。

Strophantinum injection 「スト
ロファンチン」注射液(林)

【成分】「ストロファンチン」ノ
生理食鹽水溶液。1/4mg 含有。

g-Strophantin g 「ストロファンチ
ン」Purostrophan

【用量】本劑 0.8mg ハ K-Stro
phantin 1mg ニ相當ス。1「ア
ンブレ」= 0.25ト0.50mg

K-Strophantin K- 「ストロファン
チン」(Böhringer)

【用量】1「アンブレ」= 1mg ヲ
含有ス。

Ouabaine 「ウァパイン」d'Arnaud

【成分】g Strophantin ニ類ス。
本劑ノ 0.25mg ハ K-Strophan
tin 1mg ニ相當シ、1「アン
ブレ」中ニ 0.25mg ヲ含有ス。

【適應】→Strophantin

6. 爾他ノ強心劑

海葱 萬年青、福壽草、鈴蘭、大
麻、漢藥蟾酥、「ヴィタミン」B、「キ
ニーネ」等)

「キニーネ」劑ハ心筋ノ興奮性ヲ
減ズルカラ、心房顫動 Vorhoffli
mmern ニ賞用サレル。

Adonigen 「アドニゲン」(Bad Hom
burg-C. Holstein)

【成分】福壽草 Adonis vernalis
ノ有效成分。

【作用】強心作用、房ヨリ室ヘノ
刺戟傳達ヲ緩慢ナラシム。主ニ
ヒス氏索ニ作用スルト云フ
(Citron 氏)。作用ハ大體「ヂギ
タリス」ト「ストロファンチン」
トノ中間ニ位ス。蓄積作用ナシ。

【適應】主ニ神經性心臓疾患。

【用量】1回 1管(2cc)

Bufotalis 「ブホタリス」(鹽野義)

【成分】漢藥蟾酥(センソ)一支
那產蟾皮膚分泌液一ヨリ得タ
ル Ψ -Bufotalinbromid。淡黃
色、水ニ難溶、無味無臭ノ中性
結晶性物質。

【作用】「ヂギタリス」葉ニ似タ
ル藥理作用ヲ有シ、毒性・局所
刺戟・蓄積作用ガナイ。心臓機
能ノ増進・利尿ヲ來ス。他ノ強
心劑トノ併用差支ナシ。

【適應】「ヂギタリス」葉ノ夫ニ準ズ。

【用法及用量】注射液ハ液媒ハ70% Diaethylenglykolニシテ2cc中ニ0.4mgノBufotalisト同量ノDesacetyl- Ψ -Bufolinトヲ含ム。
1回2-4cc皮下・筋肉内・靜脈内。時ニ反復。

Convalon 「コンヴァロン」(友田)
【成分】滿洲産鈴蘭 *Convallaria Majallis* L. ヨリ抽出セル強心劑。

【適應】循環機能障礙。
【用量】1回0.5-2.0ccヲ皮下。必要アラバ靜脈内。

Cymarlin 「チマリリン」(Bayer)
【成分】アメリカ大麻 *Apocynum Cannabinum* ノ純粹有効成分。
【適應】心臟衰弱・心臟瓣膜症及心筋疾患ノ代償障礙等。
【用量】0.5-1.0ccヲ靜脈内。

Icoral 「イコラール」(Bayer)
【成分】m-oxy-N-aethyl-diaethyl-amino-aethyl-aminobenzol-(鹽基A)トm-oxyphenylpropenolamid(鹽基B)トノ鹽酸鹽溶液。1筒中A:B=4:1ノ割合ニ含有サル、0.5%水溶液。
【作用】鹽基Aハ「ロベリン」ニ類似ノ作用ヲ有シ、鹽基Bハ循環系ニ作用シ、藥物的ニハ「エフェドリン」ニ酷似ス。
【適應】中毒(燈用ガス・酸化炭素・阿片劑・睡眠劑等)・手術後虛脱・傳染病經過中ノ虛脱(肺炎・氣管支肺炎・デフテリア・猩紅熱等)腰椎麻醉前ノ血壓下降

豫防・初生兒假死狀態。
【用量】1) 筋肉内ハ1管(1cc)ヲ必要ニ應ジ反復使用。

2) 皮下注射ハ(1cc)管。靜脈内ニハ0.3-0.5ccヲ徐々ニ注射シ、時ニハ水ニテ稀釋ス。
【注意】心臟ノ代償機亡失ノ患者ニハ本劑ノ使用ヲ禁ズ。

Injectio Oryzania Fortior 「オリザニン」注射藥→「ヴァイタミン」劑
【適應】脚氣・循環不全即チ所謂衝心。

Rodealin 「ロデアリン」(武田)
【成分】那産萬年青 *Rhodea Japonica* ノ有効成分。
【作用】利尿、強心、腎及冠狀動脈擴大。催吐作用ハ「ヂギタリス」葉ヨリモ弱シ。

【適應】腸「チフス」・肺炎・肺結核等ノ心臟機能不全・浮腫性疾患・心房顫動及不整脈。
【用量】1) 通常1回1.0-2.0ccヲ皮下、筋肉内或ハ靜脈内。
2) 1.0cc宛數時間毎ニ又ハ2.0cc宛朝夕注射ス。
3) 急ヲ要スル時ハ1回ニ5.0-10.0ccヲ用ヒ得。

Scillaren 「シラレン」(Sandoz)
【成分】海葱根 *Bulbus Scillae* ヨリノ有効成分、強心・利尿作用ヲ有ス。1「アンブレ」(1cc)ハ0.17ノ有効成分ヲ含有シ、Strophantin 0.5mgニ相當ス。
【適應】大體 *Digitalis* ニ準ズ。心臟瓣膜症・肺氣腫等ノ心臟機能不全・心臟性及腎性浮腫・門脈鬱血等。急性腎臟炎ニハ禁忌トス。

【用量】每2-3日、0.5-1.0ccヲ靜脈内。

7. 葡萄糖(轉化糖)ヲ主成分トスル製劑 → 解毒劑
循環系賦活、心筋榮養、滲透療法(浮腫脱却)ノ意ニ適ス。又「ヂギタリス」不應症ヲ來シタルモノニ用ヒラレル。

Brom-Iveton 「ブロム・イベトン」(友田)
【成分】10%轉化糖(イベトン)ト2%「ブロムカルシウム」ヲ配ス。

【適應】葡萄糖及「カルシウム」・「ブロム」ヲ必要トスル場合。
【用量】20ccヲ毎日又ハ隔日ニ靜脈内。症狀ニヨリ10-40ccヲ用フ。

Calcicol 「カルチコール」(大日本製藥)
【成分】8.5%葡萄糖酸「カルシウム」液ノ水溶液。
【用量】大人1回10-20ccヲ毎日又隔日ニ皮下、筋肉内或ハ靜脈内。小兒ハ1回2-5cc

Camdenin 「カンデニン」(Comet)(鳥居)
【成分】25%及50%葡萄糖溶液「カンフル」0.05gヲ、5%液中ニハ「カンフル」0.18ヲ含ム。
【用量】高張ハ20-100ccヲ靜脈内、等張ハ10-500ccヲ皮下、筋肉内又靜脈内。

Dexphorin 「デキスフォリン」(日新製藥)
【成分】葡萄糖溶液ニ水溶液「カ

ンフル」ヲ配ス。
【用量】皮下「カンフルロヂノン」ニ準ジ得。

Dextrose solution 葡萄糖溶液(萬有)
「ロヂノン」ニ同ジ。5%、10%、20%、25%、50%溶液アリ。
Glukose-Kochsalzlösung 葡萄糖食鹽水。
【成分】葡萄糖3.0、食鹽0.3、溜水100.0ヨリナル。凡テリンゲル液ニ準ズ。

Glyon 「グリオン」(大日本製藥)
葡萄糖溶液ニシテ5%、10%、20%、25%アリ。

Invert Zucker Lösung 「インベル」糖注射液(轉化糖溶液)(萬有)
【成分】蔗糖ヲ加水分解シテ製セル「インベル」糖ノ溶液、→ Iveton

Iveton 「イベトン」(友田)
【成分】蔗糖ヲ加水分解セル轉化糖溶液、葡萄糖及果糖ノ同量ヨリナル、5%、10%、25%、50%溶液アリ。
【作用】肝臟内「グリコーゲン」含有量ヲ増大セシムルカハ葡萄糖ニ勝ルト云フ。大體葡萄糖ニ準ズ。

Lodinin 「ロヂニン」(武田)
【成分】5%、10%、25%、50%ノ葡萄糖溶液。
【用量】1) 皮下注入ニハ5%液10-1,000ccヲ用フ。10%-20%液ヲ50-500cc位迄皮下注射可能ナリ。但シ徐々ニ行フベシ。

2) 靜脈内注入。主ニ高張ノモノヲ徐々ニ用フベシ。

Lodion-Calcium 「ロヂノン・カルシウム」(武田)

【成分】 10%「ロヂノン」=鹽化「カルシウム」2%ヲ配ス。

【作用】 強心、解毒、利尿、榮養、鎮痙、消炎、血止。

【適應】 結核性疾患・滲出性疾患・皮膚炎・妊娠嘔吐・血清・「ワグチン」・「サルゾルサン」注射ノ副作用防止。

【用量】 毎日又ハ隔日ニ 10—20 cc ヲ靜脈内。

40% Solutio glucosi pro Iniectione “Sankyo” 40%葡萄糖注射液

【成分及作用】 40%葡萄糖注射液ニシテ、ソノ高張液ノ注射ニヨリ毛細血管ノ擴張乃至血流ノ速度ヲ促進セシム。

【用量】 40—50 cc ヲ靜脈内。最初 2—3 日間ハ 1 日 2 回、ソノ後ハ 1 日 1 回。

Tautron 「タウトロン」(武田)

【成分】 轉化糖ノ滅菌水溶液。

【用量】 5—50%溶液アリ。

8. **心臟刺戟素(心筋・骨格筋)製劑**
→臟器製劑

【作用】 心筋(特殊横紋筋)及骨格筋「エキス」ハ撰擇性ニ心筋刺戟・鼓舞スル(心臟興奮素 Herzerregungsstoff)。
又心冠狀動脈ヲ擴張ス。

【適應】 急性心臟機能不全・心臟性喘息・不整脈・狭心症・動脈硬化

症レノー氏症・筋肉痛(筋肉「レウマチス」)・肩凝・神經痛等。

筋肉痛・肢端知覺異常ニハ局所注射ガ試ラル。

Autocampher 「アウトカンファー」(萬有)

【成分】 心臟「アウトホルモン」ニ「カンフル」及ビ「アンナカ」10%ヲ配ス。

【用量】 1 日數回 1—2 cc 宛皮下又ハ筋肉内。

Cardinon 「カルヂノン」(武田)

【成分】 心臟「ホルモン」劑。淡黄色耐熱性澄明ノ液。

【用量】 1 日數回 1—2 cc 宛皮下、筋肉内又ハ靜脈内。

Lacarnol 「ラカルノール」(Bayer)

【成分】 骨格筋「エキス」「スクレオシード」

【用量】 1 日 1—2 回 1 cc 宛皮下又筋肉内。
狭心症ニハ靜脈内。

Myocanon 萬有「ミオカノン」

(萬有)
【成分】 骨格筋「アウトホルモン」Muskel-autohormon

【用量】 1 日數回 1—2 cc 宛皮下又靜脈内。

Myoston 「ミオストン」(Henning—三共)

【成分】 骨格筋製劑。狭心症ニ 1 日 1—2 回宛 1 cc 皮下→Myocanon

Romunahormon 「ロムナホルモン」(藤田臟器—乾卵)

【成分】 蕨ノ心臟及牛ノ骨格筋ヨリノ「ホルモン」劑。

【用量】 1) 0.5—0.7 cc. 1.0 cc = 增量、皮下。

2) 滿 1 年迄ハ 1 回 0.2 cc 以内、滿 2 年以上ハ 滿 1 年ヲ増ス 毎 = 0.05 cc ヲ増ス。

9. 「**エビレナミン**」製劑→臟器製劑

【作用】 副腎髓質ヨリノ天然製劑及同有効成分・人工合成劑ヲ包含スル局方「エビレナミン」劑ハ、交感神經ヲ末梢性ニ刺戟シ、殊ニ末梢性小動脈壁ノ滑平筋ヲ收縮セシメ、血管痙攣ニヨル血管充實不全ニ用ヒテ効果ヲ見ルモノデア。又氣管支壁ノ滑平筋ノ鎮痙、心冠狀動脈擴張ヲナス。

Liquor Epirenami hydrochlorici 鹽酸「エビレナミン」液。

【成分】 市販ニアルハ千倍溶液。
【適應】 強心血管劑トシテ(但シ脚氣ニハ用ヒズ)。局所麻醉劑ニ附加シ、月經困難・蕨麻疹・喘息等ニ用フ。

【用量】 皮下ニハ 0.5, 1.0 ハ時ニ危險ナル症狀ヲ呈スルコトアリ。靜脈内ニハ 0.01 以下ヲ日常使用量トス。

Adnaldin 「アドナルヂン」(順天醫化學)

【成分】 副腎有効成分。

Adnephrin 「アドネフリン」(萬有)

【成分】 o-Dioxyphenylaethanol-methylaminchlorhydrat ノ 1,000 倍溶液。

Adrenalin chloride 鹽化「アドリナリン」(三共)

【成分】 副腎髓質ノ有効成分、1,000 倍溶液ガ市販ニアル。

Bosmin 「ボスミン」(第一製藥)

【成分】→Adnephrin

Ciba-Epinephrin 「チバエズネフリン」

【成分】→Adnephrin

Oporenin 「オポレニン」(武田)

【成分】 副腎ノ髓質有効成分。
→Adrenalin

Spurarenin 「プブラレニン」(Höchst—Bayer)

【成分】→Adnephrin

10. 「**エフェドリン**」製劑

麻黃 Ephedra vulgaris ノ有効成分「エフェドリン」ハ其作用ハ「エビレナミン」ニ類シ、且ツ作用ノ持続性ナル特徴ヲ有ス。

【適應】 氣管支喘息・血管痙攣ニヨル循環不全・虚脱・蕨麻疹・血壓低下症・腰椎麻醉後ノ嘔吐・盜汗等。

Ephedrin “Nagai” 「エフェドリン」“ナガキ” (大日本製藥)

Ephedrin Hydrochlorid Iniectione “Sankyo” 三共「エフェドリン」(鹽酸エフェドリン)

【用量】 4—5% 1 回 1 cc, 1 日 1—3 回皮下又ハ筋肉内。

Ephetonal 「エフェトナール」(Merck)

【成分】 p-Aminophenyl-methylomino-propanol ノ鹽酸鹽。

【適應及用量】→Ephedrin, Ephetonin

Ephetonin 「エフェトニン」(Merck)

【成分】 人工合成品、racemisches Ephedrin デ非旋光性、左旋性

Ephedrin ヨリ血壓上昇作用弱シト云ハル。注射藥 1 cc 中ニ 0.05。

【適應及用量】 → Ephedrin

Subnephrin 「サブネフリン」(萬有)

【成分】 萬有「エフェドリン」ニ アドレナリンヲ配ス。

【用量】 局所麻酔劑ニ 1—3%ヲ 和ス。→ Adrenalin

11. 腦下垂體後葉製劑 → 臟器製劑

滑平筋ニ働キ之ヲ收縮セシムルモノテ、有力ナル血管收縮劑テ血管不充實ニ適應スル。

Atonin 「アトニン」 → 臟器製劑

【成分】 腦下垂體後葉「ホルモン」

Hypophysin 「ヒポフィジン」 → 臟器製劑

【成分】 腦下垂體後葉製劑

12. 「ストリキニーネ」製劑

【作用】 血管運動神經中樞ヲ興奮セシメ、又呼吸中樞、迷走神經中樞ニモ作用シテ、循環系麻痺ノ救急療法ニ用ヒラル(脚氣ニ於ケル所謂衝心 cardiovasculäre Störungニ賞用サル)。蓄積作用ガアル。

【適應】 血管麻痺(脚氣衝心)・末梢神經麻痺ノ筋弛緩(顔面神經麻痺等)・弱視等。

Neo-Vitaminol 「ネオヴィタミンール」 → 「ビタミン」劑

【成分】 「ビタミン」B = 硝酸「キトリキニーネ」ヲ含ム。

Strychinum nitricum ⑤硝酸「ストリキニーネ」

【成分】 0.1%溶液トシテ用フ。數種市販サル。

【用量】 1回 0.5—1 cc。硝酸「ストリキニーネ」極量ハ1回 0.005 1日 0.015

13. 人工血清・血液(血清)補充劑

Serum artificiosum, Blut (Serum)-ersatzmittel

(皮下及靜脈内注入料 Infusionsmittel)

血清ト其滲透壓ヲ等シクスル所謂等張液 isotonische Lösung 及ビ血液ト其粘稠度 Visikositätヲ等シクスル溶液(「アラビヤ・ゴム」液)ヲ云フ。

【作用】 血清水分補給、利尿、榮養補給、強心、止血、消炎、體內毒素・毒物ヲ稀釋・洗滌ヲナス。

【適應】 急性貧血及中毒・水分缺乏(コレラ・下痢・嘔吐等)・自家中毒・虚脱・惡阻

Glukose-Kochsalzlösung 葡萄糖食鹽水 → 葡萄糖ヲ主成分トスル製劑

Lodinon 「ロデノン」 → 強心劑及利尿劑

【成分】 葡萄糖液(5%—血液ト等調)

Liquor Lockei steirillsatus ⑤「ロック」液

【成分】 食鹽 9.0, 鹽化「カリ」0.25, 鹽化「カルシウム」0.46, 重炭酸「ソーダ」0.2, 精製葡萄糖 1.0, 溜水 1,000 cc。

【作用】 「リングル」液、葡萄糖溶液ノ作用ヲ兼有ス。

【用量】 「リングル」液ニ準ズ。各社ヨリノ製品アリ。

Liquor Ringeri sterilisatus

⑤滅菌「リングル」液

【成分】 食鹽 8.0, 鹽化「カリ」0.075, 鹽化「カルシウム」0.2, 重炭酸「ソーダ」0.1, 溜水 1,000。血清ト等張ナリ。

【用量】 1回 50—1,000 cc ヲ年齢ニ應ジ皮下、又ハ靜脈内(徐々ニ行フ)。數社ノ製品アリ。

Liquor Natrii chlorati physiologicus ⑤生理食鹽水

【成分】 0.5%食鹽水溶液。

【用量】 1回 50—1,000 cc ヲ皮下、筋肉内又ハ靜脈内。

Normosal 「ノルモザール」

【成分】 人體血清含有鹽類混合物。生理食鹽水ノ代用トシ、1

「アンブレ」ヲ 1 立ニ溶解ス。

14. 血液補充料(輸血代用)

【適應】 急性大出血又失血。

Gummi arabicum 「アラビアゴム」

【成分】 生理食鹽水溶液 3—6% 等稠液ヲ用フ。「アラビアゴム」液 Liquor Gummi arabici = 「アカシア」液 Acacialösung ハ「アラビアゴム」末ヲ 6%ノ割ニ生理食鹽水ニ混合シタモノ。

【用量】 等稠液ハ重炭酸「ソーダ」ニテ弱鹽基性トシ 100°C, 1時間, 3回反復間歇滅菌ス。1回 50—300 ヲ靜脈内。

Liquor Gelatinae sterilisatus

(⑤滅菌「ゼラチン」液(10%))

【作用】 生理食鹽水ニテ 3倍ニ稀釋スル時ハ血液補充トシテ使用サル。

B. 利尿劑 Diuretica 水腫療劑 Antihydropsica

1. 腎性利尿劑 renale Diuretica, Diuretica acria

【作用】 腎臟ニ於ケル動脈系統ノ擴張ニヨリ腎臟血液灌流ヲ大ニシ、又腎實質ヲ刺戟シテ尿分泌ヲ強盛スルモノヲ云フ。同時ニ心冠狀動脈ヲ擴張スルモノガ多イ。

【注意】 急性腎炎 acute Nephritisニハ禁忌。腎刺戟ニヨリ蛋白尿、血尿ヲ招來スルコトガアル。「ブリン」體ハ又稀ニ腎血管ノ攣縮ヲ來スコトガアル、斯カル場合ニハ鎮靜劑(「ルミナール」等)、麻酔劑

ヲ伍スルコトガアル。

【適應】 浮腫・尿毒症・心臟性喘息・心臟衰弱・狹心症・尿路疾患(利尿ニヨル尿路洗滌)・體內滲出機轉(滲出性肋・腹膜炎—利尿ニヨリ體內水代謝ヲ刺戟シ滲出液ヲ吸收セシム)・腹水(利尿ニヨリ漏出液ヲ吸收セシム)・血壓亢進・動脈硬化症

Aurenin 「アウレニン」(日本新藥)

【成分】 醋酸「ナトリウムテオブロミン」水溶液

【用量】 1回5—10 cc 靜脈内。

Avitan 「アビタン」(興醫社)

【成分】 3%醋酸「ナトリウムテオチン」溶液

【用量】 5—10 cc 靜脈内。

Euphylin 「オイフィリン」(鹽野義)

【成分】 「ラクムス」双性「テオフィリン」ト「エチレンジアミン」ノ鹽類

【用量】 1回2 cc 筋肉内, 1日2回迄, 靜脈内ニハ2 ccヲ滅菌水ニテ10 ccニ稀釋シテ用フ。

Neo-Hesaciramin → 殺菌消毒劑

Solutio Theophyllino-Natr.

Acet. “Sankyo” 三共「テオフィリン」醋酸「ソーダ」液

【成分】 「ジメチルキサンチン」ト醋酸「ソーダ」トノ複鹽。

【用量】 1回5—10 cc ヲ靜脈内。

Teonol 「テオノール」(日新醫學)

【成分】 「テオフィルリン」ノ有機酸鹽ト「カフエイン」鹽ノ複合成體。

【用量】 1日1回10 cc ヲ靜脈内。

Theocisol 「テオチゾール」(林)

【成分】 1,3「ジメチル・キサンチン」ト醋酸「ソーダ」トノ複鹽ノ3%水溶液。

【用量】 1回1—2管(5—10 cc)ヲ靜脈内。數日後再ビ注射。大量ハ時ニ副作用(頭痛・不眠・胃症等)アリ。

Urotrobrocanon → 殺菌消毒劑

【作用】 含有スル「ウロトロピン」ニ利尿作用ガアル。

2. 組織性(腎外性)利尿劑

Gewebsdiuretica, extrarenale Diuretica

腎臟ヲ循環系ニ間挿サレタル排泄器官トシテ觀ル時ニ, 腎臟以外ノ此ノ循環輪ノ大ナル部分即チ腎外ノ身體組織 extrarenale Gewebeニ働キテ, 血液ノ成分殊ニ水分ヲ血中ニ誘致シテ(水血症 Hydrämie)利尿ヲ起サシメルモノヲ云フ(組織淋巴代謝整調)。甲狀腺「ホルモン」ガ最モ大ナル役割ヲ演ズル, 水銀劑ハ腎臟ヲ刺戟シテ腎性利尿ヲ起スト同時ニ, 又腎外ノ組織ニモ作用シテ利尿ヲ招來スル。

Nelkegan 「ネルケガン」(吉萬)

→ Novasurol

Novasurol 水銀劑→驅微劑。

【適應】 浮腫。但シ急性腎炎ニハ禁忌。

Salyrgan → 驅微劑

【作用】 水銀劑ニテ利尿作用大ナリ。凡テ Novasurolニ準ズ。

【成分】

Spirodin → 驅微劑

Novasurolニ準ズ。

Thyradin 臟器製劑

【作用】 甲狀腺製劑。組織性利尿劑トシテ試ミラル。

3. 血壓降下劑

(血管擴張劑)

Hypotonica, Blutdruckerniedrigungsmittel

(Vasodilatatoria)

動脈硬化治療劑 Arterioskleroseheilmittel

亞硝酸鹽, 硅酸鹽, 「パパベリン」, 「テオプロミン」, 「ヒヨリン」, 硫黃, 血管成分(→臟器製劑)等。

Acetylcholin 鹽化「アセチルヒヨリン」(Roche)

【成分】 「アセチルヒヨリン」鹽酸鹽ノ乾燥結晶, $\text{CH}_3\text{CO}_2\text{CH}_2\text{CH}_2\text{N}(\text{CH}_3)_3\text{Cl}$

【作用】 抗交感神經 Parasympathicus 刺戟劑。末梢血管擴張, 滑平筋器官鼓舞, 盜汗抑制

【適應】 血管攣縮ニヨル病的狀態・レーノー氏病・臭鼻症・壞疽・高血壓・褥瘡・圓形脫毛症・骨折後強直・胃「アトニー」

【用量】 1日 $1/2$ —2筒(0.05—0.2gヲ蒸溜水ニ溶カシ)ヲ皮下, 筋肉内。

Animasa 「アニマザ」(田邊)

【成分】 動物ノ血管内膜及中膜ヨリ抽出セル有效物質ニ赤血球分解產物ヲ配ス

【適應】 動脈硬化

【用量】 1cc 皮下。

Cystagen 「チスタゲン」(田邊)

【成分】 可溶性有機硫黃「アミノエチルスルフォン」酸ニ「ホモチスチン」ヲ配ス。

【作用】 生體內硫黃代謝整調

【用量】 1管5 cc

Cephadol 「ケファドール」→ 鎮痙劑及鎮靜劑

Hipotobery 「ヒポトベリー」(日新醫學)

【成分】 琥珀酸「エチレンジアミン」, 亞硝酸, 「テオフィルリン」有機酸鹽。

【適應】 動脈硬化症・血壓亢進・腦溢血・狹心症・耳鳴

【用量】 日筒1筒(1.1 cc)皮下。

Josesil 「ヨセジール」(フタバ・林)

【成分】 無水硅酸「ソーダ」及「ヨードナトリウム」溶液(1%)

【適應】 動脈硬化, 結核

【用量】 1—2 cc 靜脈内。

Kallikrein → 臟器製劑

【成分】 循環系有效「ホルモン」

Kehsin 「ケーシン」(鹽野義)

Kiesel-säure f. Inj. 硅酸注射液(武田)

【成分】 1%硅酸「ソーダ」液

【適應】 動脈硬化症・高血壓・腦溢血・氣管支喘息等。

【用量】 1週2回1—2 cc 宛靜脈内。1「クール」ハ4—6週間。

Lacarnol 「ラカルノール」(Bayer)

【成分】 温血動物骨骼筋「エキ

ス、心臟ヲ興奮セシメ、冠狀動脈ヲ擴張ス。

【適應】 狭心症・心臟性喘息・動脈硬化・腎硬化症・恒久性不整脈

【用量】 1日1—2回1cc 宛皮下心筋「エキス」又用ヒラル。

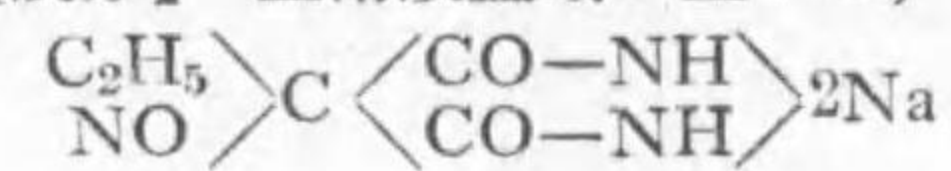
Neo-Hypo-Apo 「ネオ・ヒポアポ」(鳥取)

【成分】 磷、亞硝酸、「ヨードヂエチルマロニール」尿素ヲ含ム。

【用量】 1日1回1cc 皮下。

Neo-Hypotonin 「ネオヒポトニン」(白井松)

【成分】 亞硝酸鹽類ヲ主トシ、



ヲ配ス。

【適應】 血圧亢進・動脈硬化・腦出血

【用量】 1日1回1cc。時ニハ朝夕1cc宛2回皮下。

Nidstrin 「ニドストリン」→變調劑

Nitrosol 「ニトロゾール」(フタバ林)

【成分】 亞硝酸「ソーダ」2%溶液。

【適應】 血圧亢進症・動脈硬化症・狭心症。

【用量】 1回0.5—1.0ccヲ毎日又ハ隔日ニ皮下。1「クール」ハ7—10回トス。1「クール」ニテ無効ナラバ中止。

Normaton 「ノルマトン」(三共)

【成分】 「トラミン」(トリエタノールアミン)、「グリセロ」磷酸

「ソーダ」及「グリセリン」ノ各5%ヲ含ム無色澄明ノ液。

【適應】 血圧降下ノ目的ニ用フ。
【用量】 1回2ccヲ皮下、救急時ニハ筋肉内又ハ静脈内。

Papaverinum hydrochloricum

鹽酸「パバヴェリン」

【作用】 血管壁平滑筋ノ攣縮ヲ除ク作用ヲ有ス。

【適應】 血圧亢進(本態性)・狭心症

【用量】 0.03—0.05ヲ1回量トシ、1日1回乃至數回皮下。

Rogene 「ロウジェン」(スウヂスト)

【成分】 硫黄四價化合物及純「ヨード」ヲ水溶液トシタルモノ

【適應】 高血圧

【用量】 1回1cc(1管)隔日。

Silinal 「シリナル」(鹽野義)

【成分】 無水硅酸「ナトリウム」ノ1%水溶液。

【適應】 腦溢血・動脈硬化症・狭心症・血圧亢進

【用量】 1週2回1—2cc 宛静脈内。

Telatuten 「テラツテン」(ルイトポルト—武田)

【成分】 動脈壁抽出有效物質

【適應】 動脈硬化

【用量】 1回1cc宛1週2回静内

Vasotonin 「ワゾトニン」

【成分】 Yohimbin ト Urethan ノ複合物 Doppelverbindung

【適應】 動脈硬化症・萎縮腎・狭心症・心臟性喘息

【用量】 毎日或ハ隔日1cc 皮下。

Yokeso (Maruko) 「ヨケソ」(マルコ)

(小島)

【成分】 無水硅酸「ナトリウム」0.2%、「ヨードナトリウム」1%

【適應】 動脈硬變

【用量】 3日=1回1—2管(5—10cc) 静脈内。

4. 發汗劑 Diaphoretica

Pilocarpinum hydrochloricum

鹽酸「ピロカルピン」

【成分】 1%溶液ヲ用フ。抗交感神經刺戟劑。

【用量】 稀ニ發汗劑トシテ1日1回0.5cc 皮下。

【注意】 數社(田邊、山下等)ヨリ市販サル。

5. 制汗劑 Antihidrotica

(注意：一補血強壯劑参照)

Adiphorin 「アヂホリン」(鹽野義)

【成分】 樟腦硫酸「カルシウム」ノ10%溶液

【適應】 盜汗(結核・感冒・熱性傳染病・神經衰弱)

【用量】 1回2ccヲ皮下、筋肉内。

Asudorin 「アスドリン」(フタバ林)

【成分】 5%蔗糖溶液ニ0.02%「ノボカイン」溶液ヲ配ス。

【適應】 分泌機能抑制・内分泌機能亢進・血管緊縮等ノ作用アルヲ以テ盜汗・多汗・ソノ他止血・解熱劑トシテ用フ。

【用量】 1回10—20ccヲ皮下、筋肉内。

Atropinum sulfuricum 鹽酸「アトロピン」

0.03%溶液1回0.5—1.0ccヲ皮下。

Brenzchin →結核劑

Ephedrin →強心利尿劑

【作用】 Epirenamin ノ作用ニ類ス。

Liquor Epirenamini hydrochlorici 鹽酸「エピレナミン」液

【作用】 「アドレナリン」其他ノ本劑ハ交感神經ヲ刺戟シ血管ヲ收縮セシメ發汗ヲ抑制ス。

Thiosalcol →解熱劑

6. 血液凝固阻止劑

Blutgerinnung hemmende Mittel

「クエン」鹽酸ヲ主トス。

【作用】 血液凝固阻止。

【適應】 血液注射療法・輸血用。1管2cc, 5cc, 10cc及20cc入

【用量】 所要血液量ノ 4% 以上ヲ用フ。予メ本液ニテ注射器ヲ濕潤シオクベシ。或ハ注射器中ニ所要血液ノ 1/10 量ノ液量ヲ予メ吸引シ置ク可シ。小兒ニテハ更ニ減量 (1/20—1/30)

Chishiho 「チシホ」(石津)
【成分】 10% 「クエン」酸「ソーダ」液。
Citnatin 「チトナチン」(ラヂウム)
【成分】 「クエン」酸「ソーダ」ノ 10% 溶液。
Citorium 「チトリウム」(日新醫學)
【成分】 10% 「クエン」酸「ソー

ダ」溶液。→Citnatin
Citral 「チトラール」(山之内)
【性状】 「クエン」酸「ソーダ」ノ 10% 及 20% 溶液。
Solutio Natrii Citrici “Sankyo”
三共「クエン」酸「ソーダ」溶液。
【成分】 純粹ノ「クエン」酸「ソーダ」10% 溶液。

7. 止血劑 Hämostyptica, Hämostatica

(血管收縮劑 Gefäßkontraktionsmittel)

(子宮收縮劑 Uteruskontraktionsmittel)

(注意：一結核劑參照)

最も屢々内出血ニ用フ。出血性素質ニハ又「ヴァイタミン」C が與ヘラル

1. 血管收縮劑

「エピレナミン」劑, 腦下垂體後葉劑, 「コタルニン」劑, 麥角劑

2. 凝血促進劑

血清及血液・肺・脾・骨髓等ノ臟器製劑, 「カルシウム」劑, 高張葡萄糖液, 食鹽水, 「ゼラチン」劑

3. 鎮靜劑及麻醉劑

是等ハ血壓ヲ降下セシメル, 出血ニヨリ患者ハ興奮シテ血壓ヲ上昇セシメ出血ヲ促進セシメルガ如キ場合ニハ特ニ必要ナルモノデアル。

1. 「エピレナミン」Epirenamin 劑, 腦下垂體後葉

Adnephrin →強心利尿劑

【成分】 副腎有效成分

Antasthol →臟器製劑

【成分】 甲狀腺, 副腎, 腦下垂體後葉ノ混合製劑

Atonin →臟器製劑

【成分】 腦下垂體後葉製劑

Ephedrin →強心利尿劑

【作用】 「アドリナリン」ニ類ス。

Fukujinso 鹽酸「フクジンソ」

Comet (黒田)

【成分】 合成副腎製劑。Adrenalin = 準ズ。

Hinterin →臟器製劑

【成分】 腦下垂體後葉製劑

Hipophysin →臟器製劑

【成分】 腦下垂體後葉製劑

Oporenin →臟器製劑

【成分】 副腎髓質製劑

Pituglasin →臟器製劑

【成分】 腦下垂體後葉製劑

Prematom'n →臟器製劑

【成分】 腦下垂體後葉及胸腺

2. ⑤鹽化「コタルニン」Cotarninum chloratum 劑

【作用】 止血(血管收縮), 鎮痙・鎮痛

【適應】 出血(殊ニ内出血)

【注意】 「コタルニン」Cotarnin

(um) $C_{12}H_{15}NO_4$ 又ハ $C_{12}H_{13}NO_3$

Methoxyhydrastinin ナル阿片「アルカロイド」。

C. chloratum 鹽化「コタルニン」
 $C_{12}H_{14}NO_3Cl \cdot 2H_2O$

C. hydrochloricum

$C_{12}H_{13}NO_3 \cdot HCl$

鹽酸「コタルニン」Stypticin 共ニ止血劑トシテ用ヒラル。

Anaptin 「アナプチン」(ラヂウム)

【成分】 「アナプトール」Anaptol ト「ヨードカルシウム」トノ複鹽ノ 5% 水溶液。

【用量】 1日1回2cc 宛皮下。

Anaptol 「アナプトール」(ラヂウム)

【成分】 「コタルニン」ノ鹽化物。

【用量】 1日1—2回10% 溶液ヲ 1cc 宛皮下。

Blustin 「ブルスチン」(大日本製藥)

⑤鹽化「コタルニン」。止血劑トシテ 1日1cc, 1—2回皮下又ハ筋肉内。

Eustaptin 「オイスタプチン」(鹽野義)

【成分】 鹽化「コタルニン」

【用量】 10% 液 1cc 皮下。

Styptol 「スタプトール」(Knoll)

【成分及性状】 「コタルニン」ノ「フタル」酸鹽, $C_{12}H_{13}NO_3 \cdot C_6H_4(COOH)_2$, 黃微細末, 水ニ可溶。

【作用】 「フタル」酸ハ「コタルニン」ノ作用ヲ強盛ス。止血。

3. 麥角劑(同有効成分合成品)

【作用】 止血, 交感神經末梢ヲ興奮セシム(血管收縮, 子宮收縮)

【適應】 出血(殊ニ子宮出血)胃・腸出血等ノ内出血)

Clav'purin 「クラビプリン」(Gehe-中外新藥)

【成分】 麥角鹽基ノ全成分ヲ分離セル「エルゴチン」製劑。

0.1% 酒石酸鹽液。

【用量】 0.5—1—2cc 皮下, 筋肉内又靜脈内。

Ergoptol 「エルゴプトール」(武田)

【成分】 1cc 「エルゴチン」0.5g 「アナプトール」0.1g ヨリナル。

【用量】 1cc 回1皮下又筋肉内。

Ergot Aseptic 滅菌麥角「エキス」(Parke Davis)

【成分】 1cc 中麥角ノ有効成分

1.0ヲ含ム。

【用量】1回0.7—1.0ccヲ皮下又筋肉内。

Gravitol 「グラビトール」(Bayer)

【成分】「2メトキシ6アリルフエノール」2 Methoxy-6-allylphenolノ「ヂエチールアミノエチールエーテル」Diaethylaminoethylaether 麥角代用合成品。

【用量】1%液 $\frac{3}{4}$ —1cc皮下又筋肉内。

Gynergen 「ギネルゲン」(Sandoz—鹽野義)

【成分】「エルゴタミン」ノ酒石酸鹽。C₃₃H₂₅N₂O₅

【用量】0.5—1cc皮下又筋肉内

Ryegostin 「ライゴスチン」(日本藥品)

【成分】「エルゴタミン」及ビ麥角總有效「アルカロイド」ヲ含ム殆ンド無色透明ノ溶液。

【用量】1回0.5—1.0ccヲ皮下又筋肉内。

Secacornin 「ゼカコルニン」(Roche)

【成分】麥角有效成分。1ccハ麥角4gニ相當ス。「エルゴトキシニン」、「ヒスタミン」、「チラミン」、「エルゴタミン」等ヲ含ム。

【用量】1回0.5—1ccヲ筋肉内

Secartin 「セカルチン」(鹽野義)

【成分】麥角有效成分。

【用量】1回0.5—1cc皮下、筋肉内又子宮筋内。→Secacornin

4. 血清・血液・肺・脾・骨髓等ノ臓器製劑

Blutserum 血清

5.0—10.0ccヲ吐血、咯血ソノ他出血諸症ニ用フ。

Clauden 「クラウデン」(Luipold—武田)

【成分】肺組織抽出劑

【作用】損傷部位ノ組織「キナーゼ」ニ遇ヒテ凝血作用ヲ呈ス。

【用量】靜脈内ニハ10ccヲ1日1—3回。皮下又筋肉内ニハ1回5—10ccヲ1日1—3回。

Coagulen 「コアグレール」(Ciba)

【成分】血小板、血液「リポイド」類ヲ主トス。

【用量】皮下又ハ靜脈内。皮下20cc。

Lienalin 「リエナリン」(三共)

【成分】脾臓「ホルモン」製劑。2ccハ生脾臓2.0gニ相當ス。

【用量】1回2cc宛、1日1—2回皮下。

Manetol 「マネトール」(Bayer)

【成分】脊髄ヨリノ特殊止血有效成分

【作用】出血時 Blutungszeitヲ短縮ス。

【適應】内外出血

【用法及用量】成分ハ乾燥「アンプル」入ニシテ用ニ臨ミ1—2cc滅菌水ニ溶カシ、1日2—3回筋肉内。

Medulan 「メヅラン」(第一製藥)

【成分】骨髓及骨組織中ヨリ「トロムボキナーゼ」ヲ抽出精製ス。

【用量】1) 靜脈内注射 1回5—10cc、1回50cc迄。
2) 皮下及筋肉内。1回5—10cc

ヲ1日2—3回、手術前1—2時間ニ10ccヲ用フルコトアリ。

【注意】高血壓、又血管破裂ノ傾向アル者ハ皮下或ハ經口的投與ヲ可トス。

Milzsin 「ミルツシン」→臓器製劑

【成分】脾臓「エキス」劑

Opostatin 「オポスタチン」(武田)

【成分】脾臓ヨリ抽出ス。2ccハ新鮮脾臓10gニ相當ス。

【用量】1回1—2ccヲ皮下又筋肉内。

Splenogen →臓器製劑

【成分】脾臓製劑。

Thrombogen 「トロムボゲン」(藤澤)

【成分】幼若動物ノ肺及脾臓組織中ニ含マルル血液凝固促進性物質。

【用量】1回5—10ccヲ1日1—3回皮下。或ハ2.5cc宛1日數回

Thrombrin 「トロムブリン」(中村瀧)

【成分】犢ノ脾臓「ホルモン」及血液凝固促進物質。

【作用】血液中ノ「フィブリノーゲン」ヲ「フィブリン」トス。

【用量】通常1回3ccヲ1日1—2回、靜脈内、筋肉内或ハ皮下。

5. 「カルシウム」劑

【作用】「カルシウム」ハ血液凝固ヲ促ガス。

Calcisol 「カルチゾール」(鹽野義)

【成分】食鹽、「クロールカルシウム」

【用量】5ccヲ1分間ニ靜脈内。

Calcium chloratum →消炎劑

Calcose →消炎劑

【成分】「カルシウム」ヲ含有ス

Chlodexin →消炎劑

【成分】鹽化「カルシウム」ヲ含有ス。

Lodinon Calcium →強心利尿劑

Solutio calcii chlorati pro inject. →消炎劑

Solutio glucosi calcii pro Injectione →消炎劑

6. 食鹽劑

Chlonacal 「クロナカール」(日新醫學)

【成分】食鹽ニ「クロールカルシウム」ヲ配ス。

【用量】1回1管(10cc入)ヲ靜脈内。

Chlonatol 「クロナトール」(厚生社)

【成分】10%「クロールナトリウム」液。

食鹽ノ血液凝固促進作用ヲ利用シ、諸種内出血ニ用フ。

【用量】3—10cc靜脈内。

Natrium chloratum ⑤鹽化「ナトリウム」(食鹽)

【成分】10%溶液ヲ用フ。

【用量】1回5—10ccヲ靜脈内。

Subchlon 「ズブクロン」(友田)

【成分】高張食鹽水ニ1%ノ鹽酸「プロカイン」ヲ含有セシム。

【適應】結膜下出血・網膜出血。

【用量】豫メ2%乃至5%「コカイン」溶液ヲ約5分ノ間隔ニテ

3回點眼シ、角膜縁ヨリ約0.5 cm 内外ノ部ニ於テ結膜下血管ヲ損傷セザル様注射。
最初1, 2回ハ1%溶液ヲ約0.5乃至1.0 ccヲ注射、漸次濃度高キモノヲ使用。

7. 「ゼラチン」劑

Gelatin Sol 「ゼラチン」液 (マルコ小島)

出血ニ 10—20 ccヲ 37°Cニ温メ溶解シ靜脈又ハ肩胛間部、臀部ノ皮下。

Geratina alba sterilisata pro injectione 滅菌「ゼラチン」溶液

【成分】 10%溶液トス。數社ヨリ發賣サル(三共、武田)。

【用量】 10—40 ccヲ皮下。

Gelatina Calcii chlorati pro injectione 滅菌「カルシウムゼラチン」液 (三共)

【成分】 5%ノ純「クロールカルシウム」ヲ含有セシメタル 10%「ゼラチン」液。

【用量】 5—7 cc 筋肉内。

Styp-Gelatin 「スチブゼラチン」 (日新醫藥)

【成分】 「ゼラチン」液ニ鹽化「コタルニン」(アナプトール) 1.0%ヲ配ス。

【用量】 1回 10—20 ccヲ約37°Cニ暖メ靜脈又ハ肩胛間部、臀部ノ皮下。

8. 併合及ビ其他ノ止血劑
(→血液凝固阻止劑)

Citrose 「チトローゼ」(山之内)

【成分】 「クエン」酸「ソーダ」10%溶液ニ 5%葡萄糖及 0.5%「クロールカルシウム」ヲ配ス。

【用量】 1回 10 ccヲ靜脈内又ハ臀筋内。

Coag-Rot 「コアグロート」(日本新藥)

【成分】 色素「コンゴローート」Natriumsalz der Diphenylbis-azonaphthionsäureノ1%溶液。

【作用】 網狀織内皮細胞・白血球等ニ特殊ノ作用ヲナシ、血中「フィブリノーゲン」、血小板ノ增多ヲ來シ、血液凝固時間ヲ短縮シ、毛細血管ノ壁細胞ガ色素ヲ吸收シテ膨脹シテ管腔ヲ狭少トナス。

【適應】 諸種出血、貧血

【用法及用量】 1回 10 cc 靜脈内注射。

Injectio Natrii Citrici Pro Haemostasi “Sankyo” 三共「クエン」酸「ソーダ」注射液

【成分】 純粹ノ中性「クエン」酸「ソーダ」ノ 20倍溶液。

【用量】 1回 10 ccヲ靜脈内。

Irmerin 「イルメリン」(武田)

【成分】 鹽酸「パラオキシベンチールグアニジン」ノ 5%水溶液。核蛋白質ノ分解産物。

【作用】 「トロンビン」ト「フィブリノーゲン」ヲ增量シ白血球及血小板ヲ増加セシム。作用點ハ網狀内被細胞系統及肝細胞ナリト云フ。血糖減少、血壓下降。末梢血管殊ニ脾臓血管擴張作用アリ。滑平筋ニハ稍興奮的ニ

作用ス。循環、呼吸ニハ影響少シ。

【用量】 大人 1日 1—2 ccヲ皮下 1日 3 cc 位迄。靜脈内ニハ 1回 0.5 cc。

Iveton →強心利尿劑

【成分】 轉化糖注射液。

Neo-Fibrogen 「ネオ・フィブロ元」(マルホ)

【成分及作用】 Monoaminomonophosphatideノ一種 Cephaline solヲ主成分トシ、賦活作用ニヨリ血液中ノ凝固要素ノ産出ヲ促進ス。

【用量】 皮下 5 cc 靜脈内 10 cc

Pepton, Witte 「ペプトーン」

「ペプトーン」ハ血液凝固ヲ促進

ス。

【用量】 1—5%ノ生理食鹽水ヲ 120°Cニテ滅菌シ、10 cc 皮下注射。

Rutamin 「ルタミン」(第一)

【成分】 植物ヨリ得タル Indol-ethylamin 鹽酸鹽ヲ 1 cc 中ニ 0.015 ヲ含ム。

【作用】 滑平筋ヲ收縮セシム。

【適應】 弛緩性子宮出血、咯血、吐血及其他ノ出血。

【用量】 1 cc 皮下。

Sistomensin →臟器製劑

【成分及適應】 卵巣ノ脂肪可溶性「ホルモン」。月經過多、子宮出血等ニ用フ。

8. 呼吸困難治療劑 Antidyspnoica

(喘息治療劑 Asthmaheilmittel)

(注意：一興奮劑・變調劑・強心利尿劑・及鎮痛・鎮痙・鎮靜劑參照)

喘息 發作性ニ來ル呼吸困難ヲ云フ。呼吸器「ノイローゼ」トシテ又肺循環障礙ニヨリ來ル。前者ヲ氣管支性喘息ト云ヒ、後者ヲ心臟性喘息ト云フ。心臟性喘息ノ療法ハ循環ヲ整調スルヲ主トシテ鎮靜劑ノ使用ヲ從トス。

其他ノ呼吸困難ハ原病(中樞神經系疾患・自家中毒・中毒等)ニ戰ヒ、對症的ニ呼吸中樞ヲ鎮靜・整調スルヲ要ス。

喘息(氣管支)劑 Asthma-heilmittel

1. 交感神經ヲ刺戟シテ興奮セシメ、小氣管支壁ノ滑平筋ノ痙攣ヲ解消セシメル。「エピレナミン」劑(「アドレナリン」等)ノ注射。
2. 腦下垂體後葉製劑ハ又「エピレナミン」劑ノ作用ヲ持長セシム。
3. 抗交感神經(迷走神經)ヲ麻痺セシメテ、相對的ニ交感神經ノ緊張ヲ充メル。
「アトロピン」鹽類水溶液ノ注射。
4. 一般麻醉劑、呼吸中樞整調劑ガ又用ヒラレル。



Aktcor → 強心利尿劑

Asmon 「アスモン」(田邊)

【成分】 Solanaceae 植物ノ主成分ニ「エフェドリン」ヲ配ス。

【作用】 呼吸中樞興奮, 氣管支平滑筋ノ痙攣除去, 交感神經刺激

【適應】 喘息・氣管支炎。

【用量】 1回 1.0 cc ヲ皮下。

Atmulatin 「アトムラチン」(大日本製藥)

【成分】 邦産 Lobelia inflata ヨリ抽出セル邦製「ロベリン」。

【作用】 呼吸中樞興奮。

【用量】 皮下, 筋肉内, 靜脈内ニ反復注射。小兒ハ 1回 0.3% 1cc, 大人ハ 1回 1.0% 1cc。

Coramin 「コラミン」 → 興奮劑,

強心劑

Enspamol → 強心利尿劑

【成分】 「アトロピン」, 安那加ヲ成分トス。

Ephedralin 「エフェドラリン」

(Merck-Schmidt)

【成分】 「エフェトニン」ニ「パラネフリン」(副腎成分)ヲ配ス。

【適應】 喘息・虚脱等。

【用量】 1回 1 cc ヲ皮下。

Ephedrin → 強心利尿劑

Hexeton → 強心利尿劑

Icoral 「イコラール」(Bayer) → 強心利尿劑

【作用】 「ロベリン」ト「エフェドリン」ノ作用ヲ併有ス。

Interenin → 臟器製劑

Iveton → 興奮劑

Kamopon → 鎮痛鎮靜劑

Kampher-Lodinon → 強心利尿劑

Kiosin → 強心利尿劑

Laudanon 鎮痛鎮靜劑

Laudanon-Atropin → 鎮痛鎮靜劑

Lobelin 「ロベリン」(Ingelheim)
(友田)

【成分】 北米産 Lobelia inflata ノ「アルカロイド」鹽酸鹽。

【作用】 呼吸中樞ノ調整, 呼吸ノ大サヲ増シ, 頻數ヲ減ズ。

【用量】 大人 1回 1%, 1 cc 入(ロベリン 0.01 ヲ含ム) ヲ皮下。初生兒, 早産兒, 乳兒ニハ 0.3% 1 cc 入ヲ 1回ニ筋肉内注射。注射間隔ハ 10-15 分トス。靜脈内注射ハ 1筒 0.003 g ヲ徐々ニ行フ。後ニ皮下注射ヲナス。

Morphinum hydrochloricum → 鎮痛鎮靜劑

Narcopon → 鎮痛鎮靜劑

Narcopon-Atropin → 鎮痛鎮靜劑

Nicorumin → 興奮劑

Papatral → 鎮痛鎮靜劑

Papavel → 鎮痛鎮靜劑

Rephrin 「レフリン」(Bayer)

【成分】 1 cc 中ニ「ラセドリン」(非旋光性「エフェドリン」) 0.035 及ビ非旋光性「ズブラレニン」 0.0002 ヲ含ム。

【用量】 0.5-1.0 皮下。

Tussidrin 「ツシドリン」(日本新藥)

【成分】 「エフェドリン」ニ「パパベリン」ヲ配ス。

【作用】 「エフェドリン」ノ交感神經刺激ニヨリ氣管支筋弛緩, 「パパベリン」ノ鎮痛麻醉作用

及平滑筋弛緩,

【適應】 百日咳・喘息・狭心症・胸痛諸症・胃及膀胱痙攣。

【用量】 1日 1-3 回。1回 1.0-2.0 cc ヲ皮下又ハ筋肉内。

Vitacampher 強心利尿劑

9. 百日咳治療劑 Keuchhustenheilmittel

Adnephryn → 強心利尿劑

Aether-injection 「エーテル」注射液 (フタバ・林)

【成分】 「エーテル」 50%, 植物油 50%。

【適應】 百日咳。

【用量】 0.5-2 cc (滿 2 年迄) 乃至 1-3 cc 臀筋肉。

Bagnon (Stark) → 解熱劑

Chinidlin → 解熱劑

Epheptol 「エフェプトル」(いわしヤ松本)

【成分】 生理食鹽水ニ鹽酸「エフェドリン」 4% ヲ含有セシメ, 之ニ「ペプトン」ヲ配ス。異種蛋白質療法劑トシテモ用フ。

【適應】 喘息・百日咳等

【用量】 1日 1-2 cc 皮下。

Ephetonin 「エフェトニン」(Merck-Schmidt)

【成分】 合成「エフェドリン」。1 cc 中 0.05 g 含有。1回 1 cc ヲ皮下。→ Adrenalin, Ephedrin

F. Papa-Atropin 「エフ・パパアトロピン」(マルコー小島)

【成分】 1 cc 中「エフェドリン」 0.02, 「パパベリン」 0.02, 硫酸「アトロピン」 0.0003 g 葡萄糖 20% 液ニ含有セシム。

【適應】 咳嗽・百日咳・喘息・膽

石症・夜尿症。

【用量】 大人 1回 1-3 cc 皮下。

Hepatoxin → 臟器製劑

Hustomatin 「フストマチン」(日新製藥)

【成分】 特殊「リポイド」有機性「ヨード」ノ油溶液。

【作用】 注射後 吸收分解 サレテ百日咳菌ニ拮抗ス。

【適應】 百日咳。

【用量】 毎日又ハ隔日ニ 1回皮下。1年未滿ハ 0.5 cc, 2年以上 1.0 cc。

Indramin → 解熱劑

Kantol 「カントール」(ラヂウム)

【成分】 純正「エーテル」油狀注射液。

【適應】 百日咳・痙攣性咳嗽。

【用量】 滿 2 年以下ハ 0.5-2.0 cc 3 年以上ハ 1.0-3.0 cc ヲ初メ 3 日間ハ毎日, 其後ハ隔日ニ臀筋肉内又ハ肩胛間部皮下。

Keuchicin 「コイヒチン」(大阪細菌) 百日咳「ワクチン」 → 「ワクチン」

Keuhusten 「コイフステン」(大日本製藥)

【成分】 麻醉用「エーテル」ト杏仁油各々 50% ノ割ニ混ズ。

【適應】 百日咳。

【用量】 0.5-1 cc (1 歳迄), 1-

1.5 cc(2—3歳), 2—3 cc(4歳以上)ヲ1回, 筋肉内。初メ毎日3回連続, 次テ隔日ニ行フ。

Laudanon-Atropin →鎮痛鎮靜劑

Luminal-Natrium →鎮痙鎮靜劑

Lumitropin →鎮痙鎮靜劑

Magserid →鎮痙鎮痛劑

Moxol →變質劑

Neo-Campeton →解熱劑

Nicorumin →興奮劑

Onismin →消炎劑

Orfon 「オルフオン」(船井)

【成分】 c-Carbonsäure-trialkylester ヲ植物性油ニ溶解シタルモノ。

【作用】 白血球增多, 鎮痙, 菌被膜溶解。

【適應】 百日咳・喘息・肺炎等。

【用量】 0.25—2 cc ヲ皮下。

Oporenin →強心劑

Papavel →鎮痛鎮靜劑

Pavinal →鎮痛鎮靜劑

10. 解熱劑 Antipyretica, Fiebermittel

(肺炎, 流感, 「マラリア」治療劑 Pneumonie-Grippe-Malaria-heilmittel ヲ含ム)

(鎮痛鎮靜劑)

(注意: 一鎮痛・鎮靜・鎮痙劑參照)

解熱劑(「ヒノリン」誘導體ヲ除キ)ハ熱中樞麻醉ノ作用ヲ有スルト共ニ知覺中樞ニモ働キ鎮痛鎮靜ノ作用ヲ現ハスモノデアル。

解熱劑ハ又他ノ鎮痛・鎮靜ト同様, 數種ノ藥劑ノ併用ガ賞用サレル, 之ニ

Polyvalentin 「ポリバレンチン」

(鳥井)

【成分】 百日咳菌ヲ細菌學血清學的ニ四型トシ, 各別ニ感作調製ス。

【適應】 百日咳ノ治療及豫防。

【用量】 1) 豫防 2回ニテ完了ス。2—4日日ニ第2回目ノ注射ヲナス。

	第1回	第2回
用量 1年未滿	0.5	0.5
2—4年	0.7	0.7
5—10年	0.7	1.0

2) 治療 隔日乃至3日置キニ下記ノ量ヲ注射ス。

	1年未滿	2,3—4年	5—10年
第1回	0.5	0.7	0.7
第2回	0.5	0.7	1.0
第3回	0.7	1.0	1.0
第4回	0.7	1.0	1.0
第5回	1.0	1.0	1.0
第6回	1.0	1.0	1.0
第7回	以上同	以上同	以上同
	量持續	量持續	量持續

Tussidrin →呼吸困難治療劑

ヨリテ大量一劑ニヨル副作用(中毒)ヲ見ズシテ, 伍用ニヨリ各種ノ特徴ヲ適度ニ按配シ得, 又習慣性ヲ獲サシメル危險モ少ナイ長所ガアル。

水ニ可溶性テ注射用トナル解熱劑ハ, 「ヒノリン」誘導體, 「カルボール」誘導體, 「ピラツォロン」誘導體デ, 「フェネチヂン」誘導體, 「アニリン」誘導體ハ概シテ水ニ難溶テ從ツテ注射用ニ供サレナイ。

1. 「ヒノリン」Chinolin 誘導體 (「キニーネ」屬)

組織ニ於ケル溫産出ヲ抑制スルヲ主作用トシ, 溫中樞麻醉作用ハ他ノ解熱劑ニ比シテ僅少デアル。一ノ細胞原形質毒デ「マラリア」寄生體ニ對スル特效藥デアル。一定誘導體ハ肺炎球菌ニ對スル特異作用ヲ有ス。

Bagnazin 「バグナヂン」(日新醫學)

【成分】 「キニーネ」6.8%, 「ウレタン」1.4%。

【適應】 肺炎・流行性感胃・扁桃腺炎・氣管支炎・「マラリア」等。

【用量】 1) 1日 1—3回 2cc ヲ筋肉内。

2) 小兒ハ 1歳ニ付 0.1ヲ標準トス。

Bagnon 「バクノン」(武田)

【成分】 鹽酸「キニーネ」 「カフェイン」 「ウレタイン」

1 cc 中 0.068 g 0.0172 g 0.0145 g

2 cc 中 0.136 g 0.0344 g 0.0284 g

5 cc 中 0.40 g 0.0860 g 0.0710 g

【作用】 「マラリア」, 肺炎双球菌ニ對スル特效作用及鎮痛, 解熱

【適應】 肺炎・流感・「マラリア」・婦人科の炎症疾患・「ロイマチス」・神經痛・陣痛微弱・不整脈・其他熱性病。

【用量】 成人ニハ 1日 1—3回 1回 2cc ヲ筋肉内。止ムヲ得ザレバ皮下注射, 靜脈内。

Bagnon "Stark" 強「バグノン」(武田)

【成分】 1 cc 中ニ鹽酸「キニーネ」0.15 g (25%), 「アンチピリン」0.25 g (25%)ヲ含ム黄褐色水溶液。

【作用】 肺炎双球菌抑壓, 陣痛促進, 百日咳發作緩解, 「マラリア」原蟲撲滅。

【適應】 急性肺炎・第1期陣痛微弱・百日咳・「マラリア」。

【用量】 1) 成人 1日 1回 2cc, 小兒滿3歳迄 1日 1回 0.3—0.5 cc ヲ臀筋内深ク注射シ, 後ニ充分按摩ス。

2) 靜脈内ニハ 10%葡萄糖液 10 cc ニ混ジ行フ。

China-Brocannon 「キナブロカノン」(中外新藥)

【成分】 「ブロカノン」ニ鹽酸「キニーネ」ヲ配ス。

【作用】 殺菌消毒, 解熱, 消炎, 鎮痛, 強心。

【適應】 肺炎・感冒・「ロイマチス」・神經痛・頭痛・産褥熱。

【用量】 大人 1日 1—2回 20 cc 宛靜脈内。

Chineron f. Inject. 「ヒネロン」注

射液 (武田)

【成分】 5—10%「ヒネロン」Chineron=Aethylapochinin = 3—5%「ウレタン」Urethanヲ配ス。

【適應】 肺炎双球菌ニ對スル化學療法劑。

【用量】 1) 1回1筒(1cc)宛1日5—6回、皮下又筋肉内。重症ニハ1日8回。

2) 10歳前後ノ小兒ニハ小兒用ノモノヲ1回1cc宛1日4—6回皮下又筋肉内。乳兒ニハ1日1—2回。

【注意】 一般ニ多量ヲ用ヒザルヲ可トス。副作用(耳鳴・眼障)アレバ中止。

Chinidlin 「ヒニドリン」(Comet)
(黒田)

【成分】 Methyl-Cuprein dimethyl-amido-dimethyl-phenyl-pyrazolon 鹽酸鹽ノ20%水溶液。

【作用】 解熱、鎮痛、鎮痙、化膿機抑制。

【適應】 感冒・肺炎・扁桃腺炎・百日咳・結核熱・「マラリア」・敗血症・神經痛。

【用量】 大人1日1回20cc、小兒ハ滿3年迄1日1回0.2cc—0.4cc。3年以上ハ年齢ニ應ジ増量。皮下又ハ筋肉内。

Chinin-Calcium (Quinine-Calcium) 「キニーネ・カルチウム」(Sandoz)

【成分】 1「アンブレ」10cc
Chinin. gluconic. 0.6
Calc. glucono-lactobionic. 1.375

Aqua bidestillata 10cc

【適應】 肺炎、流感。

【用量】 1日1回10cc宛筋肉内、又5cc—10cc 靜脈内。

Indoramim 「インドラミン」(ラヂウム)

【成分】 「ヒニン」尿素ノ鹽酸鹽 $C_{20}H_{24}N_2O_2HCl + CO(NH_2)_2$

【作用】 肺炎菌、「マラリア」ニ對シ特效ヲ有シ、強心、利尿作用アリ。蛋白分解ヲ節約ス。

【適應】 肺炎・流感・「マラリア」・「アングナ」・百日咳・結核・神經痛。

【用量】 1) 大人ハ2% 5ccヲ1日1—2管、重症ニハ朝夕1—2管宛筋肉内。

「マラリア」ニハ2管宛。他ノ強心劑ト伍用可。

2) 小兒ニハ1日1年迄1—2管、1—5年2管、5—10年ニハ5cc入1管、10年以上ハ5cc入1—2管トス。

Plasmochin 「プラスモヒン」

(Bayer)

P. simplex

【成分】 N-Diaethylaminoisopentyl-8-amino-6-methoxy-chinolin

【適應】 「マラリア」、肺炎等 Atebrin トノ併合療法ヲ行ハル。

【用量】 1% 1cc

Pneunon 「プノイノン」(三共)

【成分】 25%ノ鹽酸「キニーネ」ヲ含ム濃厚粘稠性水溶液。

【適應】 「カルツブ」性肺炎・「マラリア」・一般「キニーネ」ノ適

應症ニ用フ。

【用量】 1日1回1—2cc 筋肉内

Quinapon 「キナボン」(田邊)

【成分】 1cc 中鹽酸「キニーネ」0.07, 「カフェイン」0.0187, 「ウレタン」0.0157, 「ストリキニーネ」0.0005(又0.0002)ヲ含ム。

【適應】 肺炎・「マラリア」・「インフルエンザ」・敗血症・「アングナ」・産褥熱・神經痛・百日咳・陣痛微弱等。

【用量】 1回2cc宛1日1—2回 靜脈内又皮下。

Solchin 「ゾルヒン」(鹽野義)

【成分】 鹽酸「キニーネ」25% 溶液。

【適應】→ Bagnon

【用量】 1日2cc 筋肉内。

Terchi 「テルヒ」(日本藥品)

【成分】 「キニーネ」ノ油狀溶液, 「テルピン」, 「カンフル」, 「チモール」, 薄荷腦ヲ配ス。

【適應】 肺炎・氣管支炎。

【用量】 1日1回1—2cc 筋肉内。

Transpulmin 「トランスプルミン」(Badhomburg)

【成分】 1cc 中 0.03 Chinin. bas. anhydr. 及 0.025 Kampferヲ含有スル「エーテル」性油狀溶液。

【適應】 流感・肺炎・氣管支擴張・肺膿瘍。

【用法及用量】 1日1回1.2cc 筋肉内。1—2週連用。

2. 「カルボール」Carbol 誘導體
(「サリチル」屬)

溫中樞ヲ麻醉スルト共ニ血管擴大ヲ來シ從ツテ著シク發汗ヲ現ハシ、虚脱ヲ招致スルコトガアルカラ、大量ハ注意ヲ要シ、屢々強心劑ト伍用サレル。關節「レウマチス」ニ對スル特效藥デアアル。

耳鳴、呼吸困難 Salicyldyspnoe, 酩酊 Salicylrausch, 發疹等ヲ來スコトガアル。

Atophanyl (Schering) → 神經痛劑

【成分】 「アトファン・ソーダ」及ビ「サリチル」酸「ソーダ」ヲ含ム。

Descarol 「デスカロール」(日新醫學)

【成分】 「オルトブロムサリチル」酸「ヨードカルシウム」及ビ「ナトリウム」ノ複鹽。

【作用】 解熱、鎮痛、鎮靜、殺菌、利尿、消炎、催眠、鎮痙。

【適應】 「サリチル」酸「カルシウム」及「ヨード」, 「ブロム」ノ適應症ニ準ズ。結核症・肋膜炎。

【用量】 1管(25cc)ヲ靜脈内。

Neo-Campeton 「ネオカンペトン」(山之内)

【成分】 「サリチル」酸「カルシウム」3.0%, 「カンフル」0.5%, 「ヨードカルシウム」1.0%, 「クロールカルシウム」1.0%, 食鹽0.5%。

【作用】 強心、解熱、消炎。

【適應】 肺炎・肋膜炎・感冒・氣管支炎・神經痛・喘息・百日咳・腹膜炎・心臟衰弱・肺結核・蕁麻疹。

【用量】 通常隔日1管(5cc)ヲ靜脈内。

Pectol 「ペクトール」(東京化學—鹽野義)

【成分】「サリチル」酸「カルシウム」3%、「キニーネ」0.02%、「ヨード」0.01%。

【作用】解熱、鎮痛、消炎、利尿、滲出液吸收。

【適應】肺結核・肋膜炎・腹膜炎「ロイマチス」・麻醉劑中毒症・其他「サリチル」酸・「カルシウム」ノ適應症ニ準ズ。

【用量】毎日又隔日ニ1日1回20cc宛靜脈内。漸次増量30—40ccニ至ル。15回ヲ1「クール」トス。

Tacarose 「タカローゼ」(山之内)

【成分】3%「サリチル」酸「カルシウム」ニ10%葡萄糖ヲ配ス。

【作用】解熱鎮痛、消炎、利尿、強心、榮養補給。

【適應】肋膜炎・腹膜炎・肺結核・急性及慢性「ロイマチス」・腹水副辜丸炎。

【用量】1回1管(20cc)ヲ毎日又隔日ニ靜脈内。12回ヲ1「クール」トス。

Jod-Tacarose, Brom-T., Guajacal-T. アリ。

Thiosalcol 「チオザルコール」(萬有)

【成分】「グアヤコールズルフォン」酸「カリ」1.0%、「サリチル」酸「ソーダ」1.5%、「プロムカルシウム」1.5%、葡萄糖5.0%ヨリナル無色透明又淡褐色ノ液。

【作用】解熱、食慾亢進、盜汗・咳嗽及喀痰咯血ノ減少、滲出液吸收促進。

【適應】肺結核其他結核性疾患。

【用量】1) 毎日又隔日ニ1回1

管(20cc)ヲ靜脈内。1「クール」ハ2回。

2) 滲出性ノ肋膜炎ニハ穿刺後20—40ccヲ腔内注入。

3. 「ピラツォロン」 Pyrazolon 誘導體(「アンチピリン Antipyrin」屬)

溫中樞麻醉ヲ主ナル作用トナス。時ニ惡心、嘔吐、發疹、呼吸困難等ヲ來スコトガアル。

Antipyrinum, Phenyl-dimethyl-pyrazolon ⑤ 「アンチピリン」

【用量】20%溶液トシテ0.25—1.0。

Melubrin 「メルブリン」(Gardan 「ガルダン」)(Höchst-Bayer)

【成分】Phenyl-dimethyl-pyrazolon-aminomethan-sulfonsaures Natrium。白色結晶性ノ末、水ニ易溶。

【適應】「ロイマチス」・神經痛・筋炎・頭痛・結核・「インフルエンザ」・肺炎・「チフス」。

【用量】「ロイマチス」ニ靜脈内。毎日又ハ1—2日ノ間隔ヲオキ25%溶液2—4cc皮下或ハ筋肉内注射可能。

邦製ニBonpyrin(武田), Methylon(第一)等アリ。

Novalgin 「ノヴルギン」(Höchst-Bayer)

【成分】Phenyl-dimethyl-pyrazolonmethyl-aminosulfonsaures Natrium

【作用】解熱、鎮痛。

【適應】「ロイマチス」・神經痛・結核熱・敗血症・肺炎・「インフルエンザ」。

【用量】1日1—2回、1—2cc皮下、筋肉内或ハ靜脈内。1管ハ50%溶液1cc入。

【注意】邦製ニハ「ピレチン」Pyretin(鹽野義)「ノバボン」Novapron(田邊)アリ。

Novalgin-Chinin 「ノヴルギン・キニーネ」

【成分】「ノヴルギン」酸「キニーネ」40%ト「ノヴルギン」酸「カルシウム」60%ヲ混ジタルモノ。

【適應】流行性感胃、各種疼痛、神經痛、「ロイマチス」、月經痛

【用量】0.25—0.5ヲ1回量トシ1日1—3回。

11. 鎮痛劑 Analgetica, Antidolorosa

麻醉劑 Narcotica

1. 阿片「アルカロイド」 Alkaloidum Opii 劑

【作用】中樞性麻醉

【適應】疼痛・痲痛・麻醉前處置。

Allopon 「アロボン」(大日本製藥)

【成分】阿片總「アルカロイド」ノ「メコン」酸鹽。25%液。

【適應】阿片ヲ適應トスル場合、「モルヒネ」ヨリ作用緩和。

【用量】1回1cc皮下。

Allopon-Scopolamin 「アロボン・スコポラミン」(大日本製藥)

4. 特種解熱劑 →變調劑(蛋白體)

Zachotkin 「チャホッキン」(三共)

【成分】炭酸「クレオソート」油劑。

【適應】肺炎・産褥熱。

【用量】1日1回2ccヲ筋肉内。

Zygok'in 「チゴキイン」(白井松)

【成分】蜂蜜菌「チゴサツカロミセス」ノ純分泌物トソノ有效成分。

【作用】解熱、解毒ノ促進。

【適應】各種原因不明ノ熱性病・結核性疾患・肺炎・敗血症・流行性感胃。

【用量】1) 7歳迄0.5cc, 8歳以上ハ1.0ccヲ皮下。

2) 重症ニハ初メヨリ2cc

3) 通常1日1回、必要アレバ1日2—3回又ハ同時ニ位量ヲ用フ。

【成分】1cc中ニ「アロボン」0.05、「プロム」水素酸「スコポラミン」0.0006ヲ含ム。

【適應】麻醉補助劑。

【用量】手術前30—60分ニ0.5ccヲ皮下。

Amnesin 「アムネジン」(Böhringer-三共)

【成分】1cc中乳酸「モルヒネナルコチン」0.012、「カルプアミ酸」ノ「ヂヒドロキニーネ」0.23ヲ含ム。

【適應】無痛分娩(「スコポラミ

ン」ヲ併用)。→「ナルコボン」、
鹽酸「モルヒネ」。

【用量】 1回 1 cc 皮下。

Anemon 「アネモン」(日本新藥)

【成分】 「デヒドロオキシコデイン」ノ鹽酸鹽ニ「ヒドロコタルニン」ノ鹽酸鹽ヲ配ス。

【用量】 1回 0.5—1 cc 皮下。

Atropin-Morphin 「アトロピン・モルヒネ」

【成分】 硫酸「アトロピン」0.1%、「モルヒネ」1%、數社ヨリ市販サル

【適應】 鎮痛・鎮靜劑トシテ「モルヒネ」・「アトロピン」ノ適應症(疼痛・興奮・痙攣等)ニ用フ。

【用量】 1回 0.5—1.0 cc, 1日 1.0—2.0 cc ヲ皮下。

Atropinum sulfuricum →鎮痙鎮靜劑

Dilaudid (Knoll) 「ディラウディド」

【成分及作用】 Dihydromorphinon, 作用ハ Morphine ヨリ速カニシテ永續ス。又 Morphine ニ比シ副作用少ナク, Morphine 0.01 ノ鎮疼作用ハ Dilaudid 0.002 ニ相當スト。

【用法及用量】 1 cc(0.002)皮下。

Eukodal 「オイコダール」(Merk-Schmidt)

【成分】 Dihydroxycodine 鹽酸鹽。

【作用】 中樞性麻酔。

【適應】 咳嗽・呼吸困難・喘息其他疼痛。

【用量】 1回 1 cc(0.01)ヲ皮下。

Heroinum(Diacetylmorphinum)

hydrochloricum 鹽酸「ヘロイン」[Ⓔ]鹽酸「ジアセチルモルヒネ」

【注意】 鹽酸「モルヒネ」ニ準ズルモ, 有效量ト中毒量ト近イカラ注意ヲ要ス。

Kamopon 「カモポン」(日本新藥)

阿片ノ總「アルカロイド」ヲ抽出シ水溶性トナス。→Laudanon

Laudanon 「ラウドノン」(Ingelheim)(友田)

【成分】 阿片「アルカロイド」ノ有效成分, 50%鹽酸「モルヒネ」, 30%鹽酸「ナルコチン」, 10%鹽酸「パバヴェリン」, 5%鹽酸「コデイン」, 2.5%鹽酸「テバイン」, 2.5%鹽酸「ナルチエイン」ヨリナル。

【作用】 鎮痛, 鎮靜, 鎮痙。

【用量】 2%及4%溶液アリ。1回 1/2—1.0 cc ヲ皮下。

Laudanon-Atropin 「ラウドノン, アトロピン」(Ingelheim)(友田)

【成分】 1筒(1cc)中「ラウドノン」0.02, 「アトロピン」0.0005ヲ含ム。

【適應】 「ラウドノン」及「アトロピン」ノ作用ヲ併有シ嘔吐ニ用フ。ソノ他阿片・「モルヒネ」ノ適應ニ用フ。

【用量】 1回 0.5—1.0 cc ヲ皮下。

Laudanon-Scopolamin 「ラウドノン, スコポラミン」(Ingelheim)(友田)

【成分】 1筒(1.0 cc)中ニ「ラウドノン」0.04, 「スコポラミン」0.0004ヲ含ム。

【適應】 鎮痛劑トシテ麻酔前處置・無痛分娩ソノ他疼痛除去ニ

用フ。

【用量】 1) 手術前 45分—60分 = 0.5—0.8 cc ヲ皮下。

2) 小兒, 老人, 酒客, 心臟病, 呼吸器病, 衰弱等ニハ注意ス。

Monaat 「モナアト」(日新醫學)

【成分】 「モナボン」1cc中ニ硫酸「アトロピン」0.0004, ヲ混ズ。

【適應】 「モナボン」ニ準ズ。

Monapon 「モナボン」(日新醫學)

【成分】 阿片總「アルカロイド」ノ鹽酸鹽ノ2%溶液。

【用量】 1回 0.5—1.0 cc ヲ皮下。

Monasco 「モナスコ」(日新醫學)

【成分】 1cc中「モナボン」0.04, 「ブロム」水素酸「スコポラミン」0.0006ヲ含ム。

【用量】 1回 0.5—1.0 cc ヲ皮下。

Morphinum hydrochloricum [Ⓔ] 鹽酸「モルヒネ」

【成分】 鹽酸「モルヒネ」1%ヲ含ム。

【用量】 1回 0.5—1.0 cc ヲ皮下。鹽酸「モルヒネ」ノ極量ハ1回 0.03, 1日 0.1。

Narcopon 「ナルコボン」(ラヂウム)

【成分】 阿片「アルカロイド」, 2.0%。

【用量】 大人 1回 0.5—1.0 cc ヲ皮下。(「バントボン」ニ準ズ)

Narcopon-Atropin 「ナルコボン・アトロピン」(ラヂウム)

【成分】 「ナルコボン」液 2分, 硫酸「アトロピン」0.04分, 鹽酸「パバヴェリン」0.04分ヨリ成ル。

【適應】 痙攣ヲ伴フ諸疾患, ソノ

他「ナルコボン」ニ準ズ。

【用量】 「ナルコボン」ニ準ズ。

Narcopon-Papaverin 「ナルコボン, パパベリン」(ラヂウム)

【成分】 1筒(1cc)中ニ「ナルコボン」0.01, 鹽酸「パパベリン」0.02, 硫酸「アトロピン」0.0002ヲ有ス。

【適應】 「ナルコボン・アトロピン」ニ準ズ。

【用量】 1回 0.5—1.0 cc ヲ皮下。1日數回用ヒラル。

Narcopon-Scopolamin 「ナルコボン, スコポラミン」(ラヂウム)

【成分】 1cc中「ナルコボン」0.04「ブロム」水素酸「スコポラミン」0.0006ヲ含ム。

【用量】 1) 0.5 cc ヲ皮下。

2) 手術ニハ手術前2時間 0.3—0.5 cc ヲ, 更ニ30分毎第2回, 第3回ヲ 0.25 cc 宛注射ス。小兒ハ手術前約30分 1回 0.15—0.3 cc ヲ用フ。

Neo-Pedinal 「ネオ・ペヂナル」(金剛)

【成分】 →Dilaudid

Opopon 「オポボン」(東洋新藥) Narcopon ニ準ズ。

Panopin 「パンオピン」(大日本製藥 鹽野義 三共) 「ナルコボン」 Narcopon ニ準ズ。

Panopin-Scopolamin 「パンオピンスコポラミン」(大日本製藥 鹽野義 三共) 「ナルコボン・スコポラミン」ニ準ズ。

Pantopon 「バントボン」(Roche)

【成分】 阿片總「アルカロイド」。

「モルヒネ」約50%ヲ含ム。

【用量】1回0.5—1cc皮下、筋肉内。

Pantopon-Scopolamin 「パントポン、スコポラミン」(Roche)

【成分】「パントポン」0.04, 「プロム」水素酸「スコポラミン」0.0006

【適應】局所及全身麻酔補助劑トシテ手術用。

【用量】0.5—1.0cc皮下。

Papatral 「パパトラール」(葦有)

【成分】注射液1.0cc中ノ成分次ノ如シ。

鹽酸「パパベリン」0.025

硫酸「アトロピン」0.0005

「バルビタール」0.05

「アミノピリン」0.06

【作用】鎮痛、鎮靜、鎮痙、胃液分泌抑制。

【適應】疼痛・痙攣ヲ伴フ諸症。

【用量】成人1回0.5—1.0ccヲ皮下。

Papavel 「パパヴェール」(大日本製薬)

【成分】4%鹽酸「パパベリン」。

【用量】1回1cc, 1日2—3回, 皮下。

Papaverin 「パバヴェリン」(Ingelheim, Knoll(武田))

【成分】阿片「アルカロイド」。硫酸「パバヴェリン」。

【作用】臓器平滑筋ノ痙攣、中樞性麻酔ニヨル鎮痛。

【適應】各種痙攣・痙痛・狭心症・高血壓症・急性尿毒症。

【用量】1回0.04宛, 1日數回。場合ニヨリ1回0.08ヲ1日3

回, 1筒(1.0cc)ハ0.04含有。

Paracodin 「パラコジン」(Knoll)

【成分及性状】Dihydrocodeinニシテ酒石酸鹽、鹽酸鹽ハ水ニ容易ニ溶解ス。其作用ハ「コデイン」ニ一致スルモ、少量ニテ其目的ヲ達シ、副作用モ少ナシ、注射用液1ccハ0.02ヲ含ム。
→Antitussin

Pavinal 「パビナール」(武田)

【成分】「ヂヒドロオキシコデイン」 $C_{18}H_{21}NO_4$ 鹽酸鹽(80%)ト「ヒドロコタルニン」 $C_{12}H_{15}NO_3$ ノ鹽酸鹽(20%)。

【作用】鎮痛、鎮痙、鎮靜。

【用量】1回1/2—1筒(0.01)ヲ皮下。

Pavinal-Atropin 「パビナール・アトロピン」(武田)

【成分】1筒(1cc)中ニ「パビナール」0.01ト硫酸「アトロピン」0.0005ヲ含ム。

【用量】「パビナール」ニ準ズ。

Pavinal-Papaverin 「パビナール・パバヴェリン」(武田)

【成分】1筒(1cc)中ニ「パビナール」0.01, 鹽酸「パバヴェリン」0.02, 硫酸「アトロピン」0.0003ヲ含ム。

【用量】「パビナール」ニ準ズ。

Pavinal-Scopolamin 「パビナール、スコポラミン」(武田)

【成分】1筒(1cc)中ニ「パビナール」0.02, 「プロム」水素酸「スコポラミン」0.0005ヲ含ム。1筒中ニ上記ノ各半量ヲ含ムモノアリ。

【用量】「パビナール」ニ準ズ。

2. 「バルビタール」劑 **Barbitalum** (**Acidum diäethylbarbituricum**) **B. solubile** (**Natrium diäethylbarbituricum**)

【注意】Barbitursäure=Malonylharnstoff

Brom-Grelan 「ブロムグレラン」(柳澤-武田)

【成分】1管(20cc)中ニ下記ノ成分ヲ含ム。

「グレラン」0.25, 「ブロムカルシウム」0.3, 「ブロムナトリウム」0.3, 「グルコン」酸「カルシウム」1.0, 葡萄糖0.2g

【作用】鎮痛、鎮靜、消炎、榮養、利尿、強心、解毒。

【適應】諸種疼痛・喘息・「ノイローゼ」・吃逆・「モルヒネ」中毒。

【用量】1日1—2回1—2管(20—40cc)ヲ徐々ニ靜脈内。症狀輕快スレバ又隔日1日1回。

Dial 「デアール」(Ciba)

【成分】Diallylbarbitursäure

【適應】鎮靜・催眠劑トシテ不眠症・精神病興奮状態。(心臟ヲ害セズ)

【用量】1回1—2ccヲ筋肉内深ク又ハ靜脈内。

Dormalgin 「ドルマルギン」(Riedel-C. Hoisteln)

【成分】Isobutylbrompropenylmalonylureid-Dimethylamidophenyldimethyl-pyrazolon。

【作用】鎮痛。

【用量】1回1/2管(1管=2cc,

0.2g入)ヲ筋肉内。(臀筋又上腿)

Evipan-Natrium 「エヴィパンナトリウム」(Bayer)

【成分】N「メチル、チクロヘキセニール、メチール、バルビツール」酸ノ「ナトリウム」鹽。水溶性。

【用量】靜脈内注射麻酔劑トシテ外科手術ニ用フ。

1) 調製:—1g入「アムブレ」(10cc容量)ニ附セル10cc入溶解用滅菌蒸溜水ヲ前者ノ中ニ入レ溶解ス。

2) 前處置:—「モルヒネ」等ヲ用フルニハ1時間以上以前ニ注射シテ呼吸中樞ニ對スル作用ノ累加ヲ防グベシ。

3) 用量

年齢	男子		女子	
	強	弱	強	弱
10—15	0.16	0.15	0.15	0.14
15—25	0.15	0.14	0.10	0.13
35—40	0.14	0.13	0.13	0.12
40—55	0.13	0.12	0.12	0.11
55—65	0.12	0.11	0.11	0.10
65—75	0.11	0.10	0.10	0.09
75以上	0.10	0.09	0.09	0.08

ccm/kg ccm/kg
(キール大學 Specht)

【注意】a) 肥滿者、貧血、敗血症、惡液質、衰弱患者ハ上記ノ量ヨリ30—50%ヲ減ズ。

b) 麻酔不足ノ際ハ少量追加スルカ又ハ「エーテル」ヲ吸入セシム。

c) ラウペル氏(ケーニヒスベルヒ大學)ハ就眠量Einschlaf-

dosis E) ヲ正確ニ測定シ短時間手術ヲ行フベキ強壯壯年者ニハ3E ヲ總量トス。老人又ハ虛弱者ハ $1\frac{1}{2}$ — $2\frac{1}{2}$ E トス。

d) 體重ヨリモ測定セラル。

體重 kg)	分量(cc)
50	7— $7\frac{1}{3}$
55—60	$7\frac{1}{2}$ —8
60—65	8— $8\frac{1}{2}$
65—70	$8\frac{1}{2}$ —9
70—75	9— $9\frac{1}{2}$
75以上	10

4) 注入法

徐々ニ行フ。初メ4ccハ15秒間ニ1ccノ割トシ、以後10秒間ニ1ccノ割トス。注射中ハ患者ニ數ヲ唱ヘシメ、舌ガ後方ニ沈下スル時ハ Esmarch-Hei-berg 氏操作ヲナス。全量ヲ30—60秒間ニ注入スル人アリ。3—4分ノ人アリ。人ニヨリテハ1ccヲ1分間ニ注入ス。之等ノ注入速度ニツキテハ未ダ定説ナシ。

速度慢キ時ハ麻酔深ク長ク作用スルト云フ (Bauchs)。麻酔ノ持續時間ハ平均15—20分ナリ。

5) 禁忌

重症患者、老人、惡液質、心腎病、肝實質障礙、呼吸器病、重症新陳代謝病、ソノ他「イレウス」、惡阻、腹膜炎、中樞神經系疾患ニハ注意ス。

Grelan 「グレラン」

【成分】「ヂエチルバルピツール」酸ト「ヂメルチアミドヂメチルフェニルピラツォロン」ト

ノ化學的結合物、帶黃白色、苦味アル粉末、冷水ニハ難溶、熱湯又ハ有機性溶劑ニ溶解ス。

【作用】非「アルカロイド」性ノ内服及注射用鎮痛劑。

【用量】通常1回2cc (0.3入)ヲ皮下又ハ筋肉内(疼痛激甚ナラバ4cc)。1日數回應用スルモ障碍ナシ。神經痛ニハ其局部ノ神經幹ニ添ヒテ注射ス。

Laumin 「ラウミン」(武田)

【成分】「フェノバルピツール」(0.08又0.3)ニ「クエン」酸「カフェインアンチピリン」(「ミグレン」)(0.2又0.3)ヲ配ス。

【作用】鎮痙、鎮靜、鎮痛。

【適應】癲癇其他ノ痙攣性疾患・頭痛・「ロイマチス」性疼痛・電擊性疼痛・不眠・精神病興奮。

【用量】1日1回1管(2cc)ヲ皮下或ハ筋肉内。

Medinal 「メヂナール」(Schering)

【成分】diäthylbarbitursäures Natrium

【用量】10%溶液5—10cc皮下或ハ筋肉内。

Pernocton 「ペルノクトン」(Riedel-Holstein)

【成分】sek. Buthyl- β -bromallyl-barbitursäures Natriumノ10%溶液。

【適應】鎮痛・麻酔、吸入麻酔ノ誘導補助。

【用量】睡眠障礙・興奮状態ニ2—6cc靜脈内。體重12.5kgニ對シ最大量1cc。

Pyraverin 「ピラヴェリン」(日新醫學)

【成分】「アミノピリン」ト「バルピツール」。→Grelan

【用量】1回1管(2cc)ヲ皮下又ハ筋肉内。

Somnifen 「ソムニフェン」(Roche)

【成分】「アンブレ」内ノ液體ハ0.1 Diäthylisopropylbarbitur酸ト0.1 Allyl-isopropylbarbitur酸ヲ含ム。

【用量】鎮靜・催眠ノ目的ニハ1「アンブレ」2ccヲ就寝前ニ筋肉内、興奮・發揚ノ時ハ5cc。痙攣・子痙等ハ徐々ニ靜脈内。

Verocetin 「ベロセチン」(藤澤)

【成分】「ヂエチルバルピツール」酸ト「パラアセトフェネチン」トノ結合體。

【作用】非「アルカロイド」性鎮痛、鎮靜、催眠劑。

【用量】1回1.0—2.0ccヲ筋肉内又ハ皮下。

Veronal-Natrium 「ベロナール」曹達 (Bayer)

【成分】Veronalノ「モノナトリウム」鹽。

【用量】0.3—0.6

3. 併合其他ノ鎮痛劑

Atemonin 「アテモニン」(Shiba)

(植村—榮崎)

【成分】Paraminobenzoyl-diaethylaminoethanol-hydrochlorid = HydrocotarninchloridトDihydro-3,6-dioxyphenanthrenoxydo- β -methylami-

nhydrochloridヲ配ス。

【適應】神經痛・頭痛・咳嗽・月經痛・「モルヒネ」中毒脫除。

【用量】1回1ccヲ皮下。

Dankern 「ダンケルン」(ラヂウム)

【成分】「フェニール・ヂメチルピラツォロン・メチールアミノメタンスルフォン」酸「ソーダ」,「サリチル」酸鹽,「カフェイン」鹽,「プロム」鹽及葡萄糖ヲ含有ス。

【適應】諸種疼痛。

【用量】1) 1日1回20ccヲ靜脈内。

2) 1日2回10時間ノ間隔ヲ置キテ注射シ得。連用可。

Dopalpin 「ドバルピン」→鎮痙劑

Hepatoxin →臟器製劑

Radio-Injection 「ラヂオインエクチオン」(ラヂウム)

【成分】規定量ノ臭化「ラヂウム」(RaBr+2H₂O)ヲ生理食鹽水ニ溶解シ1管中2ccヲ入ル。1管中ノAktivitätハ平衡状態ニテ約0.74「マイクロキュリー」(200マツヘ單位)ナリ。

【適應】「ラヂフォルミン」Radioforminニ順ズ。ソノ他脊髄癆・神經衰弱・遺尿症・赤鼻。

【用量】1日1回1管ヲ可及的患部近カクノ皮下又ハ筋肉内。連續シテ同一箇所ニ注射ヲ行ハズ。必要アラバ10回迄。但シ必ズ3日目毎ニ1日休止ス。10回以上連用スルニハ毎10回目約5日間以上ヲ休止。

Spamidol 「スパミドール」(ラヂウム)

【成分】 鹽酸「ヒドロコタルニ」ニ「ヂメチール、アミドアンチピリン」ヲ配合ス。
 【作用】 鎮痛、鎮痙。
 【適應】 頭痛・喘息・神経痛・吃逆・嘔吐・「ロイマチス」・「イレウス」・手術後ノ疼痛・月經痛・過強陣痛・後陣痛・眼科領域疼痛・耳痛・「モルヒネ」中毒。

【用量】 1) 大人1回1管(2cc)ヲ皮下。
 2) 小兒用量
 1年迄 0.1—0.2 cc
 1—2年 0.12—0.25 cc
 2—4年 0.15—0.3 cc
 4—6年 0.25—0.5 cc
 6—12年 0.5—1.0 cc
 12—13年 0.7—1.3 cc

12. 神経痛・「ロイマチス」療劑 Antineuralgica und Antirheumatica

(注意：—鎮痛・鎮痙・鎮靜劑，變質劑，硫黃劑參照)

解熱劑ハ又鎮痛劑トナリ得ル(解熱・鎮痛劑 Fiebernarkotica)。

1. 「ヒノリン」誘導體→解熱劑

Bagnon

【成分】 鹽酸「キニーネ」，「カフェイン」，「ウレタン」ヲ成分トス。

Chinidlin

【成分】 「メチールクブレイン・ヂメチール，アミドヂメチール，フェニールピラツォロン」ヲ成分トス。

Indoramin

【成分】 鹽酸「キニーネ」尿素ヲ成分トス。

2. 「サリチル」製劑

Artogin 「アルトギン」(日本新藥)

【成分】 「サリチル」酸「ソーダ」，杏仁水，石炭酸及「ノボカイン」ヨリナル。

【用量】 局所皮下又筋肉内ニ1—

2 cc ヲ毎日又ハ隔日。

Attritin 「アットリチン」(林)

【成分】 「サリチル」酸「ソーダ」ト「カフェイン」

【用量】 1回2 cc ヲ1日2回又ハ隔日ニ1回靜脈内。

Capyralisan 「カピラルサン」(鳥居)

【成分】 純「サリチル」酸「ソーダ」5%，「アミノピリン」1%，硫酸「マグネシア」2%，「ウレタン」0.5%，「クエン」酸「カフェイン」0.03% 1管ニ10 cc 入。

【作用】 消炎，利尿，膽汁分泌促進作用モ有ス。

【用量】 1日1回10 cc ヲ靜脈内。

Neuromatin 「ノイロマチン」(鳥居)

【成分】 「サリチル」酸ヲ主トシ，石炭酸，其他二三ノ藥品ヲ伍ス。

【用量】 通常局所ニ1.0 cc ヲ深ク筋肉内。同時ニ4.0 cc 迄用ヒ

ラルモ1日2.0ヲ限度トシテ毎日又隔日ニ行フ。

Roision 「ロイション」(内外新藥)

【成分】 「サリチル」酸「カルシウム」，「カフェイン」ト「ヨードナトリウム」ノ複鹽ニ邦産 Menispermaceae 植物ノ有效成分ヲ配ス。

【作用】 新陳代謝機増進，末梢性血管擴張，淋巴形成促進ノ作用モアル。

【用量】 1) 毎日又ハ隔日1回10 cc ヲ靜脈内。

2) 1日1—2回1回10 cc ヲ皮下。

3. 「ピラツォロン」誘導體

Antereum 「アンテロイム」(船井)

【成分】 「ピラツォロン」誘導體，鹽酸「キニーネ」及尿素誘導體ノ2%複鹽水溶液。

【用量】 1回1—4 cc，1日1—2回，局所皮下又筋肉内。

Ciba-Algin 「チバアルギン」(Ciba)

【成分】 Diallylbarbitursäure (Dial) ト Dimethylmino-phenyldimethylpyrazolon 抱合物。

【用量】 0.5—1.0 cc 筋肉内又ハ靜脈内。

Melubrin →解熱劑

【成分】 Pylazonum-phenyldimethylamidometansulfosures-Natrium

Novalgin →解熱劑

【成分】 Methylmelubrin

Novalgin-Chinin →解熱劑

Neo-Mordyne 「ネオ・モルダイン」(鳥居)

【成分】 →Atemonin 及 Dihydro-3-6-dioxyphenathrenoxydo-9-methylamin

Ralgin 「ラルギン」(日本新藥)

【成分】 「フェニール，ヂメチール，ピラツォロン」ト「クエン」酸鹽トノ複合體溶液。

【作用】 鎮痛。血球溶解作用ナシ。

【用量】 1回1 cc ヲ壓痛點ノ筋肉内。

4. 「カンフル」製劑

Camporisin 「カンポリヂン」(山之内)

【成分】 「カンフル」濃厚水溶液。

【性状】 無色透明，特異ノ芳香アル液。

【作用】 鎮痛，消炎。

【用量】 1回1 cc ヲ局所筋肉内又ハ神經幹ニ。壓痛點ノ發見困難ナルモノハ0.3—0.5 cc 宛數ヶ所ニ菊花狀ニ注射ス。關節「ロイマチス」ニハ關節腔内ニナス。

Neoroision 「ネオロイション」(内外新藥)

【成分】 「カンフル」ニ「アミノピリン」，邦産 Menispermaceae 植物ノ有效成分ヲ配ス。

【用量】 1日1—2回，1回1 cc ヲ皮下。

5. 「キノフェン」 Quinophenum = Acidum phenylchinolin-carbonicum 劑

「キノフェン」劑ハ又尿酸代謝異常(痛風)=特異ノ整調作用ヲ示ス。

Atophanyl 「アトファニール」
(Schering)

【成分】 Atophan (2-Phenyl-chinolin-4-carbonsäure)ノNa鹽ト「サリチル」酸「ナトウウム」ノ等量(5及10%)水溶液。

【用量】 靜脈内10cc, 筋肉内5ccハ5%鹽酸「プロカイン」水溶液0.5ヲ小「アンブレ」トシテ添付サレ、用ニ臨ミテ兩液ヲ混和注射ス。

Erycon 「エリコン」(第一新藥)

【成分】 2-p-Methoxyphenylchinolin-4-carbonsäure

【性状】 微黄色結晶、微苦味、水ニ難溶、注射劑ハ類灰黄色ノ溶液。

【作用】 殺菌、消炎、鎮痛。

【用量】 1回1管(10cc)ヲ靜脈内。

Gitosan-Solution 「ギトーザン」注射液(萬有)

【成分】 2-Phenylchinolin-4-carboxylsäure(Quinophen)ト「サリチル」酸「ソーダ」ヲ各々2%, 5%, 又10%宛含ム。

【用量】 毎日5—10%, 5—10cc又ハ2%20ccヲ靜脈内又ハ筋肉内。

Hexophan 「ヘキソファン」(Höchst-Bayer)

【成分】 Oxyphenylchinolin-dicarbonensäure

【作用】 尿酸代謝整調、利尿。

【用量】 筋肉内注射1日4.0cc, 靜脈内注射1日1.0—2.0cc1管

25%溶液4cc入。

Quinophenyl 「キノフェニール」
(三共)

【成分】 靜脈内注射用ハ「キノフェンソーダ」及「サリチル」酸「ソーダ」ノ各5%ヲ含ム。筋肉内注射用ハ「キノフェンソーダ」及「サリチル」酸「ソーダ」各10%ヲ含ム。第5改正日局ノ「キノフェン」(フェニールヒノリンカルボン)酸)ニ一致ス。

【用量】 靜脈注射ハ1回10cc, 筋肉内注射ハ1回5ccニシテ添附セル5%「スピカイン」溶液0.5ccヲ同注射筒内ニ吸引シテ注射。

6. 併合其他ノ神經痛劑

(→「カンフル」製劑)

Antereum 「アンテロイム」(船井)

【成分】 「ピラツオロン」・「キニネ」・尿素ノ結合物ヲ含有ス。

【適應】 「ロイマチス」, 神經痛等

【用法及用量】 1日1—2cc皮下

Antifulgin →消炎劑

【成分】 「ヨード」, ブロム「サリチル」酸「カルシウム」, 「ウロトロピン」ヲ成分トス。

Atemonin (Shiba) →鎮痛鎮靜劑

Grelan →鎮痛鎮靜劑

【成分】 「バルピタール」, 「アミノピリン」劑。

Kalibron →補血強壯劑

【成分】 「ブロム」劑ヲ主成分トス。

Magbron →鎮痙鎮靜劑

【成分】 「ブロムマグネシア」尿素ト「ブロムマグネシア」ヲ成分トス。

Methylenblau medicinale →殺菌消毒劑

Myosaltin 「ミオサルチン」(岩城)

【成分】 Phenylpyrazolon 誘導體及Chinin鹽ヲ主劑トス。

【適應】 神經痛, 「ロイマチス」

【用量】 1回0.4—1.0皮下或ハ筋肉内。

Neo-Campeton →解熱劑

【成分】 30%「サリチル」酸「カルシウム」, 0.5%「カンフル」, 「ヨードカルシウム」, 「クロールカルシウム」, 食鹽液。

Pastrisin →消炎劑

【成分】 「サリチル」酸「カルシウム」, 「ヨードカルシウム」, 「キニネ」及「フクシン」ヲ含ム。

Pectol →解熱劑

【成分】 「ヨード」, 「キニネ」, 「サリチル」酸「カルシウム」ヲ含ム。

Phanin 「ファニン」(帝國製藥)

【成分】 Phenol, Ameisensäure, Procainノ一定量ヲ生理食鹽水ニ溶解シタルモノ。

Radiformin 「ラヂフォルミン」(ラヂウム)

【成分】 可溶性「ラヂウム」鹽, 蟻酸鹽, 「サリチル」酸鹽, 「ジメチルアミドアンチピリン」及安息香酸「ソーダカフェイン」。
1cc中ノRadioaktivitätハ平衡状態ニテ0.074「ミクロキエリー」(200マツヘ)單位ナリ。

【作用】 「ラドン」ヲ發生シ鎮痛作用ヲ呈ス。

【適應】 神經痛・腰痛・肩凝・「ロイマチス」・間歇性跛行症。

【用量】 疼痛アル局所皮下, 筋肉内或ハ神經根部ニ毎日又隔日ニ1回1—2ccヲナルベク分割注射ス。

Ratul 「ラツール」(大日製藥)

【成分】 臭化「ラナウム」。

【作用】 鎮痛, 血行促進。

【適應】 「ロイマチス」・神經痛・肩凝・腰痛・其他諸種疼痛。

【用量】 1) 「ロイマチス」, 神經痛ニハ局所筋肉内。

2) 子宮癌ニハ前腔穹窿部へ, 直腸癌ニハ會陰部, 胃癌ハ季肋部ノ筋肉内。

3) 毎日又隔日ニ1ccヲ注射

Rheumalin 「ロイマリン」(萬有)

【成分】 methylsulfonsaures Natrium 15%液。

Spamidol →鎮痛鎮靜劑

【成分】 鹽酸「ヒドロコタルニン」, 「ジメチルアミドアンチピリン」ヲ含ム。

7. 植物性製劑

Angenen 「アングネン」(大日本製藥)

【成分】 Flacourtiaceae科植物ヨリ抽出セル有效成分。

【適應】 肩凝・腰痛・神經痛・「ロイマチス」。

【用量】 患部又ハ神經壓痛點ニ1回0.3—0.5ccヲ筋肉内。神經痛・「ロイマチス」ニハ3—5日毎ニ用フ。

Antialgin → 消炎劑

【成分】 禾木科植物有效成分。

Enfusin 「エンフシン」(三共)

【成分】 朝鮮産延胡索ノ抽出成分。1%溶液。

【作用】 「コカイン」=類似ス。

【適應】 神経痛・腹痛・咳嗽。

【用量】 0.5—1 cc ヲ 壓痛點, 脊椎外側, 筋肉内。

Kreneusin 「クレノイジン」(三共)

【成分】 「クレオソート」ヲ主成分トシ *Fagus silvatica* ノ有效成分=動物臟器藥ヲ配ス。

【適應】 神経痛・「ロイマチス」・疝痛。

【用量】 1回 0.5 乃至數 cc ヲ 筋肉内, 皮下又神經幹内。

Neuphtin 「ノイフチン」(白井松)

【成分】 邦産 *Rutaceae* 屬植物ノ有效成分。

【適應】 神経痛・關節炎・「ロイマチス」・肩凝・腹痛。

【用量】 局所=1 cc ヲ 注射ス。4 cc 迄用ヒラル。毎日又ハ隔日ニ 筋肉内或ハ皮下。

Otogenin 「オトギニン」(日新醫學)

【成分】 *Guttifera* 屬葉莖中ノ「グリコシード」ヨリノ有效成分。

【適應】 神経痛・「ロイマチス」・肩凝・腰痛・帶狀匍行疹。

【用量】 1回 1—2 筒 (1.1—2.2 cc) ヲ 皮下。

Parashinomenin-hydrochlorid

鹽酸「パラシノメニン」(鹽野義)

【成分】 *Sinomenium autum*

Rehd et Wils ヨリノ結晶性「ア

ルカロイド」(即「シノニン」) 以外ニ抽出サレル第 II 「アルカロイド」。

【適應】 「ロイマチス」, 神経痛。

【用量】 1日 1—2 cc ヲ 局所皮下又上膊或ハ肩胛間。

Sinomenine 鹽酸「シノメニン」

(鹽野義)

【成分】 *Menispermaceae* 植物ノ有效成分。

【作用】 原形質毒トシテ作用シ又解熱, 血管擴張ノ作用アリ。

【適應】 「ロイマチス」, 神経痛・「マラリア」

【用量】 1日 1—2 cc ヲ 皮下。

8. 蟻 蜂 毒・筋肉「エキス」・其他臟器劑

Ameisin 「アマイジン」(林)

【成分】 0.1%純蟻酸及1%鹽酸「プロカイン」。

【適應】 「ロイマチス」・「神経痛」・腰痛・氣管支喘息等。

【用量】 1—2 cc 筋肉内。

Apicur 「アピクール」(Roche)

【成分】 純粹蜂毒ノ0.5%溶液。

【適應】 「レウマチス」疼痛(筋性・關節性)・神経痛。

【用量】 疼痛部位 *loco dolenti* 或ハ上膊ノ皮内 *intrakutan*。4—5日ノ間隔ヲ置キ 0.05cc→0.075→0.1→0.15→0.20→0.25ト進ム。

Cardinon → 臟器製劑, 強心利尿劑

【成分】 犢ノ心臟「ホルモン」劑。

Fornigen 【フォルニゲン】(日新)

【成分】 蜂毒。

Hepatoxin → 臟器製劑

【成分】 河豚ノ肝臟毒素液。

Myocanon → 臟器製劑, 強心利尿劑

【成分】 骨髄筋「アウトホルモン」。

Tetrodotoxin → 臟器製劑

9. 一般賦活劑

Moxol → 變調劑

【成分】 「ヒストキシリン」ノ「リンゲル」溶液。

Sulfan → 硫黃劑

【成分】 硫黃ト「ノボロホルム」ヲ含ム。

Sulfurol → 硫黃劑

【成分】 硫黃及「アミノ」安息香酸「エチル」ヲ含ム。

Umstin → 變調劑

【成分】 「アルレルゲン」蛋白質ヲ主成分トス。

13. 鎮痙劑 及ビ 鎮靜劑

Spasmolytica (Antispasmodica) und Sedativa

(注意: 一 鎮痛鎮靜劑参照)

小氣管支壁ノ滑平筋ノ痙攣ニヨル呼吸困難ヲ主訴トスル氣管支喘息ハ抗交感麻痺作用ヲ有スル「アトロピン」ニヨリテ緩解シ, 炎症ニヨル局所刺激ニヨル痙攣性疼痛乃至知覺神經終末興奮ニヨル疼痛ハ又消炎劑ニヨリテ原因的ニ治療サレル。

1. 阿片「アルカロイド」劑 (「パバ

ベリン」, 「アトロピン」等) 阿片「アルカロイド」劑ハ一般ニ中樞性麻痺作用ヲ示ス。「アトロピ

Vaccineurin 「ワクチノイリン」

【成分及用量】 *Prodigiosus* 及葡萄狀菌 *Staphylokokken* 培養ノ自家消化物 *Autolysat*. 腎筋注射用。0.02 ヨリ 0.5 cc ニ昇ス。

【適應】 神経痛, 神経炎ニ用ラル。又發熱療法, 流行性腦炎治療ノ意ニモ用ヒラル。

10. 局所適用劑 → (局所麻酔劑)

Novocain → 局所麻酔劑

Spiritus, Alcohol (局「アルコール」)

【成分】 40—60% ヲ用フ。

【適應及用量】 1) 喉頭結核: 一 37—40°C トシ上喉頭神經ニ向ツテ 0.5—1.5 cc ヲ舌甲狀靱帶通孔ニ注射。

2) 三叉神經痛: 一 上眼窩截痕部 (I 枝), 下眼窩管ノ卵圓孔 (II 枝), 頤窩部 (III 枝) = 注射

3) 顔面神經痛: 一 顔面神經ノ出發點ニ 0.5—1.0 cc ヲ注射

ン」ハ抗交感神經 *Parasympathicus* ヲ麻痺セシメ, 内臟滑平筋ノ痙攣ヲ解除ス。

「パバベリン」ハ又滑平筋ノ痙攣

ヲ緩解ス。

Atropin-Morphin → 鎮痛鎮靜劑

Atropinum sulfuricum ㊦ 硫酸「アトロピン」

【成分】 0.1% 溶液ヲ用フ。

【作用】 分泌抑制, 滑平筋攣縮除去。

【適應】 抗交感神經興奮(喘息・便秘・鉛痲痛), 痲痛・「モルヒネ」中毒(拮抗劑)。

【用量】 1回 0.5cc, 1日 1.0cc ヲ皮下。屢々「モルヒネ」ト伍用ス。

Dopalpin 「ドパルピン」(田邊)

【成分】 「パパベリン」=「ホマトロピン」ヲ配ス。

【作用】 「パパベリン」ハ滑平筋ヲ弛緩セシメ, 「ホマトロピン」ハ抗交感神經ヲ麻痺ス。

【適應】 諸種痲痛・滑平筋臟器ノ痲攣等ニ用フ。例ヘバ膽石症・氣管支喘息・狭心症・尿路結石・腎盂炎・月經困難・子宮痲痛・乳幼兒幽門痲攣。

【用量】 1回 0.5—1.0cc ヲ皮下。

Enspamol → 強心利尿劑

【成分】 「アトロピン」, 「アンナカ」配合劑。

Laudanon → 鎮痛鎮靜劑

Laudanon-Atropin → 鎮痛鎮靜劑

Laudanon-Scopolamin → 鎮痛鎮靜劑

Laumin → 鎮痛鎮靜劑

Narcopon-Atropin → 鎮痛鎮靜劑

Narcopon-Papaverin → 鎮痛鎮靜劑

Papatral → 鎮痛鎮靜劑

Papavel 鎮痛鎮靜劑

Pavinal → 鎮痛鎮靜劑

Scoloid 「スコロイド」(日本新藥)

【成分】 「ロート」根總「アルカロイド」。

【作用】 鎮痲, 分泌抑制

【用量】 1—2cc 皮下。

Scopolaminum hydrobromicum

㊦ 「プロム」水素酸「スコポラミン」Hyoscyaminum (ヒオスチアミン)

【作用】 「アトロピン」ト同ジク抗交感神經末梢ヲ麻痺シ, 中樞性ニハ「アトロピン」ニ反シ鎮靜的ニ作用ス。蓄積作用ナシ。運動中樞モ麻痺サス。

【適應】 運動性不安・喘息。

【用量】 1筒 0.6mg 入 1回 0.3—0.5

Spasmalgin 「スパスマルギン」

(Roche)

【成分】 1筒(1cc)中 Papaverin 0.02, Pantopon 0.01, Atrinal 0.001 ヲ含ム。

【適應】 胃痲攣・膽石症・月經困難・喘息等・痲攣・疼痛ヲ伴フ疾患。

【用量】 1日 1—2—4cc ヲ皮下又筋肉内。

2. 「マグネシア」鹽劑

「マグネシア」鹽ハ一般ニ運動機ヲ麻痺セシメル作用ヲ有ス(中樞性麻痺毒ト末梢性麻痺劑ノ中間位ヲ占ム), 又鹽類作用トシテ利尿ノ效ヲ示ス。

Magminin 「マグミニン」(日新醫學)

【成分】 硫酸「マグネシア」濃厚液ニ葡萄糖, 「プロム」鹽ヲ配ス。

【作用】 鎮靜・鎮痲・強心・利尿。

【適應】 諸種痲攣。

【用量】 1) 1日 1回 20cc ヲ靜脈内。
2) 小兒ニハ 1日數回 小兒用(1A=1.1cc)ヲ1cc宛。Magbron (武田), Magmin (東洋新藥) 等ノ類似品アリ。

Magaton → 變調劑, 自律神經疾患劑

Magnesium sulfuricum ㊦ 「硫酸マグネシア」

【成分】 25% 溶液ヲ用フ。

【作用】 運動神經系統ヲ麻痺ス。大量ハ呼吸中樞ヲ麻痺サス。「カルシウム」劑ノ拮抗劑タリ。

【用量】 1日 2—4回宛 1回 5.0—8.0cc ヲ用フ。皮下, 筋肉内。

Magnesol 「マグネゾール」(鳥居)

【成分】 10% 硫酸「マグネシア」溶液ニ「デキストローゼ」ヲ附加ス。

【適應】 痲攣性疾患(子痲・尿毒症)。

【用量】 1回 20cc ヲ靜脈内, 重症子痲ニハ30分後第2回目ヲ注射ス。浮腫ニハ1日 1—2回。

Magserin 「マグセリン」(日本新藥)

【成分】 硫酸「マグネシア」25% 溶液ニ「プロム」鹽ヲ配ス。

【作用】 末梢性鎮痲作用及中樞性鎮靜作用。

【適應】 各種痲攣・百日咳・破傷

風ノ痲攣・浮腫。

【用量】 1日 3—4回宛 1cc 宛皮下。

Solutio Annaca-Magnesium 安

那加「マグネシウム」液(厚生社)

【成分】 10% 葡萄糖液ニ硫酸「マグネシア」ト安息香酸「ソーダカフェイン」ヲ配ス。

【用量】 痲攣ニ 1回 20cc ヲ靜脈内。

Spaglin 「スパグリリン」(武田)

【成分】 硫酸「マグネシア」ヲ2%, 10%, 25% ノ割合ニ5%, 10% ノ葡萄糖液中ニ和ス。

【作用】 鎮痲, 鎮靜, 利尿, 解毒。

【適應】 「カタル」性黄疸・膽囊炎・膽管炎・膽石症・痲攣性疾患・氣管支喘息・精神神經科領域ノ興奮・子痲・浮腫・尿毒症・破傷風・慢性「モルヒネ」中毒・「モルヒネ」又「エーテル」ノ麻酔效力ノ増強。

【用量】 1) 皮下注射ハ成人 10—25% 液, 10—20cc ヲ1回量トシ必要アレバ1日 2—3回。

2) 小兒ニテ 25% 1cc。

3) 筋肉内, 靜脈内注射可能ナリ。濃厚液ノ靜脈注射ハ惡寒戰慄ヲ來スコトアルヲ以テ少量ヨリ初ム。中毒症狀ニハ「カルシウム」ヲ用フ。

3. 「フェノバルビタール」 Pheno-barbitalum 劑

Luminal 「ルミナール」(Bayer)

【成分】 Phenylacethylmalonyl-harnstoff

【作用】 Luminal-natrium ハヨク水ニ可溶。Luminal モ特殊溶媒(「メチルアセトアミド」)ニハヨク溶ケ注射用トサル。催眠鎮痛ノ作用ハ迅速。

Luminal-Natrium 「ルミナールナトリウム」(Bayer)

【成分】 「ルミナール」ノ「ナトリウム」鹽水溶液。

【適應】 癲癇・不眠症・興奮状態・痙攣・騒狂状態・震顫麻痺・偏頭痛・吃逆・舞蹈病・百日咳。

【用量】 20%溶液ヲ用フ。市販サルルモノ0.22g入。「アムブレ」内容ヲ1.0ccノ滅菌冷蒸溜水ニ溶解注射ス。又「ルミナール・ナトリウム」ノ末2.0gヲ滅菌冷蒸溜水8.0ccニ溶解濾過シテ約其2.0ccヲ皮下。

Lumitropin 「ルミトロピン」(ラヂウム)

【成分】 「フェノバルビタール」, 「アンナカ」, 硫酸「アトロピン」, 「アクトコール」ヲ主成分トス。

【作用】 鎮痙, 鎮靜, 鎮咳, 強心
【適應】 痙攣・狂躁状態・喘息・百日咳・神經性嘔吐・週期性嘔吐・不眠。

【用量】 1) 大人1回1—3cc。
2) 乳兒ハ0.2—0.3cc, 2—3年ハ0.3—0.4cc, 4—6年ハ0.4—1.0ccヲ皮下又ハ筋肉内。
3) 30—60分後再ビ注射シ得。

4. 「ブロム」劑

中樞性ノ鎮靜作用ヲ有ス。諸種ノ鎮靜, 鎮痙劑ト併用サル。

「ブロム」ハ又消炎作用ヲ有ス。

Brocanon 「プロカノン」(中外)

【成分】 10%葡萄糖ニ「ブロムカルシウム」2%ヲ配合。

【適應】 鎮靜, 榮養, 強心, 止血

Brocose 「プロコース」(三共)

【成分】 「ブロムカルシウム」5%ト葡萄糖10%ヨリナル。

【適應】 神經衰弱・癲癇・不眠・妊娠嘔吐・子痲・「ヒステリー」・濕疹・蕁麻疹。

【用量】 1回10—20ccヲ毎日又ハ隔日靜脈内。

Brodexin 「プロデキシン」(日新醫學)

【成分】 「ブロムカルシウム」2%ト純葡萄糖10%

【用量】 1日1回20ccヲ靜脈内。

Bromag 「プロマーグ」(日本新藥)

【成分】 「ブロム マグネシウム」 $MgBr_2$ (5%)ニ高張葡萄糖(10%)ヲ配セル透明ナル液。

【作用】 鎮靜(ブロム)及鎮痙(マグネシウム), 及ビ葡萄糖ノ解毒, 利尿, 強心作用。

【適應】 神經痛・「ロイマチス」・肩凝・腰痛・神經衰弱・氣管支喘息・胃痙攣・帶狀疱疹・妊娠惡阻。

【用量】 1回20ccヲ隔日又毎日靜脈内。

Brom-Calcium Lösung 「ブロムカルシウム」液

2, 3及5%溶液アリ。1管5cc, 10cc及20cc入。鎮靜, 消炎, 止血ノ目的ニ1回5—20ccヲ靜脈内。

Brom-Grelan →鎮痛鎮靜劑

Erom-Iveton →強心利尿劑

Bronatrin 「プロナトリン」(日本新藥)

【成分】 「ブロムナトリウム」ヲ主成分トス。

【作用】 鎮靜, 鎮痙。

【適應】 癢痒性皮膚病・各種疼痛・出血(咯血・吐血・下血・血尿等)・癲癇・痙攣・神經衰弱・「ヒステリー」・不眠症・嘔吐・「テタニ」。

【用量】 初メ5—10ccヲ, 次第ニ20ccニ増量ス。毎日又隔日ニ靜脈内。

Bros-Lodion 「ブロス・ロヂノン」(武田)

【成分】 10%Bromstrontiumニ20%Dextroseヲ配ス。

【作用】 鎮靜, 止痒, 消炎, 骨質新生促進。

【適應】 濕疹・蕁麻疹・諸種ノ癢痒性疾患・藥物性皮膚病・氣管支喘息・枯草熱・膜様結腸炎・急性炎症性淋巴腺炎・クインケ氏浮腫・小兒痙攣・手術後ノ肺炎。

【用量】 1回4—15ccヲ隔日又ハ1週ニ2—4回靜脈内。場合ニヨク毎日注射ス。

Jukurotol 「ユクロトール」(日新醫學)

【成分】 「ブロムナトリウム」10%, 鹽化「カルシウム」2%, 葡萄糖10%。

【適應】 癢痒性疾患・神經衰弱・不眠症・婦人科領域ノ炎症。

【用量】 毎日1回5—20ccヲ靜脈内。

Kalibron 「カリブロン」(三共)

【成分】 「ブロムカリ」1.0, 「ブロムカルシウム」1.0, 「ヨードカルシウム」0.3, 硝酸「ストリキニ」0.002

【適應】 頭痛・不眠・神經痛・「ヒステリー」・痙攣・胃炎・惡阻・濕性肋膜炎・「ネフローゼ」・浮腫等。

【用量】 毎日又隔日ニ2—5ccヲ靜脈内。

Magbron 「マグブロン」(武田)

【成分】 「ブロムマグネシウム」尿素ト「ブロムマグネシア」ヨリナル。

【作用】 鎮靜, 鎮痛, 鎮痙。

【適應】 神經痛・「ロイマチス」・氣管支喘息・神經衰弱・睡眠障礙・癢痒性疾患・痙攣諸症。

【用量】 1回1管(10cc)ヲ毎日又ハ隔日ニ主トシテ靜脈内。注射後温感ヲ訴フルコトアリ。皮下, 筋肉内注射可能。

Nahrbron 「ネーヤブロン」(田邊)

【成分】 「イソワレリアン」酸ノ「カルシウム」鹽ニ「プルホサリチル」酸「カルシウム」鐵, 「ブロムカルシウム」, 葡萄糖ヲ配セル微黄色中性液。

【作用】 鎮靜, 鎮痛, 神經機能整調。

【適應】 神經衰弱・「ヒステリー」・不眠症・其他ノ神經系疾患・耳鳴・眼精疲勞・癢痒皮膚病。

【用量】 1回5—20ccヲ毎日又ハ隔日ニ靜脈内。

Tocanon 「萬有トーカーノン」(萬有)

【成分】 「ブロムカルシウム」2—3%ト無水純葡萄糖10%ヨリナル。

【適應】 神經性諸疾患・妊娠惡阻・喘息・神經痛・月經難症・結核症疾患・蕁麻疹・濕疹・痒疹等ノ皮

膚諸疾患。

【用量】 毎日 1 回 20 cc 宛 靜脈内。

5. 併合其他ノ鎮痙・鎮靜劑

Antasthol → 臓器製劑, → 喘息劑

Cephadol 「セファドール」(日本新藥)

【成分】 「グリコン」酸「キニーネ」, 「ウレタン」, 硝酸「マグネシウム」ヲ主成分トスル液。

【作用】 腦内血管ノ擴大・收縮ヲ整調ス。

【適應】 偏頭痛, 諸種疾患ニヨル頭痛。

【用法及用量】 1 管 3 cc 靜脈内注射。

Eutolmin 「オイトルミン」(三共)

【成分】 「ゲンノシヨウコ」ノ有效成分「ゲラニン」2%ニ硫酸「アトロピン」0.05%ヲ含ム。

【作用】 鎮痙(滑平筋), 強心。

【適應】 胃腸「カタル」・胃出血・腸出血・腹膜炎・子宮痙攣及出血・悪阻等。

【用量】 1 回 0.5—1 cc, 1 日 3 回迄皮下。

11. 流行性腦炎, 外錐體道系ニ作用スル藥劑

Injektionsheilmittel gegen Encephalitis epidemica u. extrapyramidalen Syndrome

流行性腦炎ノ急性期ニハ「ヘキサメチレンテトラミン」(「ウロトロピン」), 「アクリチン」色素等ノ殺菌消毒劑, 恢復期血清。筋強剛, 震顫等ヲ緩和スルモノガ試ミラル。

Hypotin 「ヒポチン」(田邊)

【成分】 Rhocadinae 中ノ有效成分ニ Solanaceae 植物中ノ「アルカロイド」ヲ配ス。

【作用】 滑平筋收縮緩解, 腸蠕動ニハ影響ナシ, 鎮痛, 鎮靜, 麻醉劑。

【適應】 腹痛・痙攣性便秘・喘息・狭心症・流産・子痙。

【用量】 1 回 1 cc ヲ皮下。1 日 2—3 回迄。

Octinum 「オクチヌム」(Knoll)(三共)

【成分】 Methyloctenylamin (aliphatische Base) 1 筒(1cc) 中ニハ鹽酸「オクチヌム」0.1 g ヲ含ム。

【適應】 鎮痙・鎮靜劑トシテ胃腸潰瘍・諸種痙攣(胃腸手術ニ隨伴スル痙攣・痙攣性便秘)・膽管・膀胱ノ痙攣・痙攣性月經困難), 妊娠嘔吐。

【用量】 1 日 2—3 回 1 cc 宛皮下又ハ靜脈内。

Verocetin → 鎮痛鎮靜劑

【成分】 「ヂエチールバルピツール」酸ト「パラアセトフェネチヂン」ノ結合物。

Amphotropin-Lösung 「アムフトロピン」注射液 (Bayer)

【成分】 「ヘキサメチレンテトラミン」ニ樟腦酸ヲ結合セシム。

【作用】 尿路消毒, 膽囊防腐消毒。

【適應】 腎盂炎・膀胱炎・膽囊炎

流行性腦炎・腦膜炎。

【適應】 腎盂炎・膀胱炎・膽囊炎

流行性腦炎・腦膜炎。

Bulbocapnin 「ブルボカプニン」

(Merek) (Schmidt)

【成分及用量】 Corydalis cava ノ

「アルカロイド」Bulbocapnin

ノ鹽酸鹽。0.05—0.1 皮下ニ與

フ。1「アンブレ」=1.1 cc。

【適應】 慢性震顫性疾患・眼球震

盪症(慢性流行性腦炎・震顫麻

痺・書痙)。

Harmin 「ハルミン」(Merek Schmidt)

(武田)

Harminum hydrochloricum

Harmin hydrochlorid 鹽酸「ハル

ミン」(武田)

【成分】 芸科植物 Peganum

Harmala ヨリ抽出セル「アル

カロイド」ノ鹽酸鹽 $C_{13}H_{12}N_2$

$O \cdot HCl + 2H_2O$

【作用】 錐體道外系ニ作用シ運

動機ヲ良好トス。腦皮質ハ興奮

セシメラル。

【適應】 腦炎後ノ「バルキンソニ

スムス」其他ノ後發症狀・震顫

麻痺・一酸化炭素中毒後ノ強

直・動脈硬化性筋強直・「ミアス

テニー」・癲癇。

【用量】 1 日 1 回 2 cc (0.02g) ヲ

皮下。輕快セザレバ 1 日 2 回。

Scopolamin-präparate → 鎮痛劑

【作用】 筋ノ強直ヲ緩和ス。

Vaccineurin → 鎮痛劑, 「ロイマチ

ス」劑。

15. 局所麻醉劑 Lokalanästhetica

(注意: — 鎮痛, 鎮痙, 鎮靜劑参照)

身體ノ一定部位ニ限局シテ當該域ノ知覺神經幹及ビ末梢裝置ヲ麻痺セシメテ知覺ヲ脱失セシメル藥劑ヲ云フ。

Acoin 「アコイン」(Heyden) (田邊)

【成分】 Di-p-anisyl-mono-

phenet Iguanidin ノ鹽酸鹽。

水溶性, 「コカイン」代用品。

【用量】 浸潤麻醉劑トシテ 0.1—

1% 溶液ヲ用フ。

Allocaïn S. 「アロカイン-エス」

(大日本新藥)

【成分】 鹽酸「アロカイン」 C_{20}

$H_{25}NO_2 \cdot HCl$ ヲ生理食鹽水ニ

溶解ス。

【適應及用量】 「ノボカイン」ニ

準ズ。

Alypin hydrochloricum 鹽酸「ア

リピン」(Bayer)

【成分】 Benzoyl-tetramethyl-

diamino-aethylisopropyl-alko-

hol ノ Monochlorhydrat

【作用】 局所麻酔, 稀薄重炭酸

「ソーダ」液ノ添加ニヨリ作用

ガ強化サル。

【用量】 「コカイン」ト同シ。通常

0.5—1.0%ヲ用フ。

Apothesin 「アポセシン」(Parke-Davis—三共)

【成分】 桂皮酸ノ「プロピールエステル」。

【用量】 0.5—1%ヲ浸潤, 傳達麻醉劑トス。

Bancain 「バンカイン」(萬有)
→「ノボカイン」。

Larocain 「ラロカイン」(Roche)

【成分】 1-p-Aminobenzoyl-2, 2-dimethyl-3-diäthylamino-propanol-hydrochlorid

【適應及用量】 「コカイン」代用合成品。毒作用, 副作用ハ少ナシ。傳達麻醉 = 0.25—2%。表面麻醉 = 2—10%。

Narcain-Pulver 「ナルカイン」末
(鹽野義)

【成分】 鹽酸「パラブチルアミノペンツォイルヂメチルアミノエタノール」 $C_4H_9NH-C_6H_4-COOC_2H_4N(CH_3)_2HCl$
→ Pantocain

Neothesis-S. 「ネオテシン・エス」
(三共)

【成分】 「ネオテシン」(「アミノ」安息香酸「エチル」) = 無毒性鹽類ヲ結合セシム。「ネオテシン」70.641%ヲ含ム。

【適應】 局所麻醉劑トシテ用フ。鹽酸「コカイン」ニ代用シ得。

【用量】 局所ノ浸潤麻醉ニハ 0.3%ヲ用フ。

Nosuprin 「ノズプリン」(Bayer)
→ Neo-Nosuprin

Neo-Nosuprin 「ネオ・ノズプリン」
(Bayer)

【成分】 「ノボカイン」及ビ「ズブラレニン」。

【適應】 血性「アルカリ」性トシタル局所麻醉劑(主トシテ齒科深達麻醉)。

【用量】 2%ヲ用フ(1及2ccノ「アンプル」)

Novocain 「ノボカイン」(Höchst-Bayer)

【成分】 p-Aminobenzoyldiäthylaminoäthanolノ鹽酸鹽。

【適應】 局所麻醉劑トシテ用フ。

【用量】 1) 浸潤麻醉ニハ 0.5%「ノボカイン」液 = 1,000倍「ズブラレニン」ヲ 100ccニツキ 10滴ノ割合ニ加フ。液ハ大抵 0.9%食鹽水ヲ用フ。

2) 傳達麻醉ニハ 1—2%「ノボカイン」液 = 1,000倍「ズブラレニン」ヲ 1ccニツキ 1滴ノ割ニ用フ。

3) 腰椎麻醉ニハ 1,000倍「ズブラレニン」ヲ 10%溶液 1cc又ハ 5%溶液 2ccニツキ 5滴ノ割ニ加ヘタルモノ, 前者 1.25—1.8cc, 後者 2—3ccヲ用フ。

4) カテラン氏麻醉ニハ 1—2%「ノボカイン」液 = 1,000倍「ズブラレニン」ヲ 100ccニツキ 10滴ノ割ニ加ヘ用フ。0.3—0.5%ノ食鹽水ヲ用ヒ, ナホ 0.25—0.5%重炭酸「ソーダ」ヲ配伍ス。

5) 坐骨神經痛ニハ 生理食鹽水中ニ「ノボカイン」ヲ 0.5%ノ比ニ溶解シタルモノヲ 數十cc壓痛點ニ深ク注射ス。

6) 粘膜麻醉ニ 5—20%「ノボカイン」溶液ニ適當ノ「ズブラ

レニン」ヲ用フ。

Nupercain 「ヌベルカイン」(Ciba)

【成分】 α -「ブチール, オキシチンヒヨニン」酸「ヂエチールエチレンヂアミド」ノ鹽酸鹽。
 α -Buthyloxycinchoninsäure-diaethyläthylen diamidchlorhydrat

【作用】 局所麻醉劑, 1,000倍溶液ハ 100倍ノ「コカイン」溶液ト同一效力アリト云フ。

【用量】 1) 皮下ニ注射シ得ル最大量ハ人體 1kgコツキ 0.002—0.003gナリ。其ノ使用量次ノ如シ。

0.05%(2,000倍)溶液……200cc
0.1%(1,000倍)溶液……90cc
0.2%(500倍)溶液……40cc

2) 頭部, 頸部及性器等ノ危險ナル部位ニテハ次ノ用量トス。
0.05%……120cc
0.1%溶液……60cc

3) 溶液注射ハ緩徐ニ行ヒ靜脈内ニ入ラザルヤウ注意ス。

4) 「アルカリ」ニ鋭敏ナルヲ以テ硬質耐子容器ニ保存ス。「アルカリ」劑トノ配伍ヲ避ク。

5) 浸潤麻醉法ハ眞皮ニ密接シテ行ヒ皮内ニ浸潤セシムル要ナシ。皮下脂肪組織内ニ行ハザルヲ可トス。0.05—0.1%溶液 100ccニ對シ「エピネフリン」, 「アドリナリン」等 10—12滴或ハ必要アレバ 20滴ヲ添加ス。

6) 傳達麻醉法ハ 0.1—0.05%ヲ浸潤麻醉法ト同様ニ用フ。

7) 腰椎麻醉法ハ 0.5%溶液 1.5ccヲ標準トシ, 體質ニヨリ

1.0—1.8ccヲ用フ。

8) 薦椎麻醉法ハ 0.2%溶液 20—30ccヲ用フ。「アドリナリン」添加ノ割合ハ 100cc毎ニ 12—20滴トス。

9) 薦椎側部麻醉法ハ 0.05%溶液 40ccヲ加フ。「アドリナリン」ハ 100ccニツキ 10—12滴或ハ 20滴トス。

10) 脊椎側部麻醉法ハ各神經幹ニ 0.1%溶液 100ccニ「アドリナリン」又ハ「エピネフリン」ヲ 10—12滴添加セルモノヲ各々 10cc宛使用ス。溶液ヲ脊髄管内ニ達セシメザルヤウ注意スベシ。

11) 粘膜表面麻醉ニハ 0.1—2%ヲ用フ。

Pantocain 「パントカイン」(Bayer)

【成分】 p-Butylaminobenzoyl-dimethylaminoäthanolノ鹽酸鹽。

【適應】 表面麻醉ニハ 1—2%。傳達麻醉ニハ 0.2%液(其 1ccニ就キ千倍「エピレナミン」液 1滴ヲ加フ)。

Paranaesin 「パラネシン」(武田)

【成分】 1cc中鹽酸「ペンツォイルヂエチール, アミノエタノール」0.02「フェノール」0.03 1,000倍「パラネフリン」 $\frac{2}{5}$ 滴, 食鹽 0.007gヲ含ム。

【適應】 「コカイン」・「バンカイン」(萬有)等ニ同ジク局所麻醉劑トシテ用フ。

【用量】 →Novocain

Scurocaine 「スクロカイン」(Ushi

ne du Rhone-丸善)

【成分】 p-Aminobenzoyldiethylaminoethanol C 溶液 5%
ハ Scurocaine 0.15, Scurenaline 0.00012, Serum phs. 3.0 cc ヨリ, F 溶液 4% ハ Scurocaine 0.12, Eau dist. 3.0 cc ヨリナル。

【適應】 腰椎麻酔劑。

【用量】 通常 2.2—2.5 cc

Spicain 「スピカイン」(三共)
Novocain ニ同ジ。

Tropacocaine hydrochloride solution ⑤鹽化「トロパコカイン」(小田井)
【成分】 Benzoyl-Pseudotropein ノ鹽酸鹽。

【作用】 鹽化「コカイン」ニ似ルモ、毒性少ナシ。

【適應】 脊椎性麻酔劑・眼科用局所麻酔劑ノ他局所麻酔。1%, 2%, 3%, 4%, 5%, 6%, 10% 溶液アリ。「アンブレ」(三研, 林)アリ。

Tutocain 「ツトカイン」(Bayer)

【成分】 p-Aminobenzoyldiethylaminomethyl-butanol ノ鹽酸鹽。

【適應】 「ノボカイン」・「コカイン」ノ代用品。

【用量】 浸潤麻酔 0.2% 溶液。傳達麻酔トシテ 0.5% 溶液。粘膜表面麻酔ニハ 2—5%。

16. 消炎劑

Antiphlogistica, anticatarrhalische Mittel

(注意：一神經痛劑，結核劑，殺菌消毒劑，硫黃劑，變調劑參照)

1. 「カルシウム」劑ヲ主成分トスルモノ

Afenil 「アフェニール」(Knoll)(三共)

【成分】 10% 「クロルカルシウム」尿素，「カルシウム」31.6%，尿素 68.4%。

【適應】 喘息・蕁麻疹・感冒・出血等。

【用量】 1回 10 cc 靜脈内。毎日又 3日毎。

Brom-Calcicol 「ブロムカルチコール」(大日本製藥)

【成分】 「ブロムカルシウム」2%，「グリコン」酸「カルシウム」3%

ヨリナル。

【適應】 肺結核・肋膜炎・蕁麻疹・濕疹・「ノイローゼ」・不眠・嘔吐・痙攣・喘息等。

【用量】 毎 1—2日，10—20 cc ヲ靜脈内 小兒ハ 5—10 cc。

Calcibronat (Sandoz) 「カルチプロナート」(サンド)

【成分】 「ブロム・ラクトビオン」酸「カルシウム」(C₁₂H₂₁O₁₂)₂ Ca·CaBr₂·6H₂O。水溶性ニシテ内服又筋肉内，靜脈内ニ注射。

【適應】 Ca ト Br. ノ適應ニ準ズ。「ブロム」ノ副作用ハ「カルシウム」ニヨリテ阻止サルト。濕

疹ニ外用劑ノ補助劑トシテ用ヒラル。

【用量】 大人 1日 3—5g 2—3回，特ニ就床前 1回服用。

注射液ハ 12.4% ノ溶液ニシテ 10% ノ Calcium “Sandoz”

1.9% 「ブロム」成分比ニ相當ス。1管ハ 5—10 cc。1週間 2—3回 10 cc 宛筋肉内或ハ靜脈内。

Calcium chloratum ⑤鹽化「カルシウム」

【成分】 1—2—3—5% 溶液トシテ用フ。數社ヨリ市販サル。10% 溶液ハ止血ノ目的ニ供セラル。

【作用】 強心作用アリ。「ヂギタリス」葉ノ強心作用ヲヨリ強盛ナラシムルト云フ。鎮痙，解毒，消炎，凝血及石灰分沈著作用アリ。「ナトリウム，イオン」ニ作用上拮抗ス。神經系ノ興奮性ヲ減シ交感神經ノ緊張ヲ高ム。

【適應】 出血・「テタニー」・結核性疾患・濕疹・氣管支喘息・蕁麻疹。

【用量】 隔日又ハ毎日 1—3% 溶液ヲ 10—20 cc 靜脈内。

Chlodexin 「クロテキシニン」(日新醫學)

【成分】 鹽化「カルシウム」2%ニ葡萄糖 10% ヨリナル。

【適應】 榮養障礙 諸症・呼吸器病・皮膚病・丹毒・肋(腹)膜炎・出血性諸疾患。

【用量】 毎日 1回 20 cc 靜脈内。

Dextrose-Calcium 葡萄糖「カルシウム」注射液(マルコー小島)

【成分】 10% 葡萄糖ニ 2% 「クロールカルシウム」，1% 「サリチ

ル」酸「ソーダ」ヲ配ス。1「アンフル」ハ 20 cc 入。

【作用】 強心，利尿，榮養，解毒，解熱，鎮痛，止血。

【用量】 1回 1管ヲ毎日又ハ隔日ニ靜脈内。1回 40 cc 迄。

Jod-Brocannon 「ヨード・ブロカノン」(中外)

【成分】 Brocannon 20 cc 中ニ「ヨードカルシウム」2% ヲ配合。

【適應】 消炎，解毒，變質。

Lodinon-Calcium →強心利尿劑

【成分】 10% 葡萄糖液ニ「クロール，カルシウム」2% ヲ配ス。

Solutio calcii chlorati pro

Inject. 鹽化「カルシウム」注射液 1, 3, 4, 5% 溶液アリ。

【適應】 結核・蕁麻疹・咯血・肋膜炎。

【用量】 1日 1回 5—20 cc ヲ靜脈内。數社ヨリ市販サル。

2. 「サリチル」酸「カルシウム」ニ葡萄糖・「ヨード」・「ブロム」等ヲ伍シタルモノ

Allestin 「アルレスチン」(中村謙)

【成分】 「サリチル」酸「カルシウム」，カフェインニ「ヨード」及「ブロム」ヲ配ス。

【適應】 尿路疾患・肋膜炎・關節炎・腹膜炎・子宮周圍炎・盲腸炎・神經痛・關節「ロイマチス」・喘息。

【用量】 毎日又ハ隔日ニ 1回 20 cc ヲ靜脈内。衰弱甚シキ者，高年者，血管硬化症ニハ注意ス。

Antiurticol 「アンチウルチコール」

(日本新藥)

【成分】「サリチル」酸「カルシウム」ト「ブロムカルシウム」。

【適應】蕁麻疹・濕疹・苔癬・外陰部癢痒症等。

【用量】毎日又隔日 = 10—20 cc 宛靜脈内。

Cacatin 「カカチン」(中村澁)

【成分】「テオプロミン」ニ「サリチル」酸「カルシウム」ヲ配ス。

Ogimol 「オギモール」(日新醫學)

【成分】5%「サリチル」酸「カルシウム」溶液。

【適應】肋膜炎・腹膜炎・肺炎・結核・「ロイマチス」・腹水・睾丸炎。

【用量】1日1回20 cc 宛靜脈内。

Pastrisin 「パストリジン」(日新醫學)

【成分】「サリチル」酸「カルシウム」, 「ヨードカルシウム」, 「キニーネ」鹽基, 「フクシン」。

【適應】結核性疾患・肋膜炎・神經痛・神經衰弱。

【用量】1日1回20 cc 宛靜脈内。

Pleunin 「プロイニン」(日新醫學)

【成分】「サリチル」酸「カルシウム」カフェイン, 「ヨードキニーネ」鹽及純葡萄糖。

【適應】肋膜炎・腹膜炎・肺炎・「ロイマチス」・神經痛, 其他「サリチル」酸・「ヨードカフェイン」・「キニーネ」ノ適應症ニ準ズ。

【用量】毎日1回20 cc 靜脈内。

Refresin 「レフレンシン」(大東化學)

【成分】「ヨード」1.56%, 「ナフ

タリンズルフォン」酸「アルミニウム」0.5%, 「サリチル」酸「カルシウム」2%, 葡萄糖5%ヲ含ム。

【作用】吸收, 消炎, 止血, 新陳代謝促進等。血液凝固作用ナク, 血球ニ影響セズ。

Sajobrolin 萬有「サヨプロリン」

(Banyu)

【成分】「オルトブロムヨード」, 「サリチル」酸「カルシウム」ヲ主トス。

【適應】肋膜炎・腹膜炎・關節炎・子宮附屬器炎・「ロイマチス」・神經痛・肺結核各期・肺炎「カタル」・喘息發作・流行性感胃・濕疹・蕁麻疹等。

【用量】急性疾患ニハ毎日1—2回25 cc 宛ヲ注射シ慢性疾患ニハ毎日1回25 cc 宛ヲ靜脈内。

Salso-Brocanon 「ザルソプロカ

ノン」(中外新藥)

【成分】「プロカノン」ニ「サリチル」酸「ソーダ」2.5—5.0%ヲ伍ス。「プロカノン」ハ高張葡萄糖液10%ニ「純ブロムカルシウム」2ヨリナル。

【作用】「カルシウム」ニヨル鎮靜, 滲出抑制, 消炎, 止血作用, 葡萄糖ノ榮養, 利尿, 強心, 解毒作用, 「ブロム」劑ノ鎮靜作用。「サリチル」酸ノ鎮痛, 解熱及ビ「ロイマチス」ニ對スル特異的作用。

【用量】1) 2.5%ヨリ始メ5.0%ニ至ル。

2) 1回ノ注射量ハ20ccヨリ始メ, 隔日又毎日靜脈内。「カルシ

ウム」ニ對シ過敏ナル者又ハ衰弱者ハ10—15 ccヨリ始ム

3) 1「クール」ハ10—20回。

Salso-Brodexin 「ザルソプロデキ

シン」(日新醫學)

【成分】「プロデキシン」ニ「サリチル」酸「ソーダ」3%ヲ配ス。

【作用】解熱, 鎮痛, 消炎, 鎮靜。【適應】「サリチル」酸「ソーダ」ノ適應症(肋膜炎・神經痛等)及「プロデキシン」ノ適應症ニ準ズ。

【用量】毎日又隔日 = 20 cc 宛靜脈内。

Salso-Grelan 「サルソグレラン」

(柳澤一武田)

【成分】1管(20 cc)中ニ含ム成分次ノ如シ。

「グレラン」0.2, 「サリチル」酸「ソーダ」0.2, 「サリチル」酸「カルシウム」0.2, 「サリチル」酸「ストロンチウム」0.1, 「グルコン」酸「カルシウム」0.8, 「ブロムナトリウム」0.5, 葡萄糖2.0。

【作用】鎮痛, 解熱, 殺菌, 消炎, 強心, 利尿, 榮養。

【用量】「ブロムグレラン」ニ同ジ。

Solutio calcii salicylici pro**Inject.** 「サリチル」酸「カルシウム」注射液

2%及3%アリ。1管20 cc 入。解熱, 消炎, 鎮痛劑トシテ1回20 cc 宛靜脈内, 數社ヨリ市販サル。

Tacamol 「タカモール」(三共)

【成分】2—3%「サリチル」酸「カルシウム」。

【作用】消炎, 鎮痛, 解熱, 利尿。

【用量】1) 毎日又ハ2—5日目毎ニ3%溶液20 cc 宛靜脈内。

2) 皮下注射ハ2%溶液10—20 cc 宛肩胛間部ニナス。

3) 1「クール」ハ約15回。

Neo-Tacamol 「ネオタカモール」

(三共)

【成分】3%「タカモール」(「サリチル」酸「カルシウム」)ニ10%ノ割ニ葡萄糖ヲ加フ。

【用量】1回20 cc 靜脈内。

Tacarose 「タカローゼ」→解熱劑

3%「サリチル」酸「カルシウム」ト10%ノ葡萄糖ヲ含ム滅菌溶液。

3. 「グルコン」酸「カルシウム」ヲ主成分トスルモノ

Acricol →殺菌消毒劑

【成分】3.6「ジアミノ」10「メチルアクリヂニウム」, 「クロリツド」, 「サンカール」, 葡萄糖ヲ含有ス。

Calcium-Sandoz 「カルシウム・ザ

ンド」(鹽野義)

【成分】「グルコン」酸「カルシウム」ノ10%滅菌水溶液, 石灰含量9.3%。

【作用】消炎, 止血, 強心等。

【適應】出血・炎症性及滲出性疾患・皮膚疾患・發疹・「サルバルサン」併用注射・喘息。

【用量】1) 大人10 cc 宛2—3日毎ニ皮下, 筋肉内或ハ靜脈内。

2) 小人ハ2—5 cc 宛2—3日毎ニ行フ。

【注意】注射器ノ消毒ハ煮沸ヲ可トス。「アルコール」ニヨリ沈澱ヲ生ズ。

Caldexan 「カルデキサン」(日新醫學)
「カルチコール」ニ準ズ。

Calcicol → 強心利尿劑

【成分】 8.5%ノ葡萄糖酸「カルシウム」液。

Calglin 「カルグリン」(Comet)
(黒田)

【成分】 「グルコン」酸「カルシウム」ノ 10%水溶液。→ Calcium Sandoz, Colcicol

Calkose 「カルコーゼ」(藤澤)

總テ「カルチコール」ニ準ズ。1日1回大人 5.0—10.0 cc, 小兒ハ 2.0—5.0 cc ヲ皮下, 筋肉内或ハ静脈内。

Glycal 「グリカール」(大木)

【成分】 「グルコン」酸「カルシウム」ノ 8.5%水溶液。→ Calcium Sandoz

Sancal 「サンカール」(三共)

【成分】 8.5%「グルコン」酸「カルシウム」液。

【適應】 肺結核・氣管支喘息・「テタニー」・結核性關節炎 淋腺炎・其他「カルシウム」ノ適應症。

【用量】 1回 5—10 cc 1—2日ノ間隔ニテ, 静脈内, 皮下, 筋肉内。

Solutio glucosi calcii pro Iniectione 三共「カルシウム」葡萄糖注射液(「サンカール」糖液)(三共)

【成分】 「サンカール」4.5%ト純葡萄糖 10%トヲ含ム「カルシウム」及葡萄糖ノ互助作用ヲ有スル注射液。

【用量】 1回 10—20 cc 静脈内。

4. 「ブロム」劑 Brompräparate → 鎮靜劑

Brocanon → 鎮靜劑

Brom-Calcium Lösung → 鎮痙鎮靜劑

Brom-Grelan → 鎮痛鎮靜劑

Brom-Iveton → 強心利尿劑

Bros-Lodinon 鎮痙鎮靜劑

【成分】 「ブロム・ストロンチウム」10%ト純葡萄糖 20%液。

Jukurotol → 鎮痙鎮靜劑

【成分】 「ブロム, ナトリウム」, 「クロールカルシウム」, 葡萄糖液。

Kalibron → 補血強壯劑

【成分】 「ブロムカルシウム」, 「ブロムカリ」, 「ヨードカルシウム」, 「ストリキニーネ」ヲ含ム

5. 諸種藥劑ノ併合

Anticalolin 「アンチカロリン」

(鳥居)

【成分】 「オルト・ブローム・サリチル」酸「カルシウム」。

【用量】 毎日或ハ隔日 1管(25cc) 静脈内。

Antientin 「アンチエンチン」(東洋新藥)

【成分】 「サリチル」酸, 「ヨード」, 「ブロム」ノ「カルシウム」複合鹽ニ「キニーネ」ヲ配ス。

→ Antifulgin

【適應】 淋疾・子宮周圍炎・附屬器炎・「ロイマチス」・神經痛等。

【用量】 毎日又隔日 = 25 cc 宛静脈内。

Antifulgin 「アンチフルギン」(東洋新藥)

【成分】 「サリチル」酸, 「ヨード」, 「ブロム」ノ「カルシウム」複合鹽ニ「ウロトロピン」ヲ配ス。

【適應】 尿道炎・腎盂炎・子宮周圍炎・附屬器炎・肋膜炎・肺結核・肺炎・喘息・「ロイマチス」・神經痛等。

【用量】 毎日又隔日 = 20 cc 宛静脈内。

Atophanyl → 神經痛劑

【成分】 「アトファン・ナトリウム」ト「サリチル」酸ヲ等量ニ含有ス。

Brenzchin → 結核劑

【成分】 「グアヤコール」, 「ヨード」, 「キニーネ」, 「サリチル」酸「カルシウム」ヲ配ス。

Camperol 「カンペロール」(いわしヤ松本)

【成分】 「カンフル」水溶液ニ「ヨード」, 「サリチル」酸「カルシウム」, 食鹽ヲ配ス。

【適應】 肺炎・肋膜炎・喘息・神經痛等。

【用量】 隔日 5 cc 静脈内。

Camporisin → 神經痛劑

【成分】 「カンフル」濃厚水溶液ト「サリチル」酸鹽ヨリナル。

Capyrsalan → 神經痛劑

【成分】 特殊配合ノ「サリチル」酸「ソーダ」液。

Enocal → 結核劑

【成分】 第三磷酸「カルシウム」, 「コロイド」。

Introcid 「イントロチッド」(ハンス

ポトラツク-武田)

【成分】 「ヨード」及「セリウム」ノ化合物(悪性腫瘍治療劑)

【適應】 1) 悪性腫瘍 = 4—5 cc ヲ毎2日。豫防ニハ 3—5 cc ヲ1週 = 1回静脈内。

2) 中毒性傳染性疾患・敗血症・附屬器炎・産褥熱ニハ 2—10 cc ヲ毎2日静脈内。

3) 蜂窩織炎・瘰癧 = 1—2—4 cc ヲ静脈内又筋肉内。

Kriobin 「クリオビン」(武田)

【成分】 精製「テレピン」油 10%, 「オイクビン」1%, 「ノボロホルム」2.5%, 「オレフ」油 86.5%。

【作用】 防禦素ノ産出促進, 消炎, 鎮痛, 殺菌等。

【適應】 關節炎・副睾丸炎・膀胱炎・尿道炎・白癬・附屬器炎・産褥熱等。

【用量】 隔日又2日 = 1 cc ヲ皮下。又1週 = 2—3回 1 cc 宛。

Liquor Ringeri sterilisatus → 強心利尿劑

Neo-Cystol → 殺菌消毒劑

Neo-Hesaciramin → 殺菌消毒劑

Neo-Joshisalin 「ネオヨシザリン」(トミイ)

【成分】 純「ヨード」酸「カルシウム」複鹽液, 「ヨード」0.57%ヲ含ム。

【作用】 消炎, 鎮痛, 吸收。

【適應】 神經衰弱・動脈硬化症・喘息・腺病質・神經炎・關節炎・「ロイマチス」・悪性腫瘍・結核性及微毒性疾患・子宮内膜炎及

附屬器炎。

【用量】 1日1回30—50 ccヲ靜脈内, 1回300 cc迄。

Saltron →殺菌消毒劑

【成分】 高張葡萄糖液ニ「ウロトロピン」, 「サリチル」酸「カルシウム」, 「サリチル」酸「ソーダ」・「カフェイン」ヲ含マス。

6. 植物性製劑

Antialgin 「アンチアルギン」(大胡-齋藤)

【成分】 禾本科植物ノ主成分。

【作用】 淋巴及血行旺盛, 血管運動神經及末梢神經興奮。

【適應】 神經痛・「ロイマチス」・耳鳴・淋疾・脚氣・丹毒等。

【用量】 5—12ccヲ數ヶ所ノ筋肉内ニ分注。

Discren 「ヂスクレン」(日本新藥)

【成分】 Nymphaeaceae 科植物ノ有效成分ニ, Rosanilin 屬ノ色素ヲ配ス。

【作用】 粘膜ノ分泌抑制, 消炎。

【適應】 急性鼻炎・慢性滲出性鼻炎・蓄膿症・急性及慢性中耳炎・乳嘴突起炎・喘息・白帶下。

【用量】 大人1日1回2cc, 小児及乳兒1cc(皮下)。

第1週ハ毎日, 第2週ハ隔日, 第3週ハ3日目ニ1cc宛。

Onimsin 「オニムシン」(東西治療醫學研究所)

【成分】 Saxifragaceae, Astera-ceae, Cydoniaoeae, Plantagi-naceae, Saururaceae 等ノ植物ノ有效成分ヲ抽出ス。

【作用】 消炎。

【適應】 諸種炎症性疾患・神經痛・「ロイマチス」・百日咳・打撲・捻挫・肩凝・腰痛・蕁麻疹・「インフルエンザ」。

【用量】 1) 皮下注射ハ必ず患部又其ノ附近ニ行フ。通常毎日又隔日ニ1回1管(5cc)。場合ニヨリ10—15cc分注ス。

2) 靜脈内注射ハ毎日又隔日ニ1回1管(10cc)。

3) 皮下及靜脈内注射併用ハ毎日或ハ隔日ニ上記ノ量ヲ用フ。

17. 殺菌消毒劑

(治癒劑ヲ含ム)

Antiseptica, Desinficientia (einschliesslich Antigonorrhoea)

主トシテ病原體ニヨル炎症ニ適應スルモノデアルガ, 之ニハ又免疫療法ガ屢々併用サレル。→「ワクチン」及血清。

1. 「ヘキサメチレンテトラミン」
Hexamethylenetetramin (「ウロトロピン」Urotropin 劑)

Amphotropin-Lösung 「アムフトロピン」注射液 (Bayer)

【成分】 「ヘキサメチレンテトラ

ミン」ニ樟腦酸ヲ結合セシム。

【作用】 尿路消毒, 膽囊防腐消毒。

【適應】 腎盂炎・膀胱炎・膽囊炎・流行性腦炎・腦膜炎。

Calci-Calben 「カルチカルベン」(厚生社)

【成分】 「ウロトロピン」, 鹽化「カルシウム」, 「メチレン」青。

【適應】 淋疾・副睾丸炎・關節炎・附屬器炎。

【用量】 毎日又隔日ニ10—20ccヲ靜脈内。

Cylotropin 「チロトロピン」(Schering) (田邊)

【成分】 5cc中ニ「ウロトロピン」2, 「サリチル」酸「ソーダ」0.8「サリチル」酸「ソーダ」・「カフェイン」0.2g, 筋肉内用「ノボカイン」ヲ含有ス。

【適應】 膀胱炎・腎盂炎・産褥熱等。

【用量】 毎日又隔日ニ5ccヲ靜脈内又筋肉内。

Examin 「エキサミン」(中外醫藥-鹽野義)

【成分】 「ウロトロピン」ニ「ウラニン」色素ト「ブロム」ヲ配ス。

【適應】 淋疾・腎盂炎・腦膜炎等。

【用量】 毎日又隔日ニ20cc宛靜脈内。

Gonosarin 「ゴノザリン」(日新醫學)

【成分】 「ウロトロピン」, 「アルプチン」, 「ブロムカルシウム」ノ複鹽。

【作用】 利尿, 消炎, 殺菌。

【適應】 尿路疾患・婦人科炎症疾患。

【用量】 毎日1回20cc靜脈内。

Hesaciramin 「ヘサチラミン」(ラヂウム)

【成分】 「ウロトロピン」濃厚液ニ「マグネシウム」複鹽ヲ配ス。

【作用】 尿路消毒, 利尿。

【適應】 尿路疾患・敗血症・産褥熱・腦膜炎・腦炎・腸「チフス」・膽石症・蕁麻疹・化膿性紅彩炎。

【用量】 1日5—10ccヲ靜脈内。

Hexatropin 「ヘキサトロピン」(日新醫學)

【成分】 40%「ウロトロピン」ニ0.5%硫酸「マグネシア」ヲ配ス。

【適應】 →Hesaciraminニ準ズ。

【用量】 1日1回5ccヲ靜脈内。

Ictelmin 「イクテルミン」(林)

【成分】 「ウロトロピン」, 「グルコース」, 「ヨードカルシウム」, 食鹽。

【適應】 ロイル氏病。

【用量】 毎日又隔日ニ20cc靜脈内。

Neo-Cystol 「ネオチストール」(武田)

【成分】 「ズルホサリチル」酸「ヘキサメチレンテトラミン」ノ「ナトリウム」鹽ニ更ニ「ヘキサメチレンテトラミン」ヲ配ス。

【作用】 尿路消毒, 利尿, 消炎。

【適應】 尿路ノ細菌性疾患・婦人科領域ノ手術後尿閉・尿路感染・産褥熱・子宮附屬器炎・膽道炎・膀胱麻痺・腦脊髄膜炎・腸「チフス」・猩紅熱・蕁麻疹・「ロイマチス」・關節炎。

【用量】 毎日又ハ隔日ニ1日5.0—10.0ccヲ靜脈内

【注意】 重症ノ心腎疾患ニハ禁

ズ。

Neo-Hesaciramin 「ネオヘサチラミン」(ラチウム)

【成分】「ヘサチラミン」= 20% 葡萄糖, 「プロム」鹽ヲ配ス。

【作用】体内消毒, 利尿, 強心, 解毒, 鎮靜。

【適應】→Hesaciramin

【用量】1回20ccヲ靜脈内, 1日2回使用シ得。

Saltron 「サルトロン」(第一製藥)

【成分】「ヘキサメチレンテトラミン」, 「サリチル」酸「カルシウム」, 「サリチル」酸「ソーダ」カフェイン」ヲ高張葡萄糖液ニ配伍ス。

【作用】奪水作用, 吸收促進, 分泌及滲出抑制, 鎮靜, 脊髄液壓下降, 強心利尿。

【適應】咯血・喘息・氣管支「カタル」・心筋炎・心囊炎・狹心症・神經衰弱・腦水腫・胃腸及肝脾・腹膜ノ疾患・中毒症・淋巴腺炎・丹毒・濕疹・「ロイマチス」・副睪丸炎・尿道炎・子宮周圍炎・附屬器炎・角膜實質炎・驅微療法トノ併用。

【用量】1日1回1管(20cc)ヲ靜脈内。

Triboratin 「トリボラチン」(岩城)

【成分】Hexamethylentetramin-triborat.

【性状】白微細末, 水溶性。

【用量】1日1—2—4g。

Typheramin 「チフェラミン」(武田)

【成分】40%「ウロトロピン」溶液ニ「クエン」酸「ソーダ」0.5%

ヲ配シ注射時ノ血液凝固ヲ防止ス。

【作用】利尿, 尿路消毒。

【適應】膀胱炎・腎盂炎・尿閉・産褥熱・敗血症・「チフス」・猩紅熱・蕁麻疹・關節炎・「ロイマチス」・腦脊髄膜炎・腦膜炎・水頭・脊髄癆・膽道系ノ傳染病性疾患・腰髄麻酔後ノ頭痛。

【用量】1日1回1管(5cc)ヲ徐々ニ靜脈内注射。10日以上連用シ得。寒冷ノ爲結晶ヲ生ジタル時ハ加温シ溶解ス。

Urokampf 「ウロカンフ」(山之内)

【成分】Kampfersäure-Urotropin (40%) 液

【用量】1回5cc

Urotenamin 「ウロテナミン」(三共)

【成分】「ウロトロピン」2g入「アムブレ」ト滅菌生理食鹽水5cc入「アムブレ」ヲ一組トス。

→Urotrobrocanon, Neohesaciramin

Urotrobrocanon 「ウロトロプロカノン」(中外新藥)

【成分】「プロカノン」=「ウロトロピン」10%, 硫酸「マグネシア」0.2%ヲ配ス。

【作用】消毒, 利尿, 解毒, 鎮痙, 鎮靜。

【適應】腸「チフス」・肝臟疾患・腦炎・腦脊髄膜炎・尿毒症・「ロイマチス」・結核・手術後ノ尿閉・膀胱麻痺・敗血症・化膿症・産褥熱・子宮附屬器炎・子宮周圍炎・膀胱炎・腎盂炎・中耳炎・扁桃腺炎・炎症性眼疾患。

【用量】1日1回1管(20cc)ヲ靜脈内。敗血症, 化膿症ニハ朝夕1管宛。

Urotro-Brocrose 「ウロトロプロカローゼ」(植村) →Urotrobrocanon

Urotropin-Lösung 「ウロトロピン」溶液 (Schering)

【適應】全身傳染疾患殊ニ尿路及膽道ノ細菌性疾患。

【用量】1「アンブレ」5cc。

Urotyramin 「ウロチラミン」(植村—いわしヤ松本)

【成分】「ウロトロピン」, 「マグネシウム」ノ複鹽 29.7%ヲ含ム。

【用量】1回5cc 毎日1—2回靜脈内。→Neohesaciramin, Urotrobrocanon

2. 「アクリチン」 Acridin 劑

「アクリチン」ハ $C_{13}H_9N$, 「アニリン」系ノ螢光ヲ發スル色素デ向細菌性ヲ有ス。

「リゾノール」, 「トリパフラビン」

【適應】泌尿生殖器疾患・各種肺炎・肺壞疽・嗜眠性腦炎・扁桃腺炎・咽後膿瘍・口峽炎・乳腺炎・蜂窩織炎・多發性筋炎・骨及骨膜ノ化膿性疾患・中耳炎・乳嘴突起炎・丹毒・猩紅熱・軟性下疳・横痃・癰腫・敗血症・腸「チフス」菌排泄者・傳染性眼疾患・諸種化膿性齒科疾患・子宮附屬器炎・流産・産褥熱等。

Acricol 「アクリカール」(三共)

【成分】「アクリカール」100cc 中3.6「ジアミノ」10「メチルア

クリチニウムクロリッド」0.25g, 「サンカール」4g 葡萄糖(三共)10gヲ含ム。「パンセカール」ニ準ズ。

【用量】1回5—10—20ccヲ毎日又ハ隔日1回宛靜脈内。

Allestin →消炎劑

Argoflavin 「アルゴフラヴィン」

(Cassella) (三共)

【成分】「トリパフラヴィン」ノ銀化合物。「アルゴフラヴィン」ノ0.5%水溶液。

【適應】殺菌劑トシテ「トリパフラヴィン」ニ準ズ

【用量】使用前ニ熱湯中ニ浸シ拆出物ヲ溶解ス。1回1管(2cc)ヲ靜脈内。

Atebrin 「アテブリン」(Bayer)

【成分】2「メトキシ」-6「クロール」-9α「ヂエチルアミノ」-2「ペンチルアミノ」アクリチン」ノ鹽酸鹽。

【適應】「マラリア」等ニ「キニーネ」代用トス。

【用量】0.05 ヲ 2cc 蒸溜水ニ溶カシ筋肉内。

Calflavin 「カルフラヴィン」(日新醫學) →Pansecal

Chlocaflavin 「クロカフラヴィン」(日新醫學)

【成分】「フラヴィノール」Flavinol ニ「クロルカルシウム」ヲ配ス。

【適應】→Pansecal

【用量】1日1回20cc 靜脈内。

Dexflavin 「デキスフラヴィン」→Isravlin-Lodinon (日新醫學)

Flavinin for injection 「フラビニン」注射液 (三共)

邦製「トリパフラビン」, 「イスラビン」, 「パンセプチン」等と同ジ。

Flavinol 「フラヴィノール」(日新醫學) → Trypaflavin

Gonacrin 「ゴナクリン」(マルホ) Isravlin 同ジ。

Hectalin 「ヘクタリン」(第一)

【成分】 2-Aethoxy-6-9-diamino-acridinlactat → Rivanol

【適應】 表面及深部へノ殺菌作用ヲ期待スル連鎖状球菌, 葡萄状球菌, 淋菌等ニヨル疾患。

【用量】 1管5cc。

Homoflavin 「ホモフラヴィン」(萬有) → Isravlin

邦製「トリパフラビン」,

Islavin 「イスラビン」(武田)

【成分】 3-6-Diamino-10-Methyl-acridinium-chlorid

【作用】 体内殺菌消毒。

→ Trypaflavin

【適應】 「イスラビン・ロヂノン」同ジ。皮膚病・化膿性創面・膀胱洗滌料・注腸料ニ外用セラレ。邦製「トリパフラビン」

【用量】 毎日又隔日ニ 5.0—10.0 ccヲ静脈内。症状ニヨリ 20—80 ccヲ用フ。

Isravlin-Lodinon 「イスラビン・ロヂノン」(武田)

【成分】 「ロヂノン」10%溶液中ニ「イスラビン」ヲ0.5%ノ割合ニ溶解ス。

【作用】 「イスラビン」ノ副作用ヲ「ロヂノン」(葡萄糖)ニヨリ

減却ス。

【用量】 毎日又隔日ニ 5—10 ccヲ静脈内。症状ニヨリ 20—30 cc。

Pansecal 「パンセカール」(鹽野義)

【成分】 0.25% 3, 6-Diamino-10-methylacridinium-chlorid ト 3.8% ノ「グルコン」酸「カルシウム」及ビ5% 葡萄糖ヨリナル。

【作用】 「アクリジン」色素ノ強力ナル消毒殺菌作用ヲ「カルシウム」鹽ニヨリ更ニ強化セシメ葡萄糖ニヨリ副作用ヲ減ズ。

【用量】 毎日又隔日ニ 10—20 ccヲ静脈内。

Panseptin 「パンセプチン」(鹽野義)

【成分】 3.6「ジアミン」10「メチールアクリジン」ニウム, クロリッド

【適應】 → Trypaflavin

【用量】 0.5%水溶液 1回5—10cc。

Pyogenol 「ピオゲノール」(萬有)

【成分】 2「エトキシ」, 6.9「アミノアクリジン」ニ鹽酸「キニーネ」, 「カフェイン」及葡萄糖ヲ配ス。

【用量】 毎日1日 1% 5 cc, 0.5% 10—20 ccヲ静脈内。

Rivadexin 「リヴァデキシン」(日新醫學)

【成分】 「エトキシ 6.9」ジアミノアクリジン」乳酸鹽(0.5%)ヲ 20%葡萄糖ニ配伍ス。

【用量】 毎日又隔日ニ 20 ccヲ静脈内。

Rivanol-Lösung 「リヴァノール」

注射液 (Heyden-Bayer)

【成分】 「2.エトキシ 6.9」ジアミ

ノアクリジンラクタート」。 2 Aethoxy-6-9-diamino-acridinlactat. 1管ハ1%溶液 5 ccヲ含ム。邦製ニ「リマオン」Rimaon (武田) 等アリ。

【適應】 → Trypaflavin。

【用量】 1) 産褥熱ニハ 1,000倍溶液 5—500 ccヲ静脈内

2) 連鎖状球菌敗血症ニハ 治療血清ノ注射ト共ニ 500—1,000倍溶液 50 cc以内ヲ静脈内。

3) 人ニ於ケル致死量ハ 1管中ノ含有量ノ 50—60倍ニ相當ス。

Safflavin 「サフラビン」(日本新藥)

【成分】 「ジアミド, デメールア, クリジン」ノ新誘導體。

【適應】 各型瘦削性鼻炎・乾性咽喉炎・喉頭「オツエナ」・鼻閉塞・鼻性神経症・咽喉乾燥感・咽喉頭異物感・聲音啞嘶。

【用量】 大人 1回 3 cc (1管)宛, 小兒 1回 1—2 cc宛ヲ皮下又ハ静脈内。

Trihalomin 「トリハロミン」(第一製藥) → Trypaflavin (Bayer)

1管 (10 cc)

Trypaflavin 「トリパフラヴィン」(Bayer)

【成分】 3-6-Diamino-10-methyl-acridinium-chlorid

【作用】 殺菌消毒, 刺戟作用及腐蝕作用ナシ, 深達作用ハ「メチレン」青ヨリ大ナリ (Abelmann u. Liesegang)

【適應】 諸種化膿症・尿路疾患・熱性病・膽道疾患・腦炎・腦膜炎・其他外用ニ供ス。

【用量】 0.5%水溶液ヲ 5—10 cc

静脈内注射トス, 2%溶液 1—5 ccヲ静脈内。毎日又隔日トス。連用スレバ副作用アリ。

【注意】 邦製ニ「イスラビン」, 「パンセプチン」。

3. 「コロイド」銀劑

【適應】 化膿症一般ニ用フ (産褥熱・膿瘍・淋疾・敗血症)

Argochrom 「アルゴクロム」(Merck-Schmidt)

【成分】 銀ト「メチレン」青。

【用量】 0.1—0.2 gヲ5 ccノ滅菌溜水ト共ニ静脈内, 皮下ニハ 0.05—0.1 gヲ2—3 ccノ滅菌溜水ニテ溶解。局所麻酔ノ下ニ行フ。

Dispargen 「デスパルゲン」

Reisholz (林)

【成分】 可逆性膠様銀。

【用量】 1回 3—10 ccヲ筋肉内。

Electrargol 「エレクトラルゴール」(Cin) (シイベル)

【成分】 電氣「コロイド」銀。

【用量】 第1日ハ 5 cc, 第2日(翌日) 10 ccヨリ漸次増量 30—40 ccニ至ル。1日 50 cc迄。

Electrocollargol 「エレクトロコララルゴル」(Heyden) (田邊五)

【成分】 銀ノ「コロイド」溶液, 純銀ノ直径 0.00001 mm

【用量】 1回 5—10 ccヲ毎日又ハ隔日ニ静脈内。

Electoid-Silver 銀「エレクトロイド」(國光—鹽野義)

【成分】 電氣性「コロイド」銀溶液。

【成分】「ヒスチジン」鹽酸鹽 4%溶液。
 【作用】鎮痛, 細胞再生能ノ助長。
 【適應】消化器ノ潰瘍・胃酸過多・胃炎。
 【用量】1日1回5ccヲ筋肉内又ハ皮下。少クトモ3—4週間以

19. 催吐劑 Emetica, Brechmittel

Apomorphinum hydrochloricum 鹽酸「アポモルヒネ」

【成分】1%溶液ヲ用フ。
 【作用】嘔吐中樞ヲ刺激ス。
 【適應】嘔吐ヲ必要トスル場合, 特ニ急性中毒。

上連續。

【注意】同種製品。

Is-ulcus 「イスウルクス」(大日本製藥)
Lorostidin 「ラロスチジン」(Roche)
Sanostidin 「サノスチジン」(三共)
Stimulin →臟器製劑

【用量】1回0.5—1.0 ccヲ皮下。虚脱ヲ伴フコトアルヲ以テ注意スベシ。
 【注意】數社製品アリ。(田邊, 三菱製藥, 朝倉等)

20. 制吐劑 Atiemetica

(惡阻療劑)

(解毒劑・鎮靜劑參照)

Antiemesisin 「アンチエメジン」(小島)

【成分】Fructus Capsiciノ有效成分(Hydro.oxy-propenyl-alcohol)

【適應】惡阻・船車酔。
 【用量】1日1回1cc皮下。

Antihyperemin 「アンチヒペレミン」(大産—淺川)

【成分】「チオキシベンツオール」誘導體。
 【適應】妊娠惡阻・其他嘔吐諸症。
 【用量】毎日1回1cc宛2—3連用ス。

Antiozonin 「アンチオゾン」(日新製藥)

【成分】膽汁酸鹽ニ「ブロムカルシウム」ヲ配ス。
 【適應】妊娠中毒症・惡阻。
 【用量】毎日又ハ隔日ニ5—10ccヲ靜脈内。

Brom-Grelan →鎮痛鎮靜劑

Bronatrin →鎮痙鎮靜劑

Emol 『エモール』(田邊)

【成分】「ブロム」有機化合物ヲ主トス。
 【作用】嘔吐中樞鎮靜。
 【適應】嘔吐・惡阻・胃痙攣。
 【用量】1回12ccヲ皮下, 1日1回乃至數回。

Genesol 「ゲネゾール」(鹽野義)

【成分】「グリコヒョール」酸「ソーダ」。

【適應】妊娠中毒症・妊娠腎炎等。
 【用量】10ccヲ毎日又隔日ニ靜脈内。

Inselin →臟器製劑

Iveton →強心利尿劑

Kalibron →補血強壯劑

Liquor Lockei sterilisatus →強心利尿劑

Lodinon-Calcium →強心利尿劑

Lumitropin →鎮痙鎮靜劑

Octinum →鎮痙鎮靜劑

Oryzanin →「ビタミン」劑

Osodin 「オソジン」

【成分】膽汁酸製劑ニ「ブロムナトリウム」, 「ブロムカルシウム」, 葡萄糖, 「ビタミン」B₁。

【適應】惡阻, 子痙, 妊娠腎炎,

一般解毒。

Perlitan →臟器製劑

【成分】結晶卵胞「ホルモン」。

P-O-U →臟器製劑

Spamidol →鎮痛鎮靜劑

Spinacin →食慾催進劑

Taracrol 「タラクロール」(日本新藥)

【成分】「クロール」及「ブロム」ノ複鹽ヲ高張葡萄糖液ニ溶解セシメタル無色透明液。

【作用】「アルカロージス」及「クロールイオン」總量ノ減少・解毒, 榮養供給ニヨル制吐。

【適應】諸種嘔吐(神經性・妊娠惡阻・中毒性・消化器ノ炎症及ビ手術後)。

【用量】症狀ニ應ジテ1日1—2管(10—20cc)又ハ隔日ニ10ccヲ靜脈内。

21. 解毒劑 Entgiftungsmittel, antitoxische Mittel

(變調劑, 強心利尿劑參照)

1. 「アチドージス」治療劑(重碳酸「ソーダ」製劑)

血液豫備「アルカリ」減少シテ「アチドージス」Acidosisノ症狀ヲ發シタル時又之ガ豫防ニハ救急ニ重碳酸「ソーダ」ノ注射(時ニハ注腸)ヲナス。重碳酸「ソーダ」水ノ加熱消毒ハ總論ニ述ベシ如ク分解ノ惧ガアルカラ特別ノ装置ノ下デ(CO₂密閉)之ヲ行フ。救急ノ目的ニハ出來ルダケ操作ヲ無菌的ニシテ1—3%水溶液ヲ作り皮下ニ注射

ス。

【適應】「アチドージス」尿反應「アルカリ」度ヲ望ム時, 尿道炎症ニテ「アクリチン」色素ヲ用フル時ニ其作用ヲ強盛スル時, 濕疹・蕁麻疹・皮脂漏・痒疹等。

Acidodin 「アシドージン」(厚生社—鹽野義)

【成分】純重碳酸「ソーダ」ノ滅菌溶液。

【用量】1回1管(25cc)ノ靜脈内。

Jusonin 「シューソニン」(萬有)

【成分】 2% 重曹滅菌水溶液。

【用量】 20 cc 毎日, 隔日。

2. 次亜硫酸「ソーダ」Natrium-thiosulfat 製劑

【作用】 重金属ト結合シテ可溶性ノモノトナシ其ノ排泄ヲ容易トス。解毒, 利尿。

【適應】 重金属中毒・「サルヅルサン」「トリバフラビン」中毒豫防・肝臓疾患・蕁麻疹。

Antieczman 「アンチエクツマン」

(國光-鹽野義)

【成分】 次亜硫酸「ソーダ」ニ「フロム」鹽ヲ配ス。

【用量】 毎日又隔日 = 5—20 cc ヲ靜脈内。

Detoxol 「デトキソール」(萬有)

【成分】 次亜硫酸「ソーダ」10% 溶液。

【用量】 1 回 5—10 cc—20 cc ヲ靜脈内注射。

Dismetalin 「ヂスメタリン」(日本新藥)

→Detoxol

Thiosna 「チオスナ」(三共)

→Detoxol

3. 諸種ノ解毒劑

Antimohin 「アンチモヒン」(黒田)

【成分】 「グリコーゼ」, 「チョードフェニールカルボン」酸ノ鹽類。

【適應】 「モルヒネ」屬及其鹽類

中毒。

【用量】 毎日 20 cc ヲ靜脈内。

Atophanyl →神經痛劑

Bromag →鎮痙鎮靜劑

Calcium chloratum →消炎劑

Calcose →消炎劑

【成分】 「グルコン」酸「カルシウム」ノ10% 溶液。

Choleretin →利膽劑

【成分】 「デヒドロ・ヒョール」酸「ナトリウム」ノ20% 溶液。

【作用】 利膽, 利尿ノ作用ヲ有ス。

Inselin →臓器製劑

【作用】 膵臓ラ氏島ヨリノ「ホルモン」ニシテ炭水化物代謝ヲ整調ス, 糖尿病性ノ「アチドージス」, 昏睡ニ用フ。

Interenin →臓器製劑

【成分】 副腎皮質製劑。

Iveton →強心利尿劑

【成分】 轉化糖注射液ニシテ, 葡萄糖ト果糖ノ同量ヲ含ム。

Liquor Lockei sterilisatus →強心利尿劑

【作用】 体内毒素稀釋, 洗滌ノ目的ニ適ス。

Liquor Ringeri sterilisatus →強心利尿劑

【作用】 注入ニヨリ体内毒素稀釋, 利尿ト共ニ毒物ヲ排泄ス。葡萄糖ハ又解毒ノ作用ヲ有ス

Lodion-Calcium →強心利尿劑

【成分】 葡萄糖ト「カルシウム」ヲ含ム。

Monal 「モナール」(順天堂醫化學-田邊五)

Injectione (三共) →消炎劑

Strontiuuran 「ストロンチウラン」(Weil-三共)

【成分】 「クロール・ストロンチウム」尿素ノ10% 溶液。

【適應】 「サルヅルサン」注射障礙防止・過敏状態・滲出性素質・氣管支喘息・小兒痙攣等。

【用量】 1 回 5 cc 靜脈内。

Neo-Strontiuuran 「ネオ・ストロンチウラン」(Weil-三共)

【成分】 「クロール・ストロンチウム」尿素ノ1% 溶液。

【適應】 →Strontiuuran

【用量】 筋肉内及皮下。

Tarontil 「タロンチル」(獨逸名 Torantil) (Bayer)

【成分及作用】 小腸粘膜ヨリノ解毒有效物質ニシテ, 「ヒスタミン」ヲ破壊スル作用ヲ有ス。

【適應】 「アレルギー」性疾患, 腸性自家中毒。

【用法及用量】 1 管(1 單位入「アンプレ」内容ヲ2 cc ノ溶解用滅菌食鹽水ニ溶カス)ヲ隔日又ハ1 週2 回筋肉内。1 「クール」ハ10 回内。蛋白質性状ヲ有スルヲ以テ靜脈内ニ適セズ。

Urotrobrocanon →殺菌消毒劑

【成分】 「ウロトロビン」・「カルシウム」, 葡萄糖ヲ成分トス。

Yakriton →臓器製劑

【作用】 臓器製劑ニシテ解毒作用ヲ有ス。

Zellatmin 「ツェラトミン」(中村謙)

【成分】 哺乳動物新鮮臓器ヨリノ抽出劑ニシテ Glutathion ヲ主成分トシ, Vitamin C, B₁, B₂

【成分】 Solanaceae ノ植物ノ有效成分2 種ニ「プリン」誘導體ト「カルシウム」ヲ配ス。

【適應】 阿片・「モルヒネ」・「ヘロイン」・「コデイン」・「バビナール」等及ビ其ノ誘導體ノ慢性中毒。

【用量】 1 日1 回, 場合ニヨリ2—3 回皮下又ハ靜脈内, 皮下用1 管2 cc 入, 靜脈内5 cc 入。

Nargravon (Camopolon) →臓器製劑

【作用】 臓器製劑ニシテ解毒作用ヲ有ス。

Neo-Detoxol 「ネオデトキソール」(萬有)

【成分】 「デトキソール」5% ト葡萄糖5% ヲリナル淡黄色透明ノ水溶液。

【適應】 「デトキソール」ニ準ズ。主ニ「サルヅルサン」中毒ノ豫防及其ノ溶解ニ用フ。

【用量】 1 日1 回20 cc ヲ靜脈内。

Neo-Hesaciramin →殺菌消毒劑

【作用】 殺菌性利尿作用ヲ有ス。

Saltron →殺菌消毒劑

【成分】 高張葡萄糖液ニ「ウロトロビン」, 「サリチル」酸「カルシウム」, 「サリチル」酸「ソーダ」・「カフェイン」ヲ配ス。

Solutio Annaca-Atropin 安那加「アトロピン」液(厚生社)

【成分】 硫酸「アトロピン」0.05% ニ安息香酸「ソーダ」・「カフェイン」ヲ配ス →Enspamol

【適應】 急性大腸炎・自家中毒症

【用量】 1 回1 cc 皮下。

Solutio glucosi calcii pro

ヲ含有ス。皮下注射用第1號ハ
生臟器 15 g, 靜脈内注射用第1
號ハ 30 g = 對應ス。
【作用】 細胞呼吸, 新陳代謝ヲ促
進ス。

【適應】 細菌性, 體外性及體內性
中毒症, 血清病, 貧血, 消耗等
【用法及用量】 皮下 1日數回迄
3 cc 宛, 靜脈内 1日1-2回
10 cc。

22. 自律神經疾患治療劑

→ 喘息 (氣管支) 劑, 「ホルモン」及臟器製劑中併合臟器製劑

【自律神經支配ノ平衡障礙】

互ニ一定ノ緊張力 Tonus ヲ以テ相拮抗シ合ツテ居ル交感神經 Symp
athicus ト抗交感神經 Parasympathicus ノ緊張ノ何レカガ偏重スル場合

A 交感神經緊張症 Sympathicotonie

向交感神經性「ホルモン」sympathicotropes Hormon タル「アドレナ
リン」ニ對シテ鋭敏ニ反應スル。

【本症ニ關係アル疾患】

パセドウ氏病, 「テタニー」, 消化管ノ分泌及蠕動減退, 血壓亢進症等。

B 抗交感神經緊張症 Parasympathicotonie

重要内臟器官ノ抗交感神經支配ハ迷走神經ニヨリテナサルヲ以テ抗交感
神經支配緊張偏重症ハ又迷走神經緊張症 Vagotonie ト云ハル。

「ピロカルピン」Pilocarpin, 「ヒョリン」Cholin, 「アセチール・ヒョリン」
Acetylcholin, 「ムスカリン」Muscarin, 「フィゾスチグミン」Physostigmin
等ハ抗交感神經末端ヲ刺戟スル藥劑デアルガ, 抗交感神經緊張者ニハ特ニ
鋭敏ニ反應スル。

消化管ノ蠕動催進ハ主トシテ是等抗交感神經刺戟劑ニヨリテ行ハレル。
→ 腸・膽道蠕動催進劑。

【迷走神經緊張症ニ關係アル疾患】

氣管支喘息, 血管運動性狭心症, 胃腸痙攣, 胃酸過多症, 粘液痙攣, 低
血壓, 呼吸性不整脈, 期外收縮等。

【自律神經兩性緊張症 Amphotonie, Hyperamphotonie】

自律神經ノ交感神經, 抗交感神經双方ノ刺戟サレ易イ reizbar 状態—
—vegetativ stigmatisiert—ニアル場合ニシテ臨牀上屢々見ラレルモノデ
アル。

斯カル場合ニハ鎮靜劑, 變調劑, 強甘劑等又對症的ニ腦性麻醉劑, 鎮痙・

鎮痛・麻醉劑等ガ用ヒラレル。

交感神經緊張症ニハ交感神經刺戟劑ヲ避ケル, 之ヲ麻痺セシメル適當ナル
藥劑ガ少ナイ。

抗交感神經緊張症ニ對シテハ, 抗交感神經 (迷走神經) ヲ麻痺セシメル
「アトロピン」屬ノ藥劑ガ用ヒラレ, 又交感神經ヲ興奮セシメ拮抗迷走神
經緊張ヲ相對性ニ低下セシメル爲メニ交感神經緊張亢進劑ヲ與ヘル。例ヘ
バ迷走神經緊張症ト考ヘラレル氣管支喘息ニ抗交感神經ヲ麻痺スル硫酸
「アトロピン」ノ注射ト交感神經ノ緊張ヲ亢メル「アドリナリン」ノ注射
ガ奏功シテ同一ノ結果ヲ現ハスガ如キハ之デアアル。

Atropinum sulfuricum ⑤硫酸

「アトロピン」

0.1—0.3% 溶液ガ用ヒラレ, 抗交
感神經 (迷走神經) 麻痺劑デアアル。
→ 喘息劑, 制汗劑, 機能診斷劑・
生化學劑, 止瀉劑。

Brom-präparate 「ブロム」製劑

→ 鎮靜劑, 消炎劑,

Bros-Lodion 「ブロスロヂノン」

(武田)

【成分】 10% 「ブロム・ストロン
チウム」ニ 20% 葡萄糖ヲ配ス。
→ 鎮痙劑及鎮靜劑

Calcium-präparate 「カルシウム」

劑

→ 消炎劑。

Calcibromat (Sandoz) → 消炎劑

「ブロム・ラクトビオン」酸「カ
ルシウム」劑

Dadogen 「ダドージェン」(日本新藥)

【成分】 「アラニン」, 「グルタミ
ン」酸, 「グルタミン」酸「ナト
リウム」, 硫酸「マグネシウム」
ノ複鹽水溶液。

【作用】 迷走神經中樞ニ作用シ胃
ノ運動, 腸ノ蠕動ヲ亢進セシメ
胃液, 膽汁, 膝液ノ分泌ヲ旺盛

ナラシメ, オッヂー氏括約筋ヲ
弛緩セシム。

【適應】 胃「アトニー」, 慢性便秘
鼓腸, 膽囊炎, 「ガタル」性黄疸

【用法及用量】 20 cc 宛毎日或ハ
隔日, 靜脈内。

Ephedrin ⑤ 「エフェドリン」製劑

麻黃有效成分デ, 其作用ガ「エビ
レナミン」劑ニ類似シ, 永續性ヲ
有ス。

Hypophysenhinterlappen- präparate

腦下垂體後葉製劑

副腎髓質有效「ホルモン」ノ作用
ヲ強盛ス。強心・血管劑, 臟器製
劑。

Liquor Epirenamini

hydrochlorici

⑤鹽酸「エビレナミン」液

副腎髓質天然製劑, 同人工合成劑
ノ千倍溶液ニシテ交感神經末梢
ヲ刺戟シ, 殊ニ小動脈壁ノ平滑筋
收縮, 氣管支枝壁ノ攣縮緩解ヲナ
ス。

→ 強心血管劑—「エビレナミン」
製劑, 臟器製劑, 機能檢査劑

Lodion-Calcium 「ロヂノン・カ

ルシウム」(武田)

【成分】 10% 葡萄糖液 = 鹽化「カルシウム」2% ヲ配ス。

Magaton 「マグアトン」(鳥居)

【成分】 5% Magnesiumsulfat 水溶液 20 cc = Atropinsulfat 0.0003 ヲ加ヘタルモノ

【適應】 胃酸過多性胃痛, 膽囊・膽道炎。

【用量及用法】 10—20 cc 靜脈内

Pilocarpinum hydrochloricum

ⓐ鹽酸「ピロカルピン」

屢々1% 水溶液ガ用ヒラレ, 抗交感神經刺戟劑トシテ診斷(迷走神經緊張症)ニ又發汗劑トシテ用ヒラル。→機能検査劑・生化學劑及發汗劑。

23. 變調劑 Umstimmungsmittel

(原形質賦活劑 Protoplasmaaktivierungsmittel, (蛋白體) 刺戟療法或ハ非特異性免疫療法劑 Mittel der (Proteinkörper) Reiztherapie oder zur unspezifischen Immuntherapie.

(注意:— 硫黃劑, 血清, 「ワクテン」参照)

【成分】 蛋白, 「リポイド」ヲ主トスル免疫元ノ性質ヲ有スルモノ, 「ヒストトキシシン」 Histotoxin。

【作用】 非特異性ノ刺戟ヲ與ヘ, 免疫元作用ニヨリ細胞原形質及網狀織内被細胞系 retikuloendothelialer Stoffwechselapparat ヲ賦活シ, 是ニヨリテ生體機能ヲ正規ニ復歸セシメ, 又夫レヲ保持セントスルモノデアル。白血球増加, 充血, 滲出機轉増盛, 血液凝固性増進, 免疫産出ノ増加及ビ酵素ノ活力ヲ増進セシム。

【適應】 慢性關節「レウマチス」, 筋痛, 急性熱性病(感冒, 肺炎, 麻疹, 「アンギーナ」, 中耳炎, 丹毒等), 炎症性疾患(子宮附屬器炎, 慢性氣管支炎等), 化膿症, 敗血症, 產褥熱, 原因不明ノ熱性病。氣管支喘息, 蕁麻疹, 「アルレルギー」性疾患, 自律神經支配平衡異常(殊ニ「ワゴトニ」性疾患), 「ノイローゼ」。

【用法及用量】 1) 皮下及筋肉内。第1回少量ヲ用ヒ, 反應ノ有無ヲ注意シツツ爾後 毎日又ハ 2—3 日目殊ニ漸次増量ス。反應ハ注射回数ト共ニ減ズルモノナルモ, 反對ニ増強スル時ハ減量ス。

2) 靜脈内注射。第1回ハ製劑ニヨリ一定セザルモ約 0.25 cc トシ, 爾後 1—5 日ノ間隔ヲ置キ前回量ノ 1/10 宛増量, 0.5—1.2 cc ニ至ル。必要アラバ 5.0 cc ニ迄至ル。

【注意】 1) 皮下注射後局所反應(輕度ノ發赤・腫脹・疼痛等)ヲ呈スル

コトアルモ 1—2 日ニテ消退ス。一般反應(輕度ノ惡寒・發熱)アレバ減量ス。

2) 注射半時間前全用量ノ 1/10 cc ヲ注射シテ「ショック」ヲ避クベシ。

3) 神經性特異體質及強度ノ衰弱者ニハ避クベシ。

Autoserum 自家血清

【適應】 傳染病(「チフス」・猩紅熱・麻疹・丹毒・「ロイマチス」・敗血症)・蕁麻疹・氣管支炎。

【用量】 5—10 cc ノ血液ヲ採取シテ, 氷藏スルコト數時間後血清ヲ分離シテ 0.5% ノ割合ニ石炭酸ヲ加フ。皮下又筋肉内ニ毎日 2.0—5 cc ヲ注射ス。冷暗處ニ貯フレバ數週間使用シ得。

Caseinol 「カゼイノール」(鹽野義)

【成分】 4% 「カゼイン」注射液。

【用量】 毎日, 隔日又ハ每3日 0.1—0.3 ヲ皮下。次第ニ 1回 3—5 cc ニ増量。

Caseosan 「カセオサン」(Heyden)

【成分】 5% 「カゼイン」溶液。

【用量】 2—4 日ノ間歇ヲ置キテ 0.1—1.0 cc ヲ次 次第ニ増量シ 5.0 cc ニ至ル。皮下又ハ筋肉内。

Cibalbumin 「チバルブミン」(Ciba)

【成分】 5% ノ動物性蛋白質ノ透明水溶液。

【用量】 皮下, 筋肉内ニ 1回 2—7—10 cc (1—3—5 管) ヲ用フ。慢性症ニハ 2—4 cc (1—2 管) ヲリ始ム。

Chylin 「ヒリン」

【成分】 動物ノ乳漿汁, 乳白色ノ液體, 蛋白, 「リポイド」, 脂肪含水炭素, 血糖降下性物質等ヲ含有ス。

【作用】 刺戟體療法ノ意ニ適フ。

【用量】 0.5—2.0 cc 皮下或ハ筋肉内。

Enasin 「エナシン」(田邊)

Erstin 「エルスチン」(武田)

【成分】 反應性蛋白簇(非病原性微生物ヨリ抽出)免疫能動性膽汁類脂肪體簇及ビ動物性脂肪體簇。

【用量】 毎日 1回 1—2 管(2—4 cc) ヲ皮下又筋肉内, 連用可能ナリ。

Eryosan 「エリオザン」(武田)

【成分】 純粹「カゼイン」3% ヲ含ム。

【用量】 初メ 0.5 cc ヲ皮下, 靜脈内ハ 0.25 cc ヲリ始メテ毎日又隔日又每3日ニ前回ノ 1/10 ヲ増量, 皮下ハ 5—10 cc, 靜脈内ハ 0.5—1 cc ニ到ル。

Lipatren 「リパトレン」(Bayer)

【成分】 「リポイド」含有「ヤトロ」。

Moxol 「モクソール」(三共)

【成分】 「ヒストトキシシン」製劑, 「ヒストトキシシン」 Histotoxin ヲリンゲル液ニ採取ス。

【作用】 刺戟體療法ノ意ニ叶フ。化學的ニハ「ヒストトキシシン」ニシテ抗元性ヲ有セズ。是ハ「ヒスタミン」ニ類似スルモノ, 生物學的及藥理學的性質ハ異ナ

ル。

【適應】急性炎症性疾患・「ロイマチス」性疾患・氣管支喘息・食慾不振・結核・睡眠障碍・「インフルエンザ」・耳鳴・百日咳・蕁麻疹・血清病・動脈硬化症・創傷ノ治癒促進・特發脫疽・高血壓症・胃及十二指腸潰瘍。

【用量】毎日或ハ隔日ニ靜脈内或ハ皮下。通常1回20ccトシ1回40—100ccヲ1回又ハ數回ニ分チ用フ。10年以下ノ幼兒ニハ5—10ccヲ用ヒ、乳兒ニハ最少量ヲ5cc迄トス。可及的ソノ大量ヲ用フル方可ナリ。

Multin 「ムルチン」(鹽野義)

【用量】1日1回1—2ccヲ皮下又ハ筋肉内。連用可能ナリ。

Nidostrin 「ニドストリン」(大野三共)

【成分】珪酸ト類脂體トヲ吸着結合セシメタルモノヲ1.2%ニ含ム「コロイド」狀ノ分散體。

【作用及適應】循環系ニ對シ特ニ細胞原形質賦活作用ヲ示シ、高血壓・動脈硬化・狭心症等ニ用フ。

【用法及用量】0.5→1.0 皮下注射。

Ogardin 「オガルヂン」(藤澤)

【成分】Cyprinidae (鯉科)ノ血清ヨリ分離シタル成分ニシテ非特異性全免疫元トシテ作用セシム。

【用法及用量】1日1回1—2cc 皮下或ハ筋肉内。

Olobintin 「オロビンチン」(Riedel-C.Holstein)

【成分】10%「テレピンチン」油

溶液。非特異性刺戟劑。

【適應】化膿症(フルンケル・カルブンケル等)・濕疹・毛疥・丹毒・肋膜炎・淋疾・附屬器炎等。

【用量】1ccヲ皮下又筋肉内。

Omnadin 「オムナヂン」(Bayer)

【成分】ムッフ氏三大反應簇ヲ有ス。反應性蛋白體、膽汁「リポイド」、動物性脂肪體。

【用量】1回1管(2cc)ヲ皮下又筋肉内。連用シ得。

Omnin 「オムニン」(Comet)

【成分】異種蛋白體及「リポイド」ト脂肪體。

【用量】1回2ccヲ毎日又隔日ニ筋肉内。神經痛ニハ局部へ。結核ノ初期ニハ少量ヨリ始ム。連用可能ニシテ適宜用量ヲ増減ス。

Raiformin →神經痛劑

Repulsin →「ワクチン」

Stimin 「スチミン」(三共)

【成分】非特異性全免疫元ヲ主體トス。

【用量】1回量2.0cc 筋肉内。小兒ニハソノ半量ヲ試ム。

Umstin 「ウムスチン」(Comet)(黒田)

【成分】動物性及植物性蛋白基質ト「ミアスマアルレルゲーン」ノ非病原性絲狀菌數種ノ浸出液ヲ混ズ。

【用量】1) 大人ニテハ先ヅ弱「ウムスチン」0.1ccヨリ初メ漸次増量ス。小兒ハ大人ノ半量ヲ用フ。皮下ニ注射ス。

2) 約20回ヲ1「クール」トス。

【注意】「アルレルギー」症狀ヲ呈セバ「アドリナリン」0.1—0.3ccヲ注射ス。

Yatren-Casein 「ヤトレンカセイ」(Bayer)

【成分】3% Yatren = Casein

ヲ2.5% (弱) 又ハ5% (強)ニ含マセタルモノ。

【作用】原形質賦活劑トシテ主トシテ熱性病ニ用フ。

【用量】0.1→3.0—5.0 漸増的ニ筋肉内。

24. 發熱療法劑 Mittel der Fieberbehandlung

1. 硫黃劑 Schwefelpräparate

(發熱療法 Fieberbehandlung, Fiebertherapie トシテ「マラリア」接種、廻歸熱「スピロヘータ」接種、「ツベルクリン」注射、「ヌクレイン」酸「ソーダ」液「ワクチン」注射等ガアル)。

【作用】一般刺戟療法ノ意ニ適スルガ近來發熱療法トシテ特ニ陳舊微毒ノ治療ニ「マラリア」療法ニ準ジテ用ヒラル。

【適應】中樞神經系ノ「メタ」微毒晚期微毒・淋疾・軟性下疳・慢性化膿性疾患・「アルレルギー」性疾患・諸種ノ皮膚病・糖尿病・高血壓症・重金屬中毒・神經痛・慢性關節「レウマチス」。

【注意】1) 重篤ナル循環器疾患・腎及肝ノ重篤器質的疾患、妊婦ニハ發熱量(1% 1cc以上)ノ使用ヲ禁ズ。

2) 發熱療法中ニハ必ズ心臓機能ニ注意スベシ。

3) 注射液ニ沈澱ヲ生ジタル時ハ温湯ニテ暖メ溶解ス。

4) 注射部位ノ疼痛ニハ濕布又ハ解熱劑ヲ含有セザル鎮痛劑(パピナル、パントボン等)ヲ用フ。

5) 發熱中ハ解熱劑ヲ使用セズ。

6) 注射後1時間位ヨリ發熱シ10時間後ニ最高ニ達ス。

7) 發熱療法ノ目的ニハ1.0% 2—3ccヨリ始メ、4—5ccニ及ブ。1「クール」ハ8—10回ニ及ブ。

Anaesulosin 「アネスルオジン」(小田井)

【成分】1%滅菌硫黃油液ニ1%「アネステジン」ヲ加フ。

【用量】上腿外側ノ上1/3ノ所ニテ深ク筋肉内注射。1—10ccヲ用フ。

Pirosulf 「ピロズルフ」(萬有)

【成分】硫黃「オレフ」油溶液。

【適應】1) 左右交互ニ大腿外側1/3ノ筋肉内又ハ臀筋内。

2) 中樞神經系ノ微毒ニハ初メ1.0—1.5ccヲ用ヒ漸次増量ス。時ニハ6—10ccヲ用ヒテ初メテ發熱ス(39°C—40°Cヲ目標トス)。

3) 通常他ノ疾患ニハ0.3—0.5ccヨリ初メ漸次増量3.0—4.0ccニ至リ連用ス。(發熱ハ38°C以上トス)。

4) 注射間隔ハ2—4日ヲ普通トシ・特ニ5日トス。1「クール」ハ10—12回ナリトス。第2、第3

「クール」ハ1—2ヶ月後ニ行フ。
5) 注射後10—14時間ニシテ
體温最高トナリ24—30時間ニ
シテ下熱ス。從ツテ就寢前ノ注
射ガ可ナリ。

6) 發熱ト同時ニ注射部位ニ疼
痛ヲ感ズ。時ニハ「ルミナー
ル」、「アダリン」、「モルヒネ」等
ヲ與フ。解熱劑ヲ含ム鎮痛劑ハ
用ヒズ。

Schwefelin「シウエフェリン」(鳥居)

【成分】0.6% 硫黃, 1.0% 「ネオ
テシン」ヲ「オレフ」油中ニ溶
解。→Sulfan, Piro-sulf

【用量】初メ1ccヲ大腿外側筋
肉内。發熱39°C位ナル時ハ次
ニ0.5ccヲ増量, 38°C以下ノ
時ハ1ccヲ増量, 40°C以上ノ
時ハ第1回ト同量ヲ用フ。10—
12ccヲ1「クール」トス。隔
日又毎3日ニ注射。

Sufrogel「ズフロゲル」(Heyden)
(田邊)

【成分】硫黃ヲ0.3%ノ割ニ「ゲ
ラチン」液ニ浮游ス。

【用量】毎日又隔日ニ1cc宛筋
肉内。

Sulfan「サルファン」(武田)

【成分】硫黃0.5及1.0%ヲ含ム
澄明油溶液ニ3%「ノボロホル
ム」ヲ配ス。

Sulfosin-Leo「ズルフオジンレオ」
(小田井)

【成分】硫黃ト「オレフ」油, 1cc
中硫黃0.01g含有。

Sulfrol「ズルフロール」(三共)

【成分】0.5% 硫黃「オレフ」油液
ニ「ネオテシン」(「アミノ」安息
香酸「エチル」)ヲ附加ス。

【用量】臀筋内注射, 發熱療法, 3.0
—4.0—10.0cc。發熱療法以外ノ
疾患0.3—1.0—4.0cc。

2. 「ワクチン」劑

屢々Gonokokken-vaccinガ用ヒ
ラル。

Gonokokken-vaccine 淋菌「ワク
チン」→「ワクチン」

3. 蛋白質製劑

Pyrifer「ピリフェル」

【成分】非病原性大腸菌族ノ細
菌蛋白質ヨリナル。

Vaccineurin → 鎮痛, 「ロイマチ
ス」劑中一般賦活劑。

25. 食慾催進劑

Appetit anregende Mittel, Stomachica

Vitamin B「ビタミン」B劑

→「ビタミン」劑

【作用】「ビタミン」B₁ 缺乏症
(脚氣)ノ食慾ヲ充進サシム。

Organpräparate → 臟器製劑

Insulin「インシュリン」

【成分】膵臟ランゲルハンス島
嶼ノ「ホルモン」。

本「ホルモン」注射ニヨリ血糖減
少症ヲ起スト共ニ餓餓感ヲ發ス。屢
々葡萄糖液ノ注入ト併合サル(肥胖
療法 Mastkur)。

Ochimon → 臟器製劑

【作用】胃壁製劑ニシテ胃機能
ヲ鼓舞ス。

Secretamin「セクレタミン」(三共—
鳥居)

【成分】胃液分泌「ホルモン」(ガ
ストリン)。

【作用】胃液分泌促進, 腺液及膽

汁分泌, 子宮收縮等。

【適應】胃液分泌缺乏・消化不
良・食慾不振等。

【用量】1日1—2ccヲ皮下。

Spinacin「スピナチン」(三共)

【成分】蒺藜草ノ有效成分ヲ抽
出ス。

【適應】食慾不振・嘔氣・腹部膨
滿・結核ノ消化不良・胃液缺乏
・貧血。

【用量】1日3回0.5—1.0cc宛食
前10—20分ニ皮下又ハ筋肉内

26. 止瀉劑

Antidiarrhoica,

下痢ハ屢々消化管殊ニ腸蠕動ノ亢進ニヨリ招來サレル。下痢ヲ抑壓ス
ルノ手段ハ又腸運動機ヲ抑ヘルニアリ, 即チ抗交感神經ノ迷走神經ノ
麻痺劑「アトロピン」, 「ロート」劑, 「コデイン」劑又阿片「アルカロイド」
劑等デアル。(鎮痛劑, 麻醉劑參照)

Gentropin「ゲントロピン」(日新醫
學)

【成分】「ゲンノシヨウコ」ノ有
效成分ヲ抽出シ其ノ2%溶液ニ

硫酸「アトロピン」0.05%ヲ配
ス。

【適應】胃腸「カタル」・下痢。

【用量】1回1ccヲ皮下

27. 腸蠕動催進劑(驅風劑)

Peristaltica, Darmperistaltik anregende Mittel

(→自律神經疾患劑)

Cholinchlorat 鹽化「ヒヨリン」
(Merck)

【適應】急性腸管麻痺・慢性胃腸
「アトニー」。

【用量】0.6「アンブレ」入り, 滅菌
生理食鹽水250ccニ溶解シ(1/4

L) 徐々ニ靜脈内注射。

Dadogen → 膽道蠕動催進劑

Eserinum salicylicum ㊦「サリチ
ル」酸「エゼリン」→「サリチル」
酸「フィゾスチグミン」

Hinterin → 臓器製劑

【成分】 腦下垂體後葉製劑。

Hormonal 「ホルモナル」, **Neo-**

Hormonal 「ネオ・ホルモナル」 (Schering)

【成分】 脾臓製劑ニシテ蠕動催進劑 (Peristaltikhormon, *Zu-eizer*)。

【適應】 便秘・手術後腸管麻痺。

【用量】 「ネオ・ホルモナル」ハ「アルブモーゼ」ヲ脱却シアルタメ、之レニヨル副作用ナシ。20 cc 入ノ褐色瓶、徐々ニ筋肉内、静脈内。

Hypophysin → 臓器製劑

Peristaltin 「ペリスタルチン」

(Ciba)

【成分】 「カスカラサグラダ」皮中ノ「グリコシード」類。

【適應】 便秘・「イレウス」・疫痢・腸麻痺ノ豫防。

【用量】 1回1—2筒(0.15—0.3)ヲ皮下又静脈内。

Physostigminum salicylicum

⑤ 「サリチル」酸「フィゾスチグミン」

【成分】 0.1% 溶液トス。

【作用】 抗交感神経刺戟、腸蠕動亢進。

【適應】 鼓腸・腸管麻痺。

【用量】 1回0.2—0.5 ccヲ皮下。1回ノ極量ハ0.001, 1日3回迄。

Prostigmin 「プロスチグミン」

(Roche)

【成分】 「メタオキシフェニールトリメチルアムモニウム・メチルズルファート」ノ「ジメチルカルバミン」酸「エステル」, 0.05% 水溶液。

【適應】 腸「アトニー」・腸管麻痺性「イレウス」・便秘等。

【用量】 1 ccヲ皮下又筋肉内。

28. 利膽劑及ビ膽道蠕動催進劑

Choleretica und Cholekinetica

A. 利膽劑 Choleretica

利尿劑 Diuretica ト同律ニ使用スル名稱テ肝臓胆汁分泌 Lebersekretion ヲ増盛スル anregen モノヲ云フ (胆汁成分殊ニ胆汁酸製劑ガ用ヒラレル)。膽道閉塞性黄疸アル時ハ禁忌トス。

B. 膽道蠕動催進劑 Cholekinetica

(自律神経疾患劑)

肝臓外ノ膽道運動機能ヲ増盛スルモノ Mittel die extrahepatischen Gallenmechanismus in Bewegung setzen

i 腦下垂體後葉製劑

ii 「サリチル」酸「ソーダ」

iii 硫酸「マグネシア」(25—33%) 50—80 cc 十二指腸注入 (其他, 油劑・「ペプトン」・「ポドフィリン」・「メントール」・「フェノール」・「タレイン」等ガアル)

Atophanyl 「アトファニール」(Schering Kahlbaum—田邊五)

【成分】 Atophan-natrium ト Natrium-salicylat ヲ 5% = 等量ニ含有スル滅菌溶液 (5cc)

【適應】 → Icterosan

【用量】 10 cc 静脈内。筋肉内ニハ5% 鹽酸「プロカイン」溶液 0.5cc (添附「アンブレ」) ヲ混ジテ疼痛ヲ少ナリス。

Choleretin 「コレレチン」(大日本製薬)

【成分】 「デヒドロ・ヒヨール」酸「ソーダ」ノ 20% 溶液。

【作用】 利膽, 利尿, 解毒。

【適應】 膽石排除・膽道ノ疾患諸症。

【用量】 1) 1回 5—15 cc ヲ 1—3日ニ 1回静脈内。高張葡萄糖溶液 20—50 cc ニ混ジ用フレバ更ニ可。

2) 蟲卵, 膽石ノ排除ニハ 15—20 cc ヲ用フ。

Dadogen 「ダドーゲン」(日本新薬)

【成分】 「アラニン」, 「グルタミン」酸, 「グルタミン」酸「ソーダ」, 硫酸「マグネシア」ノ複鹽

水溶液。

【性状】 無色透明液。

【作用】 胃腸ノ蠕動亢進, 胃液, 胆汁及膵液分泌ヲ旺盛ニナシ, オツチイ氏筋ヲ弛緩セシメテ胆汁ノ排出ヲ促ス。

【適應】 膽石症・膽囊炎・「カタル」性黄疸・胃「アトニー」・鼓腸・慢性便秘。

【用量】 1回 1管(20 cc)ヲ毎日又隔日ニ徐々ニ静脈内。

Decholan 「デコラン」(Riedel-Holstein)

【成分】 Dehydrocholsäure ノ「ナトリウム」鹽ノ 20% 溶液。

【適應】 胆汁分泌ヲ促進シ, 膽道炎・膽石症。

【用量】 10 cc 静脈内。

Icterosan 「イクテロサン」

(Schering—田邊五)

【成分】 Atophannatrium ノ 10% 溶液, 0.16% ニ Beta-Eukain ヲ含ム。

【適應】 「カタル」性黄疸・膽道炎・膽石症。

【用量】 5 cc ヲ静脈内, 筋肉内。

29. 驅蟲劑 Anthelminthica

1. 蛔蟲病治療劑 *Ascaris betäubende Mittel*

Altemidin 「アルテミジン」(マルコー小島)

【成分】 5—10%ノ「サントニン」酸「ソーダ」溶液。

【用量】 1 cc 皮下, 静脈内又筋肉内。1日1回2日間。

Drasmin 「ドラスミン」(鹽野義)
 【成分】「サントニン」酸「ソーダ」ノ5%及10%水溶液。
 【用量】10%水溶液1—2cc小兒ハ5%溶液ヲ1日1回皮下, 靜脈内又ハ臀筋内。

Santsol 「サントゾール」(日本新藥)
 →Drasmin

2. 「アメーバ」赤痢治療劑 (肺「ヂストマ」症)
 Amöbendysenterie-heilmittel)

Emetinum hydrochloricum 鹽酸「エメチン」(Parke Davis—鹽野義)(フタバ—林)

【成分】1筒(1cc)中ニ0.04ヲ含ム。

【適應】二口蟲病ニモ用ヒラル。

【用量】毎日又隔日ニ4%液1cc宛, 赤痢病狀ノ消退スルマテ用ヒ, 全量0.1—0.2ニ至レバ, 爾後隔日ニ1筒(1cc)宛。次ニ隔週又ハ1ヶ月, 1回用ヒテ約半ヶ月休止。總量0.6以上ヲ用ヒズ。二口蟲症ニハ毎日又ハ隔日ニ4%1cc液宛皮下ニ用フ。極量1回0.05, 1日0.15

【注意】中毒時ニハ胃腸, 神經症狀ヲ呈ス。排泄遅ク體內ニ蓄積シ易シ。

Melysin 「メリジン」(武田)

【成分】「マンヂユシヤゲ」, 「ヒガンバナ」Lycoris radiata Herba (石蒜科)ノ葱根ヨリ得タル「アルカロイド」, 1.0cc中ニ鹽酸「ヒドロリコリン」0.05gヲ含ム。

【適應】肺「ヂストマ」病ニモ試

ミラル。

【用量】1回1筒(1.1cc)ヲ毎日又ハ隔日ニ皮下。

Tenesmin 「テネスミン」(大日本製藥)

【成分】40%「ウロトロピン」ト0.4%鹽酸「エメチン」ヲ主トス。

【適應】慢性腸炎ニモ用ヒラル。

【用量】大人1回5ccヲ1日1—2回, 靜脈内。

Zusammengesetztes Emetin hydrochlorid 複方鹽酸「エメチン」(武田)

【成分】鹽酸「エメチン」3%ト鹽酸「ツェファエリン」1%。

【適應】肺「ヂストマ」症ニ又用ヒラル。

【用量】毎日又隔日ニ1日1回1筒(1.0cc)ヲ皮下。

3. 「ヂストマ」病治療劑 ((gegen Distomatosis, Schanker Lymphogranulomatosis inguinalis usw)

Emetinum hydrochloricum— injection 鹽酸「エメチン」注射液 (Parke Davis—三共)

【成分】2%鹽酸「エメチン」水溶液(吐根有效成分)。

【適應】「アメーバ」赤痢・肺「ヂストマ」等。

【用量】1回1cc皮下又靜脈内。

【注意】市販品多シ。フタバ—林田邊, 小島, 鹽野義ヨリ4%水溶液, 武田製品ハ3%(鹽酸「ツェファエリン」1%ヲ含ム)。

Stibnal 「スチブナール」(萬有)

【成分】「アンチモニル, ナトリウム, タータレート」 $C_4H_4O_7SbNa^{1/2}H_2O$, 1管10cc中ニ0.15gノ「スチブナール」ヲ含ム。

【適應】鼠蹊淋巴肉芽腫(第4性病)・軟性下疳・日本住血吸蟲症・肺及肝「ヂストマ」症・「カラアザール」・睡眠病其他ノ「スピロヘータ」病。

【用量】1) 第4性病ニハ1回20

cc宛1週2—3回ヲ靜脈内。軟性下疳ニモ同様。

2) 住血吸蟲病ニハ第1回20cc第2回30cc以下此ノ量ヲ交替ニ反復注射シ全「スチブナール」含有量ヲ7.5g迄トス。

3) 「ヂストマ」病其他「スピロヘータ」病モ之ニ準ズ。

【注意】心臟病ノ重症ナル者。特異質ニハ禁忌ナリ。

30. 「ビタミン」劑

Vitaminpräparate

	「ビタミン」ノ種類	「ビタミン」缺乏症
脂肪可溶	Vitamin A	眼球結膜乾燥症, 夜盲症, 結石形成, 傳染ニ對スル抵抗減退, 成長障碍。
	Vitamin D	佝僂病, 骨代謝障碍。
水可溶	Vitamin B—Komplex	
	Vitamin B ₁ (BF) antineuritic factor, Funk	脚氣
	Vitamin B ₂ (BG) Pellagra-preventing factor, Goldberger	皮膚疾患「ペラグラ」
	Vitamin C	壞血病, 出血性素質

1. 「ビタミン」A 製劑

化學上「カロチン」Carotin (A, Provitamin) ト關係深キ物質ト考ヘラル。結晶純粹物ハ $C_{20}H_{30}O$ ト信ゼラル。

【適應】結核・喘息・夜盲症・小兒虛弱・結膜乾燥症。

Biosterin 「ビオステリン」(理研—玉眞)

【成分】「ビタミン」Aノ作用ヲ有スル Biosterin $C_{27}H_{44}O_{20}$ ノ1.5%「オレフ」油滅菌溶液。

【用量】0.6—1.8cc 筋肉内。

Jecoramin 「セコラミン」(日本新藥)

【成分】肝油中ノ「ビタミン」Aヲ「オレフ」油ニ溶解セシム。

【用量】0.5—1.0ccヲ毎日又隔日ニ筋肉内。

Vitamin A 「ビタミンA」(理研一玉製)

【成分】 肝油「ビタミン」A

【用量】 1—3 cc 筋肉内。

2. 「ビタミン」D 製劑

植物性及動物性「ステリン」ニ紫外線ヲ照射シテ人工的ニ製出サル。純粹結晶形 $C_{25}H_{44}O$ ノ1mgハ50,000國際單位ニ相當ス。

Vigandol 「ヴィガンドル」(Bayer)

【成分】 紫外線照射ヲナシタル純結晶性「エルゴステリン」Ergosterin 油液 1 cc ハ結晶「ビタミン」D 0.3「ミリ」即チ15,000國際單位ヲ含有ス。

【適應】 佝僂病・骨ニ於ケル代謝障礙・「テタニー」・小兒痲痺質・腺病質・結核等。

【用量】 稀ニ「ビタミン」Aニ準ジ 1 cc 筋肉内。

3. 「ビタミン」A 及ビ「ビタミン」D 製劑

Yanol 「ヤノール」(三共)

【成分】 注入用脂肪乳化液ニシテ、「ビタミン」A及Dノ含有多ク又高度ノ營養價ヲ有ス。

【用法】 靜脈内、筋肉内、注腸 2, 5, 10, 20 cc 「アルブレ」アリ。

4. 「ビタミン」B 製劑 (Vitamin-B-Komplex)

「ビタミン」B₁ Vitamin B₁, Aneurin ノ國際單位ハ10 珎ノ米糠カラ抽出シタル溶液ヲ酸性白陶土

ニ平等ニ吸着セシメ 其吸着物ノ10 珎ヲ一單位トス。

【注意】 脚氣治療ニハ可及的大量ヲ注射スベシ、局所麻酔劑ヲ含ムモノハ之ヲ顧慮セヨ。衝心 cardio-vasculäre Insuffizienz ニハ「ストリキニーネ」等ノ強心、血管劑ヲ伍用ス。

B₁ ノ純粹ナルモノハ化學上 C₁₂H₁₆N₄SO₂ (鈴木梅太郎博士等) 或ハ C₁₂H₁₆N₄SO (A. Windaus) ト云ハル未ダ決定シナイ。

【適應】 脚氣・自家中毒・榮養障礙・便秘・惡阻・食慾不振・高血壓。

Abery 「アベリー」(第一製藥)

【成分】 米胚芽中ヨリ抽出精製ス。

【性状】 淡黄色澄明、蛋白質、「カリ」鹽ナシ。

【用量】 1日1回1筒ヲ皮下(1 cc, 3 cc 及 5 cc 入)又ハ靜脈内(5 cc 入)。

Abery-B₁ 「アベリー・ビーイチ」(第一)

Vitamin B₁ 結晶溶液

Antiberiberin 「アンチベリベリン」(南信堂)

【成分】 米糠ヨリノ「ビタミン」B 劑。

【用量】 毎日1 cc 皮下又靜脈内。

Benervit 「ベネルビット」(Roche)

【成分】 Vitamin B₁ (Aneurin 製劑)。1 cc ハ 500 國際單位ヲ含ム。

Beriberol 「ベリベロール」(ラザウム)

【成分】 「ビタミン」B 劑。

【用量】 1) 皮下用：—1—3 筒(1—3 cc) ヲ皮下、筋肉内又ハ靜脈内。

2) 靜脈用：—1回1管(10 cc) ヲ1日：—2回。

Betaxin 「ベタキシン」(Bayer)

【成分】 Vitamin B₁

Bitanin 「ビタニン」(内外新藥)

【成分】 胚芽、麥芽、白菜ヨリ得タル「ビタミン」B 劑。

【用量】 1回1.0—5.0cc ヲ皮下又ハ筋肉内。1日1—3回。重症ハ數回行ヒ得又ハ1回10—20 cc。

Ebios 「エビオス」(田邊)

注射液「ビタミン」B 複合物
結晶液「ビタミン」B₁ 結晶溶液

Furfurmin 「フルフルミン」(日本藥品)

【成分】 「ビタミン」B 劑。

【用量】 1回1—5 cc ヲ皮下又筋肉内。重症ニハ1回10—20 cc ヲ用フ。

Hodin 「ホーヂシ」(浅川—藤澤)

【成分】 米胚芽ヨリノ「ビタミン」B 劑。

【用量】 1日1回2 cc ヲ皮下、筋肉内或ハ靜脈内適宜大量ヲ用フ。

Injectio oryzanini 「オリザニン」

注射液 Vitamin B₁ 結晶ノ生理食鹽水溶液

普通品ハ 1 cc 中 0.05 mg ヲ含有ス(0.0015 mg ハ國際吸着品 10mg ト其效力對應ス)。

3倍、5倍、10倍、20倍、40倍ノ強力ナル製品アリ。

附「ロー・オリザニン」 Roh-

Oryzanin ハ濃縮サレタル準純粹品。

Metabolin 「メタボリン」(武田)

【成分】 Vitamin B₁ ノ鹽酸鹽結晶ノ含有量ヲ mg ニテ表示ス。

Mizuhonin 「ミヅホニン」(大日本製藥)

【成分】 米胚芽ヲ原料トセル「ビタミン」B 劑。

【用量】 1回1—2 cc ヲ皮下、筋肉内又靜脈内。

Neo-Bitanin 「ネオビタニン」(内外新藥)

「アルコール」ヲ含マザル「ビタミン」B 劑。凡テ「ビタニン」ニ準ズ。

Neo-Neocorn 「ネオネオコルン」(三栄—鳥居)

【成分】 「ビタミン」B 劑。

【用量】 1回1乃至數筒ヲ皮下(皮下用、1 cc, 2 cc, 3 cc 入り)、又靜脈内(靜脈内用、5 cc 入り)。

Neo-Nutrimin 「ネオ・ヌトリミン」(日新醫學)

【成分】 「ヌトリミン」ノ1管中ニ硝酸「ストリキニーネ」0.002 ヲ含有セシム。

【用量】 1日1管(3 cc) ヲ皮下又ハ筋肉内。

Neo-Paranutrin 「ネオパラヌトリン」(鹽野義)

【成分】 Vitamin B₁ 1—4 號アリ。1 cc 中ニ 100—500 鳩單位(0.25—1.5 mg) ヲ含ム。

Nutrimin 「ヌトリミン」(日新醫學)

【成分】 「ビタミン」B 劑。

【用量】 1日 1.0—5.0ccヲ數回皮下，筋肉内或ハ靜脈内。

Oberon 「オベロン」(日本新藥)

【成分】 米糠ヨリ製セルB劑。

【用量】 1回 1—3cc皮下。

Paranutrin 「パラヌトリン」(鹽野義)

【成分】 米胚芽ヨリ「ビタミン」B劑。

【用量】 大人 1回 1—2ccヲ筋肉内。

Spelzon 「スペルゾン」(武田)

【用量】 1回 1—2ccヲ皮下，筋肉内。

Vitaminol 「ビタミンノール」(田邊)

【成分】 「ビタミン」B劑，米胚芽ヨリ抽出ス。

【用量】 1日 1回 1—3ccヲ皮下，筋肉内或ハ靜脈内。重症ニハ 1日數回用フルカ又ハ 1回 5—10ccトス。1回 20ccヲ用ヒフルモ副作用ナシ。

Vitafortin 「ヴィタフォルチン」(齋藤)

【成分】 「ビタミン」B劑。1筒中「ノホカイン」0.01ヲ配ス。

【用量】 1回 1—2cc皮下，筋肉内 1日 2—3回。

【注意】 「ビタミン」劑ハ市販品多シ Vitahorin (應用)，Vitaberol (鶴立)，Viosanin (模範)，Vitaberitin (昭和)，Vital (若松)，Vitaminin (日東)，Hirao-Vitamin B (新良) 等。

5. 「ビタミン」C 製劑 Vitamin C Präparate

抗壞血病物質「ビタミン」Cハ生物學的ニ見テ其作用ガ左旋性「アスコルビン」酸ノ夫ト一致シ (Szent-Györgyi, King & Waugh 1933)，又之ガ合成ニ成功シタ (Reichstein Haworth usw. 1933)。

結晶性 l. ascorbic acidノ 0.03mgガ一國際單位 1 internationale Vitamin-C-Einheitニシテ，新鮮ナル「レモン」汁 0.1ccノ效力ニ相當ス。

【注意】 Ascorbinsäureハ六炭糖誘導體 $C_6H_8O_6$ ニシテ Hexan-2,5,6-triol-3-onolid-4, 1 又ハ desmotropen 2, 3, 5, 6-Tetraoxyhexen-(2)olid-4, 1。

【適應】 「ビタミン」C 缺乏症 Hypovitaminosis C, vitamin C deficiency. 壞血病，小兒壞血病 (Möller-Barlow' disease) 出血性素質，骨及齒牙發育障碍，乳兒・妊婦ノ營養障碍及貧血，出血性腎炎，急性傳染病 (恢復期)，甲狀腺機能障碍，中毒症，皮膚疾患 (乾癬)，老人性白内障。

【用量及用法】 1日 50mgハ壞血病治療作用ヲ有スト云ハル，又大人 1日ノ豫防用量ヲ 25—50mgトシ，100—200mgヲ治療量トサル。救急ノ目的ニハ大量ノ靜脈内注射。

Ascorbin 「アスコルチン」(田邊元)

【成分】 純粹ノ左旋性「アスコルビン」酸結晶 100「ミリ」(2,000國際單位)ヲ「ナトリウム」鹽ヲ以テ中性トシタル無菌ノ溶液。

Ascovyl 「アスコイル」(鹽野義)

1-「アスコルビン」酸「ナトリウム」，2cc中 0.1 (2,000國際單位)

【用量】 2cc皮下，筋肉内，靜脈内。

Cantan 「カンタン」(Bayer)

【成分】 化學的純粹ノ左旋性「アスコルビン」酸。1ccハ 35mgヲ含ム。Cantan forte 強力「カンタン」ハ 2cc中ニ 100mgヲ含ム。

【用量】 1日 3回 1cc宛，小兒ハ 0.6cc宛。皮下或ハ筋肉内。豫防的ニハ 1日 1cc宛。

Cebion 「ツェビオン」(Merck)

【成分】 左旋性「アスコルビン」酸ヲ 1「アンブール」中ニ 0.05g (1,000國際單位)ト 0.1 (2,000國際單位)トアリ。

C-Tamin 「シータミン」(日本新藥)

【成分】 「アスコルビン」酸ノ中性「ナトリウム」鹽，1cc中 500國際單位ヲ含ム。

Redoxon 「レドキシオン」(Roche)

【成分】 1「アスコルビン」酸「ナトリウム」。

【用量】 1cc中ニ 0.1ヲ含ム。

Viton 「ビトン」(三共)

【成分】 d-Erythro-3-keto-hexonic acid (d-arabo-ascorbic acid)

【用量】 5%溶液，1管 1cc。

6. 「ビタミン」Bニ他ノ藥劑ヲ伍シタルモノ

Adeno-Spelzon 「アデノ・スペルゾン」(武田)

【成分】 「スペルゾン」ニ骨髄筋「エキス」ヲ配ス。

【作用】 骨髄筋「エキス」ハ脚氣ノ腓腸筋症候ヲ緩解ス。

【適應】 脚氣特ニ腓腸筋症候ヲ伴フモノ。

【用量】 1回 2ccヲ患部皮下又ハ筋肉内。

Neovitaminol 「ネオビタミンノール」(田邊)

【成分】 「ビタミンノール」ニ硝酸「ストリキニール」ヲ配ス。

【適應】 脚氣(殊ニ衝心型)。

【用量】 1) 1回 2—5ccヲ靜脈内又ハ皮下。30分—1時間後必要アレバ反復ス。1日 5回以上ハ用ヒザルヲ可トス。

2) 浮腫性脚氣ニハ 1日 1回 1筒ヲ皮下。

3) 麻痺性脚氣ニハ隔日ニ 2—5ccヲ皮下又ハ靜脈内。

Vitabelin-Stark 「スタルクビタベリン」(マルコ)

【成分】 「ビタベリン」ニ硝酸「ストリキニール」(0.001—0.002g)ヲ配ス。→Neovitaminol

31. 「ホルモン」及ビ臟器製劑

Hormon und Mittel der Organsafttherapie

(Organotherapie)

【成分】 臟器製劑ノ中，其有效成分 active principleガ純粹ニ抽出サレ，化學的組成モ分明シ，又其人工的合成ニ成功シタモノモアルガ (甲狀腺ノ

「サイロキシ」Thyroxin, 副腎ノ「アドリナリン」Adrenalin, 尿中ニ排泄サレル性「ホルモン」等) —「ホルモン」, 未ダ有效成分ヲ純粹ニ分離サレナイモノガ多イ——臟器「エキス」或ハ臟器汁。

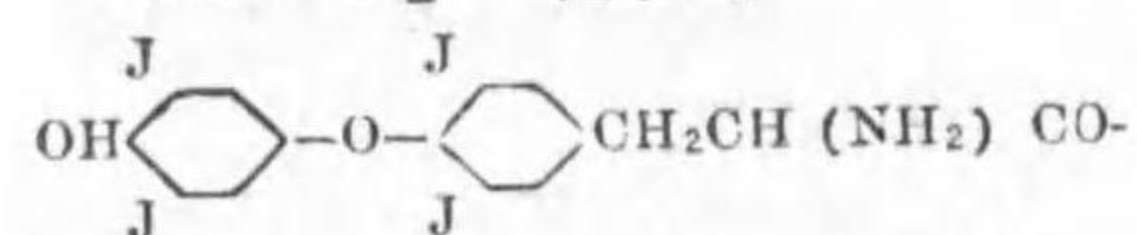
【適應】 最も屢々一定臟器(殊ニ内分泌腺)ノ機能不全ヲ補フ補償療法 Substitutionstherapie ノ意ニ使用サレルガ, 又一定細胞成分ハ當核細胞ヲ刺戟・賦活ストノ原理ノ下ニ一定組織ノ機能ヲ賦活スル意味ニモ用ヒラル。内分泌腺ガ化學的相互聯關 chemische Korrelation ヲナスニヨリ, 一定腺ノ機能ヲ他ノ腺ノ賦活ニヨリ間接ニ影響セシメントスルコトモアル。又一定腺ノ機能充進ニハ其拮抗腺製劑ヲ與ヘルコトモアル。

又一定内分泌腺剔出ヲ動物ニ施シテ生存セシメテ, 其「ホルモン」缺乏ニ對抗スル適應物質ヲ體內ニ生成セシメ, 之ヲ體液中ヨリ求メテ人體治療ニ應用セントノ試ミモ行ハレテ居ル。

【用量】 化學的純品ニテハ其作用ノ強烈ナルモノガアルカラ用量ニ注意シ, 又急激ナル作用ヲ避ケル爲メ最屢々皮下ニ注射サル(「アドリナリン」等ノ「エピレナミン」劑, 「インシュリン」等ノ膵臟島嶼「ホルモン」等)。

1. 甲狀腺製劑

「ホルモン」ハ化學式



OH ヲ有スル Thyroxin トサル。

【適應】 粘液水腫・「ロイマチス」・痛風・脂肪過多・鞏皮症・天疱瘡・濕疹・鱗癬・乾癬・禿頭病・蕁麻疹・偏頭痛・月經過多・子宮出血・喘息便秘・痙攣性疾患。バセドウ氏病・腺病質・精神病・健忘症・皮膚創傷ノ治癒遅徐。

【注意】 「ヨード」適用 Jod-medikation 「ヨード」ハ甲狀「腺ホルモン」ノ構成要素デアアル, 從ツテ「ヨード」適用ハ屢々甲狀腺機能充進ノ症狀ヲ現ハスコトハ治療上注意スベキコトデアアル。

Antithyreoidin 「アンチチレオイジン」(Moebius) (Merck-Schmidt)

【成分】 甲狀腺剔出羊ノ血清。
【適應】 バセドウ氏病・糖尿病・等。
【用量】 隔日ニ1cc 宛皮下。

Elityran 「エリチーラン」(Bayer)

【成分】 甲狀腺製劑「ヨード」0.7—1.0%以上ヲ含ム。
【用量】 0.5—2cc(1%)宛毎日又ハ隔日ニ筋肉内。

Thyradin 「チラーヂン」(武田)

【成分】 甲狀腺「ホルモン」劑。
【用量】 1回1管(2cc)ヲ1日1—2回皮下。

Thyreoglandol 「チレオグランドール」(Roche)

【成分】 甲狀腺「ホルモン」劑, →

Thyroidine

【用量】 1日1ccヲ皮下又静脈内。

Thyroidine 「チロイヂン」(Byla) (丸善)

【成分】 幼若ナル羊ノ甲狀腺「ホルモン」1管(2cc)ハ新鮮甲狀腺0.25gニ相當ス。

【用量】 1日1回或ハ隔日1回2ccヲ筋肉内又ハ皮下。

Thyroprotein 「サイロプロテイン」(Parke Davis—三共)

【成分】 甲狀腺製劑「ヨード」0.33%ヲ含ム。
【用量】 1回1—2cc 皮下。

Thyrorenin 「チロレニン」(Richtel—甲邊)

【成分】 甲狀腺製劑, 1分ハ6分ノ新鮮甲狀腺ニ相當ス。
【適應】 →Thyroidine
【用量】 1回1ccヲ皮下。

Thyroxin 「チロキシ」(Roche)

【成分】 甲狀腺成分ノ化學的集成品。→Thyrorenin
【用量】 1日1—2cc 皮下。

2. 副腎髓質製劑 (詳細ハ血管劑參照)

天然ノ動物副腎髓質製劑及同有效成分ノ人工合成品ハ共ニ局方鹽酸「エピレナミン」液ノ中ニ包含サル。化學組成ハ 3,4-Dioxyphenyl-methylamino-ethanol デアル。

3. 副腎皮質製劑 Nebennierenrindenpräparate

【作用】 呼吸中樞興奮, 筋ノ疲勞

性減退, 收縮力強化, 解毒, 食慾充進

【適應】 アヂソン氏病・バセドウ氏病・筋無力症・衰弱・糖尿病・肺結核・「モルヒネ」中毒・急性傳染病・呼吸麻痺・乳汁分泌機能抑制

Enex 「エネックス」(田邊)

【成分】 副腎皮質「ホルモン」劑

Interenin 「インテレニン」(武田)

【成分】 牛ノ副腎皮質成分, 「アドリナリン」ヲ含マズ。
【用量】 1日1cc 宛1日1—2回, 皮下。1日數回行ヒ得。

4. 上皮小體製劑

Parathyroidine 「パラチロイヂン」(Byla—丸善)

【成分】 幼若ナル羊ノ上皮小體「ホルモン」1管(2cc)ハ上皮小體0.25gニ相當ス。

【適應及用量】 「チロイヂン」ニ準ズ。

5. 膵臟製劑

【成分】 膵臟ランゲルハンス氏島嶼「ホルモン」結晶「インシュリン」ハ $\text{C}_{45}\text{H}_{69}\text{O}_{14}\text{N}_{11}\text{S} + 3\text{H}_2\text{O}$ ト考ヘラレ, ソノ1mgヲ5國際單位 internationale Völkerbundeinheiten トス。然レドモ其力價檢定ハ家兎ヲ使用シテノ生物學的檢定ニヨル。

【作用】 炭水化物代謝 Kohlehydratstoffwechsel ヲ整調シ, 血糖ヲ減ジ, 糖尿ヲ消失セシメル。饑餓感ヲ起サシメ肥胖療法 Mastk-

ur ニ又適應ス。

【適應】 糖尿病・肥胖療法・惡阻・黃疸。

【用量】 糖尿ノ程度ニヨリ一定セズ。

肥胖療法: 黃疸等ニハ 1 回 3—5 單位ヲ 1 日 3—4 回用フ。衰弱甚シキ者ハ 1—2 單位ヨリ始ム。注射後ハ多量ノ葡萄糖ヲ與フヲ可トス。

【注意】 1) 1 cc ハ 10 又 20 單位ニ相當ス。

2) 液ヲ採取スルニハ瓶ノ「ゴム」帽ヲ消毒シ、消毒セル注射器ニ所要量ト等量ノ空氣ヲ吸引後注射針ニテ速カニ「ゴム」帽ヲ穿刺シ吸引セル空氣ヲ壓出シテ所要量ヲ吸引ス。

3) 「アルカリ」ニテ注射器ヲ消毒スベカラズ。

4) 血糖減少症ガ起レバ糖水、餡、菓子等ヲ與フベシ。

5) 注射ハ皮下トス、然シ糖尿昏睡ノ救急療法ニハ稀釋シテ靜脈内ニ注射ス。

Hloglandol 「イログランドール」(Roche)

【成分】 1 筒(1 cc)ハ 10 單位(新)ニ當ル。

Inselin 「インゼリン」(友田)

Insulin 「インシュリン」(Trento) (三共)

(Lidy—鹽野義)

(Novo—Danisch—岩城、小田井)

Insulin fixolut 「ドライ・インシュリン」(Schering)

乾燥状態ニテ保有シ高温地帯ニテモ長期保存サルルモノ。5cc 100 單位。

Isulin 「アイシュリン」(模範)

P. I. E.—(Höchst Bayer)

6. 腦下垂體製劑

前葉製劑ト後葉製劑(血管劑ヲ参照)アリ。

a. 腦下垂體前葉製劑(性「ホルモン」参照)

腦下垂體前葉ニハ成長「ホルモン」Wachstumshormon, 向性器「ホルモン」gonadotropes Hormon, 向甲状腺「ホルモン」thyreotropes Hormon, 代謝ニ關係スル「ホルモン」等ヲ含有スル。

【適應】 男女ノ生殖腺發育及機能不全(子宮發育不全・月經障碍・不妊症・不感症)・更年期障碍・新陳代謝機能異常・早産兒發育遲延・出血性「メトロパチー」・所謂進行性指掌角皮症。

Antuitrin 「アンツイトリン」(Parke Davis—三共)

【用量】 0.5—1 cc ヲ皮下。

Gonadotropin 「ゴナドトロピン」

→女性「ホルモン」

【成分】 妊娠尿中ヨリ集メタル所謂腦下垂體前葉「ホルモン」(性上位「ホルモン」)。

Hypohorin 「ヒポホリン」(武田)

【用量】 1 日 1 回 1—2 筒(1.0—2.0 cc)ヲ皮下又ハ筋肉内。

Præ-Hormon 「プレホルモン」

(鹽野義)

【成分】 腦下垂體前葉「ホルモン」。

Puberoben 「プベローゲン」(友田)

【成分】 1 cc 中ニ 100 R. E. ヲ

含ム。

【用量】 1 日 1 回 1.0—2.0cc ヲ皮下。

b. 腦下垂體後葉製劑 →血管劑

【作用】 滑平筋ノ緊張増加及收縮、血管壁ノ緊張昂進、血壓亢進、尿崩症ニ利尿抑制的ニ作用ス。

【適應】 微弱陣痛・弛緩性子宮出血・正規分娩ノ促進・流産時分娩促進・腸管痙攣・鼓腸・乳汁分泌不全・虚脱及中毒其他ニヨル血管痙攣・膀胱痙攣ニヨル尿閉・尿崩症・氣管支喘息(「アドリナリン」ト伍ス)・「アトニー」性「イレウス」・尿路結石・小兒夜尿症、帯狀疱疹。

【用量】 1) 用量皮下又ハ筋肉内ニ 1 回 0.5 cc, 必要アラバ 1.0—1.5cc ヲ用フ。

喘息ニハ本劑ノ 0.5 cc ニ 1,000 倍「ズプラレニン」0.03 cc ヲ用フ。

靜脈内注射ハ娩出後ノ出血ニ屢々用ヒラル。0.5—0.75 cc ヲ生理食鹽水ニテ稀釋シ注射ス。

2) 分娩第 2 期ニシテ子宮口開大シ而モ陣痛微弱ヲ呈セル時ハ 0.3—0.5 cc ヲ、其後 30 分—1 時間ニシテ無効ナル時ハ再ビ 0.3—0.5cc ヲ皮下注射。

3) 胎兒娩出後ハ 1 回ニ 0.5cc (靜脈内) 或ハ 1.0—2.0 cc ヲ皮下注射スルモ差支ヘナシ。

4) 小兒夜尿症ニハ 0.1—0.3 cc ヲ皮下ニ用フ。

【注意】 頭部ト骨盤トノ不良關係、子宮口ト腔トガ強直状態ニアル時、分娩早期、廻轉術前、後産期ノ胎盤排出前、8 ヶ月以後ノ不全

流産及早産ニハ禁忌。

Atonin 「アトニン」(武田)

Geburtin 「ゲブルテン」(鹽野義)

Hinterin 「ヒンテリン」(三共)

【成分】 1.0 cc 中 Voeglin 標準粉末 5.0 mg ニ相當スル催陣痛性效力(10 國際單位)ヲ含有ス。

Hypophysin 「ヒポフイジン」(Hebst—Bayer)

Muphiran 「ムフィラン」**Orasthin** (Bayer)

【成分】 腦下垂體後葉ノ子宮有效「ホルモンフラクオン」、血管作用及ビ利尿抑制作用ヲ缺ク。

Pituglandol 「ピツグランドール」(Roche)

Pituglasin 「ピツグラシン」(藤澤)

【成分】 1cc 中ニ 10 國際單位(腦下垂體後葉末 5 mg)ヲ含ム。

Pituitrin 「ピツイトリン」(Parke Davis—三共)

【成分】 成分ハ他ノ製品ヨリ 2 倍ニ濃厚ナルモノアリ。

Tonephin 「トネフィン」(Bayer)

【成分】 腦下垂體後葉ヨリ得タル腸蠕動昂進作用ト利尿抑制作用ヲ有スル「フラクチオン」。子宮收縮作用ヲ有セズ。

【用量】 0.5—1.0 筋肉内、靜脈内ニハ生理食鹽水或ハ血清(血液)ニテ稀釋シテ用フ。

7. 胸腺製劑

Prematonin 「プレマトニン」(武田)

【成分】 「アトニン」(腦下垂體後

葉「ホルモン」)及ビ胸腺「エキ
ス」混合製劑。

【作用】陣痛促進・筋疲勞抑制
(胸腺「エキス」)。

【適應】妊娠9ヶ月以上ノ中絶ヲ
必要トスル場合・陣痛微弱・弛
緩性出血・其他腦下垂體後葉
「ホルモン」ノ適應症。

【用量】0.3—1.0 ccヲ臀筋内。必
要アラバ約1時間ノ間隔ヲ置キ
テ反復ス。

Thymophysin 「チモフィジン」(大
阪合司—谷村)

【成分】腦下垂體後葉, 胸腺合
劑。

【適應】開口期陣痛促進劑。

【用量】1 cc 筋肉内。

8. 肺臟製劑

Heilmin 「ハイルミン」(中村瀧)

【成分】肺臟「エキス」製劑。

【作用】肺組織缺損補充, 血液凝
固促進, 結核毒素吸收防止。

【適應】結核諸症・慢性氣管支
炎, 肺氣腫。

【用量】1) 進行性肺結核又第2
期以上ノ患者ニハ初メ1ヶ月ハ
1週1回, 2ヶ月目ハ1週2回,
3ヶ月目ハ隔日, 4ヶ月目ハ毎
日注射シ, 1「クール」トス。
2) 輕症ナル結核症, 肋膜炎或
ハ停止形ノモノニハ初メ1ヶ月
ハ1週2回, 2ヶ月目ハ隔日,
3ヶ月目ハ毎日注射シ, 1「ク
ール」ヲ終ル。注射ニハ皮下用ト
靜脈用アリ。

Pulmin 「プニルミン」(Byla) (丸善)

【成分】山羊肺臟抽出「エキス」。

【作用及適應】→Heilmin

【用量】隔日2 cc 筋肉内。

9. 心臟筋肉・横紋筋製劑 (強心劑参照)

10. 血管壁製劑

Aklemin 「アークレミン」(山之内)

【成分】血管製劑(「アウトホル
モン」 Triethanolamin ヲ配
ス。

【適應】血圧亢進, 動脈硬化

【用量】1—2 cc 隔日

Animasa 「アニマザ」(田邊)

【成分】幼牛及胎兒ノ動脈内
膜及中膜ヨリノ抽出物ト赤血球
分解産物トヨリナル。

【作用】血圧下降, 動脈壁自衛力
増強。

【適應】動脈硬化症・萎縮腎・腎
炎。

【用量】1回1 cc 宛 毎2—3日筋
肉内。

Kallikrein 「カリクレイン」(Bayer)
(獨逸名 Padutin)

【成分】化學構造不明, 循環系有
效「ホルモン」(尿ヨリ抽出セル
モノ)。

【作用】血管特ニ末梢血管擴張,
血糖下降。

【適應】血管痙攣・レノー氏病・
高血圧・狭心症等。

【用量】初メ3日間ハ1日2回
0.5 cc (1E), 次ニ1日2回1 cc
(2E)ヲ筋肉内。

Telatuten 「テラツテン」(武田)

【成分】幼若動物血管壁ノ有效成

分。

【適應】動脈硬化症ト總テノ續發
狀(狭心症・慢性腎炎・高血
壓等)及肺氣腫・慢性氣管支
炎。

【用量】1) 靜脈内ニ應用ス。1
「クール」ハ12—20回又ハ其以
上トス。毎週2回宛行ヒ6—10
週間ヲ以テ終ル。

2) 皮下注射ハ1—1.5 cc ヲ用
フ。1筒1 cc 入。

11. 脾臟製劑(止血劑参照)

免疫體産出ヲ促進セシメ: 血液凝
固ヲ強盛シ造血機ヲ亢進ス。

Hormonal 「ホルモナル」→腸蠕
動亢進劑

Neo-Hormonal 「ネオ・ホルモナ
ル」→腸蠕動亢進劑

【成分】脾臟製劑。

Hornephrin 「ホルネフリン」(東京
臓器—中村瀧)

【成分】犢牛ノ脾臟製劑。

【作用】腎性及腎外性利尿。

【適應】浮腫・「ネフロゼ」・腹
水等。

【用量】1回2 cc ヲ皮下。

Milzsin 「ミルツシン」(日本新藥)

【成分】牛ノ脾臟製劑, 淡黄色透
明液, 蛋白質ヲ含マズ。

【作用】網狀織内被細胞系統ヲ
刺激シテ結核菌ニ對スル特殊
免疫體ヲ生ジ, 造血作用ヲ旺盛
ニシ結締織ノ増殖ヲ促ス。

【適應】肺結核・咯血・皮膚結核・
肋膜炎・腹膜炎・外科的結核諸
症・喘息・慢性氣管支「カタル」・
咯血豫防。

【用量】1回1—2 cc ヲ皮下。最

初隔日ニ1 cc, 15回ニ到レバ更
ニ1週ニ回1—3cc ヲ注射シ15
回ヲ以テ1「クール」トス。爾後
必要ニ應ジ適宜加減シテ反復
ス。

Splenogen 「スプレノゲン」(藤澤)

【成分】牛ノ脾臟製劑。

【作用】特殊免疫體産出促進・脾
臟機能不全ニヨル代謝障碍調
節, 利尿, 血液凝固促進。

【適應】結核性疾患・急性傳染
病・肝及脾臟疾患(肝硬變症・
バンチ氏病・肝臟癌等ノ腹水)・
腎性水腫・出血性諸症。

【用量】1) 結核性疾患ニハ初メ
隔日ニ0.5—1.0 cc 宛 15回, 次
デ1週2回同量宛 10回, 5週間
連用25回ヲ1「クール」トス。

2) 急性傳染病ニハ毎日又隔日
ニ1.0 cc 宛。

3) 肝, 脾臟患及ビ止血, 利尿ニ
ハ隨時2.0—5.0 cc ヲ皮下又ハ
靜脈内。

12. 肝臟・膽汁製劑

Evsin 「エブシン」(鳥居)

【成分】哺乳動物膽汁製劑, 「タ
ウリン」, 「ヒヨール」酸ヲ含ム。

【適應】性器發育不全・更年期障
碍等。

【用量】毎日又隔日ニ2 cc 宛皮
下。

Hepatoxin 「ヘパトキシ」(田邊)

【成分】河豚ノ肝ヨリ抽出セル
毒素。

【作用】鎮痛, 鎮痙, 鎮痒, 末梢
神經麻痺。

【適應】「ロイマチス」・神經痛・

脊髄癆・癲癇・夜尿症・副睪丸炎・破傷風・赤痢・百日咳・喘息・陰萎・遺精・營養神經及血管運動神經障礙ニヨル皮膚病。

【用量】 通常1日1回0.7—2.0ヲ皮下。局部ノ注射最モ可。

Kanelon →結核劑

【成分】 動物ノ膽汁製劑。

Lebahorn 「レバホルン」(吉萬)

【成分】 肝臟製劑ニシテ注射用。

【適應】 諸種貧血。

Nagravon 「ナグラボン」(Bayer)

【成分】 1日量2ccハ新鮮ノ肝臟500gニ相當ス。

【適應】 貧血・萎黃病・血友病・夜盲症・鉛・蒼鉛・「サルバルサン」中毒・肥胖療法。

【用量】 1) 1日1回1管(2cc)ヲ筋肉内。6—8週間。場合ニヨリ10—12週間。一般ニ治療ノ終了期ヨリ漸減ス。尙相當ノ期間ヲ置キテ再ビ注射ス。

2) 大量貯溜療法ノ目的ニハ1回5—8ccヲ筋肉内。6—7日ノ間ヲ置キテ反復ス。

Producmin 「プロダグミン」(大木)

【成分】 肝臟抽出物ニシテ結締組織硬化「ホルモン」。

【適應】 結核、其他ノ炎症疾患ノ病竈硬化ヲ計ル。

Tetrodoxin 「テトロドトキシン」

(三共)

【成分】 河豚肝ヨリノ毒素
→Hepatoxin

【用量】 1日1回0.5—2.0皮下。

Yakriton 「ヤクリトン」(三共)

【成分】 肝臟解毒「ホルモン」。ソノ1單位ハ家兔體重1kgニツ

キ3%鹽化「アンモン」液10ccノ腹腔内注射ニヨル痙攣發作ヲ5分前ニ皮下ニ用ヒテ之レヲ豫防スル量ノ1/10ナリ。「ヤクリトン」ノ毒力ハ「モルモツト」ノ體重100gニツキ100單位ノ割合ニ心内ニ注射シ健存スルモノヲ以テ標準トス。

【作用】 「アンモニア」, 尿素過剩症, 「フェノール」・赤痢病毒等ノ解毒, 人工の過血糖症ノ拮抗作用, 燐中毒ノ豫防及ビ血清再注射前ニ使用シテ過敏症ヲ防グ。

【適應】 中毒(乳幼兒ノ消化不良・尿毒症・中毒型腸「チフス」)痙攣性疾患・肺炎・膿胸・猩紅熱腎炎ノ豫防・「サルバルサン」黃疸ノ治療及ビ「サルバルサン」障得豫防・惡急性又ハ慢性疾患(蛋白尿・乳幼兒營養障碍)食慾不振。

【用量】 皮下。用量次ノ如シ。

1) 急性病
中毒症狀甚シキ場合

小兒 1/10單位, 1日1—3回

大人 1/5單位, 1日1—2回

中毒症狀ヲ呈スル場合

小兒 1/10—1/5單位, 1日1回

大人 1/5—1/2單位, 1日1回

注意: 大人ニテ1日2回用フル時ハ其間隔ヲ可及的離スベシ。

2) 惡急性又ハ慢性症

小兒 1/10—1/3單位ヲ連日又隔日或ハ間2日ヲ隔テテ用フ。

大人 1/5—1/2單位ヲ連日又隔日又ハ間日ヲ隔テテ用フ。

3) 腎炎, 「ネフローゼ」, 黃疸

小兒 1/2—1ノ單位

大人 1/3—3單位 孰レモ連日又ハ隔日ニ用フ。

中毒症狀甚シキモノニハ1)ニ從フ。

4) 注腸法ニヨリテモ用ヒラル。又1ccニツキ1單位及1/2單位ヲ含ム2種アリ。

13. 胃壁・消化液製劑

Equinin 「エクイニン」(日本藥品)

【成分】 特種動物ノ消化液抽出物。

【適應】 脚氣。

【用量】 毎日又隔日ニ1—2ccヲ皮下。

Ochimon 「オチモン」(武田)

【成分】 哺乳動物ノ胃及十二指腸ヨリ抽出セル「ホルモン」(Magen-Darm-hormon)

【作用】 消化液分泌亢進, 消化管運動機能亢進, 利尿。

【適應】 食慾不振。

【用量】 1日1—2筒(1—2cc)皮下又筋肉内。

Stimulin-M 「スチムリン・エム」

Stimulin-D 「スチムリン・デー」

(三共)

【成分】 「スチムリン・エム」ハ豚ノ胃粘膜, 「スチムリン・デー」ハ十二指腸粘膜ノ各全成分ヲ含有スル臓器製劑。

【作用及適應】 粘膜組織ノ再生ヲ促ガシ, 潰瘍・糜爛・炎症ヲ治セントス。

【用法及用量】 1回0.5—1.0ccヨリ漸次増量シテ1.0—2.0ヲ毎

日或ハ隔日ニ注射。

14. 腎臟製劑

Renine 「レニン」(Byia)

【成分】 動物ノ腎臟「エキス」

【適應】 尿毒症, 腎臟炎。

Renuhormon 「レヌーホルモン」

(藤田臓器—乾卵)

【成分】 主ニ腎抽出體。之ニ肝, 血管ノ抽出體ヲ配ス。

【作用】 撰擇的ニ腎, 肝, 血管ニ作用シ, 尿蛋白及圓錐ヲ消失シ血尿ヲ消失セシム。又尿分泌ヲ高メ, 血壓ヲ徐々ニ下降ス。

【適應】 腎疾患・「ネフローゼ」・萎縮腎・尿毒症。

【用量】 0.5—0.7ヨリ試ミ次第ニ増量1.0ccヲ皮下。小兒ニハ「ロムナホルモン」ト同量ヲ用フ。

15. 脊髄製劑

Manetol →止血劑

16. 併合臓器製劑

(臓器有效成分ノ併合ト, 之ニ他ノ藥劑ヲ伍シタルモノヲ含ム)

Antasthol 「アンタストール」(武田)

【成分】 甲狀腺1g, 副腎1.0g, 腦下垂體後葉0.1gヨリナル。

【作用】 植物性神經系ニ作用シテ當該臓器ノ内分泌機能ヲ調節シ, 又氣管支滑平筋ノ強直性痙攣ヲ緩解ス。止血作用アリ。

【適應】 喘息・咳嗽・出血。

【用量】 通常1回0.5—1.0ccヲ皮下。無効ナラバ20分以内ニ

0.5—1.0 cc ヲ再ビ注射ス。

Asthmolysin (Cade) 「アストモリジン」(マルホ)

【成分】 副腎抽出液 = 腦下垂體抽出液ヲ混合。

【適應】 喘息・肺炎・心臟衰弱・狹心症等。

【用量】 0.2—1 cc ヲ皮下。

Avihormon (Comet) 「アヴィホルモン, コメット」(黒田)

【成分】 肝, 十二指腸「ホルモン」 = 「ハウレン」草中ノ抽出物ヲ配ス。

【作用】 血管擴張, 消化液分泌促進, 造血作用等。

【適應】 高血壓・腦溢血・神經痛・「ロイマチス」・食慾不振・貧血等。

【用量】 1日1—2管(2—4 cc)皮下。必要アレバ1日10 cc迄。

Capuhormon 「カブホルモン」(藤田臓器—乾卵)

【成分】 孰レモ腦髓(皮質・髓質)抽出體 = 下記抽出體ヲ配ス。

1號 硬腦膜, 脊髓

2號 血管, 脾臟

3號 辜丸, 攝護腺, 甲狀腺

4號 卵巢(實質), 甲狀腺

【作用】 孰レモ撰擇的 = 該臓器機能ノ異常ヲ恢復シ生理的作用ヲ増進ス。

【適應】

1號 腦疾患(腦膜炎・小兒急性腦炎・流行性腦炎・腦微毒)脊髓病・末梢神經疾患等ノ一般神經系疾患 = 用フ。

2號 腦ノ動脈硬化症・腦出血及ビ其ノ後麻痺。

3號 性慾障礙・性的神經衰弱・

「ヒステリー」。

4號 3號 = 同ジ。(但シ3號, 4號共 = 性的原因 = ヨラザル「ノイローゼ」ニハ第1號ヲ用フ)。

【作用】 1) 毎日又ハ隔日ニマヅ1.0—1.5 cc ヨリ始メ漸次増量2.0 cc = 至ル。

2) 小兒ハ滿1年迄0.5以下, 滿2年以上ハ1年ヲ加フルゴトニ0.1 cc ヲ増量ス。重症ニハ適宜増減ス。

3) 連用ニハ初メ2週間ハ隔日ニ注射シ, 第3週ヨリハ3—4日置キトシ3回 = 至レバ約10日間ヲ休ミテ再ビ反復ス(1「クール」)。

Comsismon 「コムジスモン」(日本藥品)

【成分】 卵巢黃體中ノ「アルコール」溶液「ホルモン」(月經制限性「ホルモン」)ヲ主體トシ之 = 副腎皮質, 腦下垂體前葉「ホルモン」ヲ配ス。

【用量】 1回1管(2 cc)ヲ皮下。

Comvarimon 「コムバリモン」(日本藥品)

【成分】 卵巢黃體中ノ水溶液「ホルモン」 = 副腎皮質及腦下垂體前葉「ホルモン」ヲ配ス。

【作用】 月經促進。

【用量】 1回1管(2 cc)ヲ皮下。

Lumihorn 「ルミホルン」(日東)

【成分】 哺乳動物ヨリ得タル肺及脾臟ノ聯合「ホルモン」。

【作用】 網狀内被細胞系ノ賦活, 結締織増殖, 胃液分泌促進, 毒素力低下, 血液凝固性増進, 病的產物吸收等。

【適應】 各種結核性疾患・氣管支喘息・慢性氣管支「カタル」・肺壞疽。

【用量】 1) 大人1回1筒(1 cc)小兒ハ0.2—0.7 ヨリ初ム。

2) 症狀, 體質等ヲ顧慮シテ大人ニテモ0.4—0.5ヨリ初メ漸次2.0 cc = 達シ得。皮下又筋肉内。

3) 1「クール」ハ30回トス。1—2週後ニハ再ビ續行ス。注射間隔ハ適宜定ム。

Macrobin → 性的興奮劑

P-O-U 「ピーオーユー」(日本新藥)

【成分】 臍帶「ホルモン」(石原博士)。癌腫, 子宮腔部糜爛 = 撰擇的ニ作用ス。

【適應】 一般癌腫・子宮腔部糜爛・妊娠惡阻。

【用量】 1日1 cc ヲ上膊皮下。2日間持續, 後1日休止, 以下反復ス。

Prematonin 「プレマトニン」→ 胸腺製劑

【成分】 腦下垂體後葉ト胸腺ノ有效成分ヲ含ム。

Procuramin 「プロクラミン」(日新醫學)

【成分】 哺乳動物ノ辜丸, 攝護腺,

甲狀腺, 腦下垂體前葉ヨリナル聯合「ホルモン」。

【適應】 神經衰弱・性器障礙・老衰・動脈硬化症・攝護腺炎・バセドウ氏病・喘息。

【用量】 1日1回1 cc 宛皮下又筋肉内。

Spasmolysin 「スパスモリジン」(Cade) (マルホ)

【成分】 「アストモリジン」 = 甲狀腺・上皮小體「ホルモン」ヲ加フ。

【適應】 癲癇・胃痙攣等。

【用量】 1—3 cc ヲ皮下。生理食鹽水ニテ消毒ス。

Thymophysin 「チモフィジン」(大阪合資)

【成分】 胸腺及腦下垂體後葉「エキス」。

【適應】 → Atonin

【用量】 0.5—1 cc 臀筋内。

Tussiast 「ツシアスト」(藤澤)

【成分】 副腎髓質及腦下垂體後葉「ホルモン」劑 = 「パパベリン」ヲ配ス。

【適應】 氣管支喘息。

【用量】 1回0.6 cc ヲ皮下。無效ナラバ1.0 cc 迄使用シ得。

32. 陣痛催進劑

Wehen auslösende, anregende Mittel

1. 腦下垂體後葉製劑

直接子宮平滑筋 = 働キ之ヲ收縮セシム。

(血管劑參照)

Atonin → 臓器製劑

Hinterin → 臓器製劑

Hypophysin → 臓器製劑

Pituglasin → 臓器製劑

Prematonin → 臓器製劑

Thymophysin → 臟器製劑

2. 「キニーネ」劑

子宮平滑筋ヲ收縮セシム。

(解熱劑「ヒノリン」誘導體參照)

Bagnon → 解熱劑

Bagnon (Stark) → 解熱劑

Wehenin 「ウエヘニン」(日新醫學)

【成分】純硫酸「キニーネ」ノ10%溶液。

【適應】陣痛促進ノ目的ニ早期破水・晩産婦流産等ニ用フ。

【用量】1回1管(5cc)ヲ入テ筋肉内。

Zintul 「ジンツール」(三共)

【成分】10%硫酸「キニーネ」溶液。

【適應】早期破水・陣痛微弱・晩産婦。

【用量】1回5—10ccヲ臀筋内。

33. 性的興奮劑(強精劑) Aphrodisiaca, Tonica

(主トシテ性欲機能減退・陰萎ニ用フ)

Juvenin 「ユベニン」(Bayer)

【成分】1cc中ニ10mgノ「メチール、アルジン」酸「ヨヒンビン」及ビ0.5mgノ「メチール、アルジン」酸「ストリキニーネ」ヲ含ム。

【適應】陰萎・勃起障碍・早漏・精液漏・遺精・不感症・神經衰弱・慢性「アルコール」中毒・「ニコチン」及「モルヒネ」中毒・精神的肉體的衰弱。

【用量】1管宛隔日10回筋肉内。

Macrobin 「マクロビン」(武新)

【成分】「スペルマチン」1.0ccニ次ノ成分ヲ配ス。

「メチールアルジン」酸「ナトリウム」(アルソザン) 0.008g
硝酸「ストリキニーネ」0.0003g
鹽酸「ヨヒンビン」 0.001g

【適應】勃起力減退・早漏・遺精・性感缺乏・疲勞倦怠・神經衰弱・貧血・皮膚病・病後恢復期。

【用量】隔日1筒(1.0cc)ヲ皮下。

12回ヲ1「クール」トシテ、7日間ノ休止期ヲ置キ反復ス。

Yohimbin hydrochlorid 鹽酸「ヨヒムピン」(Spiegel-三共)

【成分】Corynanthe Yohimbe K, Schum 皮中ノ「アルカロイド」ノ鹽酸鹽。

【作用】性器血管擴張、乳腺ノ分泌亢進、勃起中樞ノ興奮。

【適應】陰萎・早漏・不感症等。

【用量】1%液毎日1ccヲ皮下。

Yohydrol 「ヨヒドロール」(Riledel-C-Holstein)

【成分】南カメルン地方ノ植物茜草科 Corynanthe Yohimpe K, Sch. ノ根ヨリ抽出セル「アルカロイド」ノ鹽酸鹽 $C_{22}H_{28}O_3N_2HCl$ 。「ヨヒンボ」酸「メチールエステル」ナリト (Winzheimer 氏)

【作用】生殖神經興奮劑。

【適應】陰萎(男子及女子)。

【用量】1回1筒(1.2cc)ヲ皮下。

34. 性「ホルモン」 Sexual-Hormon

性「ホルモン」ノ抽出源

男性「ホルモン」 { i 辜丸物質——辜丸「ホルモン」
ii 青春男性及雄性ノ尿中ヨリ抽出スル「ホルモン」

女性「ホルモン」 { i 濾胞「ホルモン」 { 卵巣ヨリ又青春女性及雌性尿ヨリ抽出
ii 黃體「ホルモン」

腦下垂體前葉「ホルモン」 { 腦下垂體 → { 濾胞刺戟性「ホルモン」(性上位性)-a
黃體刺戟性「ホルモン」-b
青春殊ニ妊娠セルモノノ尿ヨリ抽出分離(同上)

a.....Prolan A
b.....Prolan B

【性「ホルモン」ノ適應】

i 鼓舞療法 Stimulationtherapie

ii 補償療法 Substitutionstherapie

男性胚胎線機能不全・陰萎・早老症・内分泌性肥胖病・男女性的神經衰弱及精神病・老年性諸症(精力減退、倦怠、頭痛等)

A. 男性「ホルモン」 männliches Sexualhormon

Androsteron (ロンドン國立研究所)——標準男性「ホルモン」トサル。

飽和「ケトン」體, $C_{19}H_{30}O_2$ ノ0.1mgノ特異性反應(鷄冠増大作用等)ヲ現ハスヲ單位トス。

鷄冠單位

K. E.....Hahnkamm-Einheit, c. u.....capon unite 去勢幼鷄ニ男性「ホルモン」ヲ注射シテ萎縮セル鷄冠ノ面積増加度ニヨリテ檢スルモノデアアルガ、鷄冠發育測定方法ハ又諸家ニヨリテ多少ノ相違ガアル。

「マウス」單位 M. E. ——去勢「マウス」ノ精囊細胞復活現象ヲ檢シテ其效力ヲ定メントスルモノデアアル。

1. 辜丸ヨリノ性「ホルモン」劑
2. 尿ヨリノ男性「ホルモン」劑
3. 合成品

1. 辜丸實質及間質製劑 Testikel (Testis)-Hormon 及尿抽出男性「ホルモン」合成品

Androstin 「アンドロステチン」(Ciba)

【成分】辜丸有效成分 Testosterone 及雄性性腺中ノ水溶性

及脂肪可溶性ノ全有效成分ヲ含有ス。「アムプレ」Aハ水溶性成分ヲ含ミ、「アムプレ」Bハ脂肪溶性成分ヲ含ム。Aハ精蟲形成線ノ有效成分ヲ含ミ、Bハ間質細胞ヨリノ成分ヲ含ム。

【用量】 A、B兩「アムプレ」ヲ交互ニ一日1筒宛筋肉内。液ハ豫メ體温トナシ置ケバ無痛ナリ。

Comphormon 「コムホルモン」(男性用) →女性「ホルモン」

Enarmon 「エナルモン」(武田)

【成分】 青春雄性尿中ヨリ抽出セル男性「ホルモン」 Testis-hormon。

【用量】 1管(0.5 cc) 15 鷄冠單位

Forton 「ホルトン」(鹽野義)

【成分】 合成男性「ホルモン」複合劑
1「アンプーレ」 15 H・K・E
1錠 5 H・K・E

Genermon-M 「ゲネルモン・エム」(三共) 男性「ホルモン」劑

Geramin 「ゲラミン」(獨逸名 Erugon) (Bayer)

【成分】 辜丸「ホルモン」劑。1 cc 中 2 鷄冠單位 Hahnkamm-Einheit ヲ含ム。1 鷄冠單位ハ去勢白色「レグホン」ニ 5 回注射ヲ行ヒ、注射開始ヨリ 7 日目ニ 30% だけ鷄冠ガ増大スルガ如キ「ゲラミン」ノ 1 日量ヲ云フ。

【用量】 1 cc (2 鷄冠單位) ヲ 1 週 2—3 回、筋肉内、10 回ヲ 1「クール」トス。

Junghorn 「ユングホルン」(玉置)

【成分】 水溶性男性「ホルモン」

Orchitine 「オルヒチン」(Byla) (丸善)

【成分】 牡羊ノ辜丸「ホルモン」劑。1 管(2 cc) ハ抽出液 0.25 g ヲ含ム。

【用量】 1 日 1 回又ハ隔日ニ 1 回 1 管(2 cc) ヲ筋肉内又ハ皮下。

Porofan 「ポロファン」(東洋麥社—鹽野義)

【成分】 合成男性「ホルモン」。

Saplenin-M 「サピエニン」M(三共)

【成分】 辜丸「ホルモン」含有リンゲル液。

【用量】 隔日ニ 20 cc ヲ靜脈内。

Spermatin 「スベルマチン」(武田)

【成分】 男性動物ノ生殖腺ヨリ抽出セル「ホルモン」劑。

【用量】 毎日又ハ隔日ニ 1 回 1—2 cc 宛皮下。

Spermin 「スベルミン」(友田)

【成分】 Prof. Dr. A. Poeh' ニヨル動物性「ホルモン」 $C_5H_{14}N_2$ 。

【作用】 血行ヲ整調シ、血液中ノ「アルカリ」低下ヲ常態ニ導キ、老廢分ノ蓄積ヲ防止ス。

【用量】 1 日 1 回場合ニヨリ 2—4 回 1 管(2 cc)宛。

Splemorenin 「スプレモレニン」(Richtel—田邊千)

【成分】 辜丸「ホルモン」1 cc ハ 2 g ノ辜丸實質ニ相當ス。→ Spermatin

【用量】 1 週 1 cc 宛 3—4 回皮下又靜脈内。

Synhormon 「ジンホルモン」(嘉寶商事)

【成分】 化學合成男性「ホルモン」

Testiglandol 「テスチグランドール」(Roche)

【成分】 辜丸有效成分。1 筒ハ新鮮腺 1 g = 相當ス。

【用量】 1 日 1—3 cc 皮下、筋肉内。

Testinon 「テスチノン」(東京臓器)

【成分】 青春男子尿ヨリ抽出セル「ホルモン」劑 1 cc—30 H・E

T. O. Sex-Hormon T. O. 性「ホルモン」(大阪血清藥院)

【成分】 (1) T 液 Testicle Extract ハ辜丸「ホルモン」。

(2) O 液 Ovarial Extract ハ卵巢「ホルモン」。

【用量】 A 液ハ 1 回 1 筒(1 cc)ヲ

皮下。

B 液(濃厚液)ハ 0.4—1.0 cc トス。連用シ得。

Vivasmon 「ビバスマン」(田邊)

【成分】 辜丸抽出ノ水溶性全男性「ホルモン」。

2. 攝護腺製劑

Prostatin 「プロスタチン」(Byla) (丸善)

【成分】 豚又牛ノ攝護腺「ホルモン」1 管(2 cc)中ニ抽出液 0.25 g ヲ含ム。

【適應】 陰萎・神經衰弱・去勢・攝護腺諸症。

【用量】 毎日又隔日ニ 1 管(2 cc)ヲ筋肉内或ハ皮下。

B. 女性「ホルモン」weibliches Hormon

I. E. 國際單位 M. E. 廿日鼠單位 R. E. 家鼠單位
次ノ 4 = 分タル。

1. 卵巢實質製劑
2. 卵巢黃體「ホルモン」
3. 卵巢濾胞「ホルモン」
4. 尿性女性「ホルモン」

1. 卵巢實質製劑 Ovarium-Präparate

【作用】 子宮・腔壁ノ鬱血、子宮・卵巢・乳房ノ發育ヲ増盛ス。

【適應】 卵巢「ホルモン」ノ不足乃至缺乏ニヨル精神・神經系・新陳代謝・性欲・性器發達障礙(子宮發育不全・月經異常・不妊症・惡阻・性的神經衰弱・更年期症狀・卵巢缺落症狀・老年性神經障礙)、乳汁分泌減少。

Agomensin 「アゴメンジン」(Ciba)

【成分】 水溶性卵巢物質。

【用量】 1 週 2—3 回、1 回 1—4 cc ヲ皮下又ハ筋肉内。連用可。

Comphormon 「コムホルモン」(日本藥品)

【成分】 男子用ハ辜丸、攝護腺ヲ、女子用ハ 卵巢間質及濾胞ヲ主體トシ、之ニ甲状腺、腦下垂體前葉、副腎皮質及ヒ膵臟「ホルモン」ヲ配ス。更ニ「グイタミン」B 及ビ「グリセロ」磷酸「カルシウム」ヲ含マシム。

【用量】 1 回 1 管(2 cc)ヲ皮下。

Geneglandol 「ゲネグランドール」

(三共)
【成分】 卵巣抽出體。
【用量】 毎日 1 cc 皮下又筋肉内。
 又隔日 = 2—3 cc。
Genestypol 「ゲネスチプトール」
 (三共)
【成分】 → Geneglandol
【用量】 1 日 1—3 回, 1 cc 回宛皮
 下。又 1 回 1.5—2 cc 宛。
Oophormin 「オオホルミン」(武田)
【成分】 卵巣實質製劑。
【用量】 1 回 1—2 cc 宛 毎日又隔
 日 = 皮下。
Ovarenin 「オバレニン」(Richter-
 田邊)
【成分】 犢牛卵巣ノ全腺「エキ
 ス」。
【用量】 隔日 1 回皮下又靜脈内 =
 1 cc 宛, 1「クール」ハ 12 回。
Ovoglandol 「オヴオグラントー
 ル」(Roche)
【成分】 卵巣製劑。1 cc ハ新鮮卵
 巣物質 1 g = 相當ス。
【用量】 1 日 1—3 cc ヲ皮下。
T. O. Sex-Hormon → O 液 (女
 性) → 男性「ホルモン」

2. 卵巣濾胞「ホルモン」Follikel-
 hormon
【單位】 「マウス」單位 M. E.—
Allen Doisy-Test 去勢「マウス」
 ノ腔 = 24 時間以内 = 角化期
Schollenstadium ニ於ケル現象
 ガ現ハレル最少量。
 國際單位 internationale Einheit
 i) 女性「ホルモン」ノ「ヒドロオ
 キシケトン」型。(Oestron $C_{18}H_{22}$
 O_2)— α 濾胞「ホルモン」—純粹

物質ノ標準品ノ 0.1 γ 即 1/10,000
 mg。

ii) Oestron ノ「ゲヒドロ」型
 (Oestradiol)ノ安息香酸「エス
 テル」Oestradiol-monobenzoat
 ニ對スル 1 國際「ベンツオア
 ト」單位ハ其純粹品 1/10,000 mg
 ノ特異的發情作用ヲ現ハスモ
 ノ。

【作用】 子宮ノ發育ヲ促進シ、子宮
 粘膜炎ヲ分泌期ニ移行セシム。發情
 催進。

【適應】 生殖器發育不全・無月經及
 稀少月經・更年期(閉經) 障碍・分
 娩後無月經。

C. Kaufmann ハ去勢婦人ニ次
 ノ如キ濾胞「ホルモン」(Progynon)
 黃體「ホルモン」(Proluton) 治療ニ
 ヨリ子宮内膜ニ生理的ノ變化(粘
 膜增殖→分泌期粘膜炎→月經)ヲ發來セ
 シメルコトガ出來タ。

日	月	火	水	木	金	土
[1]	2	3	[4]	5	6	
7	[8]	9	10	[11]	12	13
14	[15]	16	17	18	(19)	(20)
(21)	(22)	(23)	24	[25]	[26]	[27]

[] Progynon oleosum B

250,000 I. E. ヲ 5 回
 () Proluton 20 Kl. E. ヲ 5 回
【】 月經

Gynandol 「ギナンドール」(友田)
【成分】 結晶性卵巣濾胞「ホルモ
 ン」ヲ食鹽水ニ溶解ス。1 cc 中
 100 及 500 I. E. ヲ含ム。油液
 ハ 10,000—50,000 I. E. ヲ含有
 ス。
【用量】 1 日 1 回 1.0—2.0 cc ヲ皮
 下。油液ハ隔日又ハ 1 週 = 2 回

注射ス。

Missmon 「ミスモン」(田邊)
【成分】 水溶性(牛)卵胞「ホルモ
 ン」。

Oestroglandol 「オストログラン
 ドール」(Roche)
【成分】 α 濾胞「ホルモン」 $C_{18}H_{22}$
 O_2 1 cc ハ 100 M. E. = 相當
 ス。
【用量】 1 週 2—3 回 1—2 cc 宛皮
 下。筋肉内。

Perlatan 「ペルラタン」(三共)
【成分】 結晶性濾胞「ホルモン」。
 0.1 mg ハ 10000 M. E. = 相當
 ス。
【適應】 月經過少・「インファン
 チリズムス」・破爪期障碍・經
 閉期障碍・缺落症状・妊娠ノ頑
 強ナル嘔吐・早産兒。
【用量】 筋肉内注射, 0.5—1.0 cc
 ヲ月經後 3—5 日ヨリ隔日ニ次
 回月經前 10 日迄行フ。1 cc 中
 500 M. E. ト 10,000 M. E. ト
 アリ。

Progynon 「プロギノン」(Schering
 -Kahlbaum)
【成分】 卵胞「ホルモン」, 化學式
 $C_{18}H_{22}O_2$ (Keto-hydroxy-Oes-
 terin)
【適應】 油狀ノ Progynon B
 oleosum ハ Dihydro-Progyn-
 on-Benzoesäure-ester ナリ。
【用量】 注射ハ油狀「プロギノ
 ン」ヲ 1 週ニ 2 回 0.5—1.0 cc ヲ
 筋肉内, 1 管 50,000—250,000 國
 際單位ヲ含ム。

Theelin 「シーリン」(Parke Davis)
 (三共)

【成分】 卵巣濾胞「ホルモン」, 1
 cc ハ 50 ドイシー鼠單位 *Allen-
 Doisy-Test* ニヨル M. E. ヲ含
 ム。
【用量】 毎 2—5 日ニ 1—2 cc ヲ
 皮下又筋肉内。

Uden 「ウンデン」(Bayer)
【成分】 卵巣濾胞「ホルモン」劑。
【用量】 1 日 1 回 1 筒宛皮下又筋
 肉内。

3. 卵巣黃體「ホルモン」Corpus
 luteum-Hormon
Clauberg 氏家兔單位 K. E.
 體重 500—600 g ノ増殖期變化
Proliferation ヲ起シテ居ル子宮ヲ
 有スル若キ雌家兔ニ黃體「ホルモ
 ン」ヲ 5 日間ニ分與シテ子宮ニ脱落
 膜性變化 *deziduale Umwandlung*
 ヲ起サシムルニ要スル最少量。
 Progesteron $C_{21}H_{30}O_2$ ガ黃體「ホ
 ルモン」ト考ヘラル。

Luteoglandol 「ルテオグラントー
 ル」(Roche)
【成分】 1 cc ハ卵巣黃體 0.5 g =
 相當ス。
【適應】 月經障碍・妊娠中毒症
 (子癇等)・乳汁分泌不全。
【用量】 1 日 1—3 cc 皮下。筋肉
 内。

Lutren 「ルトレン」(Bayer)
【成分】 1 cc ハ 2 家兔單位 K. E.
 ヲ含有ス。
【適應及用量】 前者ニ準ズ。

Proluton 「プロルトン」(Schering)
【成分・適應・用量】 前者ニ準ズ。

Sistemsin 「シストメンジン」

(Ciba)

【成分】 黃體及濾胞「ホルモン」。

【適應】 月經過多・破爪時ノ出血・強烈ナル流經・月經痛・乳汁分泌障碍。

【用量】 1) 1日 1—2ccヲ筋肉内。

2) 月經過多又月經困難症ニハ次ノ來潮期ノ2—3日前ニ用フ。

3) 出血強烈ナル時ハ3—4日間最大量ヲ用フ。

4. 尿性女性「ホルモン」

妊娠女性及雌性ノ尿中ニハ向生殖器性腦下垂體前葉「ホルモン」das gonadotrope Hypophysen-Vorderlappen-Hormon, 即チ性上位「ホルモン」das übergeordnete Sexual-Hormon が含まれて居ル。妊娠ト共ニ腦下垂體前葉ハ増殖シ、其「ホルモン」ハ又性腺ニ働キテ之レガ機能ヲ増進シテ妊娠機轉ヲ順調ナラシメル。

單位—R. E. 雌ノ「ラツテ」ヲ使用スル。

Gonadotropin 「ゴナドトロピン」

(武田)

【成分】 妊娠女性及雌性尿中ヨリ得タル所謂腦下垂體前葉「ホルモン」(性上位性「ホルモン」), 妊娠尿性生殖腺刺戟「ホルモン」。

【用量】 毎日1回 200—500 R. E. 溶劑ニ溶解シテ皮下又筋肉内。

Ovahormon 「オバホルモン」(武田)

【成分】 青春女性及雌性尿ヨリ得タル卵胞「ホルモン」, $C_{18}H_{22}O_2$ ナル組成ヲ有ス。

【性状】 無色菱板狀結晶, 1mg

ハ 10,000 單位ノ力價ヲ有ス。

水ニ難溶ナルモ有機性溶劑及脂肪ニ可溶性ナリ。熱, 酸, 「アルカリ」, 酵素等ニ對シ強キ抵抗性ヲ有ス。

【作用】 性器發育及第二次性徵形成促進, 新陳代謝亢進。

【適應】 1) 卵巣機能減衰及脱落・更年期障碍諸症(頭痛・倦怠・下腹痛・耳鳴・不正出血・脂肪過多・關節痛・血壓亢進・月經早期閉止・四肢冷感・循環器障碍等)。

2) 女性性器發育不全ニヨル各症狀(無月經・月經不順・月經寡少・月經過多・不妊症・不感症・等)。

3) 卵胞「ホルモン」分泌不足ニ依ル神經症狀(神經質・不眠症・憂鬱症等)。

4) 乳汁分泌不足或減退・惡阻・常習性流産。

【用量】 1) 水溶又油溶ハ通常毎日又隔日ニ1筒ヲ皮下或ハ筋肉内。

水溶液 1筒(1cc)=100 i.u. 及ビ 500 i. u. 油溶液 0.5cc=1,000 i. u. 10,000 m. u. 50,000 m. u. 及 250,000 m. u. ノ四種アリ。

2) 「オバホルモン・ベンツアート」Ovahormon Benzoat C_6H_5 —CO— $C_{18}H_{22}O_2$ ハ「ジヒドロオバホルモン」ノ「ベンツオイルエステル」ニシテ作用ハ強力持続性ナリト云フ(高單位油溶液注射液)。

Puberogen 「プベローゲン」(友田)

腦下垂體前葉性向性腺「ホルモン」, 1ccハ 100 R. E.

Trophoblastin 「トロフォブラスチン」(日本藥品)

【哺乳】 動物ノ胎盤或ハ妊娠尿中ヨリ抽出ス。

【作用】 女性性器ニ選擇的ニ作用ス。黃體形成及子宮粘膜ノ妊娠前期性變化ヲ完成セシム。

【適應】 妊娠惡阻・無月經・閉經期障碍・不妊症・生殖器發育不全・性的神經衰弱。

【用量】 1日1回 2ccヲ皮下。不妊症ニハ1日1回 2ccヲ月經後1週間位ヨリ初メ5日間ヲ1「クール」トス。「クール」間隔ヲ3ヶ月トス。

35. 血清 Sera (單數 Serum)

(治療血清 Heilserum 抗毒性血清 antitoxisches Serum)

治療血清及「ワクチン」ハ主トシテ傳染病研究所發賣ノモノニ就イテ述べタガ、是等ハ又北里研究所、大日本製藥株式會社、大阪血清藥院、九州傳染病研究所、天兒研究所、大阪細菌研究所等ヨリモ發賣サレテ居ル、其他、傳研ヨリ發賣シ居ラザル製品(感作「ワクチン」、腺疫血清及「ワクチン」等)モ出テ居テ共ニ廣ク世ニ用ヒラレテ居ル。其他特殊ノモノハ又海外カラモ輸入サレテ居ル。

【注意】

i) 血清及「ワクチン」ハ製品ニ付シテアル使用指示書ヲ熟讀ノ上、注射ヲサレタシ。

ii) 治療血清 Heilsera ハ或ルモノハ抗菌性ニ、或ルモノハ抗「トキシン」性ニ働ク、勿論一部ハ兩性ニ働クモノモアル。共ニ動物體內ニ於テ生成サレタ抗体(免疫體)ヲ、當該病原ニ侵カサレタ人體ニ注入シテ之ヲ抑壓セントスル受動免疫療法 passive Immunisierung ヲ目的トスルモノデアアル。

iii) 治療血清ハ全ク特異性 spezifisch ニ働クモノデアアルガ、時ニハ異種蛋白質トシテ非特異性 unspezifisch ニ刺戟療法ニ用ヒラレルコトガアル。止血機轉ヲ促進スル爲メニ健康馬血清(特異ノ血清ヲ必要トセズ)ヲ注射シテ體細胞ノ機能ヲ賦活セントスルガ如キハデアアル。

血清病ノ豫防及ビ治療法

治療血清

吾等ガ日常使用スル治療血清 Heilserum ハ殆ンド凡テノ場合ハ馬牛等動物ヨリ得タモノデ、多クハ馬ノ血清デアアル。即チ馬ニ一定ノ病原性細菌或ハ「トキシソ」Toxin ヲ少量ヨリ漸増シテ反復注射(皮下或ハ靜脈中ニ又ハ兩者ヲ交互ニシテ)馬ノ體內ニ抗菌性或ハ抗毒素性ノ抗體 Antikörper ヲ生成セシメル、如上ノ處置ヲ受ケテモ尙生存スル馬ノ血清ニハ是等抗體ハ即チ免疫體 Immunkörper トシテ多量ニ存スル。此免疫體ヲ多ク含有スル血清ヲ當該病原體ニヨリ罹病セル人體ニ輸入(注射ニヨリ)シテ、其病原(病原體或ハ其ノ産出セル毒素)ニ對抗セシメ、或ハ病原體(細菌ノ如キ)ヲ撲滅シ或ハ病原體ヨリノ毒素 Toxin ヲ中和セシメ疾病ヲ受動免疫法ニヨリ治療セントスル時、是等ノ血清ヲ治療血清 Heilserum ト云フ。

恢復期血清

人體(患者)ニ其ノ疾患(病原體ニヨルモノ)ノ恢復期ノ他ノ人體ノ血清 Reconvalensenzserum ヲ治療ニ用ヒルコトガアルガ、此場合ハ人 Homo sapiens ニ人 Homo sapiens ノ血清デ全ク同種 arteigen デアルカラ血清病ナル異種血清蛋白ニヨリテ起ル特殊ナ反應ガ現ハレナイ。

馬、牛ノ如キ動物ノ血清ハ人體ニ取リテハ正シク種 Species ヲ異ニスル異種蛋白 artfremdes Eiweiss デアル。之ヲ注射 Injektion 即チ非經口ノ paraenteral ニ人體内ニ入レル時ニ茲ニ異常反應ノ起ルコトガアル。

血清病 Serumkrankheit, *Serumsickness*, *Accidents sèriques*

第1回血清注射ニヨリテ起ル異常反應(狹義ノ血清病) 又後述ノ即時性、促進性反應ニ對シテ正常時性血清病 normalzeitige Serumkrankheit ト云ハル。

第1回血清注射後3—12日後(潜伏期)ニ現ハレル。

症狀 注射部位ノ發赤、腫脹・癢痒及ビ不定ノ熱發ヲ前驅スルコトガアル。急性ニ突發スル全身性ノ症狀トシテハ、蕁麻疹様、猩紅熱様、紅斑様ノ各場合ニヨリテ異ナリ、又同一ノ場合ニテモ是等ガ混合スル發疹(皮膚ノミナラズ粘膜ニモ一下痢)、關節痛(時ニハ腫脹・發熱ヲ伴フ)、「レウマチス」性筋痛、發熱・淋巴腺腫脹ヲ示ス。重症ノ際ニハ又蛋白尿、血尿、嘔吐、下痢、浮腫(聲門水腫)等ヲ示シ、稀ニハ虚脱症狀ヲ呈スルコトガアル。然シ是等症狀ハ見ルカラ重篤ノ感ヲ抱カシメルガ、多クノ場合一過性

ノモノデアアル。

再度以上ノ血清注射ニヨリテ起ル反應(廣義ノ血清病)

之ハ第1回血清注射(異種蛋白)ニヨリテ體內ニ抗體ガ生成サレテ居テ、第2回血清注射 Re-injection ヲ行フ時起ル、抗元—抗體反應デ、所謂「アナフィラキシー」Anaphylaxie ノ現象デアアル。

第1回血清注射ヨリ第2回血清注射ヲ行フ迄ノ期間ノ長短ニヨリテ反應ノ出現程度ニ差違ガアル。即チ第1回注射ニヨリテ體內ニ生成サレタ抗體ノ量ガ此ノ抗體抗元反應ニ關係アルハ自明ノ事デアアル。

第1回注射後間モナク血清ヲ再注射スル時ハ抗體免疫體ノ生成ガ未ダ充分デナイカラ「アナフィラキシー」症狀モ輕微デアアルガ、一定時日(10日以上)ヲ經テノ後ノ再注射ニハ充分ニ抗體ガ生成サレテ居ルカラ抗體抗元反應ハ顯著トナル。即チ再注射後即時 sofort ニ反應ガ現ハレル、之ヲ即時反應ト云フ。

又生體內ニ生成サレル抗體モ一定ノ極度ニ到達シタ後ハ漸次減少スルモノデアアル。從ツテ第1回血清注射ヨリ相當長キ時日(6ヶ月以上)經テ再度ノ血清注射ヲナス時ハ反應ハ輕微トナル。即チ反應モ即時デハナク一定ノ潜伏期(2—5日)ヲ前驅シテ漸ク現レル。今再注射ニヨリテ起ル反應ヲ改メテ列記シテ説明ヲ加ヘヤウ。異種血清ヲ再注射シタル場合ノ「アナフィラキシー」性反應

1. 即時反應 sofortige Reaktion

第1回血清注射後10—12日ヨリ6ヶ月位ノ間(體內ニ抗體生成ノ盛ナル時期)ニ同シ異種血清ヲ再注射スル時ニ、注射後即時ニ熱發、發疹、關節ノ腫脹、疼痛等前記第1回血清注射ニヨリテ起リタル所謂血清病ナル症候群ヲ示ス、又時ニハ「アナフィラキシーシヨック」ノ状態ニ陥リ、胸内苦悶、呼吸促迫、脈搏頻小、「チアノーゼ」等重篤ノ症狀ヲ呈スルコトガアル。然シ是等ノ症狀モ亦一過性デ、多クノ場合1—2日テ消退シテ疾風退散ノ感ヲ抱カシメルモノデアアル

2. 促進反應 beschleunigte Reaktion

第1回ノ注射後6ヶ月以上經過シテ同一種ノ血清ヲ再注射シタ場合ニ現ハレルモノデ生體內ノ抗體生成モ漸次衰退ノ時期ニ見ルモノデアアル。從ツテ抗體—抗元ノ反應モ緩和デアアル。症狀發現迄ニ數日(2—5日)ヲ要スル(潜伏期)。發熱、發疹、關節痛、淋巴腺腫脹等ノ症狀モ輕微ノコトガ多イガ前述ノ場合ト大同小異デアアル。即チ症狀モ亦一過性ニ消退スル。

血清病ノ豫防及ビ治療法

所謂血清病ナルモノノ發生ノ原因ハ、血清中ノ蛋白「フラクチオン」(即チ「アルブミン、一部ハ「グロブリン」)ニヨルモノデ、蛋白質ノナキ抗體物質(抗毒素性ニセヨ抗菌性ニセヨ)ノミノ抽出ガ完成セラルレバ血清病ナルモノノ發現ハナクナル、此意味ニ於テ濃縮血清 high potency ノ精製ニ努力ガ拂ハレテ居ルノデアアル。

1. 血清病ノ強弱ハ從ツテ注射血清ノ量ト大體ニ於テ並行スル。故ニ免疫價ノ高イ血清ヲ血清量トシテハ少量、免疫物(抗體)トシテハ大量ナル所謂濃縮血清ガ臨牀上重要視サレル所以デアアル。

第2回注射ニヨル即時反應ハ又嫌ハシキ反應デアアル。從ツテ之ヲ豫防セン爲メニハ血清ノ再注射ヲ改メテナサザルヨウ第1回ノ注射量ヲ大量ニシテ充分ナラシメル必要ガアル。

2. 血清ノ新鮮ナルモノ程又其反應ガ顯著トナル。生來血清ニ過敏ナル者ニ又再注射ニハ新鮮ナル血清ノ大量注射ハ避クベキモノデアアル。

3. 血清注射ニ於テ非常ニ鋭敏ナ、所謂「アルレルギー」Allergie 或ハ特異體質 Idiosynkrasie ノ體質異常ガアル。血清注射ニ當リテ醫家ノ注意スベキハ此點デアアル。即チ患者ノ既往症(殊ニ血清注射ニヨリシ反應)ヲ豫メ訊ネル必要モアル。又豫メ稀釋サレタ血清ノ少量(10倍稀釋ノ0.1cc)ヲ皮内 intracutan ニ注射シテ局所反應ノ過敏ナルモノ(10分以内ニ既ニ直徑1—2cmノ紅疹狀硬結ヲ發スルガ如キ)ニハ血清病ノ強烈ヲ來ス惧ガアルカラ、場合ニヨリテハ血清ノ注射ヲ見合ハセル。又手ニ入ル機會ガアレバ、他種動物(牛ノ如キ)血清ヲ試ミル必要ガアル。

又注射スベキ血清ノ少量(例ヘバ1cc)ヲ豫メ皮下或ハ筋肉内ニ注射シテ脱感作 Desensibilisierung ヲ行ヒ置キ、後ニ所要量ノ注射ヲ行フ。之ハ再注射ノ場合又疾病ノ重篤ニシテ救急ニ血清ヲ靜脈内ニ注射セントスルガ如キ場合ニハ是非試ミナクテハナラヌ方法デアアル。

4. 血清ノ靜脈内或ハ脊椎内注射ハ皮下或ハ筋肉内注射ヨリモ反應ガ強烈デアアル。從ツテ血清注射ハ疾病ノ尙ホ早期ニシテ、未ダ重篤ナラザル内ニ注射ヲナスコトガ必要デアアル。此意味ニ於テ正確ナル早期診斷ハ最も必要ナルモノデアアル。

5. 再度血清注射ニヨル「アナフィラキシー」發現ヲ豫防スル爲メニハ再注射ヲ行フ必要アル時ハ未ダ患者体内ニ抗體生成ノ盛ンナラザル第1回注射後6日以前ニ行フ方ガ安全デアアル。

6. 血清ヲ注射シテ生ズル反應(夫ガ第1回ノ注射ニヨリテ起ラウガ再注射ニヨリテ現ハレヤウガ)ハ「シヨック」Shock 症狀ヲ時ニ現ハスコトノアル急性ノ抗交感神經緊張症(迷走神經緊張症) Parasympathicotonie (Vagotonie) ノ症狀ニ一致スル。從テ血清病豫防及ビ治療ニ鹽酸「エピレナミン」液劑 Liquor Epirenami hydrochlorici (鹽化「アドリナリン」等副腎髓質ヨリノ抽出天然物、又「エピネフリン」Epinephrin 等ノ人工化學的合成品)ガ用ヒラレル、「シヨック」症狀ノ現ハレタル際ニハ其ノ1,000倍溶液(市販ニ存スル)0.5—1ccヲ皮下ニ注射シ、又5—8滴ヲ500ccノ生理食鹽水、「リンゲル」液ニ溶解シテ靜脈内ニ注入スル。交感神經ヲ興奮スル作用ヲ有スル(sympathicotrop)「カルシウム」劑ガ又血清病ノ豫防ニ或ハ豫メ經口ニ、或ハ注射ニ用ヒラレル。血清病ノ發現シタモノニハ靜脈内注射ガ行ハレル。鹽化「カルシウム」液ヲ初メトシ諸種ノ「カルシウム」製劑ガ市販ニアル。其他用ヒラレテ居ルモノニハ、硫酸「アトロピン」液(0.1%1cc)ノ注射、患者ノ自家血清(或ハ血液ヲ15—10cc靜脈穿刺、血液吸引直チニ腎筋内ニ注射)、「ヴァイタミン」C(「アスコルビン」酸 ascorbic acid)ノ注射等ガアル。

他ハ對症的ノ處置デ、心臟、血管ノ循環器「トームス」弛緩ニヨル虚脱症狀 Kollaps-erscheinung ニハ硫酸「ストリキエーネ」「カンフル」ノ一定酸化物(「ピタカンファー」Vitacampfer, 理研「カンフェナール」Rikenkamphenal), 「カフェイン」劑(安息香「ソーダ・カフェイン」等), 「ピリヂン」Pyridin 劑(「コラミン」Coramin 等)ヲ、關節痛ニハ「サリチル」劑(「アスピリン」等), 「キノフェン」Quinophenum 劑(「アトファン」, 「キノフェン」)等ヲ與ヘル。

蛋白體療法 Proteinkörpertherapie

牛乳(其中ニ蛋白體「カゼイン」ヲ含ム), 細菌蛋白, 植物蛋白等ガ異種蛋白トシテ個體刺戟 Reiztherapie, 細胞原形質賦活 Protoplasmaaktivierung ノ意味デ、非經口的 paranteral 即チ注射ニヨリテ與ヘラレルガ是等ノ場合ハ蛋白體ノ量モ少ナク、又質モ血清蛋白ト縁ガ遠イモノデ、從ツテ血清病症候群ハ極ク稀ニ而カモ輕微ニ發現スル位ノモノデアアル。

Anticholeric serum 「コレラ」血清。

【作用】 主トシテ抗菌性。

【用量】 1) 成ル可ク早期ニ 40cc

ヲ1回又ハ2回ニ分割シテ胸部、大腿内側又ハ上膊ノ皮下ニ。反復ヲ要スルコトアリ。
2) 豫防ニハ 10—20cc 用フ

(有効期間 2—3 週)。

Antipeptic serum 「ペスト」血清

【用量】 1) 1回 40—80 cc ヲ胸部, 大腿内側, 上膊ノ皮下ニ注射ス。重症ニハ 1日數回又ハ毎日反復注射ス。全量 300 cc 迄。
2) 豫防ニハ 20 cc ヲ用フ (有効期間 2—3 週)。

Antipuerperal Septicaemia

Serum 産褥熱血清 (大阪細菌)

【成分】 産褥熱患者ヨリ分離シタル多株ノ産褥熱病連鎖狀球菌竝ニ其毒素ヲ馬ニ注射シテ免疫ニ達セシメシ馬ノ血清。

【適應】 産褥熱。

【用量】 →多價連鎖狀球菌血清。

Antistreptokokkenserum polyvalent 多價連鎖狀球菌血清

【適應】 連鎖狀球菌ニヨル疾患・同菌ノ混合傳染。

【作用】 主トシテ抗菌性。

【用量】 1回 40—100 cc ヲ筋肉内。豫防ニハ 10—20 cc ヲ用フ。第1號 20 cc 入, 第2號 40 cc 入。

別ニ猩紅熱用ノ連鎖球菌血清アリ。

Erysipelin 丹毒治療(連鎖狀球菌)血清 (大阪細菌)

Antityphoid serum 「腸チフス」血清

【用量】 1) 1回 20 cc ヲ胸部, 大腿内側又ハ上膊ノ皮下ニ初期ニ用フベキト云フ。

2) 豫防ニハ 10 cc ヲ用フ (有効期間 2—3 週)。

Antivenomous serum 飯匙蛇血清

【用量】 1) 1回 40 cc ヲ局所附近又ハ上腿, 下腿ノ内面皮下ニ。
2) 豫防ニハ 10 cc ヲ (有効期間 1ヶ月)。

Diphtheric antitoxin 「デフテリア」抗毒素

【作用】 抗毒素性ニシテ毒素ヲ中和スル。

【用量】 液體「デフテリア」血清ニ同ジ。

【種類】

		容量	免疫單位數	1 cc 中ノ免疫單位數
甲 (青)	第1號	2 cc	3000	1500
	第2號	3 cc	4500	
	第3號	4 cc	6000	
乙 (白)	第1號	3 cc	3000	1000
	第2號	4.5 cc	4500	
	第3號	6 cc	6000	
丙 (黄)	第1號	4 cc	3200	800
	第2號	6 cc	4800	
	第3號	8 cc	6400	

Diplo-pneumococcus-serum 肺炎双球菌血清

【作用】 抗菌性, 第1型肺炎菌ノモノハ效果ヲ示ス。

【用量】 1) 1回 20 cc ヲ可及的肺炎ノ早期ニ筋肉内又ハ静脈内。必要アレバ1日中ニ反復ス。全量平均 40—60 cc ヲ用フ。

2) 静脈内注射ハ 0.5 cc ヲ皮下ニ用ヒタル後, 1—2時間ニシテ體温ノ殘餘血清ヲ用フ。

3) 小兒ニテ止ムヲ得ザレバ皮下。

Dysenterieserum 赤痢血清

【作用】 抗菌, 抗毒性。

【用量】 1) 成ル可ク初期ニ 10 cc ヲ皮下ニ注射ス。1日 20 cc 迄。
2) 豫防ニハ血清 5 cc ヲ皮下ニ注射ス (有効期間 2—3 週)。

Meningokokkenserum 流行性腦脊髄膜炎菌血清

【用量】 1) 新鮮ナル血清 (3ヶ月以上ノモノハ用ヒズ) ヲ大人 1回 25—40 cc, 小兒1年以上 20 cc, 1年以下 10 cc ヲ腦脊髄液 20—30 cc (大人) 又ハ 10—15 cc (小兒) 排除後注入。

2) 腦膜炎症状ナク, 敗血性症状ヲ呈スルモノニハ静脈内。

3) 豫防的ニハ 10 cc ヲ皮下又ハ静脈内。

Milzbrandserum 脾脫疽血清

【用量】 1) ナル可ク早期ニ 1回 20 cc ヲ筋肉内又ハ静脈内。皮下ニハ 1回 40 cc トス。小兒ハ年齢ニ應ジ増減ス。

2) 豫防ニハ 20 cc ヲ皮下。

Mischserum von Influenza und Pneumonieerregern 「インフルエンザ」菌, 肺炎血球菌混合血清

【成分】 Pfeifer 氏「インフルエンザ」菌ノ培養ヲ以テ免疫セル馬ノ血清ト數型ノ Fränkel 氏肺炎双球菌培養ヲ以テ免疫セル馬又ハ牛ノ血清トノ混合血清。

【用量】 「インフルエンザ」肺炎ノ早期ニ 20 cc ヲ筋肉内又ハ静脈内 (用法ハ肺炎双球菌血清ニ同ジ) ニ用フ。1日中又ハ日々反復ス。全量 100 cc 迄。

Peritonitis-Serum 抗腹膜炎血清 (Antitoxisches Coli- und Gas-

oedem-Serum) (Bayer)

【成分】 大腸菌及ビ瓦斯浮腫菌抗毒血清ノ混合物ニシテ, 尙防腐ノ目的ニ石炭酸ヲ 0.5% ノ比ニ含マス。大腸菌血清ハ特ニ病原性大腸菌々株ヲ用ヒ其培養基濾液ヨリ菌體ヲ除去シタルモノヲ以テ免疫シタル馬ノ血清ナリ。又瓦斯浮腫菌血清ハウェルチ・フレンケル *Welch-Fränkel* 氏瓦斯壞疽菌 *Bacillus phlegmones emphysematosae* ノ毒素ヲ以テ免疫シテ得タル血清ナリ。

【適應】 汎發性腹膜炎・腸穿孔・敗血性流産・「イレウス」。

【用量】 20 cc ヲ静脈内ニ, 40 cc ヲ同時ニ筋肉内トス。小兒及輕症ニハ減量ス。時トシテ筋肉内注射トシ, 又開放シタル腹腔内ニ注入スル法アリ。

Scharlach-Serum von Behring

「ベーリング」製濃縮猩紅熱血清, (Bayer)

【成分】 猩紅熱毒素ニ對スル濃縮抗血清, 1 cc ハ 4—5 萬皮膚單位ノ毒素ヲ中和ス。

Serum antidiphthericum liquidum 液體「デフテリア」血清

(1 cc 500 免疫單位)

【作用】 抗毒性。

【用量】 可及的早期ニ多量ヲ臀筋内又ハ大腿外側ノ筋肉内。1回 500—25,000 單位ヲ年齢ニ應ジ用フ。

年齢 免疫單位
1年以下 (體重 5—10 kg)

500—5,000

2年—10年(體重 10—20 kg)
1,000—10,000
單位

10年—20年(體重 20—50 kg)
2,000—25,000

第1號 青 1.5 cc 入 750

第2號 赤 3.0 cc 入 1,500

第3號 白 5.0 cc 入 2,500

第4號 薄藤紫 10.0 cc 入 5,000

第5號 緋紅色 15.0 cc 入 7,500

別 = 「強力血清」アリ。

又別 = 「デフテリア」牛血清(甲及乙種)(傳研)アリ。

Serum antidiphthericum siccum 乾燥「デフテリア」血清

【用量】 用 = 臨ミ 0.5% 石炭酸水
又ハ滅菌水ニテ 10% 溶液ヲ製
シ液體「デフテリア」血清ト同
様ニ用フ。1.0ハ5,000單位含ム。

Serum antitetanicum liquidum
液體破傷風血清

【作用】 抗毒性。

【用量】 1) 24,000—48,000單位ヲ
2—3時間隔テテ 2回 = 局所附
近 = 皮下注射トス。重症ニハ更
ニ多量ヲ用フ。1ccハ600國際
免疫單位ヲ含ム。

2) 大人 1回 20 cc ヲ腰椎内ニ
注射ス。

3) 腰椎内注射ヲ最モ可トス。
皮下注射ヲモ併用シ得。

4) 第1號 10 cc 入, 6,000 免疫
單位。

第2號 40 cc 入, 24,000 免疫單

位。

5) 豫防 = ハ 1,200 免疫單位ヲ
用フ。有効期間約 2—3 週間。

Serum antitetanicum siccum

乾燥破傷風血清

【用量】 10 g, 10,000 單位, 1.0 ハ
少クトモ 6,000 單位以上ヲ含ム。

Serum antivenomeux 抗蛇毒血
清 (Calmette)

【用量】 1) 1回 20—40cc ヲ局所
附近又ハ上膊或ハ大腿内面ノ
皮下。

2) 蛇毒ノ咬傷ニハ局所療法。
又強心劑, 胃洗, 「リッゲル」液
モ必要ナリ。

Serum Spirochatae icterohe-
morragiae 黄疸出血性「ス
ピロヘータ」血清

【用量】 1) ナルベク 早期 = 靜脈
肉或ハ筋肉内。小兒ニテハ皮下
ニ行フコトアリ。

2) 大人ニハ 40 cc ヲ 5—6 時間
隔テテ 2回 = 用フ。必要アレバ
反復ス。

3) 靜脈内注射ニハ先ヅ 0.5 cc
ヲ皮下ニ用ヒタル後 1—2 時間
ニシテ, 體温ニシタル血清ヲ用
フ。

4) 豫防ノ目的ニハ 5 cc ヲ皮下
(有効期間 2 週間)。

其他, 腺疫血清(北研), 結核治療血
清(大阪血清), 赤痢菌大原菌混合血清
(疫痢治療)(九州傳研), 產褥熱血清(大阪
細菌)等ガアル。

36. 「ワクチン」 Vaccine (Impfstoffe)

(菌性免疫元—自動免疫)

【作用】 「ワクチン」 Vaccin トハ菌性ノ免疫元ヲ云フ。即チ一定細菌ヲ死
滅セシメシモノ又ハ菌毒素ヲ生體ニ注射シテ抗體(免疫體)ヲ發生セシ
メテ是等ニ對スル自動的免疫 aktive Immunität ヲ獲得セシメントス
ルモノヲ云フ(「ワクチン」療法 Vaccinotherapie 自動免疫法 aktive
Immunisierung)。

【適應】 一定病原體ニヨル感染 Infektion 或ハ混合感染 Mischinfektion
ニ, 當該病原體性ノ免疫元ヲ注射シテ抗體ヲ發生セシメル。勿論未ダ症
狀ノ發現セザル菌携帶者 Keimträger, 病原持續排泄者 Dauerausschei-
der ノ治療ニモ, 又最モ屢々豫防ノ目的ニ接種(注射)サレル(豫防液
ト云ハレルモノ)。

【製法及用量】 自家「ワクチン」 Autovaccin ハ當該疾患ニ對スル特異性
ノ原因療法ノ意ニ適スルモノデアルガ, 急ヲ要スル時等ハ當該病原體株
ノ「ワクチン」ヲ使用ス。病原菌株ノ數種アルモノニハ是等ノ「ワクチン」
ヲ混合シタル多價「ワクチン」 polyvalente Vaccine ヲ使用ス。

「ワクチン」ハ病原體ノ培養ヲ浮游體トシ滅殺シタルモノ(例ヘバ 60 C ニ
テ 1 時間水槽ニテ), 又高熱・煮沸シテ菌體ヲ除キタルモノ(「コクチゲ
ン」 Kocktigen 参照)ヲ云フ。

「ワクチン」ハ又一般ニ 0.5% = 石炭酸 Phenol ガ含マレ殺菌ガ完全トナ
ツテ居ル。

「ワクチン」ノ強弱ハ其中ニ浮游スル菌體ノ數ニヨリテ決メラレル, 菌ノ
種類ニヨリテ一定ナラザルモ「ワクチン」1 cc 中ニハ菌數ハ 1 億内外ト
算セラレ。

「ワクチン」注射後約 1 週間ニシテ生體內ノ抗體發生ガ最盛トナルモノ
デ通常 4—6 日ノ間隔ニテ漸次增量注射シテ數回續行スル, 然シ注射反
應ノ強キモノニ於テハ第 2 回目ヨリ用量ヲ減少スル必要ガアル。又ハ生
理食鹽水ニテ稀釋シテ菌數ヲ少ナクシテ注射スル。注射ハ皮下注射ヲ安
全トスル, 又皮下注射ハ吸收ガ緩徐デアルカラ生體內抗體ノ發生モ亦緩
徐トシテ永續スル。靜脈内ニ入りタル時ハ其ノ反應ガ強烈ノコトガアリ,
時ニ意外ノ苦悶症狀ヲ發スルコトガアル。

感作「ワクチン」 Vaccin sensibilise, sensibilisiertes Vaccin, Serum-

vaccin

細菌ト其免疫體(抗血清)トヲ適當量ニ混合シタル「ワクチン」ヲ云フ。

Alt-Tuberkulin 舊「ツベルクリン」
(Robert Koch) (結核菌「ワクチン」)

結核ノ診斷ト治療ニ用フ。

【稀釋法】

稀釋度	1 cc 中 = 含 △原液ノ量	製法	
		原液	稀釋水
原液	1000.0 mg		
4 倍液	250.0 mg	1 cc	3 cc
10 "	100.0 mg	1 cc	9 cc
100 "	10.0 mg	上ノ10倍	
1,000 "	1.0 mg	"	
10,000 "	0.1 mg	"	
100,000 "	0.01 mg	"	

註。稀釋ニハ 0.85% 食鹽水ニ 0.5% = 純良石炭酸ヲ加ヘ煮沸消毒ス。高度ノ稀釋液ハ貯藏ニ際シ效力ヲ減ズルヲ以テ 1,000 倍以上ノ稀釋液ハ 1 週間ヲ經過シタルモノハ使用セズ。

【診斷用法】 ピルケー氏皮膚反應 Pirquetsche Cutanreaktion 等

【治療用法】 注射ニヨル反應ヲ避ケツツ反復注射シテ結核菌毒素ニ對シ患者ヲ慣ラシ、他方面ニテハ輕微ナル刺戟ヲ病竈ニ與ヘテ自然治癒ヲ助長スルヲ目的トス。用量ハ病勢、年齢、體質等ニヨリ一定セズ。初メハ成ル可ク少量トシ、少量宛徐々

ニ增量ス。大體次ノ標準ニ從フ。0.001, 0.005, 0.01, 0.002, 0.03, 0.04, 0.05, 0.06, 0.07, 0.08, 0.09, 0.1, 0.15, 0.25, 0.4, 0.6, 0.8, 1, 1.5, 2.5, 4, 6, 8, 10, 15, 25, 40, 60, 80 等(單位mg) 注射ハ初メ毎3日ニ1回トシ、漸次7—10日ニ1回、肩胛間部ニ行フ。使用時全身狀態ニ注意シ發熱、咯血、心臟衰弱、體重減少等アレバ中止シ、皮下反應ニ於ケル注意ニモ從フ。

A-0 ハ結核菌ノ多價「ワクチン」(有馬研究所)ニシテ結核ノ治療及豫防ニ用ヒラル。

antierysipelas-Vaccin (Liquid)

丹毒連鎖球菌「ワクチン」
丹毒症ヨリ分離セル連鎖球菌ノ培養ヲ加熱殺菌ス。

【用量】 1回1—2ccヲ患部周圍ノ皮下ニ注射ス。顔面、頭部ノ丹毒ニハ胸部又ハ上膊ノ皮下。11—15年又ハ50年以上ハ上記ノ7/10, 6—10年ハ5/10, 5年以下ハ3/10以下ヲ用フ。

【注意】 妊娠時ニハ禁忌。

antiinfluenza-pneumokokken

Vaccine 「インフルエンザ」菌肺炎雙球菌「ワクチン」
プアイフェル氏「インフルエンザ」菌及數型多株ノフレンケル氏肺炎雙球菌ノ血液寒天培養ヲ加熱殺菌シテ調製ス。主ニ「インフルエンザ」肺炎ノ豫防ニ用フ。

【用量】 大人第1回、第1日 0.5

cc, 第2回、第5—8日、1cc約1週間ニ第3回ヲ行フモ可ナリ。1.5ccヲ用フ。

11—15歳及51歳以上ハ 1/2
6—10歳 1/3
6ヶ月—5歳 1/4以下トス。

Antitrigol 「アンチトリゴール」(日本新藥)

【成分】 淋菌「コクチゲン」ニ「ウロトロピン」, 「サリチル」酸「カルシウム」, 鹽化「カルシウム」ヲ配ス。

【適應】 淋疾・副睪丸炎・子宮内膜炎・附屬器炎等。

【用量】 1回20cc 毎日又隔日ニ靜脈内。

antipyogene Yatren-Vaccine 抗化膿菌性「ヤトレン・ワクチン」(Bayer)

【成分】 「ヤトレン」加化膿菌「ワクチン」。

【適應】 肺炎菌、連鎖狀球菌、葡萄狀球菌、大腸菌、綠膿菌等ニヨル疾患。

【用法及用量】 1筒(第1號—第6號)注射。

A-O 「アーオー」(須美)

【成分】 人型結核菌中特殊ノ免疫元性能ヲ有スル菌種ヲ選ビタル菌製劑。

Arthigon 「アルチゴン」(Schering-田邊元)

殺菌淋菌ノ多價・水様乳劑。1cc中淋菌5000萬—1億ヲ含ム。

【用量】 淋菌性疾患ニ1日1回0.1ヲ臀筋内。發熱アラバ3—4日休止。再ビ0.2—0.5ccヲ用フ。弱反應ナラバ3—4日後ニ1.0ccヲ注射ス。2.0以上ハ用ヒズ。診

斷用トシテハ 0.05—0.1(男子) 0.03—0.05(女子)ヲ午前中注射シ、後1時間ニ檢温ス。高熱ヲ淋疾トス。1.0—1.5°Cノ熱發ハ健者ニテモ見ラル。

Cholera-Vaccin 「コレラワクチン」(「コレラ」豫防液)

「コレラ」菌ノ寒天培養ヲ加温殺菌ス。1cc中菌量2mg, 「コレラ」ノ豫防ニ用フ。

【用量】

1) 2回注射法

第1回注射 第1日 1cc
第2回注射 第5—8日 2cc

2) 3回注射法

第1回注射 第1日 0.5cc
第2回注射 第4日 1cc
第3回注射 第7日 1.5cc

3) 年齢ニヨリ上記ノ量(1トス)ヲ下記ノ如ク減ズ。

11—15年, 51年以上 7/10
6—10年 5/10
6ヶ月—5年 3/10以下

4) 注射部位ハ通常肩胛間部又ハ胸部(第3肋間)ノ皮下トス。有熱者、心臟病、腎臟病、妊婦、胸腺淋巴體質等ニハ禁忌トス。1容量40cc入。

5) 時ニ全身症狀(熱發、頭痛、下痢等)、局所症狀アルモ1—2日ニシテ輕快ス。

Coli-Koktigen 大腸菌「コクチゲン」(鳥居—福井) (「コクチゲン」参照)

【成分及適應】 數株ノ大腸菌ヨリ製シタル淡褐色透明無臭ノ免疫元, 0.5%ニ石炭酸ヲ含有シ、大腸菌ニ原因スル各種疾患ノ治療及ビ豫防ニ用フ。冷暗所ニ貯フ

ルヲ要セズ、熱帯地方ニテモ變質セズト、又日光直射ノ下ニテ室温ニ放置スルモ差支ヘ無シ(有効時間1ヶ年)、沈澱・濁濁等ヲ認メタル時ハ使用スベカラズ。

【用量】 使用ハ皮下注射ヲ原則トス。靜脈内注射モ可。

治療用皮下注射ニハ第1日0.5cc第2日又ハ第3日1.0cc其後毎日或ハ隔日1回1.0cc宛(或ハ一般状態ニ注射シツツ漸次増量シテ1回3.0ccヲ注射ス)注射全量ハ一人ノ患者ニ40—50ccヲ用フルモ可ナリ。治療用靜脈内注射ハ「ツベルクリン」注射器ヲ以テ1日1回0.2—0.5ccヲ注射シ持長ス。特別ノ場合ノ他ハ1回注射量0.7cc以上ヲ超ユベカラズ。注射全量前同様。

Coli-Yatren 「コリヤトレン」(Bayer)

【成分】 大腸菌ノ純培養ヲ3%「ヤトレン」溶液中ニ浮遊セシメタル多價「ワクチン」1管(2.5cc)中50, 100, 200, 400, 500, 600。(單位百萬)ノ菌ヲ含ム。

【適應】 膀胱炎・腎盂炎・子宮周圍炎等。

【用量】 1號ヨリ初メ筋肉内。靜脈内ハソノ1/3—1/2ヲ用フ。

Dysenterie-Vaccine 赤痢「ワクチン」(豫防液)

數型ノ赤痢菌寒天培養ヲ加熱殺菌シテ調製ス。

1cc中ノ菌量2mg

【用量】 第1回注射。腸「チフス」ノ場合ニ同ジ。但シ赤痢血清ト豫防液等分ノモノ。

第2回注射。第1回注射量ト同ジ。但シ4日目ニ豫防液4、血

清1ノ割合ノ混合液ヲ用フ。體質ソノ他ニヨリ増減ス(下記)。

15—50歳 1cc
11—15歳及51歳以上 0.7cc
6—10歳 0.5cc
6ヶ月—5歳 0.3cc

Eiweissfreies Tuberkulin 無蛋白「ツベルクリン」

蛋白ヲ含マザル培地ヲ用ヒテ反應ヲ少クセル帶黃透明液。

【用量】 舊「ツベルクリン」ヨリモ大量(1500—2000mg)ヲ用ヒ得。

Gonargin 「ゴナルギン」(Höchst)

多價淋菌「ワクチン」, 1cc中5千萬, 2億5千萬, 10億, 50億ノ菌ヲ含ムモノ市販サル。0.5%石炭酸鹽水ニ浮遊セシメ乳劑トス。

【適應】 淋毒性疾患。

【用量】 1cc中5百萬ノモノヨリ初メ毎3日ニ漸増, 筋肉内。

Gono-Brocanon 「ゴノ・ブロカノン」(中外)

【成分】 第1號 Brocanon 20ccニ淋菌多價「ワクチン」0.5cc
第2號 同上 0.7cc
第3號 同上 1.0cc
ヲ配合シタルモノ

Gonocaltin 「ゴノカルチン」(大阪血清學院)

【成分】 淋菌「ワクチン」0.1ccヲ, 滅菌セル3%「クロルカルシウム」水溶液20ccニ混和ス。

【適應】 淋毒性疾患諸症。

【用量】 1回1管(20cc)ヲ毎日又ハ隔日ニ1回靜脈内。

Gonokokkenvaccine 淋菌「ワクチン」(傳研)

數種ノ淋菌菌株ノ血液寒天又ハ腹水寒天培養ヲ加熱殺菌セルモノ。淋毒性疾患ニ用フ。

【用量】 第1回0.1, 第2回0.2, 第3回0.4, 第4回0.6, 第5回1.0ccヲ皮下(上膊, 肩胛間部)注射ス。必要アラバ第5回注射ノ量ヲ復ス。注射間隔ハ3—5日。女子ニハ量ヲ減ズベシ。

Gonominis 「ゴノミニス」(Kogo)(白井松)

【成分】 淋菌多株「ワクチン」

【用量】 0.2ccヨリ始メ, 次第ニ増量1.0cc皮下。

Gonostagen 「ゴノスターゲン」(Comet)(黒田)

【成分】 淋菌ト化膿性葡萄狀球菌ヨリ產生セル抗體ニ鹽化「カルシウム」ヲ配ス。

【適應】 男女淋毒性疾患。

【用量】 1回20ccヲ隔日, 又ハ毎日靜脈内。

Gono-Urosamin 「ゴノウロサミン」

【成分】 「ネオウロサミン」ニ淋菌「ワクチン」ヲ加ヘタルモノ。

【適應】 淋疾。

【用量】 毎日1回20cc靜脈内。

Gono-Yatren 「ゴノヤトレン」(Bayer)

【成分】 3%「ヤトレン」液中ニ淋菌ヲ浮遊セシム。1號ヨリ6號迄夫々1管(2.5cc)ニ500萬, 1億, 1億5千萬, 2億, 3億, 4億ノ菌ヲ含ム。

【適應】 淋菌性疾患。

【用量】 1號ヨリ始メテ筋肉内注射。靜脈内ハ1號ノ1/3—1/2ヨリ始ム。

Keuchhusten-Vaccin 百日咳「ワクチン」(Keuch-zin)

數株ノホルデー Bordet 氏百日咳菌ノ血液寒天培養ヲ加熱殺菌ス。

【用量】

回数 年齢	I	II	III	IV	V
1年未満	0.1	0.15	0.2	0.3	0.4
1—2年	0.15	0.2	0.3	0.4	0.5
2—3年	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6
3—5年	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7
5—7年	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8
7年以上	0.5	0.6	0.7	0.8	1.0

注射ノ間隔ハ通常3—5日トス。心臟病, 腎炎, 胸腺淋巴體質ハ禁忌トス。

1號5cc入, 2號10cc入。

Koktigen 「コクチゲン」(福井七)(煮沸免疫元)

【成分】 各種ノ細菌純培養浮遊液ヲ煮沸シ菌體ヲ除キタル水溶性細菌物質ヨリナル一種ノ「ワクチン」ナリ。

各種菌ノ「コクチゲン」アリ, 治療用豫防用トサル。→大腸菌「コクチゲン」。

Lymphe 痘苗(傳研, 北研, 大阪血清, 天兒研究所)

→Virus vaccenicum 痘苗。

Neo-Calgonogen 「ネオカルゴノゲン」(田邊)

【成分】 淋菌「ワクチン」ヲ鹽化「カルシウム」ニテ處理シ, 之ニ「ウロサミン」ヲ配ス。

【作用】 利尿, 防腐, 消炎, 鎮痛,

殺菌。

【適應】 淋疾諸症。

【用量】 1回 20 ccヲ 靜脈内。腎炎、脚氣、心臟病、妊娠、胸腺淋巴體質ニハ 注意ヲ 要ス。

Neo-Stagen 「ネオスターゲン」
(丸石) Gonostagen ニ準ズ。

Neuro-Yatren 「ノイロヤトレン」
(Bayer)

【成分】 向神經性細菌(靈菌、綠膿菌及金色葡萄狀球菌)ノ 自家融解ヲ ナサシムル物質ヲ 3%ノ「ヤトレン」液ニ 加ヘタルモノ。

【適應】 神經痛・神經炎(傳染性・レウマチス性)等。

【用量】 1回 0.1—0.5 ヨリ 始メ、3—4 日ノ 間隔ヲ オキ、病竈反應ヲ 注意シ ツツ 毎回 0.1 宛 漸増シ 20 cc ニ 達ス。

Paratyphus A-Vaccin 「パラチフス」A菌「ワクチン」(豫防液)
「パラチフス」A菌ノ 寒天培養ヲ 加熱殺菌ス。A型「パラチフス」ノ 豫防ニ 用フ。注射法ハ 腸「チフス」ワクチンニ 同ジ。但シ

11—15 及 51 年 以上ノ 者ハ 7/10
6—10 歳 5/10
6 ヶ月—5 歳 3/10 以下

Paratyphus A-B Vaccine 「パラチフス」混合ワクチン(豫防液)
「パラチフス」A, B 菌ノ 寒天培養ヲ 加熱殺菌シテ 製ス。總テ「パラチフス」A 菌「ワクチン」ニ 準ズ。

Paratyphus B-Vaccin 「パラチフス」B 菌「ワクチン」(豫防液)
「パラチフス」菌ノ 寒天培養ヲ 加熱殺菌ス。B 型「パラチフス」豫防ニ 用フ。用法、「パラチフス」A 菌

ニ 同ジ。

Pest-Vaccine 「ペストワクチン」
(「ペスト」豫防液)

「ペスト」菌ノ 寒天培養ヲ 加熱殺菌ス。

【用量】 「コレラワクチン」ニ 全ク 同ジ。

Polyvalentin → 百日咳劑

Repulsin „A-B” 「レパルジン」A-B (三見)

【成分】 結核菌毒素ヨリ 抗菌免疫元ト 稱スル 蛋白様物質ヲ 取り出シタルモノ。

【作用】 血中ニ 溶菌素ヲ 生成シ 全身免疫ヲ 賦與ス。

sensibilisierte Gonovaccine 感作「ゴノワクチン」。

數種ノ 淋菌血液 寒天培養ヲ 生理食鹽水ニ 混ジ 之ニ 淋菌免疫血清ヲ 加ヘ 振盪後、遠心沈澱、0.5% 石炭酸生理食鹽水ヲ 加フ。1 cc 中 淋菌 2 億ヲ 含ム。

【用量】 隔日 = 1 回 0.25—0.5—1.0—1.5—2.0—2.5 ノ 順ニ 肩胛間部ニ 皮下。

【注意】 1) 大日本製藥ヨリノ 淋菌感作「ワクチン」ハ 1 號 5 cc 又 7 cc, 2 號 10 cc (又 15 cc)。

2) 田邊五ヨリノ 淋菌感作「ワクチン」ハ 1 號 5 cc, 2 號 10 cc。

Spirochaetae ictero-haemorrhagiae-Vaccine 黄疸出血性「スピロヘータ・ワクチン」(ワイル氏病豫防液)。

黄疸出血性「スピロヘータ」ノ 培養ヲ 加熱殺菌シテ 製ス。ワイル氏病ノ 豫防ニ「ペスト・ワクチン」ニ 準ジテ 用フ。ナルベク 3 回注射法

ニヨルベシ。

Staphylokokken-Vaccine 葡萄狀球菌「ワクチン」

【適應】 葡萄狀菌ニヨル化膿症・敗血症・筋炎・産褥熱等。

【用量】 1 週 1 回 5 千萬個 乃至 1 億個ヨリ 10 億個ニ 至ル、1 cc 中 1 億及 5 億ノ 2 種 市販サル。3—5 日目 毎ニ 注射ス。

【注意】 外國製品ノ Opsonogen, Leukagen, Staphylosan 等モ 同一 使用量。

Streptokokkenvaccine 連鎖狀球菌「ワクチン」

多價「ワクチン」ナリ。

【用量】 1 週 1 回、100 萬個、1500 萬個、2000 萬個ノ 順ニ 注射ス。

【注意】 1) 大日本製藥ノ 市販品ハ 1 號 7 cc, 2 號 15 cc 入。

2) 天兒(田邊五)ヨリノ 連鎖狀球菌感作「ワクチン」ハ 5 cc 入。

Staphylo-Yatren 「スタフキロヤトレン」(Bayer)

【成分】 3% 「ヤトレン」液中ニ 葡萄狀球菌ヲ 浮遊セシム、1 號ヨリ 6 號迄 夫々 3 千萬、6 千萬、1 億 2 千萬、2 億、4 億、6 億ノ 菌ヲ 含有。

【適應】 葡萄狀球菌性炎症。

【用量】 1 號ノ 0.5 cc ヨリ 筋肉内。漸次增量。靜脈内ハ 1/3—1/2 ヨリ 開始。

Strepto-Staphylo-Coli-Vaccines 腎盂腎炎「ワクチン」(大阪細菌)

【成分】 腎盂・腎炎患者ノ 尿ヨリ 分離セル 連鎖狀球菌、葡萄狀球菌及 大腸菌ヨリ 製シタル 混合「ワクチン」。

【適應】 腎盂腎炎・膀胱炎。

【用量】 皮下。

Strept-Yatren 「ストレプトヤトレン」(Bayer)

【成分】 3% 「ヤトレン」液中ニ 連鎖狀球菌ヲ 浮遊ス。1 號ヨリ 6 號迄 夫々 1 管 (2.5 cc) 中 2500 萬、5000 萬、1 億、2 億 5 千萬、3 億ノ 菌ヲ 含ム。

【適應】 連鎖狀球菌ニヨル炎症。

【用量】 1 號 1 筒ヨリ 筋肉内ニ。漸次增量。靜脈内ハ 1 號ノ 1/3—1/2 ヨリ 用フ。

Toxoid 「トキシイド」

【成分】 猩紅熱病原菌ヲ 無毒トシ 尙カツ 免疫作用ヲ 保タシメタルモノ。

【適應】 猩紅熱豫防ニ 接種。

【用量】 1 週間ヲ 隔テ 3 回皮下。

Typhus-Vaccine 腸「チフス」ワクチン(腸「チフス」豫防液)

「チフス」菌ノ 寒天培養ヲ 加熱殺菌ス。

【用量】

	2 回注射法	3 回注射法
第 1 回	1cc (1 日)	0.5 cc (第 1 日)
第 2 日	2cc (第 4—6 日)	1cc (第 4 日)
第 3 日		2cc (第 7 日)

註 1)

8—12 年 2/3

5—7 年 1/2

4 年以下 1/4 以下

2) 可及的 3 回注射法ヲ 行フ。

3) 注射ハ 肩胛間部又ハ 胸部ノ 皮下ニ 行フ。

4) 熱發、心腎疾患、結核、脚

氣, 糖尿病, 妊婦, 淋巴體質ニハ禁ズ。
 5) 豫防期間 6—11日後ニ效力ヲ發シ2—3年持續ス。
 6) 全身症狀, 局所症狀ハ1—2日後ニハ輕快ス。

Typhus-Vaccine for Prophylactic Vaccination 腸「チフス」, 「パラチフス」菌混合「ワクチン」(豫防液) T. A. B. Vaccine (三共) 腸「チフス」菌, 「パラチフス」菌 A Bノ培養ヲ加熱殺菌ス。腸「チフス」, 「パラチフス」ノ豫防ニ用フ。用法ハ腸「チフス」ワクチンニ準ズ。

Vacciflavin 「ワクチフラヴィン」
【成分】 淋菌「ワクチン」ニ「アクリフラビン」ヲ伍ス。
【適應】 淋疾。
【用量】 毎日 20 cc 靜脈内。

Vacunal 「ワクナール」(中村瀧)
【成分】 特殊培地ニ培養シタル結核菌「ワクチン」(渡邊氏)

Virus vaccinicum, Varioravaccine, Kuhpockenimpfstoff 痘苗
【接種法】 上膊伸側ニ切種式ニヨリ出血セシメザル様淺キ十字切ヲ加フ。第1期種痘(出生ヨリ翌年6月迄)ハ4—6切, 第2期種痘(數ハ歳10歳)ハ6切トシ, 又切ノ距離ハ5分以上トス。
【檢診】 接種後6—8日目ニ行フ。第1期ハ痘疱2顆以上ヲ善感トシ, 第2期ハ第3日後ニ1個以上ノ小結節又ハ水泡ヲ生ジタルモノモ善感トス。
【皮下種痘】

精製痘苗(矢追博士一牛痘)ヨリ吸着法ヲ用ヒテ牛痘毒ヲ分離シ水様透明液ヲ作り, 是ヲ皮下ニ注射スル(皮下種痘)。

【用量】 13歳迄ハ0.3 cc, 14—19歳0.4, 成人及既種痘者ハ男子0.5, 女子0.4。

【注射部位】 上膊ノ外側

【反應】 善感ノ場合ハ, 注射局所ニ皮下硬結・發赤・腫脹等(注射後7—0日ニ最モ著シ)ノ局所反應ト發熱, 全身違和ヲ來スガ, 切種式種痘ト異ナリ皮膚膿疱ヲ作ラズ, 從ツテ癢痕ヲ貽サズ混合感染ノ危険ガ少ナク, 發熱等ノ一般症狀モ切種式ヨリ僅微デアルト云ハル。

Wutvaccine, Lyssaimpfstoff 狂犬病豫防「ワクチン」
 狂犬病固定毒ヲ兔ニ接種シ其發病シタルモノノ脊髓ヲトリ1—3日間乾燥シ3種ノ苗トナシ各々0.5 cm ツツ截切シテ之ヲ「グリセリン」中ニ貯フ。
【用量】 乾燥苗1個(0.5cmナルモ幅, 厚サニヨリ長サヲ異ニスルコトアリ)ヲ1回ノ注射量トナシ約2 ccノ乳劑ヲ調製シ其全量ヲ皮下。10歳以下ノ小兒ハ此半量トス。

【乳劑ノ製法】

滅菌「ピンセット」ヲ用ヒ乾燥苗1個ヲ「グリセリン」中ヨリ取出シ乳鉢中ニ入レ乳棒ヲ以テ靜カニ打チ潰シタル後, 研磨徐々ニ生理食鹽水ヲ滴加シツツ磨碎シテ全量ヲ2 ccトス。以上無菌的ニスベシ。

【注射法】 各乳劑全量ヲ即時1回

ニ皮下注射ス。局所ハ「アルコール」, 「ヨードチンキ」ニテ消毒シ置クベシ。普通肩胛間部ヲ撰ブ。注射器及針ハ煮沸消毒ス。
【注射期間】 18日トス。止ムヲ得ザレバ毎日連續シテ行フ。方式次表ノ如シ。此ノ間飲酒, 過勞ヲ避クベシ。

第1日, 2日 3日苗	第3日, 4日 2日苗	第5日 1日苗
----------------	----------------	------------

第6日 3日苗	第7日 2日苗	第8日, 9日 1日苗
------------	------------	----------------

第10日 3日苗	第11日 2日苗	第12, 13日 1日苗
-------------	-------------	-----------------

第14日 3日苗	第15日 2日苗	第16, 17, 18日 1日苗
-------------	-------------	---------------------

【乾燥苗貯藏】

「グリセリン」中ニ入レタルママ密栓シ冷暗所ニ貯フ。1ヶ月以上ノモノハ無効ニシテ, 1度乳劑トセルモノハ貯藏不可能

ナリ。

【效力】 注射完了後約1週間ニシテ初メテ完全ニ發現ス。稀ニハ此ノ效力發現前ニ發病スルコトアリ。依テ注射ハ可及的早期ヲ可トス。途中ニテ廢止スレバ完全ナル豫防力ヲ得ズ。

【注意】 狂犬病ハ咬傷ヲ受ケタル後平均約6週ニテ發現ス。(早キハ14日, 遅キハ半年後)。特ニ小兒ニテハ早シ。皮膚ノ微細ナル創傷ヨリ狂犬ノ唾液ガ附着シテ感染スルコトアリ。又咬傷部ハ出血セシメテ病毒ヲ除キ, 腐蝕(苛性「カリ」ノ棒又ハ10倍液), パクレン氏烙白金ノ燒灼, 「ヨードチンキ」塗布等ヲ行フ。

Yatren-Vaccinen 「ヤトレン」加「ワクチン」→Antipyogene Yatrenvaccine, Coli-Yatren, Gono-Yatren, Neuro-Yatren, Stayhylo-Yatren, Strepto-Yatren

37. 「アナトキシン」附「アンチウイルス」

Anatoxine und Antivirus

「アナトキシン」トハ免疫體ヲ化學的(「フォルマリン」等)或ハ物理的ニ處置シ毒性ヲ減弱セシメ, 而モ抗原性 Antigenitätヲ保持セシメタルモノニシテ, 豫防接種ニ用ヒラル。

Anatoxine Antidiphtherique 「ヂフテリ-アナトキシン」(稻畑)

【成分】 「ヂフテリア」毒素 0.000125—0.0001「ミリ」ヲ體重 250—300 gノ「モルモット」ノ皮下

ニ接種シテ, 該動物ヲ4日以内ニ定型の症狀ヲ惹起セシメテ死ニ至ラシムルモノヲ選ビテ製シタル「アナトキシン」。
【適應】 「ヂフテリア」ノ豫防。

【用量】 第1回0.5, 第2回1.0cc,
第3回1.5cc皮下。

Anatoxine Antitétanique 破傷風
「アナトキシン」(稻畑)

【成分】 破傷風毒素0.0001「ミリ」
ヲ體重300gノ「モルモット」ノ
皮下ニ接種シ、4日以内ニ定型
的症狀ヲ發シテ斃サシムルモ
ノヨリ製セル「アナトキシン」。

【適應】 破傷風ノ豫防接種。

【用量】 第1回0.5, 第2回1.0cc,
第3回1.5cc皮下。

Antivirus 「アチンウイルス」(稻畑)

Prof. Dr. Besredka Institut
Pasteur de Paris ノ樹出シタル
局所免疫學說ニ基キ創製シタル
モノニシテ、連鎖状球菌、葡萄状
球菌、大腸菌ニヨル諸疾患ヲ豫防
及ビ治療セントスル特殊ノ製品
即チ細菌ノ液體培養ヲ濾過シタ
モノデアル。注射用トシテ生體內
抗體生成ヲ目的トセズ、局所免疫
ノ目的ニ灌注法、點滴法、濕布關
帶法、「タンボン」法ニ用ヒラル。

Antivirus Colibacilleire 大腸菌
「アンチウイルス」

Antivirus Purpéral 産褥熱「アン
チウイルス」

産褥熱患者ヨリ採取セル約60種
ノ連鎖状球菌ノ「アンチウイルス」
共ニ淡黄褐色ノ液體。
用法 其他ハ説明書ヲ参照サレタ
シ。(實驗醫學研究所ノモノモア
ル)。

Antivirus Staphylococcique 葡
萄状球菌「アンチウイルス」

Antivirus Streptococcique 連鎖

状球菌「アンチウイルス」

**Antivirus Strepto-Staphylococ-
cique** 連鎖状葡萄状菌混合「アン
チウイルス」

Diphtheria-anatoxin 「ヂフテリア」
豫防液(精製「ヂフテリア・アナト
キシン」)(備研)

【成分】 精製「ヂフテリア・トキ
シン」ヨリ調製ス。

【用量】 注射ハ3回ニ行フ。

1) 幼兒、小兒ニ於ケル各回ノ
注射量次ノ如シ。

第1回 0.5cc

第2回 0.5cc

第3回 0.8乃至1.0cc

間隔ハ通例各2乃至3週間トス
ルモ差支ナシ。

【注意】 或人ニハ層々副作用ヲ
伴フ事アルヲ以テシツク「テスト」
Schick' test 陽性者ノミニ
注射ヲ行ヒ第1回0.1ccヲ注射
シ反應アル場合ニハ第2回以後
ニ於テモ増量セザルヲ可ト
ス。反應ナキ場合ニハ第2回及
ビ第3回ニ0.3乃至0.5ccヲ注
射ス。

2) 注射ハ通常上膊外側ノ皮下
ニ行フ。

3) 心臓、腎臓、呼吸器等ノ重キ
疾病アル者及胸腺淋巴體質ノ
微候アル者等ニハ注射ヲ避ケ
ベシ。

4) 本豫防液注射後時ニ局所ノ
發赤、疼痛、發熱等ヲ來タスコ
トアルモ一過性ナリ。

Diphtheria-Anatoxin 「ヂフテリ
ア・アナトキシン」(三共)

【成分】 「ヂフテリア」菌 Parke
Williams No. 8. ヨリ産出セ

ル「ヂフテリア・トキシン」ニ
「ホルマリン」及溫度ヲ作用シ
得タル「アナトキシン」。

【適應】 「ヂフテリア」豫防。

【用量】 1) 下記用量ヲ皮下ニ3
回注射ス。

第1回 0.2—0.3cc

第2回 0.5cc

第3回 0.7—1.0cc

2) 注射間隔ハ1—3週トス。

3) 上膊外側ノ皮下ニ行フ。

4) 心、腎臓病・胸腺淋巴體質ハ
避ケ。

5) 局所反應(發赤、疼痛、浸潤)、
發熱ハ一時的ナリ。

Diphtherie-Formovaccin 「ヂフ
テリーフォルモワクチン」(大阪實驗
治療—鹽野義)

【成分】 「ヂフテリア」毒素ヲ完
全ニ無毒化シ而モ免疫元性ヲ
保持セシメシモノ。1cc中10單
位ヲ含有ス。

【適應】 「ヂフテリア」豫防接種。

【用量】 第1回0.5cc, 20日後第
2回1cc, 後15日第3回1.5cc
皮下。

38. 驅微劑 Antiluetic, Antisyphilitica

(注意：一橫痃治療劑・硫黃劑・變調劑參照)

「スピロヘータ・パルリダ」Spirochaeta pallida s. Treponema pallidum
ヲ病原體トスル微毒 Syphilis, Lues ニ對スル特異治療劑 Specifica ハ又
他ノ「スピロヘータ」病 Spirochaetosis ニモ治療劑トシテ使用サレル(鼠
咬症、廻歸熱等)。性病、微毒ノ項、驅微療法(181—184頁)ヲ參照サレタシ。

A. 砒素化合物(所謂「サルバルサン」製劑)

局方「アルゼノベンゾール」Arsenobenzolum, 「アルゼノベンゾールナ
トリウム」Arsenobenzol-Natrium 「ネオアルゼノベンゾール」Neo
Arsenobenzolum, 強「ネオアルゼノベンゾールナトリウム」Neo-Arsenob-
enzolum fortius 簇。

1. 局方「アルゼノベンゾール」

「サルバルサン」ヲ以テ代表ス。所
謂606號ト稱サルルモノデアルガ、
水溶液ハ酸性ナルヲ以テ「アルカ
リ」溶液ニテ中和シテ後食鹽水ニテ
稀釋シテ靜脈内ニ注入スル。裝置・
操作ハ複雑ナルヲ以テ現今ハ操作
ノ單簡ナル進步シタル「ネオ・サル
バルサン」(局方「アルゼノベンゾー

ル・ナトリウム」, 其他改良品)ガ專
ラ用ヒラル。

性病ノ項(181頁)參照。

Salvarsan 「サルバルサン」(Bayer)

【成分】 m-Diamino-p-dioxy-
arsenobenzoldichlorhydrat 邦
製品ニ「アルサミノール」Arsa-
minol, 「アルセミン」Arsemin.

「エーラミゾール」Ehramisol,
「タンザルサン」Tanvalsan 等
アリ。

【適應】 微毒其他・睡眠病・「カラ
アザール」・肺壞疽・ワンサン氏
アンギナ。

【用量】 體重 1kg = ツキ 0.005—
0.01ノ割合ニ 1—2 週間毎ニ靜
脈内。即チ 1 回量 0.1—0.3 位ヨ
リ始ム。溶液ハ「サルザルサン」
0.6 = 對シ 15% 定規「ソーダ」
滴汁液 1cc ノ割トナシ（豫メ
「サルザルサン」ヲ 30 cc ノ蒸溜
水中ニ溶カシオクベシ）次ニコ
ノ液ヲ中性トナシ（蒸溜水ヲ用
フ）「イルリガートル」ニ移シ
37°C, 0.5% 食鹽水ニテ 250 cc
ニ稀釋、濾過シテ靜脈内。

2 號 0.2, 3 號 0.3, 4 號 0.4

【注意】 1) 副作用トシテ「ノイ
ロレチヂーフ」・出血性腦炎・發
疹・熱發・胃腸症狀等ヲ呈スル
コトアリ。
2) 現今ハ好ンデ「ネオサルザ
ルサン」ヲ用フ。
3) 心臟・腎臟・肝臟・腸疾患及
胸腺淋巴體質者等ニハ用ヒザ
ルヲ可トス。妊婦ニモ用ヒラル。
4) 驅微療法トシテハ水銀劑、
蒼鉛劑ヲ併用スルヲ可トス。

2. 局方「アルゼノベンゾールナト リウム」, 局方「ネオアルゼノベン ゾール」, 局方強「ネオアルゼノベ ンゾールナトリウム」

Salvarsan-natrium 「サルザルサ
ン・ナトリウム」(Bayer)

【成分】 Dinatriumsalz des m-

Diamino-p-dioxy-arsenoben-
zols. 水ニ易溶, 弱「アルカリ」
性反應ヲ呈シ, 「ネオ・サルザル
サン」同様中和スルコトナク靜
脈内ニ注入サル。
1 號 0.1, 2 號 0.3, 3 號 0.45,
4 號 0.6 g トス。

Silbersalvarsannatrium 銀「サル
ザルサンナトリウム」(Bayer)

【成分】 銀「サルザルサン」ノ「ナ
トリウム」鹽。

【適應】 舊「サルザルサン」ニ準
ズ。

【用量】 舊「サルザルサン」ノ半
量(1 回 0.05—0.2)ヲ用フ。1 回
ノ極量 0.2。溶解液製法ハ「ネオ
サルザルサン」ニ準ズ。

Neo-Salvarsan 「ネオサルザルサ
ン」(Höchst-Bayer)

【成分】 m-Diamino-p-dioxy-
arseno-benzolmethylensulf-
oxysaures Natrium, 約 20%ノ
砒素ヲ含ム。

【適應】 微毒諸症・肺壞疽・「フラ
ンベシア」・「マラリア」・鼠咬
症・脾臟性貧血・扁平紅色苔癬・
ワンサン氏「アンギナ」。

【禁忌】 重篤ナル血行障礙・中樞
神經系ノ高度ノ變質・惡液質・
急性傳染病・氣管支炎・中耳炎・
「インフルエンザ」・鼻炎・重症
糖尿病・腎炎。

【用量】 用ニ臨ミテ滅菌再溜蒸溜
水ノ「アムブレ」ヲ切り置キ
（「イゾドツベルアムブレ」ニ
ハ蒸溜水ヲ附シアリ），次ニ「ネ
オサルザルサン」ノ「アムブ
レ」ヲ切り，適當大ノ煮沸滅菌

注射器中ニ溶解ニ要スル蒸溜
水ヲ吸引ス。其量ハ「ネオサル
ザルサン」。

第 1 號(0.15g)ニ對シテハ 3 cc,
第 2 號(0.3g)ニ對シテハ 6 cc,
第 3 號(0.45g)ニ對シテハ 9 cc,
第 4 號(0.6g)ニ對シテハ 12 cc,
トナシ, 常ニ 5%「ネオサルザル
サン」溶液ヲ調製スルガ如クス。
茲ニ於テ該蒸溜水ヲ靜ニ「ネオ
サルザルサン」ノ「アムブレ」
中ニ注入シ, 注射針ノ尖端ヲ動
カシナガラ管底ノ「ネオサルザ
ルサン」粉末ヲ徐々ニ攪拌溶解
ス。此際可及的空氣ト溶液トノ
接觸ヲ避ク。氣泡ヲ發生セシメ
ツツ溶解スル時ハ, 「ネオサル
ザルサン」ハ容易ニ酸化シテ,
毒性ヲ増加シ, 注射後副作用ヲ
惹起スルコトアリ。

【靜脈内】 約 20 倍量ノ再溜滅菌
蒸溜水ニ溶解シテ注射ス。本法
實行不可能ナル場合ニハ下記
用法ヲ擇ブベシ。

【筋肉内】 筋肉内注射ニハ前者
ト同一溶液ヲ使用ス。注射部位
ハ臀部ヲ 4 分シテ其外上方 1/4
ニ於テ, 注射針ハ成ル可ク深ク
刺入シ, 極メテ徐々ニ注射ス。
此目的ニ向ツテハ特ニ調製サ
レタル「ミオサルザルサン」ア
リ。

【直腸内用法】 「ネオサルザルサ
ン」ハ, 又之ニ「カカオ」酪ヲ加
ヘテ坐藥トシ, 或ハ 0.15 g ヲ
0.4% 食鹽水 25cc ニ溶解シテ注
腸スル事ヲ得。效力ハ注射法ニ
比シ稍劣ル故, 唯注射療法ノ不
可能ナル場合ニ於テノミ此法

ヲ應用ス。注腸前ニハ豫メ浣腸
ス可シ。

【局所的用法】 「ネオサルザルサ
ン」ハ又局所的ニモ使用セラル。
即チ粉末ノ儘潰瘍面ニ撒布シ,
或ハ 10%「ワセリン」軟膏トシ
テ貼布シ又ハ 10%「グリセリ
ン」溶液トシテ塗布ス。後者ハ
殊ニ「アンギーナ」及口腔炎ニ
好ンデ用ヒラル。

【注射後ノ注意】 注射後頭痛ヲ訴
フルモノニハ「ピラミドン」0.1
—0.2 g ヲ與フ。「アレルギー」性
症狀ヲ呈セル時, 或ハ血壓下降
ノ兆アル時ハ, 1,000 倍鹽酸「ズ
プラレニン」溶液 0.5—1.0 cc ヲ
皮下ニ注射ス。或ハ又之ヲ豫防
的ニ注射。其他滅菌純次亞硫酸
「ソーダ」溶液(0.3—0.6g ヲ蒸溜
水 10 cc ニ溶解セルモノ)ノ靜
脈内注射モ可ナリ。

【用量】 「サルザルサン」ト同ジ
ク, 年齢, 男女ノ別, 患者ノ全
身狀態, 疾患ノ程度竝ニ時期ニ
ヨリ參酌決定ス。
「ネオサルザルサン」ト「サルザ
ルサン」ノ砒素含有量ノ比次ノ
如シ。

「ネオサル 「サルザル
ザルサン」 ザルサン」

(1 號) 0.15 = 0.1g = 相當ス。

(2 號) 0.3 = 0.2g = 相當ス。

(3 號) 0.45 = 0.3g = 相當ス。

(4 號) 0.6 = 0.4g = 相當ス。

(5 號) 0.75 = 0.5g = 相當ス。

(6 號) 0.9 = 0.6g = 相當ス。

普通ハ平均一回量トシテ……

男子ニハ……0.45—0.6 g

女子ニハ……0.3—0.45 g

小兒ニハ……0.15—0.3 g
 幼兒ニハ……0.03—0.075 g
 ヲ用フ。男子0.6, 女子0.45 g以上ハ只特別ノ場合ニ除外例トシテ用フ可キノミ。注射ハ1週間ノ間隔ヲ以テ反復ス。或ハ第1回ニハ0.15—0.3 gヲ注射シ置キ, 第2回(更ニ慎重ナル場合ニハ第3回)ニ至ツテ普通量ヲ使用スレバ最モ可トス。又必要ニ應ジテハ豫メ少時水銀又ハ蒼鉛注射ヲ施シ置キテ後, 「ネオサルゾルサン」療法ニ移ルモ可ナリ。

Myosalvarsan 「ミオサルゾルサン」(Bayer)

【成分】 Dioxydiaminoarsenobenzol-Dimethansulfonsaures Natrium

【適應】 各期梅毒・遺傳梅毒・再歸熱・「フィラリア」病・「マラリア」・睡眠病・扁平紅色苔癬・鱗屑疹・淋巴肉芽腫。

【禁忌】 胸腺淋巴體質, バセドウ氏病, アチソン氏病, 高度ノ動脈硬化症。

【用量】 主ニ皮下又筋肉内注射トス。0.4%食鹽水又10%葡萄糖液中ニ溶解シテ用フルコトハ「ネオサルゾルサン」ノ如シ。0.02, 0.05, 0.075(小兒用), 0.15, 0.35, 0.45及0.6 g(大人用)入アリ。

1) 「アムブレ」内ニテ10%溶液ヲ製シテ皮下注射トス。之ニハ10%液調製ニ便ナラシムル爲各號ニ相當スル溶解液添付サル。

2) 1週1—2回ノ割トス。大人

ハ先ヅ0.3 gヨリ始メ漸次増量0.4—0.6 gニ至リ, 全量5—6 gニ至レバ一巡トス。適宜ニ二巡又三巡ヲナス。

3) 乳兒ハ0.01—0.015 gヨリ, 小兒ハ0.05—0.1 gヨリ始メ漸次増量。

4) 注射部位ハ臀部皮下ヲ可トス。止ムヲ得ザレバ大腿内面又肩胛間部皮下トナス。

5) 1箇所ノ注射ハ0.3 gマデトシ, 常ニ使用量ヲ2箇所ニ分ス。

6) 注射後ハ局所ノ「マッサージ」ヲ行ヒ疼痛ヲ輕減シ, 吸収ヲ助ク。

【注意】 1) 溶解液ハ黄色澄明ヲ呈ス。濃褐色又黄褐色ハ使用不能ナリ。

2) 注射後發熱, 不快感ヲ伴ヒタル時ハ次回ノ注射ヲ1週間以上隔ツベシ。

Sulfoxyl-Salvarsan 「ズルフオキシールサルゾルサン」(Bayer)

【成分】 p-Arseno-phenyldimethylaminopyrazolon-Sulfoxylatノ5%殺菌セル安定溶液。

【用量】 8—10—12 ccヲ毎2—3週間ニ靜脈内。

類似品

Acetylarsan 「アセチラルサン」(ロオン社, 南信堂)

【成分】 「ヂエチールアミノ・オキシアセチール・アミノフェニール・アルジナート」ノ水溶液。

【用量】 1—3 cc宛3日毎ニ臀筋内。

Himarsen 「ヒマーセン」(Comet)

(黒田) → Neosalvarsan

Myo-Arsemin 「ミオ・アーセミン」(第一製藥)

【成分】 「チオキシ・アミノ・アルゼノベンツオール・ヂメタンズルフォン」酸「ナトリウム」。砒素約24.2%ヲ有ス。

【適應及用量】 → Myo-salvarsan

Natro-Aktivarsan 「ナトロ・アクチバルサン」(日本曹達) 局方「アルゼノ・ベンゾールナトリウム」ニ相當ス。

Neovalmid 「ネオアルバミード」(武蔵野)

【成分】 「ネオアルゼノベンゾール」ニ一致ス。→ Neosalvarsan

Neo-Arsaminol 「ネオアルサミノール」(三共)

局方「ネオアルゼノベンツオール」ニ一致ス。→ Neosalvarsan

Neochramisol 「ネオエーラミゾール」(萬有) → Neosalvarsan

Neo-Neo-Arsemin 「ネオネオアーセミン」(第一製藥)

【成分】 「サルゾルサン・ナトリウム」ニ同ジ。

【適應及禁忌】 → Neosalvarsan

【用量】 1) 1回平均靜脈内。

男子(0.45—0.75 g), 女子(0.3—0.6 g), 小兒(0.15—0.3 g), 乳兒(0.015—0.06 g)。

2) 1—2週間目毎ニ注射ス。間隔期ニハ水銀劑, 蒼鉛劑ヲ用フルヲ可トス。

3) 幼兒注腸法

1年未滿(1號), 1—4年(2號), 4年以上(3號)ノ割ニテ1回量トナシ症狀ノ消退スルマデ約5

日目毎ニ行フ。何レモ0.4%食鹽水10—15 ccニ溶解シテ用フ。

【注意】 1) 本劑ハ空氣ニ觸レバ容易ニ酸化シ有毒物ヲ生ズ。

2) 結核・腎炎及ビ妊婦ニハ注意スベシ。眼疾患者ニハ微毒性ノモノト雖モ注意ス。

3) 虛弱, 衰弱又ハ心臟病者ニハ0.15—0.3 gマデ。

Neo-Saviol 「ネオサビオール」(日本新藥)

邦製「ネオサルゾルサン」。

→ Neosalvarsan

Neostibarsan 「ネオスチバルサン」(萬有)

【成分】 銀「アンチモン」鹽類「エラミゾール」及「ホルムアルデヒド・ズルフオ・オキシラート」。

【作用】 「ネオサルゾルサン」ニ準ジ得ルモ, 砒素以外ニ銀及「アンチモン」ヲモ含ム。

【適應及用量】 → Neosalvarsan

0.1, 0.2, 0.3, 0.4, 0.5, 及0.6 g入アリ。鼠蹊淋巴腺症(第四性病)・鼠咬症ニモ適應ス。

Neotanvarsan 「ネオ・タンゾルサン」(第一製藥)

【成分】 邦製「ネオ・サルゾルサン」。

Saviol-Natrium 「サビオールナトリウム」(日本新藥)

邦製「サルゾルサンナトリウム」。

→ Neoneo-Arsemin

Sulfochramisol 「ズルフオエーラミゾール」(萬有)

【成分】 「エーラミゾール」ニ「ホルムアルデヒドナトリウム」ト「バイサルファイド」ヲ作用セシ

ム。

【適應】 微毒諸症。

【用量】 「ネオエーラミゾール」ノ用量ヲ標準トシテ用量ヲ定メ、靜脈内注射ニハ「ネオエーラミゾール」ト同一ノ方法ニヨリテ用ヒ 筋肉内注射ニハ本劑ヲ容レタル「アンプル」内ニ1乃至

B. 水銀劑

比較的複雑ナル水銀ノ有機化合物ガ屢々用ヒラレル。各期微毒ニ單獨ニ又屢々「アルゼノベンゾール」劑 (Salvarsan 等) ト併用サレル。又近來又後者トノ同時混合注射モ行ハレル。

【適應】 此種ノ水銀劑ノ或ルモノハ驅微劑トシテヨリ利尿劑トシテ卓效ヲ示ス。急性腎炎以外ノ浮腫 (殊ニ心筋變性、肝硬變ニヨル浮腫等) ニ對シテ適應サレル。

【禁忌】 急性腎炎・腸「カタル」高熱・惡液質。

Aluessin 「アルエシン」(萬有)

【成分】 可溶性「オキシチアン」汞ニ「アコイン」ト硼酸ヲ配ス。

【用量】 毎日又ハ隔日1回 0.5—1.0 cc 宛ヲ臀筋内。又ハ肩胛筋内。「サルヅルサン」劑竝ニ沃度劑ト併用スルコトヲ得。

Eleclod-Mercury 水銀「エレクロイド」(國光—鹽野義)

【成分】 「コロイド」水銀。

【用量】 1—5 cc ヲ筋肉内。皮下筋肉専用ハ等量ノ食鹽水ト共ニ1—2 cc ヲ用フ。

Hygytol 「ヒギトール」(ラヂウム)

【成分】 「サリチル」酸水銀ヨリ誘導セル「カリウム」複鹽。

【用量】 1) 筋肉内用ハ隔日ニ1回(1.1 cc) ヲ左右交互ニ行フ。
2) 靜脈内用ノ1管(10 cc)ハ皮

2 cc ノ滅菌蒸溜水ヲ注入シテ溶解シ小注射針ニテ吸引注射ス。

Syntharsan 「シンタルサン」(シンテチカー—南信堂)

【成分】 「サルヅルサンナトリウム」ニ同ジ。適應、用量ハ「ネオサルヅルサン」ニ準ズ。

下、筋肉用ノ10倍溶液。

Igrosin 「イグロシン」(武田)

【成分】 「サリチル」酸「アリールアミド」醋酸「ソーダ」ノ水銀化合物體10%溶液ニ「1.3チメルキサンチン」ノ3%溶液ヨリナル。

【作用】 利尿、驅微。

【用量】 0.5cc—1.0 cc ヲ2日ノ間隔ヲ置キ筋肉内又ハ靜脈内。必要アラバ強心劑ヲ併用ス。

Imamicol 「イマミコール」(三共)

【成分】 「ズルフォサリチル」酸汞「ナトリウム」ノ10%水溶液水銀ヲ約2.75%含ム。

【用量】 1) 筋肉内注射：—1回0.5—1.0 cc。

2) 靜脈内注射：—1回0.5—5cc

Luehinon 「ルエヒノン」(日本藥品)

(Bayer)

【成分】 Oxymercuri-o-chlorophenoxylessigsäures Natrium ト Diaethylmalonylharnstoff トノ複鹽ノ10%溶液。

【適應】 微毒劑又利尿劑トシテ心臓性浮腫ニ特ニ用ヒラル。

【用量】 1) 驅微劑トシテ筋肉内(臀筋)ニ隔日又ハ1週1—2回1回0.5—1.0—2.0 cc。或ハ靜脈内ニ用フル時ハ0.3ccヨリ始メ0.5—1.0ccニ漸次増量シ注射間隔ハ3—4日トス。

2) 「ネオサルヅルサン」トノ混合注射療法行ハル。「ネオサルヅルサン」ヲ約5ccノ蒸溜水ニ溶解シ之ヲ注射器内ニ吸引シ置キ、更ニ「アンプル」内ノ「ノヴァズロール」0.15—1.5 ccヲ吸引シヨク混和シテ靜脈内。

3) 利尿劑トシテ1回0.5 ccヨリ始メ漸次増量1.0 ccニ至ル。水銀中毒ヲ避クルタメ0.75 ccヨリ開始シ1.5 cc以上ヲ用ヒズ。利尿劑トシテハ腎炎ニ用ヒズ。

Salyrgan 「ザリルガン」(Bayer)

【成分】 Salicylallylamid-o-essigsäures Natrium ノ水銀複合劑。1筒(1.2 cc)中ニ10%ノ割合ニ含有セシム。

【適應】 驅微劑トシテ用ヒ、利尿劑トシテ浮腫ニ用フ。

【用量】 1) 靜脈内又ハ臀筋内トス。成人ニ1回0.5—2.0 cc。單ナル水銀療法ニハ初メ0.5—1.0 ccヲ用ヒ、2—3日間ノ間隔ヲオキテ反復注射、總計1—2ccヲ5—7—9回。

【成分】 水銀「アセタート」、「パラオキシグリセリール」、「オルト・エーテル」、「ベンツオール・オキシ」醋酸「ナトリウム」及「バルビタール」複鹽ノ水溶液。水銀31.27%ヲ含ム。

【用量】 1) 1回1筒(1.0 cc)ヲ2—3日ノ間隔ヲ置キ皮下又ハ筋肉内、靜脈内。
2) 腹水ニハ直接腹腔内。

Luemicol 「ルエミコール」(日新醫學)

【成分】 「ズルフォサリチル」酸醋酸「メルクリカリウム」ト「ヅクチンイミド」水銀 Succinimidquecksilber ノ複合鹽。

【用量】 1) 皮下又筋肉内ニハ皮下筋肉内用ヲ1 cc。

2) 靜脈内ニハ靜脈内用ヲ3cc。

Luestin (Comet) 「ルエスチン」

(黒田)

【成分】 「オキシシアン」水銀ヲ0.01 g 含ム注射溶液、1管ハ筋肉内用1 cc、靜脈内用5 cc。

【用量】 通常筋肉内ハ1.0 ccヨリ、靜脈内ハ5 ccヨリ初ム。毎日又隔日ニ行フ。

Neo-Imamicol 「ネオイマミコール」(三共)

【成分】 「ズルホサリチル」酸汞「マグネシウム」ヲ主トス。水銀約0.8%ヲ含ム。

【用量】 皮下、筋肉内注射ハ1回1 cc、靜脈内注射ハ2—4 cc 宛1週1回、40—60 cc ヲ1「クール」トス。

Nelkegan 「ネルケガン」Novasurolニ準ズ。

Novasurol 「ノヴァズロール」

2) 「ネオサルバルサン」トノ併用ニハ先ヅ所要ノ「ネオサルバルサン」ヲ3—5 cc 水ニ溶解シテ注射器ニ引シ「ザリルガンアンブレ」ノ口ヲ開キ内容1—2 cc ヲ同ジ針ニテ吸引シヨク混和ス。

Spirosin 「スピロジン」(鹽野義)

C. 蒼鉛劑

多クハ蒼鉛ノ油性乳劑デアル。從ツテ筋肉内注射ニヨル。各期微毒珠ニ神經微毒ニ好ンデ用ヒラル。驅微療法ニハ屢々「アルゼノベンゾール」劑(Salvarsan)ト併用サル。

微毒以外ノ「スピロヘータ」症, 「マラリア」, 「フランベシア」等ニモ適應サル。

Biscorogen 「ビスコロゲン」(日新醫學)

【成分】 Halboxybismuth ノ「コロイド」性溶液。2 cc 中ニ蒼鉛 0.13 g ヲ含ム。

【用量】 毎日又隔日ニ1回 2.0 cc 宛筋肉内。1「クール」ハ 25 回。

Bismogenol 「ビスモゲノール」(第一製藥)

【成分】 「オキシ」安息香酸ト金屬蒼鉛輕質化合物トヨリナル。1 cc 中金屬蒼鉛 0.06 g ヲ含ム。

【用量】 毎3—5日ニ1 cc ヲグロツス氏三角ニ注射ス。

Bismutin 「ビスムチン」(昭和)

【成分】 水溶性蒼鉛劑

Bistolán 「ビストラン」(萬有)

【成分】 酒石酸蒼鉛「カリウムナトリウム」ヲ山茶油ニ浮游セシム。本乳劑 1 cc 中ニハ 0.1 ノ「ビストラン」ヲ含ム。

【成分】 「オキシメルクリオルトクロールフェノキシル」醋酸「ソーダ」ト「ヂフェニールバルビツール」酸ノ複鹽, 10% 水溶液。

【用量】 毎週 1—2 回 0.5—1 cc 宛筋肉内。又ハ毎 3—4 日, 0.3—1 cc 宛靜脈内。

【用量】 2—3 日ノ間隔ヲ置キ 1.5—2.0 cc ヲ連續注射ス。全量 30.0 cc ニ至レバ 1「クール」トス。後 2—3 週ヲ隔テ再ビ續行。5 年以下ハ 1/2 cc, 5—10 年ハ 3/4 cc, 10 年以上ハ 1 cc。

Casbis 「カスピス」(Bayer)

【成分】 蒼鉛ノ「オキシヒドラー」ト。1 cc ハ蒼鉛 0.1 g ヲ含有。

【用量】 大人 1 回 1 cc 腎筋内。12—15 回ヲ 1「クール」トス。小兒ハ 0.1 cc, 15—20 回ヲ 1「クール」。

Eleclloid-Bismutum 蒼鉛「エレクロイド」(國光)

【成分】 蒼鉛ノ「コロイド」狀水溶液。

【用量】 1 回 1—5 cc ヲ皮下又筋肉内。靜脈内用アリ。

Giflon 「ギフロン」(第一製藥)

【成分】 「コロイド」狀水酸化蒼

鉛ト酒石酸「カリ」蒼鉛。1 cc 中金屬蒼鉛 0.1 g ヲ含ム。

【用量】 2—5 日目毎ニ 1.0—2.0 cc ヲグロツス氏三角部。

Mesuroil 「メスロール」(Bayer)

【成分】 Dioxibenzoësäure-monomethyläther ノ鹽基性蒼鉛鹽 10% ヲ含ム油性乳劑。

【用量】 1) 大人ハ 0.5—1.0 cc (0.05b—0.11 g ノ蒼鉛ヲ含ム)

ヲ 3—4 日毎ニ筋肉内。1「クール」ハ蒼鉛全量 0.9—1.2 g トス。

2) 「ネオサルバルサン」併用ノ際ニハソノ使用 1 週 1 回ニ對シ, ソノ間 1 週 1—2 回本劑ヲ注射ス。

Milaneuen 「ミラノイエン」(吉萬)

【成分】 「トリクロール・プチールマロン」酸蒼鉛「エムルヂオン」。

【適應】 1 回 2 cc ヲ隔日ニグロツス氏三角ニ注射ス。皮下ニ注射シ得。1「クール」ハ 20—30 回トシテソノ間「サルバルサン」ノ併用(約 10 回)ヲ可トス。

Neobistlan 「ネオビストラン」(萬有)

【成分】 微粉狀水酸化蒼鉛 5% ノ「エムルヂオン」。

Neo-Olesal 「ネオオレザール」

(Bayer)

【成分】 「ヂメチール・エンドメチーレン, ヘキサヒドロ」安息

香酸蒼鉛。30% ノ蒼鉛ヲ含ム。1 管ハ 10% 油性溶液ヲ含ム。

【用量】 1 週 3—3 回 2 cc 宛腎筋内。1「クール」ハ 25—30 cc (12—15 回) トス。虛弱ナル者ニハ注射間隔ヲ長クシ, 幼童ニハ年齢ニ應ジ 0.05 ヨリ 0.2 cc ニ漸次増量 10—15 回。

Oleo-Bi 「オレオビー」(Roche)

【成分】 乳酸蒼鉛ノ「オレフ」油乳劑。

【用量】 1 週 3—3 回宛 2 cc 筋肉内。

Sanbis 「サンビス」(三共)

【成分】 酒石酸蒼鉛「カリ・ソーダ」ヲ脂肪油中ニ浮游セシメシモノ, 1 cc 中 0.05 ノ蒼鉛ヲ含有ス。

Syphrose 「ジフロゼ」(鹽野義)

【成分】 「ピロ」粘液酸蒼鉛。

【用量】 1 回 2 cc ヲ隔日ニ筋肉内, 10—20 回ヲ 1「クール」トス。

Thiobis 「チオビス」(田邊)

【成分】 「チオグリコール」酸「ナトリウム・ビスムート」Bi (SC H₂COONa)₃ ノ水溶性蒼鉛劑

Tribismin 「トリビスミン」(ラヂウム)

【成分】 蒼鉛鹽化物ノ油性懸游液。1 cc 中蒼鉛 0.12 ヲ含ム。

D. 「ヨード」劑

驅微ノ目的ニハ連續持長スル場合ガ多イカラ經口の投與ガ主トシテ用ヒラル。

補血強壯劑中「ヨード」劑參照。

39. 結核劑 sognante Tuberkuloseheilmittel

Antiphthisica

(注意:一強壯劑, 解熱劑, 鎮痛鎮靜劑, 消炎劑, 止血劑, 「ビタミン」劑, 強心利尿劑等參照)

銅製劑ハ既ニ其聲價流行ガ衰ヘ, 金製劑又同様ノ徑路ヲ辿ラントシテ居ル。「リポイド」・蛋白ノ結核菌被膜ヲ溶解シテ菌體ヲ撲滅セントスル化學的療法モ試験期ニアリ, 結核菌ニ對スル細菌・免疫學的ノ療法(ワクチン療法參照)モ亦未ダ特異ノ奏功ヲ期待セシメナイ。

臟器製劑, 肺臟製劑ノ條參照。

1. 金製劑 Goldpräparate

金製劑ハ各種病原體ニ對シ破壊的作用ヲ有スト共ニ體內ノ免疫物質生成ヲ大ナラシムト云ハル(内皮細胞系, 組織球細胞等ニ作用シテ)。

結核ニ試ミラレル他, 微毒殊ニ初期硬結・癩・第四性病(鼠蹊淋巴腺肉芽腫症)・慢性皮膚病・多發性硬化症等ニモ應用サレテ居ル。

【注意】高熱, 過敏, 重症ニハ用量ヲ減ジ間隔ヲ大トス。反應熱甚シキカ又ハ久シク解熱セザル時ハ2—4週間治療ヲ中止シ然ル後同量又ハ更ニ小量ヲ以シテ治療ヲ始ム。

Cryotan 「クリソタン」(萬有)

【成分】「サノクリジン」(メルカ—ド氏)ニ同ジ。

【用量】0.025, 0.05, 0.075, 0.1, 0.125ヲ夫々1.0, 1.5, 2.0 25 ccノ蒸溜水ニ溶解シテ靜脈内。

Gurgol 「グルゴール」(武田)

【成分】Auro-thiophenolmeta-carbonsaures Natrium, 金含

有53%。

【用量】3—7日ノ間隔ヲ置キテ1回0.5—1.5ccヲ漸増シテ靜脈内, 總量0.45ヲ1「クール」トス。

Krysolgan 「クリゾールガン」

(Höchst) (田邊)

【成分】4-Amino-2-Auro-phenol-1-karbon-säureノ「ナトリウム」鹽, 金含有50%。

【用量】1號ヨリ8號迄ヲ隔日又毎3日ニ靜脈内。

Lopion 「ロピオン」(Bayer)

【成分】Auroallythioharnstoffbenzoesaures Natrium, 金含有40%。

【用量】「アムプレ」内ノ乾燥末ヲ用時溜水5—20ccニ溶解シ靜脈内。0.01, 0.025, 0.05, 0.1, 0.25, 0.5, 0.75入アリ。

Sanocrysin 「サノクリジン」

【成分】Au (S₂O₃)₂Na₃ Gold-Natrium thiosulfat。

Solganal 「ゾルガナール」(Schering—田邊)

【成分】4-sulfomethylamino-2-Auomerktobenzol-SulfosäureノDinatriumsalz, 金含有36.5%。

【用量】1號ヨリ6號マデヲ1週2回ノ割ニ靜脈内。

Solganal B oleosum 油狀「ソルガナール」(Schering)

【性分】水溶性ノ「ソルガナール」Bヲ油中ニ浮遊セシメテ筋肉内注射後其ノ作用ヲ持續セシム。

【用法及用量】第1號—第4號。1週3回全量4—6g筋肉内。

Triphal 「トリファール」(Höchst-Bayer)

【成分】Auro-thiobenzimidazolcarbonsaures Natrium 鮮黄色, 水溶性粉末, 約44%ノ金ヲ含ム。

【用量】通常0.01—0.05gヨリ始メ1週間以上間隔ヲ置キ漸次増量0.2gニ至ル。時ニハ0.001—0.005gヨリ始ム。使用時所要量0.5—2.0cc滅菌蒸溜水ニ溶解, 徐々ニ靜脈内注射。

2. 「リポイド」ヲ含ムモノ

Gamelan 「ガメラン」(ハウスマン—三共)

【成分】蠟, 脂肪及「リポイド」→Gamejodin

【適應】→Gamejodin

【用量】1週ニ2回5cc宛就床前皮下。

Gamejodin 「ガメヨジン」(福井)

【成分】「ヨードホルム」5%, 「レチチン」, 蠟, 脂肪油。

【作用】「リパーゼ」増加, 結核菌ノ脂肪體蠟様物質溶解。

【適應】結核。

【用量】0.1ヨリ初メテ皮下。2—3ccニ至ル。

Kanelon 「カネロン」

【成分】動物ノ膽汁中ノ「リポイド」及蛋白體ト遊離脂肪酸ヲ含有スル脂肪體及「ビタミン」A, D, 及E。

【作用】臟器組織細胞, 就中網狀織内皮細胞系賦活, 免疫解毒物質產生。

【適應】結核・肋膜炎・腹膜炎・痔瘻・虛弱體質。

【用量】1週ニ1回皮下, 6回ニテ1「クール」トス。症狀ニヨリ第1回0.5—1.0cc漸次増量ス。

Opsolen 「オプソレン」(東京藥品—鳥居)

【成分】蜂蜜蟻 *Galleria mellonella* L.ノ幼蟲及蠟蟻 *Achroia grisella* Fab.ノ幼蟲ニ於ケル體液及消化管ヨリ抗結核性物質ヲ抽出シ2%「グリセリン」ニ分散セシム。

【作用】結核病竈ノ組織球細胞ノ活動ヲ促シ, 淋巴細胞及結締組織ヲ増殖ス。滲出物中和, 排泄及ビ吸收促進等ノ作用アリ。

【適應】末期結核患者以外ノ諸種結核。

【用量】大人1回0.25—1.0ccヲ皮下。

Pectol →解熱劑

Pleuinin →消炎劑

Sanoidin 「サノイジン」(三共)

【成分】特殊「リポイド」ヲ主體

トスル「エムルジオン」製劑。
【作用】 結核刺戟療法 1cc 宛。

3. 其他ノ結核劑

- Asputin** 「アスプチン」(三共)
【成分】 蔗糖 20% 溶液ニ「クレオソート」3%ヲ配ス。
【適應】 肺結核 其他 氣道粘膜炎。
【用量】 毎2—3日ニ20ccヲ靜脈内。又ハ5—10ccヲ毎日又隔日ニ筋肉内。
- Brenzchin** 「ブレンツヒン」(大東化學)
【成分】 「グアヤコール」1.5%ニ「ヨード」, 「キニーネ」, 「サリチル」酸「カルシウム」ヲ配ス。
【作用】 消炎, 吸收, 盜汗及咯痰ノ抑制, 解熱。
【適應】 肺結核・肋膜炎・肺炎・腹膜炎・各種關節疾患。
【用量】 1管(20cc)ヲ毎日1回又隔日ニ1回靜脈内。
- Enocal** 「エノカール」(東京新藥)
【成分】 第3磷酸「カルシウム」ノ「コロイド」狀水溶液。
【作用】 肺ノ毛細管ニテ膠質性磷酸「カルシウムコロイド」ヲ發生ス。排泄ハ遅シ。
【適應】 結核・肋膜炎・蕁麻疹・膀胱炎・附屬器炎等。
【用量】 毎日20—40ccヲ靜脈内。皮下注射可能。
- Kakodylin** 「カコヂリン」(三共)
【成分】 「カコヂール」酸「カルシウム」ヲ主トシ47.7%ノ砒素ヲ含ム。

【適應】 結核・肋膜炎・腺病質等。
【用量】 隔日ニ1%ヨリ初メテ皮下注射。次第ニ2, 3, 4, 5%溶液ヲ用フ。

Neophthisol 「ネオフチゾール」(日本藥品)
【成分】 「グアヤコール, ズルフォン」酸「ソーダ, カルシウム」, 「カルシウム」10%ヲ含ム。
【作用】 食慾亢進, 呼吸鎮靜。
【適應】 氣管支炎・喘息・肋膜炎・肺炎・肺結核。
【用量】 毎日又隔日ニ1管(3cc)ヲ皮下又ハ靜脈内。

Nojodin 「ノヨジン」(帝國製藥)
【成分】 膽汁ノ有效成分ニ結核菌ニ親和カヲ有スル「フクシン」「ヨード」等ノ化合物ヲ配ス。
【用量】 毎日或ハ隔日, 2cc皮下

Solution-Sodium Cacodylate
「カコヂル」酸「ソーダ」注射溶液(三共)
【成分】 5—20%ノ「カコヂル」酸「ソーダ」溶液。
【適應】 結核・神經衰弱等。
【用量】 毎日又毎2—3日ニ1cc宛(0.05—0.2g含有)皮下。

Taurin 「タウリン」(旭—鹽野義)
【成分】 牛膽汁成分「アミノエチールスルフォン」酸 $\text{NH}_2\text{-C}_2\text{H}_4\text{SO}_3\text{H}$
【用量】 5—10cc 靜脈内或ハ皮下

Thymophogen 「チモフォーゲン」(三星—鳥居)
【成分】 4「トロールチモール」4 Chlortymolヲ磷酸「エステル」鹽ニ化合セシメシモノ。
【作用】 結核病竈ニ於テ分解サ

レ殺菌力アル4「クロールチモール」ヲ分解, 游離ス。「リポイド」膜ヲ透過スル能ヲ有ス。
【用量】 Nr. 0→Nr. 8ト遞増的ニ注射。

Thymulsion 「チムルシオン」(Heiden—三共)
【成分】 1%「チモール」油製乳劑。
【適應】 癩・結核。
【用量】 0.2—0.8 宛靜脈内。

Yanol 「ヤノール」(三共)
【成分】 肝油 其他ノ動物性脂肪及「リポイド」, 「ビタミン」A, Dニ富ム。
【適應】 結核諸症・神經衰弱・傳染病恢復期・榮養狀態衰弱時・「ビタミン」A, Dノ缺乏・小兒消化不良。
【用量】 1回2—5—10—20cc以上200cc迄ヲ靜脈内。又2—40ccヲ筋肉内注射トス。注腸ハ300cc迄。

Yatoconin 「ヤトコニン」(三田)
【成分】 Fruktose-monophosphorsaures Calcium。
【作用】 病竈ヘノ石灰沈着ヲ計ル。
【用量】 隔日1回0.25gヲ3—5ccノ滅菌水ニ溶解シ皮下。

4. 結核ニ對シ屢々併用サルル製劑

Adiphorin →制汗劑
Allestin →消炎劑
Arsoval →強壯劑
Arsozon →強壯劑
Asudorin →制汗劑

Broscose →鎮痙鎮靜劑
Brodexin →鎮痙鎮靜劑
Brom-Calcicol →鎮痙鎮靜劑
Brom-Calcium Lösung →鎮痙鎮靜劑
Calcicol →強心利尿劑
Calglin →消炎劑
Calkose →消炎劑
Chinidlin →解熱劑
Chlodexin →消炎劑
Heilmin →臟器製劑
【成分】 肺臟「エキス」劑。
Indorammin →解熱劑
Jodeol →強壯劑
Lumihorn →臟器製劑
Melubrin →解熱劑
Milzsin →臟器製劑
Moxol →變調劑
Neo-Campeton →解熱劑
Neo-Joshisalin →消炎劑
Novalgin →解熱劑
Ogimol →消炎劑
Onimsin →消炎劑
Producmin →臟器製劑(肝臟)
Solarson →強壯劑
Solutio Calcii Jodati Sterilisata →強壯劑
Solutio calcii chlorati pro Inject. →消炎劑
Solutio calcii salicylici pro Inject. →消炎劑
Solutio glucosi calcii pro

Injectione 消炎劑
Spinacin → 食慾亢進劑
Splenogen → 臟器製劑
Tacamol → 消炎劑

Thiosalcol → 解熱劑
Tonophosphan → 強壯劑
Zygokin → 解熱劑

40. 強壯劑 Roborantia

(貧血治療劑 Antianaemica ヲ含ム)

(注意: 一結核劑, 「ビタミン」劑, 變調劑参照)

1. 「ヨード」劑

【適應】「ヨード」適應症・即チ第III期梅毒ト其ノ隨伴症狀・腦溢血・關節疾患・動脈硬化症・腺病・甲狀腺腫・滲出性體質・氣管支喘息・慢性氣管支炎・狹心症・肝硬變症・白內障。

Alival「アリヴァール」(Höchst, Bayer)

【成分】Jodihydroxypropan「ヨード」ノ63%ヨリナル有機性「ヨード」劑。

【用量】1ccヲ筋肉内又ハ靜脈内。毎日連用。次第ニ注射回数ヲ減ジ1週1—2回ニ至ル。

Endojodin「エンドヨヂン」(Bayer)

【成分】Hexamethyldiaminoisopropanoldijodidノ20%水溶液。

【用量】1—2ccヲ皮下, 筋肉内又ハ靜脈内。

Jodéol「ヨデオール」(Viel) (丸善)

【成分】「コロイドヨード」溶液。

【用量】1) 急性疾患ニハ1—3筒ヲ1度ニカ又ハ10時間ヲ隔テ2回ニ筋肉内。解熱ト共ニ次第ニ減量ス。

2) 肺結核ハ隔日又ハ毎3日ニ1—2筒ヲ注射3週間連續シ8—10日間休止シ, 更ニ前回ト同様反復ス。病變進行性ナル時ハ1週間連用。1日1筒宛注射ス。

3) 喘息, 氣管支炎等ニハ3週間隔日又ハ毎3日ニ1回1筒ヲ注射シ1週間休止後再ビ繼續。喘息ハ發作期間中毎日行フ。

Jodiloid「ヨヂロイド」(ラチウム)

【成分】「ヨード」ノ「コロイド」溶液(0.2%)

【用量】1回1管(3cc)ヲ靜脈内又ハ筋肉内。

Jodisan「ヨヂサン」(Bayer)

【成分】Hexamethyl-diaminoisopropanol-di-jodidノ20%水溶液, 59%「ヨード」ヲ含ム。市販1cc中ニハ0.118gノ「ヨード」ヲ含ム。改稱名「エンドヨヂン」

【用量】1日1—2ccヲ皮下。筋肉内或ハ靜脈内。1管2.2cc入。

Solutio Calcii Jodati sterilisata

「ヨードカルシウム」液

【成分】「ヨードカルシウム」1%, 2%, 3%, 5%, ヲ含ム, 數社ヨ

リ市販サル。

【適應】變質劑トシテ結核性疾患・喘息・氣管支諸症・丹毒・蕁麻疹・皮膚疾患。

【用量】皮下又ハ靜脈内ニ1%, 2—3ccヨリ始メ次第ニ増量。隔日又ハ2—3日ニ1回トス。

2. 砒素劑ヲ主トスルモノ

【適應】貧血・萎黃病・「ロイコゼ」・衰弱狀態・初期結核・パセドウ氏病・佝僂病・骨硬化症・神經衰弱・血管運動神經症・偏頭痛・癲癇・舞蹈病・坐骨神經痛・脊髄癆・淋巴腺腫・癌腫性潰瘍・神經損傷・慢性皮膚病(紅色苔癬・鱗屑疹・濕疹・等)

Antienuresin「アンチエヌレシン」(鹽野義)

【成分】「アルゼン」, 「アンチピリン」合成物ニ「アコイン」ヲ配ス。

【適應】夜尿症・神經衰弱・尿崩症。

【用量】毎日1cc宛皮下, 筋肉内。

Arsimon「アルジモン」(林)

Arsoval ニ一致ス。

Arsoval「アルソバール」(武田)

【成分】1.0cc中ニ「メチルアルジン」酸「ソーダ」5%, 「グリセロ」磷酸「ソーダ」10%ヲ含ム。砒素0.9136gヲ含ム。

【用量】1) 1回3ccヲ隔日又ハ1週2回皮下。必要アラバ毎日2) 靜脈内ニハ1回1ccヲ用ヒ漸次増量ス。

3) 10—12回注射ヲ1「クール」

トス。持續注射ヲ行フニハ約10—15日間ノ休止ヲ置クベシ。

Arsozon「アルソゾン」(武田)

【成分】「メチルアルジン」酸「ソーダ」ノ5%滅菌水溶液。砒素有量0.0136g

【用量】「アルソバール」ニ準ズ。

Arsylen「アルシレン」(Roche)

【成分】「アンプレ」内容液ハ5%ノAllylarsin酸「ナトリウム」液。1ccハ0.05ノArsylenヲ含ミ, 0.0225ノ砒素, 0.03ノ亞砒酸ニ相當ス。

【適應】砒素療法ニ適スル疾患。

【用量】注射療法ハ0.5ccヨリ始メ漸増4ccニ至ル。

Optarson「オプタルソン」(Bayer)

【成分】1筒(1cc)中ニハ「ヘプチンクロールアルジン」酸「アンモニウム」0.01g, 硝酸「ストリキニーネ」1mgヲ含ム。

【適應】神經衰弱・重症疾患恢復期・神經性心臟障碍・肺炎及膿毒症後ノ重症衰弱狀態・パセドウ氏病。

【用量】隔日1.0cc宛皮下。敏感ナル者ニハ1週2回トス。

Solagen「ソラゲーン」(オエストライヘル—三共)

【成分】亞砒酸「ナトリウム」0.01gヲ含ム中性溶液。

【適應】貧血・萎黃病・結核等。

【用量】1週2—3回1cc宛筋肉内

Solarson「ソラルソン」(Bayer)

【成分】Heptinchlorarsinsäureノ「アンモニウム」鹽。1cc中ニ10mgノ純「ソラルソン」, 3mgノ砒素ニ相當スル量ヲ含ム。

【用量】 1cc 宛隔日 = 皮下又 靜脈内。10—12 回ヲ以テ完了ス。必要アラバ 10 日間ノ間歇ヲ置キテ再ビ開始ス。

3. 「カコヂル」酸製劑

Cacodylin 「カコヂリン」(佛スウデスト)

【成分】 Cacodylate-Sodium ト非毒性血清。

【適應】 結核 → Kakodylin

【用量】 毎日又隔日 = 1—3 cc 腎筋肉。1「クール」ハ10回。

Kakodylin → 結核劑

Solution-Sodium Cacodylate

→ 結核劑

4. 「ストリキニーネ」ヲ含有スルモノ

Juvenin → 性的興奮劑

【成分】 methylarsinsaures Yohimbin ト methylarsinsaures Strychinin

【用量】 隔日 1cc 皮下, 10 回ニテ 1「クール」。

Macrobin → 性的興奮劑

【成分】 1cc 中, Natrium-methylarsinat 0.008, Strychininnitrat 0.0003, Yohimbin-hydrochlorid 0.04 ヲ含ム。

【用量】 1cc 宛隔日皮下。12回ヲ 1「クール」トス。

Neuropin 「ノイロピン」(日新醫藥)

【成分】 「ストリキニーネ」, 有機性磷鹽, 砒素劑「プロム」鹽, 「ベロナール」ヲ含ム。

【適應】 神經性諸疾患。

【用量】 1日1回 10cc ヲ靜脈内。

5. 磷ヲ含有スル製劑

Neusal 「ノイザール」(アルゼールトミイ)

【成分】 磷化合物ヲ主トシ, 數種ノ「ハロゲン」鹽類ヲ配ス。

【作用】 消炎, 吸收, 鎮靜,

【適應】 神經衰弱・動脈硬化・腦出血。

【用量】 1) 通常大人 1 回 20 cc ヲ毎日又ハ隔日 = 靜脈内。必要アレバ 40—60 cc ヲ用フ。

2) 皮下又ハ筋肉内。

Ossophyt 「オツソフィット」(Börlinger—三共)

【成分】 「グリココール」ト二磷酸「ナトリウム」トノ複酸(4%)

【作用】 骨折 近傍ニ注射スレバ 化骨作用ヲ促進ス。

【適應】 骨折。

【用量】 骨折部位 = 4cc ヲリ始め 6—10 cc トナス。

Tonophosphan 「トノフォスファン」(Casella)

【成分】 dialkylaminoarylphosphinige Säure ノ「ナトリウム」鹽。磷含有量約 11%。

【適應】 骨系統障礙(佝僂病・骨軟化症・骨折) 貧血・結核・パセドウ氏病・神經症・虛弱・糖尿病・喘息。

【用量】 小兒ニハ 1 日 1 回 0.005 g (1 筒) ヲ毎日皮下。20 日間用フ。其後ハ 2—3 日目 = 1 回宛 2 回連用。大人ハ 0.01g 入「アムプレ」ヲ用ヒ, 小兒ト同様ニ行

フ。

Trental 「トレンタール」(Bayer)

【成分】 有機性磷化合物

【用量】 1cc 皮下

6. 其他ノ強壯劑

Kalibron 「カリブロン」(三共)

【成分】 「プロムカリ」1%, 「プロムカルシウム」1%, 「ヨードカルシウム」0.3%, 硝酸「ストリキニーネ」0.002%。

【適應】 神經衰弱・神經痛・「ヒステリー」・躁狂・子癇。其他鎮靜・鎮吐・利尿・消炎。

【用量】 1 回 2—5 cc ヲ隔日又ハ 毎日靜脈内。

Nagravon (Bayer) → 臟器製劑

41. 治癩劑 Lepra-heilmittel

(結核治療劑中金製劑參照)

Antileprol 「アンチレプロール」

(Bayer)

【成分】 大楓子油ヨリノ誘導體。脂肪酸「エステル」數種ヲ含ム。

【用量】 1 回 1—2 g ヲ皮下。筋肉内。

Eklumo 「エクルモ」(大阪三藥)

【成分】 大楓子油ノ主成分 = 家蠶油ノ主成分 (Aciao Krizalida) ノ混合「エチルエステル」ニ「ヨードベンツオール」ト砒素ヲ配ス。

【用量】 毎 3 日又 1 週 2 回 2—3cc 宛腎筋内。

Hydnol 「ヒドノール」(大日本製藥)

【成分】 肝臟「エキス」

Natrium nucleicum 「ヌクレイン」酸「ソーダ」(Börlinger)

【成分】 「ヌクレイン」酸「ソーダ」0.2, 「グリセリン」3.0, 滅菌水 7.0 ヲリナル。

【適應】 神經衰弱・性慾障礙。

【用量】 1 回 0.5—1.0 cc ヲ隔日又ハ 毎日皮下。麻痺狂ニハ 5—10 cc 宛, 5 日目毎ニ用フ。

【注意】 局所反應(疼痛・腫脹・發赤・熱感等)・惡心・嘔吐・頭痛等ヲ呈スルコトアリ。

Spinacin → 食慾亢進劑

【成分】 植物性「エキス」

Yanol → 結核劑

【成分】 非經口的ノ脂肪體注入劑。

【成分】 大楓子油ノ有效成分タル「ヒドノカルプス」酸「エチルエステル」, 「ヨード」化合物。

【用量】 筋肉内(臀部, 大腿部)。始め 1 ヶ月間ハ 毎週 1 回 1 cc 宛ヲ, 1 ヶ月ヲ經ル毎ニ 1 cc 増量シ 3 cc ニ至ル。

Hydonocarin 「ヒドノカリン」(日本新藥)

【成分】 大楓子油ノ總脂肪酸「エチルエステル」ノ油狀液。

【用量】 大人 1 週 2 回 0.5 cc 宛又ハ 1 週 1 回 1 cc 宛ヨリ始めテ 漸次 1 週 3—5 cc ニ増量。6—18 ヶ月持長ス。

Oleum Gynocardiae 大楓子油

【成分】「オレフ」油(又椿油)ト大楓子油等量宛ヨリナル。

【用量】 1.0—10.0cc ヲ1週1—2回腎筋内。

Thymulsion →結核劑

42. 造影用注射劑

Injektionskontrastmittel für Röntgendarstellungen

比較的無害ノ「ヨード」或ハ「ブロム」化合物ヲ靜脈内ニ注射シ、夫ガ肝臓・腎臓等ヨリ排泄サレテ胆汁・尿等ト混ジ其流出路ヲ「レ」線ニテ透射スル時ハ造影・對比ヲ明瞭ナラシメルモノデアル。

【適應】 診斷用ヲ主トスルモ、又治療用トシテ「ヨード」ノ適應ニモ副フ

i 腎盂(輸尿管以下ノ尿路ヲ含ム)描寫 Pyelographie

ii 膽囊(膽道)描寫 Cholecystographie

iii 脊椎管描寫 Myelographie

(氣管支描寫 Bronchographie 氣管ヨリ氣管支ヘト造影對比劑ヲ注入シテ描寫ヲナスモノ)

Abrodil 「アブロード」(Bayer)

【成分】 Monojod-methansulfosaures Natrium, 「ヨード」52%ヲ含ム。腎盂撮影ニ用フ。

【用量】 20%溶液 100—150 cc ヲ注射筒ニテ靜脈内注射。注射後5—15分ニシテ撮影ス。15—20分後ガ最モ可ナリ。

【注意】 1) 前處置トシテ浣腸ヲ行フ。液體攝取量ハ成ル可ク減ズ。

2) 逆行性腎盂撮影ニハ30%液20 cc ヲ輸尿管「カテーテル」ヲ用ヒ注入。又4000倍靑酸酸化汞溶液ニ溶解シ用フ。

3) 腎臓ノ排泄機能障礙ノ甚シキモノニハ禁忌。

Brom-Tetragnost 「ブロムテトラグノスト」(Merck Schmidt)

【成分】 Tetrabromphenolphthalein-Natrium

【適應及用量】 Jod-Tetragnostニ準ズ。

Jod-Tetragnost 「ヨードテトラグノスト」(Merck-Schering)
(Tetiothalein-Natrium 米國品)

【成分】 Tetrajodphenolphthalein-Natrium

【適應】 膽道・膽囊描寫。

【用法・用量】 靜脈内ニ注射スル場合、經口的ニ與フル場合、又靜脈内注射ト經口的投與ト併合スル場合ガアル。用量、用法ニ關シテハ諸種ノ法アリ。一例ヲ舉グレバJod-Tetragnost 1.5—2.0 g ヲ蒸溜水 20—30cc ニ溶カシ靜脈ニ注射シ、後約半量ノ本劑 Oral-Tetragnost ヲ經口

的ニ與ヘ、後8—18時間ノ間ニ撮影ス。

Lipiodol 「リビオドール」(Lafay)

【成分】 1 cc中0.51 g (40%)ノ純「ヨード」ヲ有機性化合物トシテ含有スル植物性油劑。無味、無臭、琥珀色、比重 1.35。

【適應】 氣管内(5—15 cc)及脊椎内(上行性 5cc, 下行性 5—20 cc)ニ注入シテX線對比劑トス(氣管支描寫法、脊椎管描寫法)。其他筋肉内、臟器ニモ注入サル。又肺壞疽等ニ治療ノ目的ニ病竈ニ注入サル。

Moljodol 「モルヨドール」(第一製藥)

【成分】 「ヨード」植物油

【性狀】 無臭、無味、琥珀色液。「ヨード」20%、40%ヲ含ム。脊椎管内注入用トシテ上行性、下行性ノ2種及油泡用5%アリ。

【作用】 造影劑「ヨード」ヲ分離シ「ヨード」療法ノ目的ヲ達成セシム。「ロイマチス」ニハ鎮靜的ニ作用ス。

【適應】 肺壞疽・肺結核・氣管支喘息ニ氣管支ニ注入ス。微毒「ロイマチス」・腺病・呼吸器病・神經痛・動脈硬化症等ニ筋肉内注射ス。造影劑トシテ肺・氣管枝・脊椎内腔・胃・尿管・膀胱・腔・子宮等ニ注入ス。

Pyelo-gnost 「ピレログノスト」

【成分】 「ヨードカリ」ト尿素ノ混合物。

【適應】 腎盂・尿路描寫。

Sugiuron 「スギウロン」(第一製藥)

【成分】 「ゲヨードメチルセリグム」酸「ソーダ」10 g ヲ5%葡萄

糖液 30cc ニ溶解ス。「ヨード」49%ヲ含ム。

【適應】 造影劑・腎臓・腎盂・輸尿管・膀胱・尿道ノ描寫。

【禁忌】 重症絲球體腎炎、尿毒症、重症心臟病。

【用量】 10歳以上ハ1管(30cc)、5—10歳ニハ其半量。5歳以下ハ半量又ハ1/6量ヲ用フ。注射ハ可及的徐々ニ行ヒ、豫メ體温ニ温メオキタル後靜脈内ニ注射スルヲ可トス。

【注意】 1) 腸管内容無キ方が可ナリ。前日ヨリ下劑等ヲ與ヘ或ハ洗腸ヲナス。

2) 第1回撮影ハ注射直後トシ輸尿管ヲ壓迫セズ。同時ニ造影劑ノ排泄開始ノ遅延ヲ測定シテ腎臓機能ヲ検査ス。

3) 第2回撮影ハ第1回撮影後輸尿管壓迫ヲナシ 10—20分ヲ經テ行フ。主ニ腎盂、輸尿管ノ形態ノ變化ノ描寫ヲ目的トス。

4) 膀胱撮影ハ第1、第2回撮影後壓迫帶ヲ取り 30分ヲ經テナス。

5) 腎臓機能障礙ノ程度ニヨリ 10—20分毎ニ連續撮影ヲ行ヒ又輸尿管壓迫帶ヲ施行セズニ連續撮影ヲナスコトアリ。

Uroselectan 「ウロセレクトアン」

(Merck)

【成分】 2-Oxy-5-Jodpyridin-N-Essigsäure ノ「ナトリウム」鹽。「ヨード」含有ハ32%。

【適應】 腎盂・尿路描寫。

【用量・用法】 30—40 g ヲ蒸溜水ニテ溶カシ全量 100—120 cc トシテ徐々ニ靜脈内ニ注射、「ウロ

「セレクトタン」ノ85—95%ハ尿中ニ排泄サレ、注射後8時間中ニ90%排出サル。

Uroselectan-B「ウロセレクトタン」B (Schering)

【成分】 Dinatriumsalz der 3,5.-Dijodid-4-pyridoxyl-N-me

43. 機能検査劑 Funktionsprüfungsmittel

及ビ 生化學劑 Biochemica

Acetylcholin → 21 血管擴張劑 抗交感神經 Parasympathicus (迷走神經 N. Vagus) 緊張劑。

Adrenalin chloride → 血管劑, 「ホルモン」及臟器製劑 交感神經 Sympathicus 緊張劑。

Atropinum sul. uricum → 發汗劑, 自律神經疾患劑. 抗交感神經 (迷走神經) 麻痺劑。

Azorubin S「アゾルビン」S (鹽野義)

【成分】 1%「アゾルビン」Sノ水溶液。

【適應】 膽汁内ニ排泄サル、其排泄量ヲ定量シテ肝臟機能診斷ニ用フ。

【用量】 5 cc 中 4 cc ヲ正確ニ靜脈内。

Histamin → Imido

Imido「イミド」(Roche)

【成分】 「ヒスタミン」Histamin = β -Imidazolyläthylamin-di hydrochlorid ノ 1% 溶液。

【作用】 胃液分泌催進,

【適應及用量】 胃機能検査, 0.25—1cc 皮下。

Indigomin A.A.「インダゴミン」

A. A. (林)

【成分】 「インダゴカルミン」0.0

thyl-2-6-dicarbonsäure, 51.5% ノ「ヨード」ヲ含ムモノノ高張轉化糖液。

【適應】 造影劑トシテ用フ。

【用量】 20 cc ヲ體温ニ温メ徐々ニ靜脈内。

8, 食鹽 0.1 染尿劑。

【適應】 腎検査用。

【用量】 「アンプル」中ノ粉末ヲ全部滅菌水 20 cc ニ溶解。腎筋又胸筋内ニ注射。靜脈内ハコノ 3—5 cc ヲ用フ。

Phenolsulphone-phthalein monosodium salt solution

「フェノールズルフオンフタレイ」溶液 (三共)

【成分】 1 cc 中ニ同劑ヲ 0.006 g ヲ含有ス。

【適應】 尿中ニ排泄サルルヲ以テ腎臟機能診斷ニ用ヒラル。

【用量】 1 cc 皮下・筋肉内, 靜脈内。

Pilocarpinum hydrochloricum → 血管擴張・發汗劑, 抗交感神經剋劑。

Thyroxin → 「ホルモン」及臟器製劑

44. 外科的疾患用注射劑

(局所麻醉劑參照)

A. 痔疾劑 Hämorrhoidenheilmittel

Anocuron「アノクロン」(ラヂウム)

【成分】 Indoramin (鹽酸ヒニン 尿素複鹽) ヲ主劑トス。痔核内ニ注射シテ其萎縮・枯脱・止血ヲ計ル。

Antialgin → 消炎劑

Haemisin「ヘミシン」(三共)

【成分】 10% 次硝酸蒼鉛ヲ含ム。

【適應】 痔疾一般・怒張血管ノミニ血栓ヲ形成シ之ヲ荒蕪セシム。

【用量】 用時ヨク振盪シテ速カニ結節内ニ注射ス。1回0.3—0.5 cc ヲ用ヒ、稀ニ全注射量 2cc 以上ニ至ル。

Haemojinal「ヘモヂナール」(丸善)

【成分】 「トリクロール, アセト, アルデヒド」誘導體。

【適應】 痔核・脱肛・肛門裂傷・痔出血。

【用量】 結節内數ヶ所ニ 0.2—0.3 乃至 0.5—0.7cc ヲ分割注射ス。

Magnesin「マグネシン」(日本新藥)

【成分】 A管ハ金屬「マグネシア」ヲ, B管ニハ「グリセリン」ヲ封入ス。

【作用】 結節收縮。

【適應】 痔核・肛門裂瘻・靜脈瘤・血管腫・子宮頸管「ポリープ」・慢性鼻炎・肥厚性鼻炎・鼻咽腔纖維腫。

【用量】 A管ヲB管内ニ投入混和シ、痔核ノ結節中央部ニ 0.2—0.3 ヲ注射ス。血管疾患ニハ各々局所ニ注射ス。

Magnesin (improved) 改良「マグネシン」(日本新製藥)

【成分】 A管(特殊金屬「マグネシウム」粉末), B管(グリセリン)ヨリナル。

【適應】 痔核各種・靜脈瘤・鼻炎・酒渣鼻・鼻咽頭纖維腫。

【用量】 痔核結節中央ニ 1—3 滴ヲ注射。鼻下甲介ニ向ヒ 1回3—4 滴ヲ注射。

B. 瘰癧治療劑 Panaritium-heilmittel

Introcid → 消炎劑

Phenoltin「フェノルチン」(日新醫學)

【成分】 「カルホル」ヲ主體トス。

【適應】 瘰癧・瘰癧。

【用量】 局部ノ中央ニ 0.1—0.3cc ヲ注射ス。

C. 發毛劑 Haarmittel

甲狀腺，腦下垂體前葉製劑が又用ヒラル→臟器製劑。
(注意：一補血強壯劑，「ビタミン」劑參照)

Arbetin 「アルベチン」(日新醫學)
【成分】 特殊「アミド」酸ノ有機硫黃鹽，
【作用】 發毛，消毒。
【適應】 禿頭病。
【用量】 局部ノ1ヶ所 = 1ccヲ，其ノ周圍 = 數ヶ所 0.2—0.3 cc宛注射ス。

Hypohorin →臟器製劑
【成分】 腦下垂體前葉「エキス」。

Saemin 「セーミン」(三共)

【成分】 「チスチン」，「チロジン」ヲ主トシ，砒素，「アルカリ」金屬，磷，鐵，「カルシウム」ヲ配ス。

【適應】 脫毛症(産後・圓形脫毛症・發生不全等)。

【用量】 第I，II液ヲ用 = 臨ミ混和皮下又ハ靜脈内。

	第I液	第II液
皮下用	2 cc	0.5 cc
靜脈内用	6 cc	1.5 cc

D. 癬痕軟解劑 Narbe lösende Mittel

Fibrolysin 「フィプロリジン」(Merck)
【成分】 Thiosinamin ト 「サリチル」酸「ナトリウム」ノ結合物。
【用量】 1管 (2.3cc) 筋肉内。

Narbelysin 「ナルベリジン」(三共)
【成分】 「チオジナミン」，「サリチル」酸1ヨリナル複鹽ノ15%殺菌溶液。1管(2.3cc)中「チオジナミン」0.2gヲ含ム。
【適應】 癬痕軟解(火傷・外傷・手

術創) 及ビ食道・幽門・直腸・尿道ノ狭窄・腸間膜癒着・心臟瓣膜肥厚。

【用量】 1回 0.5—2.3ccヲ隔日又ハ毎3日 = 皮下，臀筋内。或ハ又癬痕組織ノ周圍 = 注射ス。

Thiosinamin 「チオジナミン」
【成分及用量】 (1:7 Aq+3 Glyzerin) ノ1ccヲ局所ノ皮下。

E. 横痃治療劑 Bubonenheilmittel

(注意：一結核療劑中金製劑，驅微劑，驅蟲劑，殺菌消毒劑，消炎劑參照)

Acricial →殺菌消毒劑

Bubolysin 「ブポリジン」(三共)
【成分】 0.2%「スチビオカリウム

タルタリウム」ニ「サンカール」ト高張葡萄糖液ヲ配ス。

【適應】 第四性病・横痃。

射。

Fuadin 「ファヂン」(Neo-Antimosan) (Bayer)

【成分】 第3「アンチモン・ブレンツカテヒンヂズルフオン」酸「ナトリウム」

【適應】 第四性病(鼠蹊淋巴腺肉芽腫)，ピルハルツ氏病(住血吸虫病)，レイシマニア病，癩。

【用法】 筋肉内。

Refresin →消炎劑。

【用量】 毎日又隔日1回10—20 ccヲ靜脈内。

【注意】 1) 他藥ト併合シ得。
2) 不快感，咳嗽，倦怠感，貧血，關節痛等ヲ訴フルコトアリ，休止ニヨリ恢復ス。

Bubonol 「ブボノール」(三共)

【成分】 「ヨードホルム」，「グアヤコール」，「オイカリブトール」油，「アルコール」，「メルバルサム」，「エーテル」等ノ合劑。

【適應】 軟性下疳性横痃。

【用量】 1回 1—1.5 ccヲ局所注

重要適應一覽

Verzeichnis wichtiger Indikationen

注射劑使用ヲ目標トシテ羅列シタルモノデ、一定疾患ニ對シテハヨク其ノ治療對策ヲ樹立シテ後、注射劑ニ就イテ考慮スベキハ勿論デアル。

【注意】→……ハ主トシテ參照ノ意ニ用ヒタ。

1. 急性傳染病

特異療法トシテ病原體ノ明ナルモノニハ血清・「ワクチン」等ノ免疫療法 Immunotherapie ガアル。

又病原ニ對スル闘病反應ヲ強盛スル爲メニ刺戟療法 Reiztherapie (蛋白質等注射ニヨル一般細胞賦活) ガアル。其他直接病原體ニ働ク殺菌消毒劑ガアル (特效藥 Specifica, 化學療法 Chemotherapie)。

Akuter Gelenkrheumatismus, Polyarthritis rheumatica 急性關節

「レウマチス」, 「レウマチス」性多發性關節炎

【特異療法】—「サリチル」劑(特效藥)→消炎劑, 解熱劑。

尿酸性關節炎ニ痛風ニハ「キノフェン」劑(「アトファニール」)→Gicht

【發熱・疼痛】→解熱劑(「サリチル」劑), 鎮靜劑, 抗神經痛劑, 鎮痛・麻醉劑, 變調劑。

【合併症(肋膜炎, 心囊炎, 心内膜炎等)】→消炎劑(「サリチル」劑)

Chronischer Gelenkrheumatismus 慢性關節「レウマチス」

【刺戟療法】本病ハ頑固ニシテ難治ノコトガ多イ, 從ツテ屢々生體刺戟ヲナシテ生體反應ヲ新タナラシメテ治療ヲ行フ→變調劑, 硫黃劑。

Diphtherie 「ヂフテリア」

【豫防】「ヂフテリア・アナトキシン」ノ接種→「アナトキシン」

【治療】抗毒素治療血清→血清。

他ハ對症療法→消炎劑, 強心・血管劑。

Dysenterie 赤痢

【特異療法】

1. 細菌性赤痢—治療血清(反應強烈ノコトアレバ注意ヲ要ス)→血清。

2. 「アメーバ」赤痢—「エメチン」等→「アメーバ」赤痢治療劑。

【裏急後重】—「アトロピン」, 「ロート」劑→鎮痙劑。

【虚脱】→Kollaps, Herzschwäche →興奮劑・蘇生劑

【中毒症狀緩和】→強心・血管劑, 血清代用劑, 解毒劑。

Ekiri 疫痢

【特異療法】—治療血清→血清。

【毒素稀釋】→血清代用劑(注入), 強心・血管劑(葡萄糖液), 「アチド—ジス」—「アルカリ」劑→解毒劑。

【痙攣】—「マグネシウム」鹽, 「アトロピン」等→鎮痙劑。

【吐血・下血】→止血劑, 「ヴイタミン」C

【循環機能不全】興奮劑, 強心・血管劑。

Erysipelas 丹毒

【特異療法】→多價連鎖狀球菌血清→血清。

丹毒連鎖狀球菌「ワクチン」(丹毒治療液)→「ワクチン」。

【一般賦活】→變調劑(健康者血清)。

【疼痛・發熱】→鎮痛劑, 殺菌消毒劑(色素劑)解熱劑, 變調劑。

【虚脱】→興奮劑, 強心, 血管劑。

【中毒症狀緩和】—毒素稀釋排泄→血清代用劑, 解毒劑。

Fieber 發熱

1. 急性症

發熱ハ生體防衛反應ニシテ, 濫リニ之ヲ抑壓スベキデナイガ, 過度ノ高熱ハ生命貴要ノ中樞ヲ麻痺セシメル, 茲ニ解熱ノ必要ガ生ズル→解熱劑。

特效藥トシテ作用スル解熱劑。

「サリチル」劑→「レウマチス」。

「キニーネ」劑→「マラリア」及急性肺炎。

2. 慢性症

起炎要約ノ慢性ニ働ク場合デ, 特種ノモノニ結核熱ガアル。發熱ニヨリ徒ラニ消耗ヲ增強スル場合ニ(消耗熱 hecctisches Fieber) 解熱劑ガ用ヒラレル。

慢性炎症ニハ→消炎劑, 病原體ニヨルモノニハ→殺菌・消毒劑。

又時ニ細胞ヲ賦活シテ對病原ノ生體反應ヲ強盛スル時ハ→變調劑。

3. 人工的發熱—生體ニ刺戟ヲ加ヘテ發熱セシメテ生體反應ヲ強盛ナラシメル爲メニ用ヒラル—發熱療法→發熱療法劑, 變調劑, 「ワクチン」(「ツペリクリン」)。

Grippe 流行性感胃→Influenza

Influenza, Grippe 流行性感胃

【特異療法】 豫防ニ, 「インフルエンザ」菌・肺炎雙球菌混合「ワクチン」→「ワクチン」。

治療ニ, 「インフルエンザ」菌肺炎雙球菌・混合血清→血清。

【一般療法】 →「ヒノリン」誘導體(解熱劑), 變調劑。

【虛脱】 →興奮劑, 強心, 血管劑, 血清代用劑。

他ノ症狀(發熱, 咳嗽, 頭痛, 嘔吐等), 合併症(肺炎, 中耳炎等)ニ對ス。

Keuchhusten, Pertussis 百日咳

【咳嗽】 →鎮靜劑, 靜痛劑, 呼吸困難解除劑。

【特異療法】 →百日咳劑, 「ワクチン」。

【合併症(肺炎)] →Pneumonien

Malaria 「マラリア」

【特異療法】 「キニーネ」劑→解熱劑(「ヒノリン」誘導體—化學療法)。

「サルバルサン」→驅微劑

「メチレン」青→殺菌消毒劑

Masern 麻疹

【特異療法】 一人ノ恢復期血清→血清。

【對症療法】 (咳嗽・肺炎)

Ruhr 赤痢→Dysenterie

Sepsis, Septicopyämie 敗血症, 敗血膿毒症

【特異療法】 一病原體ニ相當スル治療血清, 又自家及多價「ワクチン」→血清, 「ワクチン」→殺菌・消毒劑(銀, 「アクリチン」及「アゾ」色素等)。

【賦活】 →變調劑。

【虛脱】 →興奮劑, 強心・血管劑。

【體內清淨】 →循環機能ノヨク保持サレテ居ル時ハ血清代用劑ノ注入

→血清代用劑。

Tetanus 破傷風

【特異療法】—豫防及治療ニ血清注射→血清。

【痙攣】 一硫酸「マグネシア」液等→鎮痙劑。

Typhus abdominalis 腸「チフス」

【豫防】 一腸「チフス」豫防液→「ワクチン」

【特異療法】 一腸「チフス」血清→血清。

【腸出血】 →止血劑, 血清代用劑。

【鼓腸】 →臟器製劑(腦下垂體後葉)。

【虛脱】 興奮劑, 強心・血管劑。

【合併症】 一脚氣→「ヴァイタミン」。肺炎, 腦膜炎, 腎盂炎等。

【細菌尿】 一菌排泄者→殺菌・消毒劑。

附 慢性傳染病 chronische Infektionskrankheiten

i 結核 Tuberkulose →結核劑, 消炎劑, 解熱劑, 「ワクチン」劑。

ii 癩病 Lepra, Aussatz →治癩劑。

iii 梅毒 Lues, Syphilis →驅微劑, 變調劑, 發熱療法劑(性病ノ章參照)

2. 呼吸器系疾患

Angina 「アンギーナ」

【特異療法】 病原體ニヨリ血清注射→血清。「ワクチン」療法→「ワクチン」。「スピロヘータ」ニヨルモノハ「サルバルサン」→驅微劑。

【消炎】 →殺菌消毒劑, 消炎劑。

【一般賦活】 一蛋白體刺戟療法→變調劑。

Asthma bronchiale 氣管支喘息

【喘息發作】 →

i 喘息劑, 呼吸困難治療劑。

ii 交感神經刺戟劑(「エピレナミン」劑, 「エフェドリン」劑), 臟器製劑(副腎・腦下垂體後葉等)。

iii 鎮痙劑, 鎮痛麻醉劑。

iv 興奮劑, 強心劑。

【發作間歇時】 →強壯劑(「コード」, 「ヂウレチン」劑), 變調劑(自家血清)。

Atemnot 呼吸困難 →Dyspnoe

Bronchitis 氣管支「カタル」, **Bronchiolitis** 毛細氣管支「カタル」

【發熱】 →變調劑。

【咳嗽, 胸痛】 →鎮靜劑, 鎮痛劑。

【食慾不振】 →食慾催進劑。

【盜汗】 →制汗劑, 結核劑。

【一般賦活】 (慢性症) →變調劑。

【特異療法】 (病原體ノ定マリシ時) →「ワクチン」(自家血清), 殺菌消毒劑。

Dyspnoe Atemnot 呼吸困難

諸種ノ疾患ニヨル呼吸工作ノ器械的障礙, 又呼吸中樞性(神經性)ニ來ル。各基礎疾患ニ對ス→興奮劑, 呼吸困難治療劑, 百日咳療劑, 鎮咳劑。

1. 氣道へノ壓迫乃至狹窄→氣道異物, 聲門水腫, 「チフテリア」, 氣管支狹窄, 氣管支性喘息, 食道癌, 大動脈瘤等。

2. 肺「ガス」代謝不全→肺氣腫, 肺水腫, 肺炎, 肺結核, 肺鬱血(心臟瓣膜病), 肋膜炎等ニヨル肺壓迫等。

3. 中毒

體內性→糖尿病, 尿毒症, 膽毒症。

體外性→「ガス」中毒等。

4. 神經性→「ヒステリー」, 腦腫瘍等。

5. 特殊ノ呼吸困難(發作性)

i 心臟性喘息。

ii 氣管支喘息。

iii チェーン・ストクス氏呼吸 (中樞神經系疾患・中毒・傳染病)。

iv トラウベ氏呼吸 (中毒・糖尿病)。

v クスマウル氏呼吸 (糖尿病等)。

vi ビオー氏呼吸 (iiiニ同ジ)。

Hämoptye, Bluthusten 咯血

1. 止血劑

2. 鎮靜劑

3. 肺「チストマ」劑 →驅蟲劑, 鹽酸「エメチン」, 「ネオスチブナール」等。

Husten 咳嗽

諸種ノ疾患ニ來ル, 各疾患部參照サレタシ。

1. 氣道疾患—氣道粘膜ノ炎症刺戟ニヨル→咽頭炎, 喉頭炎, 氣管支炎, 毛細氣管支炎, 肺炎, 肺結核等。

2. 細菌性疾患(氣道ノ炎症ヲ起スモノ)→百日咳, 「チフテリア」, 急性肺炎, 肺結核等。

3. 他ノ疾患(肋膜炎等)傷害ヨリ反射的ニ, 又神經性ニ來ルコトガアル→鎮靜劑。

Lungengängrän u. putride Bronchitis 肺壞疽及腐敗性氣管支炎

【對病原體】 →自家「ワクチン」, 多價「ワクチン」(連鎖狀球菌, 葡萄狀菌) →「ワクチン」, 「スピロヘータ」ニヨルモノニハ「アルゼノベンゾール」(「サルバルサン」) →驅微劑

【殺菌消毒】 —「アクリジン」及「アゾ」色素等→殺菌消毒劑。氣管造影劑。

【對症療法】 →各症狀ニ對ス。

Lungenödem 肺水腫

→Herzschwäche, Kreislaufinsuffizienz

Lungentuberculose (Phthisis pulmonum) 肺結核

【特異療法】 「ツベルクリン」, 其他結核菌「ワクチン」劑, 對菌「リボイド」劑等ガアルガ其效果ハ未ダ一般ニ確認サレナイ。→「ワクチン」。

【化學療法】 銅製劑續イテ金製劑モ提唱サレタガ, 之レ亦一般ノ承認ヲ得ナイ。→結核劑。

【對症療法】

發熱→解熱劑, 結核劑。

盜汗→制汗劑。

咳嗽, 胸痛, 肩凝, 不眠→鎮靜劑, 鎮痛劑。

咯血→止血劑, 鎮靜劑。

呼吸困難→呼吸困難治療劑。

【所謂結核劑】 —多クハ胃腸劑, 強壯劑, 消炎劑等ノ組合セデアル。

Pleuritis 肋膜炎

大多數ハ結核性ナルヲ以テ→結核劑, 消炎劑。

滲出液ノ漿液ナルモノニ「サリチル」劑ガ慣用サレル(抗「レウマチス」性)

ト云フモ、腎刺戟ニヨル利尿作用ガ效ヲ示ス)→消炎劑。

1. 滲出性 →利尿劑

自家漿液注射 Autoserotherapie 滲出液ヲ穿刺シ直チニ胸部其他ノ皮下ニ注射シ滲出吸収ノ機轉ヲ促進サスモノ。

2. 乾性 胸痛→解熱劑, 鎮痛劑。

Pneumonien 肺炎

1. 「グループ」性肺炎

【特異療法】肺炎菌(第1—4型)混合血清→血清。

化學療法—「ヒノリン」誘導體→肺炎治療劑, 解熱劑。

2. 氣管支肺炎

時ニ起炎病原體(喀痰ヨリ)ノ自家「ワクチン」, 多價「ワクチン」→「ワクチン」。

【一般賦活】蛋白體療法→變調劑。

【發熱】→解熱劑, 「グループ」性ノ急性肺炎ニハ「ヒノリン」誘導體。

【咳嗽・胸痛及神經症狀】→鎮靜劑, 鎮痛劑。

【心臟衰弱】→興奮劑, 強心・血管劑

肺炎危險ハ又虚脱ニアリ→Kollaps

3. 循環器系疾患

Angina pectoris 狭心症

【發作時, 疼痛・苦悶・恐怖感】→鎮痙劑, 鎮痛, 麻醉劑, 利尿劑, 血管擴張劑(「テオプロミン」劑, 亞硝酸鹽劑—冠狀動脈擴大作用)。

【心臟衰弱】→Herzschwäche

【發作間歇時】

心筋機能不全→Herzschwäche

心筋練固・心冠狀動脈擴大→心筋・骨骼筋製劑(→強心劑)

微毒→驅微劑(注意シテ使用)

動脈硬化→「ヨード」劑(→動脈硬化劑, 強壯劑), 血管製劑(→臟器製劑)。

Arrhythmien 不整脈

i 恒久性不整脈→「ヂギタリス」劑, 「キ—ネ」劑(→強心劑)

ii 期外收縮ニヨル不整脈→「プロム」劑等ノ鎮靜劑, 「アトロピン」劑。

iii 戟刺傳達障礙ニヨル不整脈→「ヂギタリス」ヲ除クノ他強心劑, 抗交感神經緊張ニヨル時ハ「アトロピン」。

「ヂギタリス」ハ心筋及迷走(抗交感神經)中樞ニ働イテ尙一層刺戟傳達ヲ困難ニシテ脈搏ヲ稀小ナラシメルカラ, コノ際ハ禁忌デアル。

Arteriosklerose, Atherosklerose 動脈硬化症

「ヨード」劑(強壯劑), 「ヂウレチン」劑(利尿劑)等ガ用ヒラル。其ノ各顯ハレタル症狀ヲ發シタル時ハ夫ニ對ス。→動脈硬化治療劑。

腦溢血, 狹心症, 萎縮腎(動脈硬化性)—尿毒症, 間歇性跛行症等。

Ascites 腹水

【滯溜體液】→利尿劑(水銀劑ガ時ニ卓效ヲ示ス又腹腔内滯溜液中ニ注入サレル)→強心血管劑

【原因療法】微毒→驅微劑(肝臟障礙ノ際ハ注意ヲ要スル)

Asthma cardiale 心臟性喘息 →Herzschwäche

【喘息發作】→興奮劑, 強心劑, 呼吸困難治療劑

【苦悶・恐怖】→鎮靜劑, 麻醉劑(注意ヲ要ス)

【原因療法】→Arteriosklerose, Lues

Blutdrucksteigerung 血壓亢進症 →Hypertonie (Hypertension)

Essentielle Hypertonie (Hochdruck)

→血壓降下劑, 鎮靜・鎮痙劑。

Herzschwäche 心臟衰弱

強心・血管劑概説部參照。

【心悸亢進, 苦悶, 不眠】→強心劑, 鎮靜劑, 鎮痛・麻醉劑

【呼吸困難】→興奮劑, 呼吸困難治療劑

【浮腫】→強心劑, 利尿劑

【恢復期練固】→心筋・骨骼筋製劑(→強心劑), 「テオプロミン」劑—冠狀動脈擴大作用ヲ有ス(→利尿劑)。

【原因療法】→原因ニ對スル。

Hypertonie (Hypertension) 血壓亢進症

1. 動脈硬化症ニヨル → Arteriosklerose

2. 腎炎・萎縮腎ニヨル → Nephritis, Schrumpfnieren

3. 循環機障碍ニヨル (高壓鬱血) → Herzschwäche, Kreislaufinsuffizienz

【原因療法】 一上記基礎疾患ニ對ス。

微毒ニヨルモノ → 驅微劑

- i 血管擴張劑 (亞硝酸鹽, 「テオブロミン」劑, 硅酸鹽劑等)
- ii 鎮靜劑 (「プロム」劑等—血管神經性ノモノニ適應ス)

4. 鉛中毒ニヨル (鉛痲痛ノ發作性血壓亢進症) → 解毒劑 (「ヨード」劑等)

5. 血液粘稠ニヨルモノ → 瀉血・血清代用劑注入。

6. 内分泌障碍 (更年期) → 性「ホルモン」

- i 臟器製劑 (血管・血液成分), 性「ホルモン」
- ii 「ヨード」劑, 「カルシウム」劑等 → 強壯劑 (變質劑)

【續發症】 一心臟衰弱 → Herzschwäche

Kollapszustände 虚脱

→ 興奮劑, 強心劑ノ概説ノ部參照。

Kreislaufinsuffizienz 循環機能不全

→ 強心劑ノ概説ヲ參照。

Reizleitungsstörungen des Herzens 心臟刺戟傳達障碍

→ Arrhythmien 不整脈參照。

Stenokardie 狭心症 → Angina pectoris

Tachycardie 心搏異常疾速症

- i 鎮靜劑 (「プロム」等)
- ii 「キニーネ」劑 (強心劑)

Vasomotorenlähmung 血管麻痺

→ 興奮劑, 強心劑ノ概説ノ充實不全ノ條參照。

4. 消化器系疾患

Acute Magenblähung -dilation 急性胃擴張 (中毒性, 開腹術後)

- i 強心・血管劑 (「ストリキニーネ」)
- ii 「トーマス」充進, 蠕動催進劑 (腦下垂體後葉製劑・脾製劑, 「フィゾチグミン」劑)

Appendicitis 蟲様突起炎

【腹痛・苦悶】 → 鎮痛・麻醉劑—診斷確定前ニハ用ヒズ, 症狀・苦訴ヲ正確ニ把ヘルコトノ出來ナイコトガアル。

【循環障碍】 → 興奮劑, 強心・血管劑。

【其他】 → 消炎劑, 殺菌消毒劑

Appetitlosigkeit, Anorexie 食慾不振

食慾不振ハ諸種ノ疾患ニ來ル, 各個ノ疾患ニ對ス。對症的ニハ→食慾催進劑。

1. 消化系疾患—胃炎, 胃癌, 腸炎, 便秘, 下痢, 黃疸等。
2. 熱性傳染病
3. 呼吸器疾患—肺結核, 肺炎, 肋膜炎等。
4. 血液病—萎黃病, 貧血, 白血病。
5. 泌尿器疾患—腎炎, 尿毒症。
6. 神經系疾患—腦溢血, 腦膜炎, 「ノイローゼ」
7. 中毒 (體內性及體外性)

Bauchschmerzen 腹痛

→ 痲痛 Koliken

腹痛ハ腹部内臓ノ滑平筋攣縮ニヨル痲痛性ノモノ, 腸管伸展ニヨル永續性鈍痛, 腹膜 (殊ニ其體壁葉ノ侵カサレル時ニ甚シ) ノ刺戟ニヨリテ激痛ヲ發ス。各個ノ場合ニ其ノ原病ニ對シテ善處スルヲ要ス。

對症的ニハ→鎮靜劑, 鎮痲劑, 鎮痛・麻醉劑

1. 消化系疾患—蟲様垂炎, 腹膜炎, 急性胃腸「カタル」, 胃潰瘍, 「イレウス」, 膽石症, 急性脾藏壞死等。
2. 泌尿器疾患—腎臟結石症, 膀胱結石症等。
3. 婦人生殖器疾患—月經痛, 卵巢囊腫ノ柄捻轉, 子宮外妊娠ノ破裂, 流産, 骨盤腹膜炎, 附屬器炎。
4. 神經系疾患—脊髓癆ノ發症, 機能性疾患。

Cholelithiasis 膽石症 → Gallensteinkrankheit

Darmblutung 腸出血

一般ニ腸管内ノ出血ガ指示サレテ居ル。諸種疾患ニ來ルガ, 對症的ニハ→止血劑, 鎮靜劑。失血アル時ハ血管充實不全ヲ防グ→血清代用劑。

1. 胃腸疾患—胃・腸潰瘍，胃癌，食道・胃壁ノ靜脈瘤破裂（門脈鬱積），痔疾。
2. 肝・膽道系疾患—肝硬變症，門脈血栓，門脈炎ニヨリ腸鬱血ニヨリ腸出血。
3. 傳染病—腸「チフス」（第3—4週），赤痢（大腸），腸結核。
4. 中毒（→解毒劑）
5. 出血性素質（→「ビタミン」C）

Darmkatarrh 腸「カタル」

1. 急性症—傳染性ノモノハ別項參照—腸「チフス」，赤痢，疫痢，「コレラ」。急激ナル身體乏水 Wasserarmut，虚脱ハ注意スベキ症候デアリ。注入，強心→血清代用劑，強心，血管劑。
 2. 慢性症
結核性ノ腸結核→結核治療劑。
- 【對症療法】—各症候ニ對ス。「アトロピン」ハ腸ノ分泌・運動ヲ共ニ抑壓シ腸ノ安靜ヲ保ツニ必要ナルモノデアリ。

Diarrhoe s. Durchfall 下痢

- 【炎症】→消炎劑。
- 【蠕動亢進】—抑制→「アトロピン」劑等ノ鎮痙劑，麻醉劑
- 【身體乏水】→血清代用劑
- 【循環障礙】→強心・血管劑
- 【特異療法】
- i 「アメーバ」赤痢→同治療劑。
 - ii 細菌性赤痢→Dysenterie

Erbrechen s. Vomitus 嘔吐

- i [嘔吐中樞ノ鎮靜] →鎮靜劑，麻醉劑（阿片「アルカロイド」ハ時ニ嘔吐ヲ増盛スルコトガアル，「アトロピン」ハ之ヲ抑制ス）
- ii [呼吸中樞整調] →呼吸困難治療劑。
- iii [身體乏水] →血清代用劑。
- iv [中毒] 先ヅ催吐ヲナシ體內洗滌（血清代用劑ノ注入・点滴灌腸）
- v [特異療法] —「コレラ」→血清。「バラチフス」→血清，「ワクチン」妊娠性惡阻→惡阻治療劑。

Gallensteinkrankheit 膽石症→Koliken 疝痛

- 【疝痛】→鎮痛，麻醉劑，鎮痙劑。
- 【炎症・發熱】→消炎劑，殺菌消毒劑。
- 【驅石】→利膽劑，膽道蠕動催進劑等。
但シ膽道ヲ閉塞アル時ハ禁忌トス。
- 【發作間歇時】→利膽劑，膽道蠕動催進劑—但シ黃疸アリテ膽道ノ閉塞アル時ハ適セズ。
- 【合併症】—膽囊炎，膽道炎，黃疸，敗血・膿毒症，腹膜炎。

Gastritis 胃「カタル」→ Magenkatarrh**Hämatemese, Blutbrechen** 吐血

- 吐血ハ最モ屢々胃，食道ヨリノ出血ニヨリテ起ル。原病ニ對スルハ勿論デアリガ，對症ニハ→止血劑，鎮靜劑，麻醉劑，胃・腸ノ運動機ハ「アトロピン」ニヨリテ抑制サレル。
1. 胃・食道疾患—胃潰瘍，胃・食道靜脈瘤破裂（門脈鬱血）
 2. 中毒，出血性素質等。

Hyperemese（嘔吐，惡阻）

→Erbrechen, Schwangerschaftsemese

Ikterus, Gelbsucht 黃疸

肝細胞疾患 Hepatopathien，膽道疾患（膽汁流注障礙），血球崩壊等諸種ノ疾患ニ現レル（一症候），從ツテ治療ニハ原病探求ガ必要デアリ。

1. 膽汁流注障礙（膽石症，其他膽道疾患）
膽汁ガ十二指腸ニ流注ヲナシ得ル場合→利膽劑，膽道蠕動催進劑—但シ膽道閉塞アル時ハ禁忌。
- 【消炎】→消炎劑，殺菌・消毒劑，屢々利膽劑ト併用サル。
2. 肝細胞疾患
- 【肝細胞榮養】—「インシュリン」注射ト葡萄糖液注入，肝臟製劑→臟器製劑。
- 【對症療法】—食慾不振，便秘，癢痒等。
- 【膽毒症 Cholämie】—肝細胞榮養ニ準ズ

Koliken 疝痛

消化管及ピ内臟腺ノ腔壁及輸出管壁ノ滑平筋ノ發作性攣縮 Spasmus ハ

痙痛 Colica トシテ訴ヘラレル。屢々抗交感神經（迷走神經）ノ緊張異常亢進ニヨリテ起ル。

- i 〔迷走神經麻痺〕 → 麻痺劑
殊ニ「アトロピン」劑。
- ii 〔滑平筋攣縮緩解〕 → 鎮痙劑, 麻醉劑
殊ニ「パパベリン」Papaverin 劑

Magengeschwür 胃潰瘍

【特異療法】 近來「ヒスチジン」Histidin 製劑ガ用ヒラル→胃・十二指腸潰瘍治療劑, 胃腑製劑→臟器製劑。

【賦活】 一蛋白體（殊ニ植物性）療法→變調劑。

【對症療法】

〔胃痛, 嘔吐等〕 → 鎮靜劑, 鎮痛劑—殊ニ分泌・運動抑制作用ヲ示ス「アトロピン」劑, 「パパベリン」等ガ用ヒラル。
〔吐血〕 → Hämatemesis

Magenkatarrh (Gastritis) 胃「カタル」

1. 急性症
胃内ヘノ異物・刺戟物質, 中毒ニヨルモノハ胃内容排出ヲ計ル→催吐劑。
2. 慢性症
時ニ刺戟・賦活ヲナス→變調劑。
胃腑製劑→臟器製劑。
【胃痛】 → 鎮靜, 鎮痛劑。
胃酸過多ノモノニハ「アトロピン」劑。
【アトニー】 一慢性ノ「アトニー」性ノモノニハ「ストリキニーネ」劑→強壯劑。
【其他ノ對症療法】 一嘔吐, 下痢, 食慾不振等。

Meteorismus 鼓腸

- i 慢性症—腸壁「トーマス」・蠕動亢進劑（驅風劑）
- ii 〔特異療法〕 急性症—抗腹膜炎血清→血清。
- iii 〔一般強化〕 強心・血管劑。

Nausea (Übelkeit) 惡心（嘔氣）

- i 惡心ハ屢々胃内ノ異物・刺戟物ニヨリテ喚起サレルガ斯カル場合

ハ催吐ヲナス→催吐劑。

- ii 他ノ原因要約ヲ避ケル。
- iii 中毒性—妊娠性惡阻→惡阻劑。
 1. 鎮吐劑, 鎮痛劑。
 2. 解毒劑, 惡阻劑。

Obstipation, Stuhlverstopfung 便秘

- i 「アトニー」性便秘→腸壁「トーマス」・蠕動促進劑。
- ii 痙攣性便秘→鎮痙劑, 鎮靜劑。
- iii 症候性便秘→胃・腸「カタル」, 腸「チフス」, 蟲様突起炎, 膽石症等。

Peritonitis 腹膜炎

1. 急性症
【特異療法】 一腹膜炎血清→血清。
【對病原】 → 殺菌・消毒劑, 消炎劑。
2. 慢性症

主トシテ結核性デアアル從ツテ對結核→結核劑, 消炎劑, 強壯劑。

【對症療法】 一疼痛, 嘔吐, 吃逆, 鼓腸, 便秘, 虛脫等。

Ulcus ventriculi 胃潰瘍→Magengeschwür

5. 泌尿器系疾患

Blasenkatarrh 膀胱「カタル」→Cystitis

Cystitis 膀胱「カタル」

- 【疼痛・尿意頻數】 → 鎮痛・麻醉劑, 鎮靜劑。
- 【消炎】 → 消炎劑, 消炎・殺菌劑（「ヘキサチメレンテトラミン」=「ヂウレチン」, 「アクリヂン」及「アゾ」色素等）。
- 【特異療法】 一自家「ワクチン」, 多價「ワクチン」→血清, 「ワクチン」。
- 【一般刺戟・賦活】 一慢性ニ用フ→變調劑。

Hämaturie, Blutharn 血尿

尿ニ血液ノ混ズル場合ハ多イ, 原因ヲ探求スベキデアアル。

對症的ニハ→止血劑, 「ヴィタミン」C。

1. 尿路性出血
 - a 腎性出血—絲毬體腎炎, 結石症, 結核, 腫瘍。

【注意】濃厚食鹽水ヲ避ク。

- b 膀胱出血—結核, 結石, 黴毒, 炎症。
- c 尿道出血—淋疾, 異物, 外傷。
- 2. 血行器疾患—鬱血腎, 血管硬化症。
- 3. 中毒 (→解毒劑)
- 4. 出血性素質 (→「ビタミン」C)

Nephritis 腎炎

【血尿】→止血劑, 但シ食鹽水ハ腎臟ヲ刺戟スレバ禁忌。

【浮腫】→組織性利尿劑 (滲透療法—高張葡萄糖液), 水銀劑・「プリン」體ノ腎刺戟性ノ利尿劑ハ急性腎炎ニハ禁忌。

【慢性症。血壓亢進症】→Hyyertonie

【尿毒症狀】→Urämie

痙攣性尿毒症→利尿劑, 強心・血管劑。

【心臟衰弱】→興奮劑, 強心・血管劑。

Nephrose 「ネフローゼ」

【浮腫】→利尿劑, 強心・血管劑。

【合併症】敗血症→Sepsis

Nierensteinkrankheit s. Nephrolithiasis 腎結石症

- i 腎炎・腎盂炎ニ準ズ→Nephritis u. Pyelitis
- ii 膿瘍ヲ作りシ時—尿路殺菌→殺菌消毒劑。

Nierentuberculose 腎臟結核

- i 腎炎ニ準ズ→Nephritis
- ii 結核ニ準ズ→結核劑。

Pyelitis 腎盂炎

【特異療法】—自家「ワクチン」, 多價「ワクチン」→血清, 「ワクチン」

【一般療法】—炎症ニ對ス→殺菌・消毒劑, («アゾ」, «アクリザン」色素等) 消炎劑, 利尿劑。時ニ刺戟・賦活療法ヲ用フ→變調劑。

【對症療法】—發熱, 疼痛, 膿尿。

Schrumpfniere, (chronische Nephritis) 萎縮腎(慢性腎炎)

「ヨード」劑 (腎臟ヨリノ排泄不全ニヨル「ヨード」中毒ニ注意シツツ), 「カルシウム」劑, 腎臟製劑 (臟器製劑) 等。

【浮腫】→利尿劑。

【血壓亢進】→Hypertonie

【心臟衰弱】→Herzschwäche

【尿毒症】→Urämie

Urämie 尿毒症 (Autointoxikation 自家中毒參照)

1. 眞性尿毒症 (腎臟機能不全ニヨリ, 血中 R—N ノ增多ヲ示ス)

i 〔神經症狀(頭痛, 躁狂, 不安, 嘔吐等)〕→鎮靜劑, 麻醉劑,

ii 〔浮腫〕→利尿劑。

iii 〔心臟衰弱〕→Herzschwäche

2. 痙攣尿毒症 屢々腦ニ浮腫ヲ來セル爲メニ運動皮質ガ刺戟サレテ起ルモノデアル。

i 〔痙攣〕—「マグネシア」鹽ハ鎮痙ト利尿作用ヲ兼ヌ→鎮痙劑, 利尿劑。高張葡萄糖液—滲透療法 (組織脫水)・解毒→利尿劑。

ii 〔浮腫〕→利尿劑, 強心・血管劑。

3. 動脈硬化性尿毒症 腦動脈硬化ニヨリ腦ノ機能障礙殊ニ精神障礙ヲ示スモノ→動脈硬化症。

6. 血液疾患

Anämien 貧血

1. 急性症

血液乏失 Blutverlust = ヨル血管充實不全→(輸血)止血劑, 血清代用劑。腦貧血ノ症狀ヲ顯著ニ示ス。

2. 慢性症

補血強壯ニカム→強壯劑。

i 〔神經症狀(頭痛, 耳鳴)〕及〔心悸亢進〕→鎮靜劑。

ii 〔消化器症狀(食慾不振, 嘔氣, 下痢等)〕→各症狀ニツキ見ラレタシ。

iii 〔出血〕→止血劑, 臟器製劑(肝, 胃, 骨髓), 「ビタミン」(C)

iv 〔原因療法〕—失血源, 寄生蟲, 中毒ニ對ス

Leukosen, Leukämien 白血病

1. 骨髓ヲ刺戟シテ機能失調ヲ整ヘルコトガアル→臟器製劑。

2. 砒素劑, 放射能製劑→強壯劑

3. 貧血治療劑。

7. 神經系疾患

Apoplexia cerebri, Hirnblutung 腦溢血

【新鮮ナル場合】—安靜ヲ主トシ徒ラニ手ヲ加ヘテ衝動ヲ與ヘル時ハ出血ヲ促ガスコトアリ，場合ニヨリテハ絶對ノ安靜ヲ必要トス。出血尙熄マザル時ハ瀉血ニ續イテ→濃厚食鹽水，高張葡萄糖液，臟器製劑ノ注射。

【嘔吐・痙攣】→鎮靜劑，鎮痛・麻醉劑。

【循環機障礙】→興奮劑，強心・血管劑但シ血壓ノ亢進ヲ來スガ如キコトハ禁忌トス（「ピリヂン」，「カンフル」製劑）。

【恢復期】→吸收促進ト血壓ノ亢進ヲ抑制スル→「ヨード」劑（強壯劑），血壓降下劑。

Aufregung, Erregungszustände 興奮

→鎮痛，麻醉劑，鎮靜劑。

Coma 昏睡

意識障礙ハ中樞神經系，熱性傳染病，體內性及體外性中毒等ニ際シテ現ハル。

1. 腦溢血→Apoplexia cerebri
腦膜炎→Meningitiden
2. 尿毒症→Urämie
3. 膽毒症→Cholämie (→Ikterus 黃疸) 2ト共ニ→Autointoxikation
自家中毒
4. 體外性中毒→中毒。
5. 腸「チフス」→Typhus abdominalis,
共ニ循環機能不全ニ注意ヲ要ス→Herzschwäche, Kreislaufinsuffizienz usw.

Encephalitis epidemica (lethargica) 流行性腦炎

病原體，原因等ニ關シテハ不明ノ點多シ，從ツテ特異療法ガナイ。

【血清療法】—同病患者ノ恢復期血清，自家血清→血清。

【對假想病毒】→消毒・殺菌劑（色素）劑，「ヘキサメチレンテトラミン」（＝「ヂウレチン」劑）。

【神經症狀】—頭痛，興奮，不安，嗜眠等。

【心臟衰弱】→強心・血管劑。

【後貽症】—錐體路外系症候トシテ震顫，筋剛硬ヲ來スコトアリ—「ハルミン」，「ブルホカプニン」等→錐體路外系障礙症狀ニ對スル藥劑。

Hirnanämie s. Anaemia cerebri 腦貧血

【急性症】興奮劑，強心・血管劑，

【慢性症】—原因ニ對シ，又ソノ現ハス症候ニ善處セヨ →Anämien

Irresein (manisch-depressives) 精神錯亂

→鎮靜劑，迅速ヲ要スル時ハ鎮痛・麻醉劑。

Kopfschmerzen 頭痛

頭痛ハ諸種ノ疾患ニ現ハレル。

【對原因】各基礎疾患ニ對ス

1. 神經系疾患（腦膜炎，腦炎，腦微毒，腦腫瘍，「ヒステリー」，神經衰弱等）。
2. 感覺器疾患（亂視，蓄膿症，中耳炎等）。
3. 熱性傳染病（流行性感冒，肺炎，腸「チフス」，敗血症，急性關節「レウマチス」等）。
4. 中毒（尿毒症，惡阻，鉛中毒，「ガス」中毒，「アルコール」中毒等）及喝病（日射病及熱射病）。
5. 消化器疾患（胃・腸「カタル」，便秘，寄生蟲等）。
6. 性器疾患（子宮位置異常，無月經，更年期等）→性「ホルモン」及臟器製劑。
7. 血液疾患（貧血，白血病，萎黃病等）。

【對症的】→鎮靜劑，鎮痛・麻醉劑。

Krämpfe 痙攣

痙攣ハ運動機ノ刺戟狀態デ，直接刺戟，間接反射的ノ刺戟ニヨリテ起ル。全身性ノ廣汎ナル範圍ノ筋肉ノ不隨意收縮ハ，腦皮質ノ刺戟興奮ニヨリテ起ル。

1. 「トキシシン」ニヨリテ中毒性ニ現ハレル場合—子癇，癲癇，傳染病（疫病，破傷風等）等ニ見ル→解毒劑，血清代用劑（毒素稀釋，身體洗滌）殺菌・消毒劑，強心劑，血清（破傷風血清等）。
2. 對症的一鎮靜劑，鎮痙劑，鎮痛・麻醉劑。

Lähmung der Motilität 運動麻痺

筋ノ運動機(收縮, 弛緩)ノ減弱乃至癱絶ニヨリテ運動麻痺ヲ來シ, 腦皮質—筋肉導路ノ障礙(神經系疾患), 筋肉自身ノ疾患, 灌概血管狹窄・閉塞(血管疾患—微毒, 動脈硬化症)ニヨリテ招來サル。

【中樞性麻痺】—腦性, 屢々偏癱 Hemiplegie—半身不隨—腦溢血, 腦腫瘍, 腦膿瘍, 腦微毒等。

脊髄性, 屢々截癱 Paraplegie—脊髄炎, 脊髄ニ於ケル出血, 腫瘍, 膿瘍等。

【末梢性麻痺】—神經炎(中毒性, 多發性)—「デフテリア」後麻痺, 「アルコール」麻痺, 脚氣, 癩等。

【筋性麻痺】—「レウマチス」, 筋性「ダストロフィー」。

【機能性麻痺】—「ヒステリー」。

【對症治療上ノ注意】 i 中樞ノ痙攣性麻痺 spastische Pareseニ對シテハ→鎮靜劑, 時ニ鎮痙劑。

ii 末梢性ノ弛緩性麻痺 schlaffe Lähmungニ對シテハ運動機ヲ興奮セシメル「ストリキニーネ」ニ筋肉成分ヲ含有セルモノヲ用フルコトアリ→臟器製劑(脚氣劑)。

Lyssa 狂犬病(Wut 恐水病)

→狂犬病豫防劑(→「ワクチン」)。

Meningitiden 腦膜炎

i 結核性

ii 化膿性→殺菌・消毒劑, 消炎劑,

iii 流行性—治療血清→血清。

對症療法—頭痛, 嘔吐, 痙攣, 心臟衰弱等。

Neuralgien 神經痛

→抗神經痛劑, 臟器製劑, 強心, 血管劑(筋肉製劑), 變調劑

坐骨神經痛 Ischias

ランゲ氏ノ神經(坐骨神經)幹内注射液ノ處方

「オイカイン」B	1.00
鹽化「カルシウム」	0.75
鹽化「ナトリウム」	7.50
蒸溜水	1,000.00

上記ヲ煮沸消毒シ, 冷却後千倍鹽酸「ズプレニン」液(局方鹽酸「エピレナミン」液ニテ代用サル) 10滴ヲ加ヘタルモノノ 10ccヲ坐骨結節ト大腿骨大轉子トノ中央部ニテ坐骨神經内ニ穿刺・注射ス(詳細ハ基礎內科學神經編 391頁參照)。

Neurasthenie 神經衰弱

→鎮靜劑, 神經榮養(→強壯劑)。

Neurose 「ノイローゼ」, 神經症

1. 神經榮養→強壯劑。

性器障礙→性「ホルモン」, 臟器製劑。

2. 對症の一頭痛, 不眠, 眩暈, 食慾不振, 血管神經症狀等ニ對ス。

Schlaflosigkeit 不眠症

1. 鎮靜劑(「ブロム」, 水溶性「バルビツール」劑等)。

2. 麻醉劑(阿片「アルカロイド」)。

Tabes dorsalis 脊髄癆

→性病, 微毒

【原因療法】→驅微劑, 發熱療法→硫黃劑, 「ワクチン」, 一般刺戟療法→發熱療法劑, 變調劑,

【對症療法】→電擊様疼痛, 發症→鎮痛・麻醉劑(スウィフト・エリス氏注射)。

スウィフト・エリス氏注射 Swift Ellis's Injektion

Salvarsan 劑ヲ靜脈内ニ注射シ, 後約1時間後ニ靜脈穿刺ニヨリ血液(30—40cc)ヲ採リ血清ヲ分離シ, 後56°Cデ30分温メ補體作用ヲ消失 inaktivieren セシメテ其10—20ccヲ, 豫メ腰椎穿刺ニヨリ脊髄液ヲ10—20cc(注入スベキ「サルバルサン」化血清ノ量)ヲ排除シ置キ, 續イテ脊椎内注射 endolumbale Injektion ヲナス。

8. 運動器系疾患

Lumbago 腰筋痛

→Myalgie

腰筋痛ハ屢々腰筋ノ「レウマチス」ヲ指スガ, 過勞後ハ勿論種々ノ場合ニ現ハレルモノデアル。治療ハ其原因ニヨリテ異ナルモノデアルガ, 對症

的ニハ→抗神經痛劑，鎮痛・麻醉劑。又變調劑ガ用ヒラレル。

1. 急性傳染病（ウイルス病，「インフルエンザ」，腸「チフス」）。
2. 新陳代謝疾患（糖尿病，痛風）。
3. 生殖器疾患（子宮位置異常，附屬器炎，月經異常，淋疾）→殺菌・消毒劑，臟器製劑，性「ホルモン」。
4. 消化系疾患（便秘，內臟下垂症，黃疸）。
5. 神經系疾患（「ノイローゼ」，脊髄ノ微毒・腫瘍・外傷等）。
6. 泌尿器疾患（腎臟結石症・腎盂炎）。

Myalgie (Muskelrheumatismus) 筋肉「レウマチス」

1. 抗神經痛劑，鎮痛・麻醉劑，局所麻醉劑。
2. 筋肉製劑一同質ヘノ刺戟・賦活・整調ノ目的トス→(臟器製劑)。
3. 變調劑，硫黃劑。
4. [特異療法]一體内化膿病竈ニ對ス→殺菌消毒劑，自家「ワクチン」・多價「ワクチン」→「ワクチン」。

Myositis 筋炎

- 【疼痛・發熱】→解熱劑，鎮痛劑，消炎・殺菌劑。
 【一般賦活】→變調劑。
 【特異療法】→自家「ワクチン」・多價「ワクチン」(「ワクチン」)。

9. 新陳代謝疾患及物質缺乏症 Mangelkrankheiten

Avitaminose 「ビタミン」缺乏症

「ビタミン」A, B, C, D, E ノ缺乏ニヨル病的狀態ハ「ビタミン」ノ概説ヲ參照サレタイ。

Diabetes mellitus 糖尿病

【血糖過剩 Hyperglycämie 及糖尿 Glycosurie】→膵臟ランゲルハンス氏島嶼ヨリノ有效成分(「ホルモン」)ガ炭水化物 Kohlehydrate ノ新陳代謝ヲ整調シテ，血糖過剩及糖尿ヲ緩和・消失セシメル→膵臟製劑(臟器製劑)。

【「アチドージズ」・昏睡】→ランゲルハンス氏島嶼「ホルモン」，葡萄糖・「インベル」糖ノ溶液注射，「アルカリ」劑ノ注入→解毒劑，

【對症療法】→各症候ニ對ス。

Fettsucht, Adipositas 肥胖症

【甲状腺機能低下ニヨルモノ】→甲状腺製劑，時ニ腦下垂體製劑ヲ併用→臟器製劑。

【腦下垂體機能低下ニヨルモノ】→腦下垂體珠ニ前葉製劑→臟器製劑。

【卵巢機能低下ニヨルモノ】→卵巢製劑ヲ用フ→臟器製劑。

【水代謝ヲ増進スル目的】→水銀劑其他ノ利尿劑ヲ用フ→利尿劑。

Gicht (Arthritis urica) 痛風

【準特效藥】→局方「キノフエン」 Quinophenum—Acidum phenyl-chinolinicarbonicum ハ「プリン」體ノ移動 Mobilisation ヲ整調スル，コノ誘導體ノ可溶性ナルモノガ注射ニ用ヒラル。→抗神經痛劑，解毒劑。

【對症療法】→關節「レウマチス」ニ準ズ。

Kakke s. Beri-beri 脚氣

注射ノ適應ハ急激ニ發來スル循環機能不全(所謂衝心)デアル→Kreislaufinsuffizienz

1. 強力ナル「ビタミン」B₁劑→「ビタミン」。
2. 硝酸「ストリキニーネ」ガ單獨ニ又屢々「ビタミンBニ伍用サル。
3. 「エピレナミン」劑ハ屢々逆反應ヲ呈シ，却ツテ血管「トームス」ノ減退ヲ來スコトガアル。
4. 「カフェイン」→利尿劑。

10. 中毒

i 毒物(體外性ノ)ガ體內ヲ循環シテ，中樞神經系，心臟ヲ侵ス時ハ危險デアル。體內ニ入リシ毒物體外排除ニカメル→強心・血管劑，利尿劑。

ii 又體內ニ入リシ毒物ヲ稀釋シテ排泄セシメントスル→血清代用劑ノ注入。

iii 毒物が尙腸管内其他ニ於テ未ダ吸收サレザルモノハ嘔吐，下痢等ニテ體外ヘノ排出ヲ計ル→催吐劑，下劑(腸蠕動促進劑)。

iv 解毒劑ノ明ナルモノハ之ヲ使用ス。但シ特殊性解毒劑 Antidot ハ數ガ僅少デアル。

v 又他ノ危險ナル症狀ニ對ス。

Autointoxication 自家中毒

体内ニ發生シタル有毒ナル新陳代謝中間産物ニヨル中毒デアル(尿毒症 Urämie 膽毒症 Cholämie 疫痢, 火傷等参照)。

1. 毒物生成ノ原因ニ對ス。
2. 他ハ體外性中毒ニ準ズ。

【對症療法】 一危険ナル各症狀ニ善處ス。

Alkohol-vergiftung 「アルコール」中毒。

【循環障碍】 →強心・血管劑, 利尿劑(殊ニ「カフェイン」劑ガ對抗劑トシテ用ヒラル)。

Chromsäure-vergiftung 「クロム」酸中毒

解毒劑トシテ次亞硫酸「ソーダ」液ノ注射→解毒劑。

11. 一般症狀及ビ其他ノ重要症候

Abortus 流産

1. 出血少量ニシテ子宮口未開ノ場合デ, 流産ヲ阻止セントスル時→阿片劑(鎮痛・麻醉劑)。
三ヶ月以後ノモノニテ陣痛ヲ催サシメル時→陣痛催進劑(「キニーネ」腦下垂體後葉製劑)。
2. 原因療法。微毒→驅微劑。

Amenorrhoe 無月經

→卵巢製劑, 性「ホルモン」。

Asphyxie 假死

【救急】 興奮ニカメル→興奮劑, 呼吸困難解除劑, 強心・血管劑,
【後處置】 中毒ニハ解毒劑。

Blutungen 出血

(内出血 innere Blutung, 内臓出血 viscerale Blutung)
→止血劑ノ概説ヲ参照。

Eklampsie 子癇

【痙攣】 →「マグネシア」鹽等→鎮痙劑, 鎮靜劑, 麻醉劑(「モルヒネ」等)。
【毒素稀釋, 解毒】 →血清代用劑(強心・血管劑)→葡萄糖液(解毒

劑, 強心劑)。

Enuresis nocturna 夜尿症

1. 一般強壯→強壯劑(神經榮養劑)。
2. カテラン Cathelin 氏脊髄膜外注射 epi-oder extradurale Injektion
 - i 5.0—20.0 cc ノ生理食鹽水。
 - ii 鹽酸「コカイン」 0.2
「クロール・ナトリウム」 0.2
蒸溜水 200.0

或ハ

1.0% ノ「ノボカイン」或ハ「オイカイン」生理食鹽水
上記ノ 10—20 cc

是等ヲ良ク殺菌消毒シタルモノヲ尾骶骨上部ノ閉鎖膜 Membrana obuturatoria ヲ穿刺シテ薦骨管内ニ硬膜外 epidural ニ注射ス。

Hämorrhagische Diathese 出血性素質

1. 狹義ノ場合
壞血病, メルレル・パウロウ氏病, 紫斑病→「ビタミン」C (「ヴァイタミン」)。
2. 廣義ノ場合
一般衰弱ニ對シ循環ノ整調ヲ計ル→強心・血管劑, 止血機轉ヲ促進スル→止血劑。

Klimakterische Beschwerden 更年期障碍

【代償療法 Substitution】 →卵巢及其成分製劑(臟器製劑), 性「ホルモン」, 性的興奮劑。

Ödeme 浮腫

1. 心臟性(鬱血性)浮腫 循環機能不全ニヨリテ起ル。→強心劑, 血管劑, 利尿劑, 筋肉製劑(→臟器製劑), 滲透療法劑(高張葡萄糖液ノ靜脈内注入), 甲狀腺製劑(→臟器製劑), 水銀劑(→利尿劑)。
2. 腎性浮腫 組織細胞ノ機能低下ト腎ヨリ水分排泄能低下ニヨリ体内水代謝ノ不完ヲ來シ組織ニ液體(組織淋巴)ノ停滯スルモノ, 「ネフローゼ」参照。
→利尿劑(但シ急性腎炎ノ如キ急性症ニハ腎實質ヲ刺戟スルモノハ禁

忌。例、水銀劑、「プリン」體)、強心・血管劑、甲狀腺製劑(→臟器製劑)。

3. 消耗性浮腫 消耗ト共ニ組織細胞ノ機能低下ニヨル水分代謝ノ障礙。又心力ノ低下モ與カル。

脚氣浮腫→「ビタミン」B。

4. 肝性浮腫 肝臟疾患ニ水分代謝障礙ヲ來シテ浮腫ヲ現ハス。

→利尿劑、強心・血管劑。

【注意】水銀劑ハ門脈ノ閉鎖 Sperre ニヨルモノ、例ヘバ、ラエンネック氏肝臟硬變ニハ奏效スルガ、肝臟實質疾患 Hepatopathien ニハ禁忌トス。

5. 内分泌性浮腫 粘液水腫、「インシュリン」浮腫。代償療法→臟器製劑。

6. 血管神經性浮腫 →鎮靜劑、神經榮養劑(強壯劑)。

Schwangerschaftsemese 妊娠性惡阻

→惡阻劑、鎮吐劑、解毒劑。

Singultus 吃逆—横膈膜(筋肉)ノ間代性痙攣→鎮痛・麻醉劑、鎮痙劑、呼吸中樞整調→興奮劑、呼吸困難治療劑。

Sklerodermie 鞏皮症

i 1% 鹽酸「ピロカルピン」液(0.2—0.4 cc…1回…毎日1回宛連續)→發汗劑。

ii 「チオチナミン」劑→痙痕軟解劑。

iii 甲狀腺、腦下垂體製劑→臟器製劑。

Urticaria 蕁麻疹

→消炎劑、解毒劑、鎮靜劑、色素劑(→殺菌・消毒劑)、變調劑、強壯劑
體內洗滌ノ目的ニテ血清代用劑注入。

Uterusblutung 子宮出血

→止血劑(麥角劑、腦下垂體後葉劑)、卵巢製劑。

Verbrennung 火傷

第三度ノ重症火傷ニハ毒素ヲ稀釋スル目的ニ→血清代用劑(注入)、強心劑。

【疼痛】→鎮痛劑。

Wehenschwäche 陣痛微弱

→陣痛劑。

12. 性病(微毒, 淋疾, 軟性下疳, 第四性病)療法

性病 Geschlechtskrankheiten, venerische Leiden—最モ屢々不潔ナル性交ニヨリテ接觸性ニ病原體ヲ得テ病症ヲ現ハシ苦痛ト危險トヲ伴フモノヲ云ヒ、通常、微毒、淋疾、軟性下疳、第四性病(Nicolas-Favre's Krankheit—Lymphogranulomatose inguinale subaigue, vierte Geschlechtskrankheit, 亞急性鼠蹊淋巴肉芽腫症)ガ指サレテ居ル。

是等ノ中、内科的疾患發生ニ關係深キハ微毒ト淋疾ナルガ、微毒ハ最モ屢々又複雑ニ内科的疾患發現ノ素地ヲ與ヘルモノデアアル。從ツテ之レガ療法ハ又醫師ノ日常心意置キベキ緊急事項中ノ又最タルモノデアアルカラ比較的詳細ニ記述シタ。

I 微毒 Lues, Syphilis

第1期 感染ヨリ全身症狀ヲ發スル迄(約10週)。

第2期 全身症狀殊ニ皮膚・粘膜ノ發疹ヲ現ハス(約3年間)。又内臟實質細胞(肝、腎等)ヲ傷害スル。

第3期 内臟ニ微毒性變化(殊ニ「ゴム」腫形成)ヲ起ス。

第4期(變性微毒)—脊髓癆、進行性麻痺等中樞神經系ニ於ケル變性ヲ來ス時期。

微毒ノ治療法 驅微療法 antiluetische Kur

【治療ノ目標】驅微療法ハ臨牀上ノ症候ガ消散シテ所謂治癒ノ外觀ヲ呈セシメルコトニノミ満足スルコトナク、血清、脊髓液 Liquor cerebrospinalis ノ微毒反應ヲモ陰性ナラシメルコトヲ目標トスル。

【複式驅微療法】

現今行ハレテ居ル驅微工作ハ、化學療法劑トシテノ「サルヅルサン」劑ニ、水銀劑或ハ蒼鉛劑ノ注射ガ併合サレル。又之ニ「ヨード」劑(是ハ最モ屢々内服ニ用ヒラル)ガ同時ニ用ヒラレル。

1. 微毒初期ニ於ケル所謂頓挫療法 感染後6週以內デ、ワ氏反應ノ未ダ現レザル時期ニ於テハ全量「ネオ・サルヅルサン」5.0—6.0 g ♀ニハ4.5—5.0 g ヲ1週1回宛トシテ數回—十數回ニ分ケテ靜脈内ニ注射ス。コノ注射間隔ノ間ニ1週ニ2回水銀劑或ハ蒼鉛劑ノ注射(約